埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第380集

東松山市

反町遺跡 II

大規模小売店舗建設事業関係埋蔵文化財発掘調査報告
（集落編）

2011

ユニー株式会社
財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

1　反町・銭塚・城敷遺跡空中写真（合成）

1　反町遺跡古墳群全景

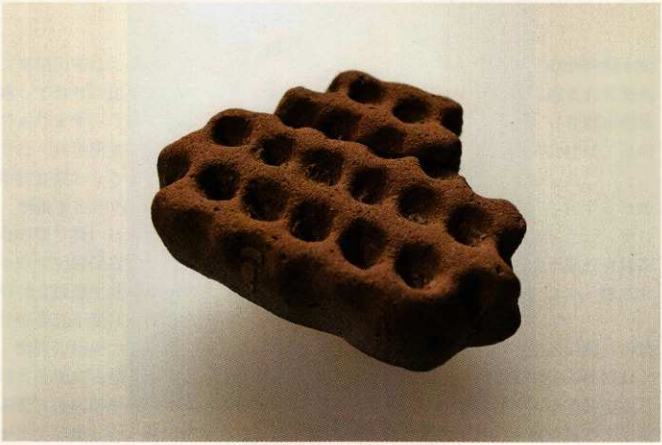
2　第 48 号溝跡堰全景

1　第 196 号住居跡出土遺物

2　第 79 号溝跡出土遺物

1　反町遺跡出土弥生土器

2　反町遺跡出土土師器壺



1　第 206 号住居跡出土ガラス小玉鋳型

2　第 48 号溝跡出土臼

1　第 17 号墳出土馬形埴輪

反町遺跡の紹介

反町遺跡は、埼玉県東松山市に所在し、東武東上線高坂駅から東へ約 1 ㎞、高坂台地の東側に広がる低地に立地しています。遺跡は、弥生時代から奈良・平安時代にいたるまでの複合遺跡です。なかでも古墳時代前期（4 世紀後半）の竪穴住居跡は160軒以上も見つかり、大規模なムラであったことがわかりました。遺跡からは、多くの土器が出土したほか、銅鏡（内行花文鏡）やガラス小玉の鋳型、木製農具の臼なども出土しました。また、水晶・碧玉・瑪瑙の石材を加工した玉作工房跡や治水灌漑用の土木施設である堰跡なども発見され、この遺跡が、当時この地域の中心的なムラであったことを物語っています。

古墳時代後期（5 世紀末から 6 世紀）になるとムラは移動し、ここには古墳群が形成されます。16基の古墳を調査し、人物埴輪や馬型埴輪、円筒埴輪などが発見されました。奈良時代（8 世紀）の竪穴住居跡からは、「三田万」（みたまろ）と墨書された須恵器坏が出土し、この地に住んでいた人物を記名したようです。

序

東松山市は、県中央部に位置し、東武東上線や関越自動車道などの交通網も発達しており、比企丘陵の自然や都幾川の清流につつまれた緑と水に恵まれた地域であります。この交通網や豊かな自然の原風景を大切にしながら、ＵＲ都市機構では「高坂駅東口第二特定土地区画整理事業」を進め、ユニー株式会社は、その中核施設となる大型商業施設『アピタ東松山店』の建設を計画しました。

事業予定地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地である反町遺跡が存在するため、その取り扱いについて、関係諸機関が慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなりました。発掘調査は、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課と東松山市教育委員会の調整により、ユニー株式会社の委託を受け当事業団が実施いたしました。

調査の結果、弥生時代から古墳時代前期にかけての大規模集落や河川跡、古墳時代後期の古墳群の存在が明らかになりました。集落域からは、約200軒におよぶ竪穴住居跡や玉作工房跡が発見され、多くの土器や石器、ガラス小玉鋳型などが出土しました。河川跡からは、臼・杵・鍬・鋤・馬鍬などの木製農具や土木灌漑施設である堰跡が見つかり、この地に新しい農業技術の導入が図られた様子がうかがえます。また、16基の円墳を調査し、多くの人物埴輪や馬形埴輪、円筒埴輪が出土しました。

本書は、これらの発掘調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また、普及・啓発の資料として多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり発掘調査から報告書作成にいたるまで御尽力いただきましたユニー株式会社に対しまして厚く感謝申し上げます。

平成23年３月

財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長　藤野龍宏

例 言

1．本書は、東松山市高坂に所在する反町遺跡第３次調査の発掘調査報告書である。

2．遺跡の略号と代表地番、及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

反町遺跡第３次（反町３次）

埼玉県東松山市大字高坂256番地他

平成19年10月11日付け 教生文第２－42号

3．発掘調査は、大規模小売店舗建設事業に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査であり、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課と東松山市教育委員会が調整し、ユニー株式会社の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4．発掘調査・整理報告書作成事業はⅠ－３に示した組織により実施した。

反町遺跡第３次発掘調査事業は、平成19年10月１日から平成20年９月30日まで実施した。このうち平成19年10月１日から平成20年３月31日まで細田　勝、赤熊浩一、田中広明、澤口和正、平成20年４月１日から平成20年９月30日まで赤熊・大屋道則が担当した。

整理報告書作成事業は、平成21年４月１日から平成23年３月31日まで実施した。このうち平成21年４月１日から平成22年３月31日まで赤熊、宮井英一、松本美佐子、平成22年４月１日から平成23年３月31日まで赤熊、田中、大谷　徹、上野真由美が担当し、赤熊が取りまとめ、埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第380集として印刷・刊行した。

5．発掘調査における基準点測量と空中写真撮影は、ユニー株式会社が有限会社椿測量と中央航業株式会社に委託し実施した。

6．出土木製品の樹種同定は、独立行政法人森林総合研究所能城修一氏に依頼した。放射性炭素年代測定は、パレオラボ株式会社に委託した。

7．発掘調査における写真撮影は各担当者が行い、出土遺物の写真撮影は赤熊が行い、福田聖の協力を得た。巻頭図版３－１・２、図版５－１、図版６－１については、小川忠博氏に委託した。

8．出土品の整理・図版作成は、住居跡を上野・宮井・赤熊、古墳跡を大谷、堰を田中、河川跡・その他の遺構を赤熊が行い、福田、小野美代子、吉田　稔、瀧瀬芳之の協力を得た。

9．本書の執筆は、Ⅰ－１を東松山市教育委員会が行い、石製品は上野、木製品は田中、古墳跡・埴輪は大谷、弥生土器は吉田、河川跡の土器は福田、Ⅷ－２は吉田、Ⅷ－３は赤熊・福田、Ⅷ－４は上野、その他は赤熊が行った。

10．本書の編集は赤熊が行った。

11．本書に掲載した資料は、平成23年４月以降東松山市教育委員会が管理・保管する。

12．発掘調査や本書の作成にあたり、下記の機関・方々から御教示・御協力を賜った。記して感謝いたします。（敬称略、50音順）

東松山市教育委員会　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所　独立行政法人国立歴史民俗博物館　独立行政法人森林総合研究所　鹿島道路株式会社　ユニー株式会社

飯塚武司　上田健太郎　大賀克彦　及川良彦
柿沼幹夫　金井塚良一　齊藤努　酒井清治
坂口　一　篠原祐一　隅田　眞　関口　満
宅間清公　田村朋美　寺村光晴　中島広顕
畑　大介　平野　修　深澤敦仁　深田　浩
松崎元樹　宮本長二郎　山田昌久　渡辺　一

凡例

1．遺跡全体におけるX・Yの数値は、日本測地系（旧座標）、国家標準直角座標第Ⅸ系(原点北緯36°00′00″、東経139°50′00″)に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は、全て座標北を指す。

U－61グリッド北西杭の座標は、X＝290.000m、Y＝－37770.000m。北緯36°00′18.23″東経139°24′40.02″である。(小数点以下第３位切捨て)

U－61グリッドの世界測地系による換算値はX＝644.48m、Y＝－38062.41mである。(小数点位下第３位切捨て)

2．調査で使用したグリッドは、国土標準平面直角座標に基づく10×10mの範囲を基本（１グリッド）とし、調査区全体をカバーする方眼を組んだ。

3．グリッド名称は、北西隅を基点とし、北から南方向にアルファベット（A・B・C…)、西から東方向に数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと数字を組み合わせ、例えばU－51グリッド等と呼称した。

4．本書の本文･挿図･表･写真図版に記した遺構の略号は、以下のとおりである。

ＳＪ…竪穴住居跡　ＳＤ…溝跡

ＳＫ…土壙　ＳＳ…古墳　ＳＦ…窯跡

5．同種の遺構については、第１・２次調査からの続き番号を使用する。

竪穴住居跡(SJ)第120号～

溝跡(SD)第79号～　土壙(SK)第65号～

古墳跡(SS)第13号～　窯跡(SF)第１号～

6．本書における挿図の縮尺は、以下のとおりである。但し、一部例外もある。

全体図　1：800

遺構図　1：60　遺構拡大図　1：30

土師器・須恵器　1：4

土器拓影図・石器・土製品　1：3

鉄製品・小型製品（耳環・勾玉・ミニチュア土器など）1：2　玉類　1：1

7．実測図の表記方法は以下のとおりである。断面を黒塗りしたものは須恵器。また、彩色された土器についてはその範囲に網を掛けて示した。(赤彩10%・施釉20%・黒色処理30%)

8．遺構断面図等に記した水準数値は、全て海抜標高（単位m）を示す。

9．遺物観察表に記した略号は以下のとおりである。

・器種は弥生土器→弥生、土師器、須恵器と表記した。

・口径・器高・底径はcm単位である。

・(　) 内の数値は推定値を示す。

・重量はg単位である。

・胎土は土器中に含まれる鉱物等のうち、特徴的なものを記号で示した。

A－雲母　B－片岩　C－角閃石　D－長石　E－石英　F－軽石　G－砂粒子　H－赤色粒子　I－白色粒子　J－白色針状物質　K－黒色粒子　L－その他　M－礫

・残存率は図示した器形に対する大まかな遺存程度を%で示した。

・備考には出土位置、注記No.赤彩の有無、煤の付着、推定される須恵器産地などを記した。

10．本書に使用した地形図は、国土地理院発行1/50000・1/25000地形図、東松山市都市計画図1/2500を使用した。

目 次

口絵
序
例言
凡例
目次

(集落編)
Ⅰ　発掘調査の概要 …… 1
　1．発掘調査に至る経過 …… 1
　2．発掘調査・報告書作成の経過 …… 2
　（1）発掘調査 …… 2
　（2）整理・報告書の作成 …… 3
　3．発掘調査・報告書作成の組織 …… 6
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 7
　1．地理的環境 …… 7
　2．歴史的環境 …… 9
Ⅲ　遺跡の概要 …… 15
Ⅳ　集落跡の遺構と遺物 …… 25
　1．弥生時代の住居跡 …… 25
　2．古墳時代の住居跡 …… 51
　3．奈良時代の住居跡 …… 341
　4．溝跡 …… 351
　5．土壙 …… 365
　6．窯跡 …… 368
　7．グリッド・表採 …… 369

(河川・古墳編)
Ⅴ　河川跡の遺構と遺物 …… 381
　1．第48号溝跡 …… 381
　2．第48号溝跡の堰 …… 410
　3．第79号溝跡 …… 433
　4．第48・79号溝跡出土木製品 …… 482
Ⅵ　古墳跡と遺物 …… 515
　1．古墳群の概要 …… 515
　2．古墳跡 …… 517
　3．調査区出土遺物 …… 614
Ⅶ　科学分析 …… 619
　1．反町遺跡出土木材の樹種 …… 619
　2．反町遺跡出土馬鍬の放射性炭素年代測定 …… 639
　3．反町遺跡出土の動物遺体 …… 641
Ⅷ　調査のまとめ …… 643
　1．調査の成果 …… 643
　2．弥生時代の土器変遷 …… 648
　3．古墳時代の土器変遷 …… 652
　4．玉作とガラス小玉鋳型について …… 674
写真図版

挿図目次

(集落編)

第1図　反町遺跡3次試掘トレンチ ……5
第2図　埼玉県の地形 ……7
第3図　東松山周辺の地形 ……8
第4図　弥生時代中期から古墳時代中期の周辺の遺跡 ……10
第5図　早俣低地の微地形と集落 ……11
第6図　基本層序 ……16
第7図　反町・城敷・銭塚遺跡の調査区位置図 ……17
第8図　グリッド縮図 ……18
第9図　反町遺跡全体図 ……20
第10図　反町遺跡3次全体図（1）……21
第11図　反町遺跡3次全体図（2）……22
第12図　反町遺跡3次全体図（3）……23
第13図　反町遺跡3次全体図（4）……24
第14図　反町遺跡3次全体図（弥生時代住居跡）……26
第15図　第139号住居跡・出土遺物 ……27
第16図　第140号住居跡 ……27
第17図　第140号住居跡出土遺物 ……28
第18図　第144号住居跡 ……29
第19図　第144号住居跡出土遺物 ……29
第20図　第145号住居跡・出土遺物 ……30
第21図　第149号住居跡 ……31
第22図　第149号住居跡出土遺物（1）……32
第23図　第149号住居跡出土遺物（2）……33
第24図　第149号住居跡出土遺物（3）……34
第25図　第184号住居跡 ……35
第26図　第184号住居跡出土遺物 ……36
第27図　第216号住居跡 ……37
第28図　第216号住居跡出土遺物 ……38
第29図　第221号住居跡・出土遺物 ……39
第30図　第226号住居跡 ……40
第31図　第226号住居跡出土遺物 ……40
第32図　第228号住居跡 ……41
第33図　第228号住居跡出土遺物 ……42
第34図　第233号住居跡 ……43
第35図　第233号住居跡出土遺物 ……44
第36図　第244号住居跡（1）……45
第37図　第244号住居跡（2）……46
第38図　第244号住居跡出土遺物（1）……47
第39図　第244号住居跡出土遺物（2）……48
第40図　第275号住居跡 ……49
第41図　第275号住居跡出土遺物 ……49
第42図　第284号住居跡 ……50
第43図　第284号住居跡出土遺物 ……50
第44図　反町遺跡3次全体図（古墳時代住居跡）……52
第45図　第120号住居跡（1）……53
第46図　第120号住居跡（2）……54
第47図　第120号住居跡出土遺物（1）……55
第48図　第120号住居跡出土遺物（2）……56
第49図　第120号住居跡出土遺物（3）……57
第50図　第120号住居跡出土遺物（4）……58
第51図　第121号住居跡（1）……60
第52図　第121号住居跡（2）……61
第53図　第121号住居跡出土遺物（1）……62
第54図　第121号住居跡出土遺物（2）……63
第55図　第122号住居跡 ……65
第56図　第122号住居跡出土遺物 ……66
第57図　第123号住居跡 ……67
第58図　第123号住居跡出土遺物（1）……68
第59図　第123号住居跡出土遺物（2）……69
第60図　第124号住居跡 ……70
第61図　第124号住居跡出土遺物 ……71
第62図　第125号住居跡（1）……73
第63図　第125号住居跡（2）……74
第64図　第125号住居跡出土遺物（1）……75
第65図　第125号住居跡出土遺物（2）……76

第66図　第126号住居跡 ……77
第67図　第126号住居跡出土遺物 ……78
第68図　第127号住居跡 ……79
第69図　第127号住居跡出土遺物（1）……80
第70図　第127号住居跡出土遺物（2）……81
第71図　第128号住居跡・出土遺物 ……82
第72図　第129号住居跡 ……83
第73図　第129号住居跡出土遺物 ……84
第74図　第130号住居跡 ……86
第75図　第130号住居跡出土遺物（1）……87
第76図　第130号住居跡出土遺物（2）……88
第77図　第137号住居跡 ……89
第78図　第137号住居跡出土遺物 ……90
第79図　第138号住居跡 ……91
第80図　第138号住居跡出土遺物 ……92
第81図　第141号住居跡 ……93
第82図　第141号住居跡出土遺物（1）……94
第83図　第141号住居跡出土遺物（2）……95
第84図　第142号住居跡 ……97
第85図　第142号住居跡出土遺物 ……98
第86図　第143号住居跡 ……99
第87図　第143号住居跡出土遺物……100
第88図　第146号住居跡……101
第89図　第146号住居跡出土遺物……101
第90図　第147号住居跡……102
第91図　第147号住居跡出土遺物（1）……103
第92図　第147号住居跡出土遺物（2）……104
第93図　第148号住居跡……105
第94図　第148号住居跡出土遺物（1）……106
第95図　第148号住居跡出土遺物（2）……107
第96図　第148号住居跡出土遺物（3）……108
第97図　第150号住居跡・出土遺物……110
第98図　第152号住居跡……111
第99図　第153号住居跡……112
第100図　第153号住居跡出土遺物……113
第101図　第154号住居跡……113
第102図　第154号住居跡出土遺物……114
第103図　第155号住居跡 ……114
第104図　第156号住居跡 ……115
第105図　第156号住居跡出土遺物 ……116
第106図　第157号住居跡 ……116
第107図　第161・163・164号住居跡・第161号住居跡出土遺物……118
第108図　第162・165号住居跡・第165号住居跡出土遺物……119
第109図　第162号住居跡出土遺物 ……119
第110図　第166号住居跡 ……120
第111図　第166号住居跡出土遺物 ……120
第112図　第167号住居跡 ……121
第113図　第167号住居跡出土遺物 ……122
第114図　第168号住居跡 ……122
第115図　第168号住居跡出土遺物 ……123
第116図　第169号住居跡 ……123
第117図　第169号住居跡出土遺物（1）……124
第118図　第169号住居跡出土遺物（2）……125
第119図　第170号住居跡 ……126
第120図　第171号住居跡 ……126
第121図　第171号住居跡出土遺物 ……127
第122図　第172号住居跡 ……128
第123図　第172号住居跡出土遺物 ……129
第124図　第173号住居跡 ……129
第125図　第173号住居跡出土遺物 ……130
第126図　第174号住居跡・出土遺物 ……131
第127図　第175号住居跡・出土遺物 ……132
第128図　第176号住居跡 ……133
第129図　第176号住居跡出土遺物 ……133
第130図　第177号住居跡 ……134
第131図　第177号住居跡出土遺物 ……135
第132図　第178号住居跡 ……136
第133図　第179号住居跡 ……136
第134図　第179号住居跡出土遺物 ……137
第135図　第180号住居跡 ……137
第136図　第180号住居跡出土遺物（1）……138
第137図　第180号住居跡出土遺物（2）……139

第138図　第180号住居跡出土遺物（3）……140
第139図　第181号住居跡 ……141
第140図　第181号住居跡出土遺物 ……142
第141図　第182号住居跡 ……143
第142図　第182号住居跡出土遺物 ……144
第143図　第183号住居跡 ……145
第144図　第183号住居跡出土遺物 ……145
第145図　第185号住居跡 ……147
第146図　第185号住居跡出土遺物 ……148
第147図　第186号住居跡 ……150
第148図　第186号住居跡出土遺物 ……150
第149図　第187号住居跡（1）……151
第150図　第187号住居跡（2）……152
第151図　第187号住居跡出土遺物 ……152
第152図　第188号住居跡 ……153
第153図　第188号住居跡出土遺物 ……154
第154図　第189号住居跡出土遺物 ……154
第155図　第189号住居跡 ……155
第156図　第190号住居跡 ……156
第157図　第190号住居跡出土遺物 ……157
第158図　第191号住居跡 ……159
第159図　第191号住居跡出土遺物 ……160
第160図　第193号住居跡 ……160
第161図　第193号住居跡出土遺物 ……161
第162図　第194号住居跡・出土遺物 ……162
第163図　第195号住居跡出土遺物 ……162
第164図　第195号住居跡 ……163
第165図　第196号住居跡 ……164
第166図　第196号住居跡出土遺物（1）……165
第167図　第196号住居跡出土遺物（2）……166
第168図　第196号住居跡出土遺物（3）……167
第169図　第197号住居跡 ……169
第170図　第197号住居跡出土遺物 ……170
第171図　第198号住居跡 ……171
第172図　第199号住居跡 ……172
第173図　第199号住居跡出土遺物 ……173
第174図　第200号住居跡 ……173
第175図　第201号住居跡 ……174
第176図　第202号住居跡 ……175
第177図　第202号住居跡出土遺物 ……175
第178図　第203号住居跡 ……176
第179図　第203号住居跡出土遺物 ……177
第180図　第204号住居跡 ……178
第181図　第204号住居跡出土遺物 ……178
第182図　第205号住居跡 ……178
第183図　第206号住居跡 ……179
第184図　第206号住居跡出土遺物（1）……180
第185図　第206号住居跡出土遺物（2）……181
第186図　第207号住居跡 ……182
第187図　第207号住居跡出土遺物 ……183
第188図　第208号住居跡・出土遺物 ……184
第189図　第209号住居跡出土遺物 ……184
第190図　第209号住居跡 ……185
第191図　第210号住居跡 ……185
第192図　第211号住居跡 ……187
第193図　第211号住居跡出土遺物 ……188
第194図　第212号住居跡 ……188
第195図　第213号住居跡 ……189
第196図　第213号住居跡出土遺物 ……190
第197図　第214号住居跡 ……191
第198図　第214号住居跡出土遺物（1）……192
第199図　第214号住居跡出土遺物（2）……193
第200図　第217号住居跡出土遺物 ……194
第201図　第217号住居跡 ……195
第202図　第218号住居跡 ……196
第203図　第218号住居跡出土遺物 ……197
第204図　第219号住居跡 ……198
第205図　第219号住居跡出土遺物（1）……199
第206図　第219号住居跡出土遺物（2）……200
第207図　第219号住居跡出土遺物（3）……201
第208図　第219号住居跡出土遺物（4）……202
第209図　第220号住居跡 ……203
第210図　第220号住居跡出土遺物 ……204
第211図　第222号住居跡 ……205

第212図　第222号住居跡出土遺物 ……206
第213図　第223号住居跡 ……206
第214図　第223号住居跡出土遺物 ……207
第215図　第224号住居跡 ……207
第216図　第224号住居跡出土遺物 ……208
第217図　第225号住居跡 ……208
第218図　第225号住居跡出土遺物 ……209
第219図　第227号住居跡 ……209
第220図　第227号住居跡出土遺物 ……210
第221図　第229号住居跡 ……212
第222図　第229号住居跡出土遺物 ……213
第223図　第230号住居跡 ……214
第224図　第230号住居跡出土遺物（1）……215
第225図　第230号住居跡出土遺物（2）……216
第226図　第230号住居跡出土遺物（3）……217
第227図　第231号住居跡出土遺物 ……219
第228図　第231号住居跡 ……220
第229図　第232号住居跡 ……222
第230図　第232号住居跡出土遺物 ……223
第231図　第234号住居跡 ……224
第232図　第234号住居跡出土遺物（1）……225
第233図　第234号住居跡出土遺物（2）……226
第234図　第234号住居跡出土遺物（3）……227
第235図　第235号住居跡 ……229
第236図　第235号住居跡出土遺物 ……230
第237図　第236号住居跡 ……230
第238図　第236号住居跡出土遺物 ……231
第239図　第237号住居跡 ……231
第240図　第237号住居跡出土遺物 ……232
第241図　第238号住居跡・出土遺物 ……232
第242図　第239号住居跡・出土遺物 ……233
第243図　第240号住居跡 ……234
第244図　第240号住居跡出土遺物 ……235
第245図　第241号住居跡 ……235
第246図　第241号住居跡出土遺物（1）……236
第247図　第241号住居跡出土遺物（2）……237
第248図　第242号住居跡 ……239
第249図　第242号住居跡出土遺物 ……239
第250図　第243号住居跡 ……240
第251図　第245号住居跡 ……241
第252図　第245号住居跡出土遺物 ……241
第253図　第246号住居跡 ……242
第254図　第246号住居跡出土遺物 ……243
第255図　第247号住居跡出土遺物 ……244
第256図　第247号住居跡 ……244
第257図　第248号住居跡 ……245
第258図　第248号住居跡出土遺物 ……246
第259図　第249号住居跡 ……247
第260図　第250号住居跡 ……248
第261図　第251号住居跡（1）……249
第262図　第251号住居跡（2）……250
第263図　第251号住居跡出土遺物（1）……251
第264図　第251号住居跡出土遺物（2）……252
第265図　第252号住居跡 ……254
第266図　第253号住居跡 ……255
第267図　第253号住居跡出土遺物 ……256
第268図　第254号住居跡 ……257
第269図　第254号住居跡出土遺物 ……257
第270図　第255号住居跡・出土遺物 ……258
第271図　第256号住居跡 ……259
第272図　第256号住居跡出土遺物 ……260
第273図　第257号住居跡 ……261
第274図　第257号住居跡出土遺物（1）……261
第275図　第257号住居跡出土遺物（2）……262
第276図　第258号住居跡・出土遺物 ……263
第277図　第259号住居跡 ……264
第278図　第259号住居跡出土遺物 ……265
第279図　第260号住居跡 ……266
第280図　第260号住居跡出土遺物 ……267
第281図　第261号住居跡 ……268
第282図　第261号住居跡出土遺物 ……268
第283図　第262号住居跡 ……269
第284図　第262号住居跡出土遺物 ……269
第285図　第263号住居跡 ……270

第286図　第263号住居跡出土遺物 ……271
第287図　第264号住居跡 ……271
第288図　第264号住居跡出土遺物 ……272
第289図　第265号住居跡・出土遺物 ……273
第290図　第267号住居跡・出土遺物 ……273
第291図　第267号住居跡（周辺）出土遺物 …274
第292図　第268号住居跡（1）……275
第293図　第268号住居跡出土遺物（1）……276
第294図　第268号住居跡（2）……277
第295図　第268号住居跡（3）……278
第296図　第268号住居跡出土遺物（2）……279
第297図　第268号住居跡出土遺物（3）……280
第298図　第268号住居跡出土遺物（4）……281
第299図　第268号住居跡出土遺物（5）……282
第300図　第269号住居跡 ……285
第301図　第269号住居跡出土遺物 ……285
第302図　第270号住居跡・出土遺物 ……286
第303図　第271号住居跡・出土遺物 ……286
第304図　第272号住居跡 ……288
第305図　第272号住居跡出土遺物 ……289
第306図　第273号住居跡 ……290
第307図　第273号住居跡出土遺物（1）……291
第308図　第273号住居跡出土遺物（2）……292
第309図　第274号住居跡・出土遺物 ……293
第310図　第276号住居跡 ……294
第311図　第276号住居跡出土遺物 ……295
第312図　第277号住居跡 ……296
第313図　第278号住居跡 ……297
第314図　第278号住居跡出土遺物 ……297
第315図　第279号住居跡 ……298
第316図　第279号住居跡出土遺物 ……299
第317図　第280号住居跡・出土遺物 ……300
第318図　第281号住居跡 ……300
第319図　第281号住居跡出土遺物 ……301
第320図　第282号住居跡 ……302
第321図　第282号住居跡出土遺物 ……302
第322図　第283号住居跡 ……303
第323図　第283号住居跡出土遺物 ……304
第324図　第285号住居跡・出土遺物 ……305
第325図　第286号住居跡 ……306
第326図　第286号住居跡出土遺物 ……307
第327図　第287・288号住居跡 ……308
第328図　第289号住居跡 ……309
第329図　第289号住居跡出土遺物 ……310
第330図　第290・301号住居跡（1）……311
第331図　第290・301号住居跡（2）……312
第332図　第290号住居跡出土遺物（1）……313
第333図　第290号住居跡出土遺物（2）……314
第334図　第290号住居跡出土遺物（3）……315
第335図　第292号住居跡 ……316
第336図　第293号住居跡 ……317
第337図　第293号住居跡出土遺物 ……317
第338図　第294号住居跡 ……318
第339図　第295号住居跡 ……319
第340図　第295号住居跡出土遺物（1）……321
第341図　第295号住居跡出土遺物（2）……322
第342図　第296号住居跡 ……324
第343図　第296号住居跡出土遺物 ……325
第344図　第297号住居跡 ……326
第345図　第297号住居跡出土遺物 ……327
第346図　第298号住居跡 ……328
第347図　第299号住居跡 ……329
第348図　第299号住居跡出土遺物 ……329
第349図　第300号住居跡 ……330
第350図　第301号住居跡出土遺物 ……331
第351図　第302号住居跡 ……331
第352図　第302号住居跡出土遺物 ……332
第353図　第303号住居跡 ……332
第354図　第303号住居跡出土遺物 ……333
第355図　第304号住居跡・出土遺物 ……334
第356図　第305号住居跡・出土遺物 ……335
第357図　第306号住居跡 ……336
第358図　第307号住居跡 ……337
第359図　第307号住居跡出土遺物 ……337

第360図　第308号住居跡 ……338
第361図　第308号住居跡出土遺物（1）……339
第362図　第308号住居跡出土遺物（2）……340
第363図　反町遺跡墨書土器出土分布図……341
第364図　反町遺跡3次全体図（奈良時代住居跡）
……342
第365図　第133号住居跡 ……343
第366図　第133号住居跡出土遺物（1）……344
第367図　第133号住居跡出土遺物（2）……345
第368図　第134・135号住居跡 ……346
第369図　第134号住居跡出土遺物 ……347
第370図　第135号住居跡出土遺物 ……348
第371図　第136号住居跡 ……350
第372図　第136号住居跡出土遺物 ……350
第373図　第80～83・97号溝跡（1）……352
第374図　第80～83・97号溝跡（2）……353
第375図　第84・85・88・98～101号溝跡（1）…354
第376図　第84・85・88・98～101号溝跡（2）…355
第377図　第80号溝跡出土遺物……355
第378図　第81号溝跡出土遺物……356
第379図　第83号溝跡出土遺物（1）……357
第380図　第83号溝跡出土遺物（2）……358
第381図　第83号溝跡出土遺物（3）……359
第382図　第83号溝跡出土遺物（4）……360
第383図　第84号溝跡出土遺物……362
第384図　第88号溝跡出土遺物……363
第385図　第98号溝跡出土遺物……363
第386図　第100号溝跡出土遺物 ……364
第387図　第65～67・69～76号土壙 ……366
第388図　土壙出土遺物……367
第389図　第1号窯跡・出土遺物……368
第390図　グリッド出土遺物（1）……369
第391図　グリッド出土遺物（2）……370
第392図　グリッド出土遺物（3）……371
第393図　グリッド出土遺物（4）……372
第394図　グリッド出土遺物（5）……373
第395図　グリッド出土遺物（6）……374
第396図　グリッド出土遺物（7）……375
第397図　グリッド（古墳跡）出土遺物……379
第398図　表採遺物……380

（河川・古墳編）

第399図　第48号溝跡全体図（1）……382
第400図　第48号溝跡全体図（2）……383
第401図　第48号溝跡全体図（3）……384
第402図　第48号溝跡等高線図……385
第403図　第48号溝跡遺物分布図（1）……386
第404図　第48号溝跡遺物分布図（2）……387
第405図　第48号溝跡遺物分布図（3）……387
第406図　第48号溝跡遺物分布図（4）……388
第407図　第48号溝跡遺物分布図（5）……389
第408図　第48号溝跡遺物分布図（6）……390
第409図　第48号溝跡遺物分布図（7）……391
第410図　第48号溝跡遺物分布図（8）……392
第411図　第48号溝跡遺物分布図（9）……393
第412図　第48号溝跡出土遺物（1）……395
第413図　第48号溝跡出土遺物（2）……396
第414図　第48号溝跡出土遺物（3）……398
第415図　第48号溝跡出土遺物（4）……399
第416図　第48号溝跡出土遺物（5）……401
第417図　第48号溝跡出土遺物（6）……402
第418図　第48号溝跡出土遺物（7）……403
第419図　第48号溝跡出土遺物（8）……404
第420図　第48号溝跡出土遺物（9）……405
第421図　第48号溝跡配石遺構出土遺物……406
第422図　第48号溝跡　堰（1）……411
第423図　第48号溝跡　堰（2）……412
第424図　第48号溝跡　堰（3）……413
第425図　第48号溝跡　堰（4）……414
第426図　第48号溝跡　堰堤（1）……417
第427図　第48号溝跡　堰堤（2）……418
第428図　第48号溝跡　堰堤（3）……419
第429図　第48号溝跡　堰堤（4）……422
第430図　第48号溝跡　堰堤（5）……423
第431図　第48号溝跡　堰堤（6）……424

第432図　第48号溝跡　堰堤（7）……425
第433図　第48号溝跡　堰堤（8）……427
第434図　第48号溝跡　堰堤（9）……429
第435図　第48号溝跡　堰堤（10）……430
第436図　第48号溝跡　堰堤（11）……431
第437図　第79号溝跡区分図……433
第438図　第79号溝跡全体図（1）……434
第439図　第79号溝跡全体図（2）……435
第440図　第79号溝跡全体図（3）……436
第441図　第79号溝跡1トレ遺物分布図……437
第442図　第79号溝跡1トレ出土遺物（1）…439
第443図　第79号溝跡1トレ出土遺物（2）…440
第444図　第79号溝跡1トレ出土遺物（3）…441
第445図　第79号溝跡2・3トレ遺物分布図（1）
……443
第446図　第79号溝跡2・3トレ遺物分布図（2）
……444
第447図　第79号溝跡2・3トレ遺物分布図（3）
……445
第448図　第79号溝跡2・3トレ遺物分布図（4）
……446
第449図　第79号溝跡2・3トレ出土遺物（1）
……448
第450図　第79号溝跡2・3トレ出土遺物（2）
……449
第451図　第79号溝跡2・3トレ出土遺物（3）
……450
第452図　第79号溝跡2・3トレ出土遺物（4）
……451
第453図　第79号溝跡2・3トレ出土遺物（5）
……453
第454図　第79号溝跡2・3トレ出土遺物（6）
……455
第455図　第79号溝跡2・3トレ出土遺物（7）
……457
第456図　第79号溝跡2・3トレ出土遺物（8）
……458
第457図　第79号溝跡4トレ遺物分布図（1）…463
第458図　第79号溝跡4トレ遺物分布図（2）
……464・465
第459図　第79号溝跡4トレ出土遺物（1）…467
第460図　第79号溝跡4トレ出土遺物（2）…468
第461図　第79号溝跡4トレ出土遺物（3）…470
第462図　第79号溝跡4トレ出土遺物（4）…472
第463図　第79号溝跡4トレ出土遺物（5）…474
第464図　第79号溝跡4トレ出土遺物（6）…475
第465図　第79号溝跡4トレ出土遺物（7）…476
第466図　第79号溝跡4トレ出土遺物（8）…477
第467図　第79号溝跡4トレ出土遺物（9）…478
第468図　第79号溝跡一括出土遺物……479
第469図　第48・79号溝跡出土木製品（1）…483
第470図　第48・79号溝跡出土木製品（2）…484
第471図　第48・79号溝跡出土木製品（3）…486
第472図　第48・79号溝跡出土木製品（4）…488
第473図　第48・79号溝跡出土木製品（5）…489
第474図　第48・79号溝跡出土木製品（6）…491
第475図　第48・79号溝跡出土木製品（7）…492
第476図　第48・79号溝跡出土木製品（8）…494
第477図　第48・79号溝跡出土木製品（9）…495
第478図　第48・79号溝跡出土木製品（10）…497
第479図　第48・79号溝跡出土木製品（11）…498
第480図　第48・79号溝跡出土木製品（12）…499
第481図　第48・79号溝跡出土木製品（13）…500
第482図　第48・79号溝跡出土木製品（14）…501
第483図　古墳全体図……516
第484図　第13号墳（1）……518
第485図　第13号墳（2）……519
第486図　第13号墳（3）……520
第487図　第13号墳（4）……521
第488図　第13号墳出土遺物（1）……522
第489図　第13号墳出土遺物（2）……523
第490図　第13号墳出土遺物（3）……524
第491図　第13号墳出土遺物（4）……525
第492図　第13号墳出土遺物（5）……527

第493図　第13号墳出土遺物（6）……528
第494図　第13号墳出土遺物（7）……529
第495図　第13号墳出土遺物（8）……530
第496図　第13号墳出土遺物（9）……531
第497図　第14号墳（1）……534
第498図　第14号墳（2）……535
第499図　第14号墳出土遺物……535
第500図　第15号墳（1）……537
第501図　第15号墳（2）……538
第502図　第15号墳出土遺物（1）……538
第503図　第15号墳出土遺物（2）……539
第504図　第16号墳（1）……541
第505図　第16号墳（2）……542
第506図　第16号墳出土遺物（1）……543
第507図　第16号墳出土遺物（2）……544
第508図　第16号墳出土遺物（3）……545
第509図　第16号墳出土遺物（4）……546
第510図　第16号墳出土遺物（5）……547
第511図　第17号墳（1）……549
第512図　第17号墳（2）……550
第513図　第17号墳（3）……551
第514図　第17号墳（4）……552
第515図　第17号墳出土遺物（1）……553
第516図　第17号墳出土遺物（2）……554
第517図　第17号墳出土遺物（3）……555
第518図　第17号墳出土遺物（4）……556
第519図　第17号墳出土遺物（5）……557
第520図　第17号墳出土遺物（6）……559
第521図　第17号墳出土遺物（7）……560
第522図　第17号墳出土遺物（8）……561
第523図　第17号墳出土遺物（9）……562
第524図　第17号墳出土遺物（10）……563
第525図　第17号墳出土遺物（11）……564
第526図　第17号墳出土遺物（12）……565
第527図　第18号墳……568
第528図　第18号墳出土遺物……569
第529図　第19号墳（1）……570
第530図　第19号墳（2）……571
第531図　第19号墳出土遺物……572
第532図　第20号墳（1）……574
第533図　第20号墳（2）……575
第534図　第20号墳出土遺物……575
第535図　第21号墳（1）……577
第536図　第21号墳（2）……578
第537図　第21号墳（3）……579
第538図　第21号墳出土遺物（1）……580
第539図　第21号墳出土遺物（2）……581
第540図　第21号墳出土遺物（3）……582
第541図　第22号墳（1）……584
第542図　第22号墳（2）……585
第543図　第22号墳出土遺物（1）……585
第544図　第22号墳出土遺物（2）……586
第545図　第22号墳出土遺物（3）……587
第546図　第23号墳（1）……589
第547図　第23号墳（2）……590
第548図　第23号墳出土遺物（1）……591
第549図　第23号墳出土遺物（2）……592
第550図　第24号墳（1）……594
第551図　第24号墳（2）……595
第552図　第24号墳出土遺物（1）……596
第553図　第24号墳出土遺物（2）……597
第554図　第24号墳出土遺物（3）……598
第555図　第24号墳出土遺物（4）……599
第556図　第25号墳……601
第557図　第25号墳出土遺物（1）……602
第558図　第25号墳出土遺物（2）……603
第559図　第25号墳出土遺物（3）……605
第560図　第26号墳……607
第561図　第26号墳出土遺物……608
第562図　第27号墳（1）……609
第563図　第27号墳（2）……610
第564図　第27号墳出土遺物（1）……611
第565図　第27号墳出土遺物（2）……612
第566図　第28号墳……613

第567図　調査区出土遺物（1）……615
第568図　調査区出土遺物（2）……616
第569図　調査区出土遺物（3）……617
第570図　外来系土器模式図……645
第571図　遺構重複相関図……646
第572図　弥生時代の土器変遷図……649
第573図　古墳時代の土器変遷図（1）……654
第574図　古墳時代の土器変遷図（2）……655
第575図　古墳時代の土器変遷図（3）……657
第576図　古墳時代の土器変遷図（4）……658
第577図　古墳時代の土器変遷図（5）……660
第578図　古墳時代の土器変遷図（6）……661
第579図　古墳時代の土器変遷図（7）……664
第580図　古墳時代の土器変遷図（8）……665
第581図　古墳時代の土器変遷図（9）……668
第582図　古墳時代の土器変遷図（10）……670
第583図　古墳時代の土器変遷図（11）……671
第584図　古墳時代の土器変遷図（12）……672
第585図　古墳時代の土器変遷図（13）……673
第586図　管玉製作工程……676
第587図　第268・295号住居跡出土玉作関連遺物数量比……677
第588図　関東地方のガラス小玉鋳型分布図…678
第589図　各遺跡出土のガラス小玉鋳型（1）…680
第590図　各遺跡出土のガラス小玉鋳型（2）…681
第591図　玉作関連遺物の出土分布と住居跡時期別分布図……682

表目次

（集落編）

第1表　発掘調査工程表 ……4
第2表　遺跡一覧表 ……14
第3表　第139号住居跡出土遺物観察表 ……27
第4表　第140号住居跡出土遺物観察表 ……28
第5表　第144号住居跡出土遺物観察表 ……29
第6表　第145号住居跡出土遺物観察表 ……30
第7表　第149号住居跡出土遺物観察表 ……34
第8表　第184号住居跡出土遺物観察表 ……35
第9表　第216号住居跡出土遺物観察表 ……38
第10表　第221号住居跡出土遺物観察表 ……39
第11表　第226号住居跡出土遺物観察表 ……41
第12表　第228号住居跡出土遺物観察表 ……43
第13表　第233号住居跡出土遺物観察表 ……44
第14表　第244号住居跡出土遺物観察表 ……48
第15表　第275号住居跡出土遺物観察表 ……49
第16表　第284号住居跡出土遺物観察表 ……50
第17表　第120号住居跡出土遺物観察表 ……54
第18表　第121号住居跡出土遺物観察表 ……61
第19表　第122号住居跡出土遺物観察表 ……65
第20表　第123号住居跡出土遺物観察表 ……69
第21表　第124号住居跡出土遺物観察表 ……72
第22表　第125号住居跡出土遺物観察表 ……76
第23表　第126号住居跡出土遺物観察表 ……79
第24表　第127号住居跡出土遺物観察表 ……82
第25表　第128号住居跡出土遺物観察表 ……82
第26表　第129号住居跡出土遺物観察表 ……85
第27表　第130号住居跡出土遺物観察表 ……88
第28表　第137号住居跡出土遺物観察表 ……90
第29表　第138号住居跡出土遺物観察表 ……92
第30表　第141号住居跡出土遺物観察表 ……96
第31表　第142号住居跡出土遺物観察表 ……98
第32表　第143号住居跡出土遺物観察表 ……99
第33表　第146号住居跡出土遺物観察表 ……101
第34表　第147号住居跡出土遺物観察表 ……102
第35表　第148号住居跡出土遺物観察表 ……109
第36表　第150号住居跡出土遺物観察表 ……110
第37表　第153号住居跡出土遺物観察表 ……112
第38表　第154号住居跡出土遺物観察表 ……114
第39表　第156号住居跡出土遺物観察表 ……116

第40表　第161号住居跡出土遺物観察表……118
第41表　第162号住居跡出土遺物観察表……118
第42表　第165号住居跡出土遺物観察表……120
第43表　第166号住居跡出土遺物観察表……120
第44表　第167号住居跡出土遺物観察表……121
第45表　第168号住居跡出土遺物観察表……123
第46表　第169号住居跡出土遺物観察表……125
第47表　第171号住居跡出土遺物観察表……127
第48表　第172号住居跡出土遺物観察表……129
第49表　第173号住居跡出土遺物観察表……130
第50表　第174号住居跡出土遺物観察表……131
第51表　第175号住居跡出土遺物観察表……132
第52表　第176号住居跡出土遺物観察表……134
第53表　第177号住居跡出土遺物観察表……135
第54表　第179号住居跡出土遺物観察表……137
第55表　第180号住居跡出土遺物観察表……140
第56表　第181号住居跡出土遺物観察表……142
第57表　第182号住居跡出土遺物観察表……144
第58表　第183号住居跡出土遺物観察表……146
第59表　第185号住居跡出土遺物観察表……149
第60表　第186号住居跡出土遺物観察表……150
第61表　第187号住居跡出土遺物観察表……152
第62表　第188号住居跡出土遺物観察表……154
第63表　第189号住居跡出土遺物観察表……155
第64表　第190号住居跡出土遺物観察表……158
第65表　第191号住居跡出土遺物観察表……159
第66表　第193号住居跡出土遺物観察表……161
第67表　第194号住居跡出土遺物観察表……162
第68表　第195号住居跡出土遺物観察表……162
第69表　第196号住居跡出土遺物観察表……167
第70表　第197号住居跡出土遺物観察表……171
第71表　第199号住居跡出土遺物観察表……173
第72表　第202号住居跡出土遺物観察表……176
第73表　第203号住居跡出土遺物観察表……177
第74表　第204号住居跡出土遺物観察表……178
第75表　第206号住居跡出土遺物観察表……181
第76表　第207号住居跡出土遺物観察表……182
第77表　第208号住居跡出土遺物観察表……184
第78表　第209号住居跡出土遺物観察表……184
第79表　第211号住居跡出土遺物観察表……187
第80表　第213号住居跡出土遺物観察表……190
第81表　第214号住居跡出土遺物観察表……193
第82表　第217号住居跡出土遺物観察表……196
第83表　第218号住居跡出土遺物観察表……198
第84表　第219号住居跡出土遺物観察表……202
第85表　第220号住居跡出土遺物観察表……204
第86表　第222号住居跡出土遺物観察表……206
第87表　第223号住居跡出土遺物観察表……207
第88表　第224号住居跡出土遺物観察表……208
第89表　第225号住居跡出土遺物観察表……209
第90表　第227号住居跡出土遺物観察表……211
第91表　第229号住居跡出土遺物観察表……213
第92表　第230号住居跡出土遺物観察表……218
第93表　第231号住居跡出土遺物観察表……221
第94表　第232号住居跡出土遺物観察表……223
第95表　第234号住居跡出土遺物観察表……227
第96表　第235号住居跡出土遺物観察表……229
第97表　第236号住居跡出土遺物観察表……231
第98表　第237号住居跡出土遺物観察表……232
第99表　第238号住居跡出土遺物観察表……232
第100表　第239号住居跡出土遺物観察表……233
第101表　第240号住居跡出土遺物観察表……235
第102表　第241号住居跡出土遺物観察表……238
第103表　第242号住居跡出土遺物観察表……240
第104表　第245号住居跡出土遺物観察表……242
第105表　第246号住居跡出土遺物観察表……243
第106表　第247号住居跡出土遺物観察表……244
第107表　第248号住居跡出土遺物観察表……246
第108表　第251号住居跡出土遺物観察表……253
第109表　第253号住居跡出土遺物観察表……255
第110表　第254号住居跡出土遺物観察表……256
第111表　第255号住居跡出土遺物観察表……258
第112表　第256号住居跡出土遺物観察表……260
第113表　第257号住居跡出土遺物観察表……263

第114表　第258号住居跡出土遺物観察表 ……263
第115表　第259号住居跡出土遺物観察表 ……265
第116表　第260号住居跡出土遺物観察表 ……267
第117表　第261号住居跡出土遺物観察表 ……268
第118表　第262号住居跡出土遺物観察表 ……270
第119表　第263号住居跡出土遺物観察表 ……271
第120表　第264号住居跡出土遺物観察表 ……272
第121表　第265号住居跡出土遺物観察表 ……272
第122表　第267号住居跡出土遺物観察表 ……274
第123表　第267号住居跡（周辺）
出土遺物観察表……274
第124表　第268号住居跡出土遺物観察表 ……283
第125表　第269号住居跡出土遺物観察表 ……285
第126表　第270号住居跡出土遺物観察表 ……287
第127表　第271号住居跡出土遺物観察表 ……287
第128表　第272号住居跡出土遺物観察表 ……287
第129表　第273号住居跡出土遺物観察表 ……292
第130表　第274号住居跡出土遺物観察表 ……293
第131表　第276号住居跡出土遺物観察表 ……295
第132表　第278号住居跡出土遺物観察表 ……297
第133表　第279号住居跡出土遺物観察表 ……299
第134表　第280号住居跡出土遺物観察表 ……300
第135表　第281号住居跡出土遺物観察表 ……301
第136表　第282号住居跡出土遺物観察表 ……303
第137表　第283号住居跡出土遺物観察表 ……304
第138表　第285号住居跡出土遺物観察表 ……305
第139表　第286号住居跡出土遺物観察表 ……307
第140表　第289号住居跡出土遺物観察表 ……310
第141表　第290号住居跡出土遺物観察表 ……315
第142表　第293号住居跡出土遺物観察表 ……316
第143表　第295号住居跡出土遺物観察表 ……323
第144表　第296号住居跡出土遺物観察表 ……325
第145表　第297号住居跡出土遺物観察表 ……327
第146表　第299号住居跡出土遺物観察表 ……329
第147表　第301号住居跡出土遺物観察表 ……330
第148表　第302号住居跡出土遺物観察表 ……332
第149表　第303号住居跡出土遺物観察表 ……334
第150表　第304号住居跡出土遺物観察表 ……334
第151表　第305号住居跡出土遺物観察表 ……335
第152表　第307号住居跡出土遺物観察表 ……337
第153表　第308号住居跡出土遺物観察表 ……340
第154表　第133号住居跡出土遺物観察表 ……345
第155表　第134号住居跡出土遺物観察表 ……347
第156表　第135号住居跡出土遺物観察表 ……349
第157表　第136号住居跡出土遺物観察表 ……349
第158表　第80号溝跡出土遺物観察表……356
第159表　第81号溝跡出土遺物観察表……356
第160表　第83号溝跡出土遺物観察表……361
第161表　第84号溝跡出土遺物観察表……362
第162表　第88号溝跡出土遺物観察表……363
第163表　第98号溝跡出土遺物観察表……363
第164表　第100号溝跡出土遺物観察表 ……364
第165表　土壙出土遺物観察表……367
第166表　第１号窯跡出土遺物観察表……368
第167表　グリッド出土遺物観察表……376
第168表　グリッド（古墳跡）出土遺物観察表…380
第169表　表採遺物観察表……380
（河川・古墳編）
第170表　第48号溝跡出土遺物観察表……406
第171表　第48号溝跡配石遺構出土形象埴輪
観察表……409
第172表　第79号溝跡１トレ出土遺物観察表…441
第173表　第79号溝跡２・３トレ出土遺物観察表
……460
第174表　第79号溝跡４トレ出土遺物観察表…479
第175表　第79号溝跡一括出土遺物観察表……481
第176表　反町遺跡３次出土木製品等観察表…503
第177表　第13号墳出土遺物観察表……522
第178表　第13号墳出土円筒埴輪観察表……532
第179表　第13号墳出土形象埴輪観察表……533
第180表　第14号墳出土遺物観察表……536
第181表　第14号墳出土円筒埴輪観察表……536
第182表　第15号墳出土遺物観察表……540
第183表　第15号墳出土円筒埴輪観察表……540

第184表　第15号墳出土形象埴輪観察表……540
第185表　第16号墳出土遺物観察表……547
第186表　第16号墳出土円筒埴輪観察表……548
第187表　第16号墳出土形象埴輪観察表……548
第188表　第17号墳出土遺物観察表……553
第189表　第17号墳出土円筒埴輪観察表……566
第190表　第17号墳出土形象埴輪観察表……567
第191表　第18号墳出土遺物観察表……569
第192表　第19号墳出土遺物観察表……573
第193表　第19号墳出土円筒埴輪観察表……573
第194表　第19号墳出土形象埴輪観察表……573
第195表　第20号墳出土遺物観察表……576
第196表　第21号墳出土遺物観察表……580
第197表　第21号墳出土円筒埴輪観察表……583
第198表　第21号墳出土形象埴輪観察表……583
第199表　第22号墳出土遺物観察表……586
第200表　第22号墳出土円筒埴輪観察表……588
第201表　第22号墳出土形象埴輪観察表……588
第202表　第23号墳出土遺物観察表……592
第203表　第23号墳出土円筒埴輪観察表……592
第204表　第24号墳出土遺物観察表……596
第205表　第24号墳出土円筒埴輪観察表……600
第206表　第24号墳出土形象埴輪観察表……600
第207表　第25号墳出土遺物観察表……604
第208表　第25号墳出土円筒埴輪観察表……606
第209表　第25号墳出土形象埴輪観察表……606
第210表　第26号墳出土遺物観察表……608
第211表　第27号墳出土遺物観察表……611
第212表　第27号墳出土円筒埴輪観察表……612
第213表　調査区出土円筒埴輪観察表……616
第214表　調査区出土形象埴輪観察表……618
第215表　住居跡時期分類表……646

写真図版目次

巻頭図版1　1　反町・銭塚・城敷遺跡空中写真
巻頭図版2　1　反町遺跡古墳群全景
　　2　第48号溝跡堰全景
巻頭図版3　1　第196号住居跡出土遺物
　　2　第79号溝跡出土遺物
巻頭図版4　1　反町遺跡出土弥生土器
　　2　反町遺跡出土土師器壺
巻頭図版5　1　第206号住居跡出土ガラス小玉鋳型
　　2　第48号溝跡出土臼
巻頭図版6　1　第17号墳出土馬形埴輪

図版1　1　航空写真　南から
　　2　航空写真　東から
　　3　航空写真　北から
　　4　航空写真　西から
　　5　航空写真　南東から
図版2　1　第120号住居跡
　　2　第120号住居跡遺物出土状況（1）
　　3　第120号住居跡遺物出土状況（2）
　　4　第120号住居跡カマド
　　5　第121号住居跡
　　6　第121号住居跡カマド
　　7　第121号住居跡遺物出土状況（1）
　　8　第121号住居跡遺物出土状況（2）
図版3　1　第123号住居跡
　　2　第124号住居跡
　　3　第124号住居跡遺物出土状況（1）
　　4　第124号住居跡遺物出土状況（2）
　　5　第125号住居跡
　　6　第125号住居跡遺物出土状況（1）
　　7　第125号住居跡遺物出土状況（2）
　　8　第125号住居跡遺物出土状況（3）
図版4　1　第126号住居跡
　　2　第126号住居跡遺物出土状況（1）
　　3　第126号住居跡遺物出土状況（2）

4 第126号住居跡遺物出土状況（3）
5 第127号住居跡
6 第127号住居跡遺物出土状況（1）
7 第127号住居跡遺物出土状況（2）
8 第127号住居跡遺物出土状況（3）
図版5 1 第128号住居跡
2 第129号住居跡遺物出土状況（1）
3 第129号住居跡遺物出土状況（2）
4 第130号住居跡
5 第130号住居跡出土状況
6 第133号住居跡
7 第133号住居跡カマド
8 第134号住居跡
図版6 1 第134号住居跡遺物出土状況
2 第135号住居跡遺物出土状況
3 第137号住居跡
4 第138号住居跡（1）
5 第138号住居跡（2）
6 第139号住居跡
7 第141号住居跡
8 第141号住居跡遺物出土状況（1）
図版7 1 第141号住居跡遺物出土状況（2）
2 第141号住居跡遺物出土状況（3）
3 第141号住居跡遺物出土状況（4）
4 第141号住居跡遺物出土状況（5）
5 第141号住居跡遺物出土状況（6）
6 第141号住居跡遺物出土状況（7）
7 第143号住居跡
8 第144・145・146号住居跡
図版8 1 第146号住居跡炭化物検出状況
2 第146号住居跡
3 第146号住居跡貯蔵穴
4 第146号住居跡炉跡
5 第147号住居跡
6 第147号住居跡遺物出土状況（1）
7 第147号住居跡遺物出土状況（2）
8 第147号住居跡遺物出土状況（3）
図版9 1 第147号住居跡遺物出土状況（4）
2 第148号住居跡遺物出土状況（1）
3 第148号住居跡遺物出土状況（2）
4 第148号住居跡遺物出土状況（3）
5 第148号住居跡遺物出土状況（4）
6 第148号住居跡遺物出土状況（5）
7 第149号住居跡
8 第150号住居跡
図版10 1 第150号住居跡炉跡
2 第153・154・184号住居跡
3 第153号住居跡遺物出土状況（1）
4 第153号住居跡遺物出土状況（2）
5 第153号住居跡遺物出土状況（3）
6 第154号住居跡
7 第154号住居跡遺物出土状況（1）
8 第154号住居跡遺物出土状況（2）
図版11 1 第154号住居跡遺物出土状況（3）
2 第155号住居跡
3 第156号住居跡
4 第156号住居跡遺物出土状況
5 第161・164号住居跡
6 第162号住居跡
7 第162号住居跡遺物出土状況
8 第166号住居跡
図版12 1 第167・179号住居跡
2 第168・175号住居跡
3 第169号住居跡
4 第169号住居跡遺物出土状況（1）
5 第169号住居跡遺物出土状況（2）
6 第169号住居跡遺物出土状況（3）
7 第169号住居跡遺物出土状況（4）
8 第171号住居跡
図版13 1 第172号住居跡
2 第173・174号住居跡
3 第174号住居跡遺物出土状況
4 第177号住居跡
5 第180号住居跡

6 第181号住居跡
7 第182号住居跡
8 第182号住居跡遺物出土状況
図版14 1 第183号住居跡
2 第185・186号住居跡
3 第185号住居跡遺物出土状況
4 第186号住居跡遺物出土状況
5 第187号住居跡
6 第188・205号住居跡
7 第189号住居跡
8 第190・191号住居跡
図版15 1 第190号住居跡遺物出土状況（1）
2 第190号住居跡遺物出土状況（2）
3 第193号住居跡
4 第195号住居跡
5 第195・187・212号住居跡
6 第196号住居跡
7 第196号住居跡遺物出土状況
8 第197号住居跡
図版16 1 第199号住居跡
2 第200～202・209～210号住居跡
3 第202号住居跡
4 第202号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
5 第202号住居跡遺物出土状況
6 第203・204号住居跡
7 第206号住居跡
8 第207号住居跡
図版17 1 第207号住居跡遺物出土状況（1）
2 第207号住居跡遺物出土状況（2）
3 第208号住居跡
4 第208号住居跡遺物出土状況
5 第211号住居跡遺物出土状況
6 第213号住居跡
7 第214号住居跡
8 第214号住居跡砂利検出状況
図版18 1 第216号住居跡
2 第217号住居跡
3 第217号住居跡遺物出土状況（1）
4 第217号住居跡遺物出土状況（2）
5 第218号住居跡
6 第218号住居跡遺物出土状況
7 第219号住居跡
8 第219号住居跡遺物出土状況（1）
図版19 1 第219号住居跡遺物出土状況（2）
2 第220号住居跡
3 第220号住居跡床面炭化材検出状況（1）
4 第220号住居跡床面炭化材検出状況（2）
5 第220号住居跡床面炭化材検出状況（3）
6 第220号住居跡遺物出土状況
7 第221住居跡
8 第221号住居跡遺物出土状況
図版20 1 第222号住居跡
2 第222号住居跡遺物出土状況
3 第223号住居跡
4 第225号住居跡
5 第225号住居跡遺物出土状況
6 第226号住居跡
7 第226号住居跡遺物出土状況
8 第227号住居跡遺物出土状況（1）
図版21 1 第227号住居跡遺物出土状況（2）
2 第227号住居跡遺物出土状況（3）
3 第227号住居跡遺物出土状況（4）
4 第228号住居跡
5 第228号住居跡遺物出土状況（1）
6 第228号住居跡遺物出土状況（2）
7 第228号住居跡遺物出土状況（3）
8 第229号住居跡
図版22 1 第229号住居跡炉跡
2 第229号住居跡遺物出土状況（1）
3 第229号住居跡遺物出土状況（2）
4 第230号住居跡
5 第230号住居跡遺物出土状況（1）
6 第230号住居跡遺物出土状況（2）
7 第230号住居跡遺物出土状況（3）

8 第231号住居跡
図版23 1 第231号住居跡遺物出土状況
2 第232号住居跡
3 第232号住居跡遺物出土状況
4 第233号住居跡
5 第233号住居跡遺物出土状況
6 第234号住居跡
7 第234号住居跡遺物出土状況（1）
8 第234号住居跡遺物出土状況（2）
図版24 1 第234号住居跡遺物出土状況（3）
2 第234号住居跡遺物出土状況（4）
3 第234号住居跡遺物出土状況（5）
4 第235号住居跡
5 第235号住居跡遺物出土状況（1）
6 第235号住居跡遺物出土状況（2）
7 第236号住居跡
8 第237号住居跡
図版25 1 第238号住居跡
2 第239号住居跡
3 第240号住居跡
4 第240号住居跡遺物出土状況
5 第241号住居跡
6 第241号住居跡遺物出土状況（1）
7 第241号住居跡遺物出土状況（2）
8 第241号住居跡貯蔵穴
図版26 1 第242号住居跡
2 第242号住居跡遺物出土状況
3 第243号住居跡
4 第243号住居跡炉跡
5 第244号住居跡
6 第245号住居跡
7 第245号住居跡貯蔵穴
8 第245号住居跡遺物出土状況
図版27 1 第246号住居跡
2 第246号住居跡貯蔵穴
3 第246号住居跡遺物出土状況
4 第247号住居跡
5 第247号住居跡遺物出土状況（1）
6 第247号住居跡遺物出土状況（2）
7 第248号住居跡
8 第248号住居跡遺物出土状況（1）
図版28 1 第248号住居跡遺物出土状況（2）
2 第249号住居跡
3 第250号住居跡
4 第251号住居跡
5 第251号住居跡建物部材・遺物出土状況（1）
6 第251号住居跡建物部材・遺物出土状況（2）
7 第251号住居跡建物部材・遺物出土状況（3）
8 第251号住居跡建物部材・遺物出土状況（4）
図版29 1 第252号住居跡
2 第253号住居跡
3 第253号住居跡遺物出土状況（1）
4 第253号住居跡遺物出土状況（2）
5 第253号住居跡遺物出土状況（3）
6 第253号住居跡遺物出土状況（4）
7 第255号住居跡
8 第256号住居跡
図版30 1 第257号住居跡遺物出土状況
2 第258号住居跡
3 第259号住居跡遺物出土状況
4 第260号住居跡遺物出土状況
5 第262号住居跡
6 第264号住居跡
7 第265号住居跡
8 第267号住居跡
図版31 1 第268号住居跡（1）
2 第268号住居跡（2）
3 第268号住居跡砂利検出状況
4 第268号住居跡遺物出土状況（1）
5 第268号住居跡遺物出土状況（2）

6 第269号住居跡
7 第270号住居跡
8 第271号住居跡
図版32 1 第272号住居跡
2 第272号住居跡遺物出土状況（1）
3 第272号住居跡遺物出土状況（2）
4 第272号住居跡遺物出土状況（3）
5 第273号住居跡
6 第273号住居跡遺物出土状況（1）
7 第273号住居跡遺物出土状況（2）
8 第273号住居跡遺物出土状況（3）
図版33 1 第273号住居跡遺物出土状況（4）
2 第274号住居跡
3 第275号住居跡
4 第276号住居跡
5 第276号住居跡遺物出土状況（1）
6 第276号住居跡遺物出土状況（2）
7 第278号住居跡
8 第279号住居跡
図版34 1 第281号住居跡炉跡
2 第281号住居跡砂利検出状況
3 第281号住居跡遺物出土状況（1）
4 第281号住居跡遺物出土状況（2）
5 第282号住居跡
6 第282号住居跡遺物出土状況
7 第283号住居跡
8 第283号住居跡遺物出土状況（1）
図版35 1 第283号住居跡遺物出土状況（2）
2 第283号住居跡遺物出土状況（3）
3 第284号住居跡
4 第285号住居跡
5 第286・287号住居跡
6 第288号住居跡
7 第289号住居跡遺物出土状況
8 第290号住居跡
図版36 1 第290号住居跡炉跡（1）
2 第290号住居跡炉跡（2）
3 第290号住居跡ピット1（1）
4 第290号住居跡ピット1（2）
5 第290号住居跡ピット2（1）
6 第290号住居跡ピット2（2）
7 第290号住居跡ピット3（1）
8 第290号住居跡ピット3（2）
図版37 1 第290号住居跡ピット4（1）
2 第290号住居跡ピット4（2）
3 第290号住居跡遺物出土状況（1）
4 第290号住居跡遺物出土状況（2）
5 第290号住居跡遺物出土状況（3）
6 第292号住居跡
7 第293号住居跡
8 第293号住居跡遺物出土状況
図版38 1 第294号住居跡
2 第295号住居跡
3 第295号住居跡遺物出土状況
4 第296号住居跡
5 第296号住居跡遺物出土状況（1）
6 第296号住居跡遺物出土状況（2）
7 第296号住居跡遺物出土状況（3）
8 第297号住居跡
図版39 1 第297号住居跡遺物出土状況（1）
2 第297号住居跡遺物出土状況（2）
3 第297号住居跡遺物出土状況（3）
4 第298号住居跡
5 第300号住居跡
6 第303号住居跡
7 第303号住居跡遺物出土状況
8 第304号住居跡
図版40 1 第304号住居跡遺物出土状況
2 第305号住居跡
3 第307号住居跡
4 第308号住居跡
5 第81号溝跡
6 第83号溝跡（1）
7 第83号溝跡（2）

3　第48号溝跡堰（65）
4　第48号溝跡堰（66）
5　第48号溝跡堰（67）
6　第48号溝跡堰（68）
7　第48号溝跡堰（69）
8　第48号溝跡配石遺構
図版57　1　第48号溝跡集石
2　第48・79号溝跡合流部（1）
3　第48・79号溝跡合流部（2）
4　第48・79号溝跡合流部（3）
5　第48・79号溝跡合流部（4）
6　第48・79号溝跡合流部（5）
7　第48・79号溝跡合流部（6）
8　第48・79号溝跡合流部（7）
図版58　1　第48・79号溝跡合流部（8）
2　第48・79号溝跡合流部（9）
3　第48・79号溝跡合流部（10）
4　第48・79号溝跡合流部（11）
5　第48・79号溝跡合流部（12）
6　第48・79号溝跡合流部（13）
7　第48・79号溝跡合流部（14）
8　第48・79号溝跡合流部（15）
図版59　1　第79号溝跡１トレ遺物出土状況
2　第79号溝跡２・３トレ（1）
3　第79号溝跡２・３トレ（2）
4　第79号溝跡２・３トレ（3）
5　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（1）
6　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（2）
7　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（3）
8　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（4）
図版60　1　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（5）
2　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（6）
3　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（7）
4　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（8）
5　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（9）
6　第48号溝跡２・３トレ遺物出土状況（10）
7　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（11）
8　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（12）
図版61　1　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（13）
2　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（14）
3　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（15）
4　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（16）
5　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（17）
6　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（18）
7　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（19）
8　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（20）
図版62　1　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（21）
2　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（22）
3　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（23）
4　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（24）
5　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（25）
6　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（26）
7　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（27）
8　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（28）
図版63　1　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（29）
2　第79号溝跡２・３トレ遺物出土状況（30）
3　第79号溝跡４トレ
4　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（1）
5　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（2）
6　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（3）
7　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（4）
8　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（5）
図版64　1　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（6）
2　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（7）
3　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（8）
4　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（9）
5　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（10）
6　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（11）
7　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（12）
8　第79号溝跡４トレ遺物出土状況（13）
図版65　1　古墳群航空写真（1）
2　古墳群航空写真（2）
3　古墳群航空写真（3）
4　古墳群航空写真（4）

5 古墳群全景（1）
図版66 1 古墳群全景（2）
2 古墳群全景（3）
3 古墳群全景（4）
4 古墳群全景（5）
5 古墳群全景（6）
6 古墳群全景（7）
7 古墳群全景（8）
8 古墳群全景（9）
図版67 1 古墳群全景（10）
2 第13号墳（1）
3 第13号墳（2）
4 第13号墳（3）
5 第13号墳周溝断面（1）
6 第13号墳周溝断面（2）
7 第13号墳周溝断面（3）
8 第13号墳周溝断面（4）
図版68 1 第13号墳周溝断面（5）
2 第13号墳周溝断面（6）
3 第13号墳周溝断面（7）
4 第13号墳遺物出土状況（1）
5 第13号墳遺物出土状況（2）
6 第13号墳遺物出土状況（3）
7 第13号墳遺物出土状況（4）
8 第13号墳遺物出土状況（5）
図版69 1 第14号墳（1）
2 第14号墳（2）
3 第14号墳周溝断面（1）
4 第14号墳周溝断面（2）
5 第14号墳遺物出土状況（1）
6 第14号墳遺物出土状況（2）
7 第15・16・18号墳
8 第15号墳
図版70 1 第15号墳周溝断面（1）
2 第15号墳周溝断面（2）
3 第15号墳周溝断面（3）
4 第15号墳遺物出土状況（1）
5 第15号墳遺物出土状況（2）
6 第15号墳遺物出土状況（3）
7 第15号墳遺物出土状況（4）
8 第16号墳
図版71 1 第16号墳周溝断面
2 第16号墳遺物出土状況（1）
3 第16号墳遺物出土状況（2）
4 第16号墳遺物出土状況（3）
5 第16号墳遺物出土状況（4）
6 第16号墳遺物出土状況（5）
7 第16号墳遺物出土状況（6）
8 第16号墳遺物出土状況（7）
図版72 1 第17号墳
2 第17号墳周溝断面（1）
3 第17号墳周溝断面（2）
4 第17号墳周溝断面（3）
5 第17号墳周溝断面（4）
6 第17号墳周溝断面（5）
7 第17号墳周溝断面（6）
8 第17号墳遺物出土状況（1）
図版73 1 第17号墳遺物出土状況（2）
2 第17号墳遺物出土状況（3）
3 第17号墳遺物出土状況（4）
4 第17号墳遺物出土状況（5）
5 第17号墳遺物出土状況（6）
6 第17号墳遺物出土状況（7）
7 第17号墳遺物出土状況（8）
8 第17号墳遺物出土状況（9）
図版74 1 第17号墳遺物出土状況（10）
2 第17号墳遺物出土状況（11）
3 第17号墳遺物出土状況（12）
4 第18・19号墳
5 第18号墳
6 第19号墳（1）
7 第19号墳（2）
8 第20号墳
図版75 1 第20号墳周溝断面（1）

2　第20号墳周溝断面（2）
3　第20号墳周溝断面（3）
4　第21号墳（1）
5　第21号墳（2）
6　第21号墳周溝内焼土
7　第23号墳（1）
8　第23号墳（2）
図版76　1　第24号墳（1）
2　第24号墳（2）
3　第25号墳
4　第23・26号墳
5　第26号墳
6　第27号墳
7　第27号墳遺物出土状況
8　第28号墳
図版77　弥生土器（1）
図版78　弥生土器（2）
図版79　弥生土器（3）
図版80　弥生土器（4）
図版81　吉ヶ谷式土器（1）
図版82　吉ヶ谷式土器（2）
図版83　吉ヶ谷式土器（3）
図版84　壺（1）
図版85　壺（2）
図版86　壺（3）
図版87　壺（4）
図版88　壺（5）
図版89　壺（6）
図版90　壺（7）
図版91　壺（8）
図版92　壺（9）
図版93　小型壺（1）
図版94　小型壺（2）
図版95　小型壺（3）
図版96　台付甕（1）
図版97　台付甕（2）
図版98　台付甕（3）
図版99　台付甕（4）
図版100　台付甕（5）
図版101　台付甕（6）
図版102　小型台付甕（1）
図版103　小型台付甕（2）
図版104　小型台付甕（3）
図版105　小型台付甕（4）
図版106　叩き甕（1）
図版107　叩き甕（2）・S字甕
図版108　甕（1）
図版109　甕（2）
図版110　甕（3）
図版111　甕（4）
図版112　甕（5）
図版113　甕（6）
図版114　甕（7）
図版115　甕（8）
図版116　小型甕（1）
図版117　小型甕（2）
図版118　小型甕（3）
図版119　埦・鉢（1）
図版120　埦・鉢（2）
図版121　埦・鉢（3）
図版122　埦・鉢（4）
図版123　埦・鉢（5）
図版124　埦・鉢（6）
図版125　埦・鉢（7）
図版126　ミニチュア・手づくね土器
図版127　高坏（1）
図版128　高坏（2）
図版129　高坏（3）
図版130　高坏（4）
図版131　高坏（5）
図版132　高坏（6）・脚付鉢
図版133　器台（1）
図版134　器台（2）
図版135　器台（3）

図版136　器台（4）・装飾器台
図版137　坩（1）
図版138　坩（2）・脚付坩
図版139　甑（1）
図版140　甑（2）
図版141　甑（3）
図版142　坏（1）
図版143　坏（2）
図版144　坏（3）
図版145　坏（4）
図版146　坏（5）
図版147　坏（6）・蓋
図版148　その他の遺物（1）
図版149　その他の遺物（2）
図版150　石製品・玉類（1）
図版151　石製品・玉類（2）
図版152　石製品・玉類（3）
図版153　石製品・玉類（4）
図版154　石製品・玉類（5）・ガラス小玉の鋳型
図版155　木製品（1）
図版156　木製品（2）
図版157　木製品（3）
図版158　木製品（4）
図版159　木製品（5）
図版160　木製品（6）
図版161　木製品（7）
図版162　木製品（8）
図版163　木製品（9）
図版164　木製品（10）
図版165　木製品（11）
図版166　木製品（12）
図版167　木製品（13）
図版168　木製品（14）
図版169　木製品（15）
図版170　木製品（16）
図版171　木製品（17）
図版172　木製品（18）
図版173　堰構造材（1）
図版174　堰構造材（2）
図版175　堰構造材（3）
図版176　堰構造材（4）
図版177　堰構造材（5）
図版178　古墳出土遺物（1）
図版179　古墳出土遺物（2）
図版180　古墳出土遺物（3）
図版181　古墳出土円筒埴輪（1）
図版182　古墳出土円筒埴輪（2）
図版183　古墳出土円筒埴輪（3）
図版184　古墳出土円筒埴輪（4）
図版185　古墳出土円筒埴輪（5）
図版186　古墳出土円筒埴輪（6）
図版187　古墳出土円筒埴輪（7）
図版188　古墳出土円筒埴輪（8）
図版189　古墳出土円筒埴輪（9）
図版190　古墳出土円筒埴輪（10）
図版191　古墳出土円筒埴輪（11）
図版192　古墳出土形象埴輪（1）
図版193　古墳出土形象埴輪（2）
図版194　古墳出土形象埴輪（3）
図版195　古墳出土形象埴輪（4）
図版196　古墳出土形象埴輪（5）
図版197　古墳出土形象埴輪（6）
図版198　古墳出土形象埴輪（7）
図版199　古墳出土形象埴輪（8）
図版200　古墳出土形象埴輪（9）
図版201　古墳出土形象埴輪（10）・木製品
図版202　内行花文鏡・人物埴輪

Ⅰ　発掘調査の概要

1．発掘調査に至る経過

東松山市教育委員会（以下市教委）では、都市基盤整備公団埼玉地域支社（当時・以下公団/現独立行政法人都市再生機構・以下都市機構）が東松山市高坂地区で行う高坂駅東口第二地区特定土地区画整理事業地内の商業地域の一つ、25街区1（約5ヘクタール）の公売開始にあたり、事業地内の埋蔵文化財の取り扱いについて、これまでの経緯を踏まえ都市機構・埼玉県教育委員会（以下県教委）・市教委と調整を図ってきた。

平成18年12月3日付けで当該地の開発事業者に決まったユニー株式会社（以下事業者）より市教委あて「埋蔵文化財の所在および取扱について（照会）」と「埋蔵文化財所在確認調査について（依頼）」が提出された。当時市教委では、市が関係する2ヶ所にわたる区画整理事業（高坂地区・市の川地区）とそれに伴う住宅開発による調査事業、民間開発における調査事業等々市教委の調査体制を上回る状況下にあったため、平成19年1月24日付け東松教生発第0123002号で埼玉県教育委員会教育長あて「埋蔵文化財確認調査への支援」についての依頼を提出した。調査は、県教委の協力を得て、平成19年2月14日～16日に開発予定地に対し、試掘調査が行われ、埋蔵文化財の所在が明確になった。事業者へは平成19年3月15日付け東松教生発第0314002号で、試掘調査報告と事業実施にあたり、記録保存のための発掘調査の必要性がある旨の回答をした。

市教委では、開発面積が広大で、多くの埋蔵文化財が包蔵されていることが予想され、市教委で調査体制を組織することは、現状では困難であると判断し、平成19年3月1日付け東松教生発第0227002号で、県教育委員会教育長あて「埋蔵文化財発掘調査への支援」について依頼した。

県教委との数度の協議の中で、大規模かつ時間的な制限のある状況下での市教委の調査対応は困難であることの理解を得て、発掘調査については、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団（以下事業団）が調査主体者として実施することへの協力を得ることになった。

その後、平成19年7月10日付けで、事業者からの市教委あて「埋蔵文化財発掘調査依頼」が提出されたのに対し、平成19年7月30日付け東松教生発第0727006号で、県教委の支援を得て、発掘調査は事業団が行う旨の回答をした。

調査の実施にあたり、同年8月7日に事業者、施工主体者である鹿島道路株式会社（以下施工業者）、県教委、事業団、市教委による第1回の五者協議が開催された。協議では、調査範囲・調査方法・調査期間・経費等について協議が重ねられ、最終的には、平成19年9月4日付けで「大規模小売店舗建設事業予定地に係る埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」を事業者、施工業者、県教委、事業団、市教委の五者で締結した。

その後、平成19年9月10日付けで、事業者と事業団との間で「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」が締結された。

五者協議と並行して、ユニー株式会社代表取締役からは平成19年8月7日付けで文化財保護法第93条の規定による届出が提出され、これに対し県教育委員会教育長からは、平成19年9月3日付け教生文第4－492号で通知があった。また、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長からは、文化財保護法第92条の規定にもとづく届が提出され、県教育委員会教育長からは、平成19年10月11日付け教生文第2－42号で指示通知があった。

（埼玉県東松山市地域生活部文化まなび課）

2．発掘調査・報告書作成の経過

（1）発掘調査

反町遺跡第３次調査の発掘調査は、ユニー株式会社アピタ東松山店建設に先立ち、平成19年10月１日から平成20年９月30日までを実施した。調査面積は24,363㎡である。

第３次調査の調査範囲は、試掘調査の結果に基づき、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課と東松山市教育委員会で協議し決定された。その決定に基づいて、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した。

調査は、集落が広がる部分は全面表土を除去して実施した。また、これまでの調査成果から、北側に河川跡が予想されたため、トレンチ調査による方法を採ることになった。さらに、西側の集落範囲が途切れる部分は、トレンチを入れて遺構の広がりを確認し、調査を実施することとなった。

平成19年10月、調査開始。調査区は、高坂駅東口第二地区特定整理事業用地内にあたり、すでに調査区の周囲は、道路用地であることから高さ約５ｍの盛り土造成が先行して行われていた。このため、調査区の表土除去は、安全対策上、道路用地盛り土から約10ｍの干渉地帯を設け、その内側に調査範囲を設定した。

また、調査区は低地であり、地下水の湧水が多いため、調査区南側・東側・北側に幅１ｍ深さ0.8ｍの排水溝を巡らした。さらに、調査区の南東コーナーと北西コーナーに排水枡を設置し、動力工事と合わせて、ポンプによる24時間排水可能な対策をとった。

調査区南東側から重機による表土除去作業を開始した。表土除去は、予想より集落が北側に伸びていたため、トレンチ調査で済ませる予定であった集落北側の河川跡までを含め、全面表土除去することとなった。表土除去の後、補助員の人力により遺構の確認作業を行い、住居跡、土壙、溝跡、河川跡、古墳跡を検出した。

11月、検出した遺構は、光波測量機械を使って全体図を作成した。また、遺構実測作業のために基準点測量を行い、調査区内に10ｍ間隔の基準杭を設定した。

ただちに、遺構精査を開始した。初めに確認面上面で検出された河川跡および古墳跡から取り掛かった。

河川跡は、第１・２次調査において調査した第48号溝跡につながる遺構である。河川跡の調査は、東西約70ｍが確認され、11月から３月まで実施した。河川跡の調査はすべて人力による掘削を行い、掘削土はキャリアダンプを使用して運搬した。覆土中からは、土器、木器の遺物が多く出土し、出土状況図および出土状況写真の記録を行った。断面観察は、北側の調査区域外に面した側壁で東西断面を記録し、南北断面は南北ベルトを数か所設定し、記録した。

古墳跡の調査は、11月に13号～15号古墳跡、12月に16号～21号古墳跡、１月に22号～26号古墳跡、２月に27・28号古墳跡の調査を実施し、16基の古墳跡の調査を終了した。古墳跡の調査では、土層断面図・平面図・遺物出土状況図の記録を作成した。また、遺物出土状況写真・遺構写真撮影を行った。１月31に航空写真撮影を実施した。

２月、河川跡から検出した堰跡の調査を本格化させた。３月、古墳跡や奈良時代の住居跡などの上面で検出した遺構については、調査をすべて終了した。３月16日には、遺跡見学会を開催した。

平成20年４月、古墳時代前期の集落の調査に取り掛かり、６ヶ月間で約190軒の調査を開始した。４月に第135号～第150号住居跡、５月に第151号～第193号住居跡、６月に第194号～第236号住居跡、７月に第237号～第272号住居跡、８月に第273号～第296号住居跡、９月に第297号～第308号住居跡までの調査を実施した。９月までに189軒の住居跡の調査を終了した。

住居跡の調査は、遺構覆土と地山の区別が難しく、平面プランの確認が困難を極めた。このため、トレンチを入れ、土層断面で遺構範囲を確認、断面図の記録作成後、住居跡内覆土を掘削・精査し、遺物出土状況写真および遺構写真撮影を行い、遺構平面図の記録を作成した。また、河川跡の調査も並行して行った。航空写真は、7月1日に二回目、9月2日に三回目を実施した。9月26日に器材等の撤収を行い、反町遺跡第3次調査をすべて終了した。

(2) 整理報告書作成

整理報告書の作成作業は、平成20年10月1日から平成23年3月30日まで実施した。

整理作業は、東松山市教育委員会と財団法人埼玉県埋蔵文化財事業団で分担して実施した。

東松山市教育委員会では、平成20年10月から平成21年3月まで出土遺物の水洗・注記を実施した。引き続き、平成21年5月から平成22年3月までは、出土土器の接合・石膏による補強復元を実施した。

事業団では、平成21年度の整理作業は、平成21年4月8日から平成21年7月31日までと、平成21年9月1日から平成21年9月30日まで、さらに、平成22年2月1日から平成22年3月28日までの三回に分けて実施した。整理の内容は、土器の接合・石膏による補強復元を実施し、復元を終えた土器の中から順次、実測対象遺物、拓本対象遺物を抽出した。実測対象の遺物は、完形遺物について機械実測で素図を描き実測図を作成した。破片遺物については、手測りによる実測図を作成した。拓本対象遺物は彩拓を行った。完成した実測図は、手書きトレースを行い、遺構ごとに遺物の仮図版を作成した。

発掘調査で記録した遺構の断面図や平面図などの記録類の整理作業は、遺物の整理作業と並行して進めた。平面図と断面図の照合・修正を加え第二次原図を作成した。

平成22年度の整理作業は、平成22年4月8日から平成23年3月24日まで実施した。4月から6月までの三ヶ月間は、職員4人体制で整理を実施した。木製品、石製品、古墳と埴輪、土器に作業を分担し整理作業を進めた。木製品と石器はオルソイメージャーを使い写真実測を実施、手書きトレースを経て印刷用の版組みを行った。また、復元を終えた土器は、順次機械実測や手測りによる実測を行い、手書きトレース・拓本などを経て、遺構ごとに印刷用の版組みを行った。また、実測遺物一点一点の遺物観察表を作成し一覧表に編集した。

発掘調査で記録した遺構の断面図や平面図などは、照合・修正を加え第二次原図を作成し、スキャナーでパソコンに取り込んだ。その後、画像編集ソフトを用いて遺構ごとにトレース、また土層説明等のデータを組み込み、レイアウトを行い、印刷用の図版を作成した。

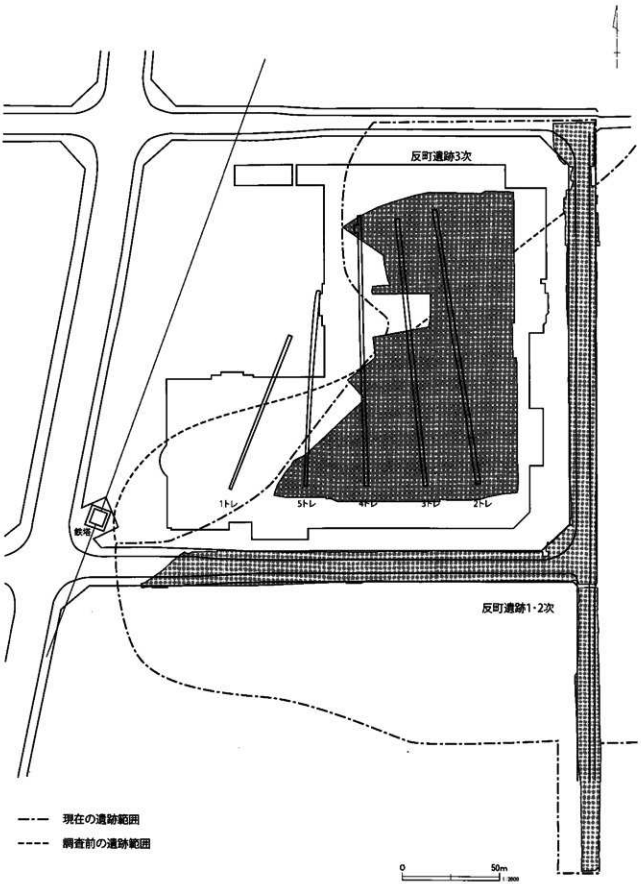
10月中旬には、報告書に掲載する遺物写真を撮影した。遺物写真は、発掘調査時に撮影した遺構写真とともにパソコンへ取り込み、画像編集ソフトを用いてトリミングや色調整などを行ったうえ、レイアウトし、印刷用の写真図版を作成した。

11月から12月下旬にかけて原稿執筆・割付を行い、1月に報告書の編集を行った。1月末に、印刷業者を選定して入稿した。その後、3回の校正作業を経て、平成23年3月末に報告書を刊行した。

なお、図面や写真などの記録類や出土遺物は、平成23年4月以降、東松山市教育委員会へ譲渡され、東松山市埋蔵文化財センターにて収蔵・保管される。

第１表　発掘調査工程表　（平成19年10月から平成20年９月まで）

遺構名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
トレンチ調査												
表土掘削												
遺構確認												
SS13												
SS14												
SS15												
SS16												
SS17												
SS18												
SS19												
SS20												
SS21												
SS22												
SS23												
SS24												
SS25												
SS26												
SS27												
SS28												
河川跡調査												
SJ120～												
SJ130～												
SJ140～												
SJ150～												
SJ160～												
SJ170～												
SJ180～												
SJ190～												
SJ200～												
SJ210～												
SJ220～												
SJ230～												
SJ240～												
SJ250～												
SJ260～												
SJ270～												
SJ280～												
SJ290～												
SJ300～												
職員人数	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人



第1図　反町遺跡3次試掘トレンチ

3．発掘調査・報告書作成の組織

平成19年度（発掘調査）

理事長	刈部　博	**調査部**	
常務理事兼総務部長	岸本洋一	調査部長	村田健二
総務部		調査部副部長	磯崎　一
総務部副部長	昼間孝志	調査第二課長	細田　勝
総務課長	松盛　孝	主査	赤熊浩一
		主査	田中広明
		主事	澤口和正

平成20年度（発掘調査）

理事長	刈部　博	**調査部**	
常務理事兼総務部長	萩元信隆	調査部長	村田健二
総務部		調査部副部長	磯崎　一
総務部副部長	昼間孝志	調査第二課長	細田　勝
総務課長	松盛　孝	主査	赤熊浩一
		主査	大屋道則

平成21年度（報告書作成）

理事長	刈部　博	**調査部**	
常務理事兼総務部長	萩元信隆	調査部長	小野美代子
総務部		調査部副部長	磯崎　一
総務部副部長	昼間孝志	整理第一課長	宮井英一
総務課長	田中雅人	主査	赤熊浩一
		主事	松本美佐子

平成22年度（報告書作成）

理事長	藤野龍宏	**調査部**	
常務理事兼総務部長	萩元信隆	調査部長	小野美代子
総務部		調査部副部長	昼間孝志
総務部副部長	金子直行	調査監兼整理第一課長	鯽持和夫
総務課長	田中雅人	主査	赤熊浩一
		主査	大谷　徹
		整理第二課長	宮井英一
		主査	田中広明
		主査	上野真由美

Ⅱ　遺跡の立地と環境

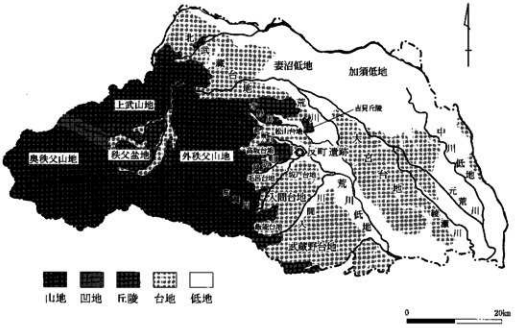
1．地理的環境

反町遺跡は、埼玉県のほぼ中央に位置する東松山市大字高坂に所在する。東武東上線の高坂駅から東に2㎞のところにあたり、現在は、低地に広がる水田地帯になっている。

埼玉県の地形は、秩父山地を中心とした山地から連なる台地や丘陵地帯からなる西部地域と、利根川や秩父山地から流れる荒川の流域を中心とした関東平野の一部を占める東部地域からなる。このため、西部地域は平坦な地形はなく台地や丘陵と谷地形が織りなす起伏の多い景観となっている。こうした地形では、台地や丘陵地帯の森林資源と谷合いの河川流域に広がる水田地帯が基盤となる。一方、東部地域は、利根川流域や荒川流域に形成された肥沃な水田地帯が基盤となる。

西部地域の秩父山地は、奥秩父山地と外秩父山地からなり、標高2,000ｍの山々が広がり、南側は東京都の奥多摩へとつながる。北側は上武山地が広がり神流川を挟み群馬県側へつながる。秩父山地の間を縫うように荒川が東流する。秩父山地は、埼玉県の中央部分で丘陵や台地へと地形を変化させ、さらに、武蔵野台地、入間台地、比企丘陵からは、高坂台地、松山台地、櫛引台地などが派生している。高坂台地にあたる東松山市高坂駅付近での標高は30ｍである。

西部地域は、秩父山地や上武山地に水源をもつ河川が流れる。入間川、荒川、中川、志戸川、神流川、そして群馬県や茨城県・千葉県との県境となっている利根川が東部地域を南流し、東京湾へ注いでいる。各河川によって沖積地が形成され、荒川低地、中川低地、加須低地、妻沼低地などが存在する一方で、中央に独立した大宮台地が南北に伸びている。荒川低地にある川島町の標高は13ｍ、大宮台地のさいたま市大宮付近の標高は15ｍである。

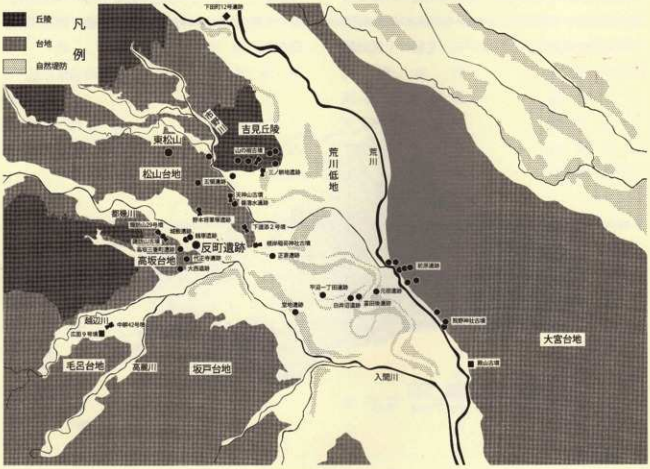


第２図　埼玉県の地形

反町遺跡は、高坂台地が荒川低地へと地形が変化する沖積低地に位置する。沖積地は、台地との比高差が約10mであり徐々に標高を低くしていく。荒川低地は、東京湾から荒川を上流へのぼっていく両岸に広がる。特に西側は川島町を中心として広がる。東側は大宮台地の段丘が迫っている。この荒川は、川島町付近で西側に入間川、高麗川、越辺川、都幾川、市野川、滑川などの中小河川が途中で次々と分岐し、荒川の支流となっている。河川は、それぞれ丘陵や台地を開析し、坂戸台地、毛呂台地、高坂台地、松山台地、比企丘陵からつながる仮称大里台地などを形成している。本遺跡は丘陵部が平野部へと変化する屈曲点にあたる地域である。

遺跡のある東松山市域には、都幾川と越辺川に挟まれた高坂台地が伸びる。遺跡の北側には、市野川と都幾川の両河川に挟まれた東松山台地が伸び、南側には、越辺川と高麗川に挟まれた毛呂台地が伸びる。さらに南側には、高麗川と入間川に挟まれた坂戸台地が存在する。また、東松山市周辺の台地は比企丘陵へとつながり、比企丘陵の東側には独立した残丘陵である吉見丘陵が存在する。

この比企丘陵を中心とした地域は、河川流域の丘陵や台地縁辺部に、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺跡が多く存在する。また、近年の調査成果で川島町の荒川低地に発達した埋没自然堤防上には古墳時代前期の遺跡が多く存在していることが明らかになり、低地遺跡のあり方と河川との関係が注目され、反町遺跡をはじめとするこの時期の遺跡は、河川を中心とし、丘陵か低地への地理的環境の変化に応じて存在する。



第3図　東松山周辺の地形

2．歴史的環境

反町遺跡の歴史的環境は、すでに刊行されている『反町遺跡Ⅰ』(福田聖　2009) と『銭塚Ⅱ／城敷Ⅰ』(富田和夫・山本靖　2010) に詳細な記述がある（註１）。本稿は、遺跡の所在する高坂地域を中心とした歴史観を通して歴史環境を概観する。

反町遺跡は、発掘調査の結果、弥生時代中期から古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世にいたる複合遺跡であることが明らかとなっている。

また、東松山市域には、弥生時代の標識遺跡にもなっている岩鼻遺跡と吉ヶ谷遺跡があり、さらに、古墳時代の五領遺跡が知られている。

このように、弥生時代から古墳時代にかけてこの地域は歴史的に人びとの足跡が残されている。今回、反町遺跡をはじめ、銭塚遺跡、城敷遺跡の発掘調査成果は、これまでの歴史観に新たな歴史環境を加える資料となったことはいうまでもない。ここではこうした成果をもとに歴史環境の復元を見ていく。

反町遺跡は都幾川の右岸にあたる荒川低地の一部である早俣低地に位置する。遺跡の西側には高坂台地が存在する。台地との比高差は約10mであり、反町遺跡は、河川流域の自然堤防に形成された低地遺跡である。

弥生時代中期は、高坂台地上に東形遺跡、代正寺遺跡、大西遺跡が所在する。早俣低地に面する台地縁辺に集落と方形周溝墓群が形成される。台地縁辺は起伏に富み、谷地形が入り組んでいるのも特徴である。東形遺跡からは住居跡数軒が検出されている。代正寺遺跡からは宮ノ台式期の住居跡14軒、方形周溝墓６基が検出されている。この代正寺遺跡の南側には谷を挟んで大西遺跡が所在し、住居跡１軒、土器棺墓２基、土壙１基が存在する。

都幾川を挟んだ対岸の松山台地上には西浦遺跡、野本氏館跡が所在する。西浦遺跡からは住居跡１軒、溝跡１条が検出され、野本氏館跡からは住居跡２軒、方形周溝墓２基、土壙を検出した。このように、都幾川流域には宮ノ台式の土器を伴う弥生時代中期の遺跡が存在する。

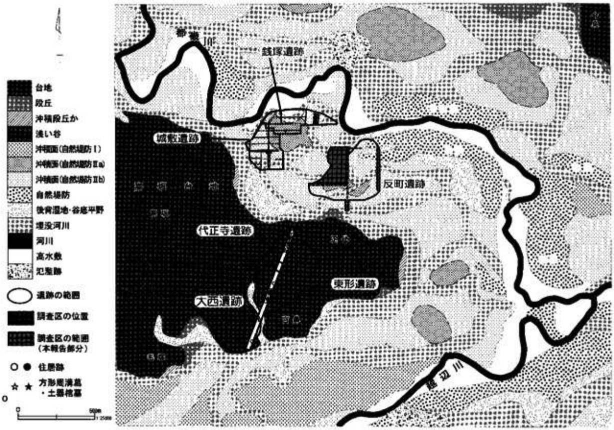
弥生時代後期になると、櫛描文が施される岩鼻式の土器を伴う遺跡が分布する。早俣低地には銭塚遺跡が所在し土器棺墓１基、高坂台地では中期から継続する代正寺遺跡と大西遺跡が所在し、住居跡12軒、方形周溝墓３基が検出されている。対岸の松山台地でも西浦遺跡と野本氏館跡から住居跡２軒が検出されている。また、都幾川上流には、雉子山遺跡や附川遺跡が所在する。さらに、松山台地の北側、市野川に面した台地縁辺に観音寺遺跡、岩鼻遺跡、八幡遺跡が所在する。岩鼻遺跡からは住居跡14軒、土器棺墓２基が検出され、八幡遺跡からは土器棺墓１基を検出した。

一方、吉ヶ谷式の土器を伴う遺跡が分布する高坂台地では、大西遺跡から住居跡８軒、土壙１基を検出し、詳細は不明だが高坂二番町遺跡や高坂三番町遺跡でも集落を確認している。対岸の松山台地でも野本氏館跡から住居跡２軒が検出され、観音寺遺跡から住居跡８軒、方形周溝墓５基を検出し鋼釧と鉄剣が第４号方形周溝墓から出土している。この他、五領遺跡や下道添遺跡などからも検出されている。さらに、松山台地の北側にあたる滑川の流域に吉ヶ谷遺跡が所在する。この時期の特徴として、台地奥部に展開する遺跡が見られる点があげられる。高坂台地奥部には、根平遺跡、駒堀遺跡、舞台遺跡、杉の木遺跡が所在する。

岩鼻式土器と吉ヶ谷式土器の関係はこれまで議論されてきたが、地域差ではなく時期差であるとの見解が栗原文蔵氏や柿沼幹夫氏から提唱されている。吉ヶ谷式土器を出土する遺跡は、地域や時期に限定性が高く、比企地域を中心とした中でも滑川流域に集中し、南は坂戸台地の附島遺跡、一天狗遺跡、鶴ヶ丘遺跡、花影遺跡、飯能台地の霞が関遺跡、女堀遺跡、上組遺跡であり、その時期は、弥生時代後期後半である。

第４図　弥生時代中期から古墳時代中期の周辺の遺跡

1	反町遺跡	23	根岸稲荷神社古墳	45	屋出遺跡	67	鶴ヶ丘遺跡
2	銭塚遺跡	24	天神原遺跡	46	長岡遺跡	68	女堀Ⅰ・Ⅱ遺跡
3	城敷遺跡	25	古凍根岸裏遺跡	47	稲荷前遺跡	69	御伊勢原遺跡
4	西浦遺跡	26	古内海道遺跡	48	広面遺跡	70	東女堀原遺跡
5	野本将軍塚古墳	27	下道添遺跡	49	中耕遺跡	71	上組Ⅰ・Ⅱ遺跡
6	野本氏館跡	28	下山遺跡	50	相撲場遺跡	72	霞ヶ関遺跡
7	高坂三番町遺跡	29	番清水遺跡	51	勇福寺遺跡	73	日枝神社遺跡
8	高坂一番町遺跡	30	天神山古墳	52	新町遺跡	74	登戸遺跡
9	諏訪山古墳群	31	篭田遺跡	53	石井前原遺跡	75	天王山古墳群
10	諏訪山29号墳	32	五領遺跡	54	柊遺跡	76	景台遺跡
11	高坂二番町遺跡	33	西吉見条里遺跡	55	勝呂遺跡	77	高稲遺跡
12	下寺前遺跡	34	三ノ耕地遺跡	56	塚越渡戸遺跡	78	富田後遺跡
13	代正寺遺跡	35	原遺跡第3地点	57	附島遺跡	79	白井沼遺跡
14	大西遺跡	36	山の根古墳	58	北谷遺跡	80	平沼・丁田遺跡
15	杉の木遺跡	37	原遺跡第2地点	59	木曽免遺跡	81	村並遺跡
16	桜山古墳群	38	下遺跡	60	小沼堀ノ内遺跡	82	柳町遺跡
17	駒堀遺跡	39	久米田遺跡	61	堂地遺跡	83	宮ヶ谷戸遺跡
18	根平遺跡	40	大行山遺跡	62	花影遺跡	84	安楽寺遺跡
19	舞台遺跡	41	観音寺遺跡	63	宮裏遺跡	85	東形遺跡
20	附川遺跡	42	八幡遺跡	64	・大狗遺跡	86	小代氏館跡
21	雉子山遺跡	43	岩鼻遺跡	65	脚折山田遺跡		
22	正直玉作遺跡	44	大谷古墳群	66	鶴ヶ丘遺跡		



第5図　早俣低地の微地形と集落

古墳時代前期は、新しい土器型式に変化する。いわゆる五領式土器である。前代の縄文施文の吉ヶ谷式とは型式の連続性を持たず、ミガキやハケ調整を施し、薄く堅緻な作りである。器種組成も

大きく変化し、壺・甕・台付甕・高坏・甑に加え小型壺・小型甕・鉢・坩や器台・ミニチュア土器などの器種が見られる。また形態は、畿内系・東海系・近江系・北陸系・山陰系など他地域の土器の特徴を模倣する在地産の土器が見られる。こうした製作技法や形態の変化、そして、器種組成のバリエーションの多様化は、新たな農耕社会の文化の波及に影響を受けたものと言える。

古墳時代の始まりは、反町遺跡、銭塚遺跡、城敷遺跡で住居跡が検出される。しかも、幾重にも重複し、住居跡の密度が高いことが分かる。反町遺跡で住居跡200軒以上、方形周溝墓３基、土壙５基、銭塚遺跡で住居跡15軒、城敷遺跡で住居跡31軒を検出した。高坂台地の代正寺遺跡では住居跡28軒、方形周溝墓１基が検出され、大西遺跡からは住居跡６軒を検出している。また、下寺前遺跡では住居跡25軒、方形周溝墓１基を検出した。また、小代氏館跡からも方形周溝墓６基を検出し、高坂二番町遺跡や高坂三番町遺跡などからも住居跡を検出するなど、台地や低地にこの時期の遺跡が群集していることが分かる。さらに、高坂台地の奥まったところの根平遺跡、駒堀遺跡、桜山古墳群の中にも前期集落が形成されている。

都幾川を挟んだ対岸の松山台地でも西浦遺跡や野本氏館跡、附川遺跡などで住居跡を検出し、松山台地の北側にある五領遺跡は100軒からの住居跡を調査しこの時期の標識遺跡となっている。台地先端には、古凍根岸裏遺跡、下道添遺跡が存在し、下道添遺跡からは畿内の布留式系土器がまとまって出土するなど注目される地域である。観音寺遺跡や岩鼻遺跡でも住居跡を検出している。

このように、吉ヶ谷式土器を出土する集落は、継続的に古墳時代前期の集落へと移行し、中には、集落規模を大きく展開する反町遺跡、代正寺遺跡、下寺前遺跡、五領遺跡、下道添遺跡などもある。

さらに、近年の調査では川島町に広がる荒川低地の自然堤防上に、古墳時代前期の集落が数多く発見された。これまでに安楽寺遺跡、村並遺跡、尾崎遺跡、元宿遺跡、富田後遺跡、白井沼遺跡、平沼一丁田遺跡、堂地遺跡などの所在が明らかになった。この荒川低地には、正直遺跡が存在し、玉作遺跡として知られている。土師器坏が一緒に出土していたことから、これまで、古墳時代後期と考えられていた。しかし、反町遺跡２次調査や３次調査で玉作工房が発見され、さらに、桶川市前原遺跡でも玉作工房が発見された。いずれも古墳時代前期であること、加えて、正直遺跡では碧玉製管玉未製品と腕飾の未成品が出土していることなどから、古墳時代前期の可能性が高まった。

古墳時代前期の古墳は、反町遺跡の所在する比企地域に多く見られる。

高坂台地では、縁辺部に前方後方墳の諏訪山29号墳が築造される。底部穿孔土器や大廓式土器が出土することから、この古墳はこの地域で最も古い古墳であり、その後、継続的に諏訪山古墳群が形成される。中でも、その後継として考えられている全長68ｍの前方後円墳である諏訪山古墳や、中期に築造されたとみられている全長33ｍの円墳である第33号古墳などが知られている。高坂台地に分布する前期集落のかなめの位置にあたり、早俣低地を臨む立地であることから、高坂台地の集落や反町遺跡などが所在する早俣低地の集落との関係が注目され、これらの集落を治める首長の墓である可能性が高い。

松山台地には、台地北側の縁辺部に前方後方墳の天神山古墳が築造される。周溝から複合口縁壺を出土することから、この古墳はこの地域で最も古い古墳であり、４世紀後半とされている。その後、継続的に築造され柏崎古墳群が形成される。中でも、その後継として考えられている全長68ｍの前方後円墳であるおくま山古墳や、中期に築造されたとみられている全長30ｍの円墳である柏崎第５号古墳などが知られている。近くには、松山台地の集落である五領遺跡や番清水遺跡などが所

在し、市野川流域の低地を臨む位置にあたり、これら集落の首長墓である可能性が高い。

また、松山台地の先端部には、前方後方墳の根岸稲荷神社古墳が築造される。この古墳はこの地域で最も古い古墳であり、4世紀後半とされている。その後、継続的に築造され古凍古墳群が形成される。荒川低地を臨む位置にあたる。一方、全長35mの前方後方墳である下道添2号墳が知られ、周溝から吉ヶ谷系の底部穿孔土器や五領式の複合口縁壺を出土した。松山台地先端には古凍根岸裏遺跡や下道添遺跡などの集落も所在する。荒川低地には、正直遺跡などが所在し、これら集落の首長墓である可能性が高い。

吉見丘陵の先端には、前方後方墳の山の根古墳が築造される。眼下には市野川左岸の低地が広がり、円墳1基と方墳1基からなる古墳群を形成する。集落は、低地の自然堤防上に三ノ耕地遺跡などが所在する。

このように、初期古墳は、台地縁辺の低地を臨む位置に形成される。集落遺跡は、こうした初期古墳やその後展開する古墳群とともに存在していたものと捉えることができた。しかし、この地域における大きな問題が残されている。それは、反町遺跡の対岸に所在する野本将軍塚古墳の築造時期が明らかとなっていないことである。墳長115mで埼玉県内第二位を誇る前方後円墳である。これまでの研究では、甘粕健氏は4世紀代、坂本和俊氏は5世紀中葉から後葉、金井塚良一氏は5世紀後半から6世紀初頭との見解を示している。今回の、反町遺跡、銭塚遺跡、城敷遺跡の発掘調査成果は、この野本将軍塚古墳の築造時期を考える上で大きな問題提起となる。

古墳時代中期は、反町遺跡から集落がほぼ消滅し、わずかに3軒の住居跡が検出されたのみである。集落は城敷遺跡などへ移動し、初期群集墳が形成される。反町遺跡はこの時期に、居住域から墓域へと変化する。前期集落が形成されていた高坂台地、松山台地、坂戸台地からは中期集落はほとんど見られなくなる。

古墳時代後期になると、各地の台地上には後期群集墳が形成される。高坂台地上には高坂古墳群や毛塚古墳群のほか、杉の木遺跡・大西遺跡・高坂三番町遺跡などにも古墳跡が検出され、6世紀の古墳造墓が行われたことが判明している。松山台地でも野本古墳群や古凍根岸裏古墳群、下道添遺跡などでも古墳の築造が行われ群集墳を形成する。松山台地北側でも三千塚古墳群や下松古墳群が形成される。吉見丘陵には吉見百穴や黒岩横穴などが所在する。

奈良・平安時代の、反町遺跡では、4軒の住居跡を検出した。一ヵ所に集中し切り合い関係がある。住居跡はいずれも奈良時代にあたり、「三田万」と墨書された須恵器坏が出土した。反町遺跡第1・2次調査の第3号溝跡からも、同様に「三田万」と「飯万」の墨書土器が出土している。いずれも8世紀半葉頃の須恵器坏・埦であることから、今回検出された住居跡に住まう人物が、第3号溝跡に廃棄したものと考えられる。富田和夫氏は『反町遺跡Ⅰ』「3号溝跡第2号祭祀について」の中で「三田万呂」と「飯万呂」と読み、祭祀をつかさどった人物の名前ではないかと考察し、両者は血族であると指摘している。司祭者であるかは判断できないが、住居跡が1ヵ所に重複した場所から「三田万呂」の墨書が出土していることから、反町遺跡の住居跡がこの人物の住まいであるといえる。また、「三田」を屯倉の田と解釈し、この地域が屯倉の可能性を指摘されていることから、屯倉を所管する人物と考えることもできる。そして、河川を管理する人物との関連はないだろうか。

註1　本稿は『反町遺跡Ⅰ』「歴史的環境」(福田聖2010)および『銭塚Ⅱ/城敷Ⅰ』「歴史的環境」(富田和夫・山本靖2011)から引用・抜粋し、一部を加筆した。

第2表　遺跡一覧表

		弥生時代中期後半	弥生時代後期前半	弥生時代後期後半	古墳時代前期	古墳時代中期	古墳
1	反町遺跡		●		●		
2	銭塚遺跡		●			●	
3	城敷遺跡				●	●	
4	西浦遺跡	●	●	●	●		
5	野本将軍塚古墳						●
6	野本氏館跡	●	●	●	●		
7	高坂二番町遺跡			●			
8	高坂一番町遺跡			●			
9	諏訪山古墳群					●	●
10	諏訪山29号墳						●
11	高坂三番町遺跡			●	●		
12	下寺前遺跡				●		
13	代正寺遺跡	●	●	●	●		
14	大西遺跡	●	●	●	●	●	
15	杉の木遺跡			●			
16	桜山古墳群				●		
17	駒堀遺跡			●	●		
18	根平遺跡			●	●		
19	舞台遺跡			●			
20	附川遺跡		●				
21	雉子山遺跡		●				
22	正直玉作遺跡				●		
23	根岸稲荷神社古墳				●		●
24	天神原遺跡	●					
25	古凍根岸裏遺跡				●		
26	古古海道遺跡				●		
27	下道添遺跡			●	●		
28	下山遺跡	●					
29	番清水遺跡				●		
30	天神山遺跡						●
31	篭田遺跡			●	●		
32	五領遺跡			●	●		
33	西吉見条里遺跡				●		
34	三ノ耕地遺跡				●		
35	原遺跡第3地点				●		
36	山の根古墳						●
37	原遺跡第2地点				●		
38	下遺跡				●		
39	久米田遺跡				●		
40	大行山遺跡	●			●		
41	観音寺遺跡		●	●	●		
42	八幡遺跡		●				
43	岩鼻遺跡		●		●		
44	大谷古墳群			●			●
45	屋田遺跡			●			
46	長岡遺跡				●		
47	稲荷前遺跡				●		
48	広面遺跡				●		
49	中耕遺跡				●		
50	相撲場遺跡		●				
51	勇福寺遺跡		●				
52	新町遺跡	●					
53	石井前原遺跡		●		●		
54	柊遺跡		●				
55	勝呂遺跡			●			
56	塚越渡戸遺跡	●					
57	附島遺跡	●		●	●		
58	北谷遺跡				●		
59	木曽免遺跡	●			●		
60	小沼堀ノ内遺跡	●					
61	堂地遺跡				●		
62	花影遺跡			●			
63	宮裏遺跡				●		
64	一天狗遺跡			●			
65	脚折山田遺跡					●	
66	鶴ヶ丘遺跡			●			
67	鶴ヶ丘遺跡				●	●	
68	女堀Ⅰ・Ⅱ遺跡			●	●	●	
69	御伊勢原遺跡					●	
70	東女堀原遺跡					●	
71	上組Ⅰ・Ⅱ遺跡			●	●	●	
72	霞ヶ関遺跡			●	●	●	
73	日枝神社遺跡				●		
74	登呂遺跡			●			
75	天王山古墳群		●				●
76	景台遺跡				●		
77	高窪遺跡				●		
78	富田後遺跡				●		
79	白井沼遺跡				●		
80	平沼・丁田遺跡				●		
81	村並遺跡				●		
82	柳町遺跡				●		
83	宮ヶ谷戸遺跡				●		
84	安楽寺遺跡				●		
85	東形遺跡	●					
86	小代氏館跡				●		

Ⅲ　遺跡の概要

反町遺跡は、東武東上線高坂駅の東側約２㎞の位置に所在する。高坂台地が荒川低地の一部を形成する早俣低地に位置し、都幾川の右岸に形成された自然堤防上に立地している。

反町遺跡は、これまでに５次にわたる発掘調査が行われている。本調査報告は、ユニー株式会社建設に先立つ事前調査の第３次調査にあたり、記録保存に伴う報告書である。第１・２次調査および第４・５次調査は、独立行政法人都市再生機構が実施した「高坂駅東口第二地区特定土地区画整理事業」に伴う事前調査である。

反町遺跡の調査面積は、第１・２次調査は15,395㎡、第３次調査は24,500㎡、第４次調査は1,840㎡、第５次調査は1,092㎡で総調査面積は42,827㎡である。また、遺跡全体では、縄文時代後期～江戸時代にいたるまでの遺構や遺物を検出した。遺跡の中心となる時代や遺構は、弥生時代後期から古墳時代前期の方形周溝墓および集落跡と河川跡、古墳時代中期から後期にかけての古墳群、奈良・平安時代の集落と河川祭祀などである。遺跡全体の遺構数は竪穴住居跡308軒、方形周溝墓7基、土器棺墓２基、古墳跡28基、溝跡101条（このうち河川跡５条）、土壙76基、窯跡１基などである。

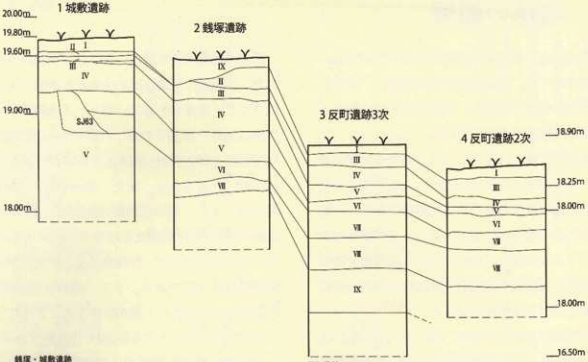
整理の結果、反町遺跡第３次調査では、弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡と河川跡、古墳時代中期から後期にかけての古墳群、奈良時代の集落跡を検出した。

遺構の内訳は、弥生時代後期の集落である岩鼻式土器を伴う住居跡14軒、古墳時代前期の五領式土器を伴う住居跡160軒、古墳時代中期のカマドをもつ和泉式から鬼高式の住居跡３軒、奈良時代の住居跡４軒である。古墳跡は16基を検出した。河川跡は２条、溝跡は10条、土壙10基、窯跡１基である。

弥生時代後期の集落は、竪穴住居跡14軒を確認した。住居跡は、調査区の中央から南側に多く検出された。集落の中心は、第１・２次調査区の南東側にあると推測される。住居跡の形態は第244号住居跡や第275号住居跡などが隅丸方形だが円形に近いとみられる。また、第284号住居跡は隅丸方形である。他の住居跡は方形で、第144号住居跡や第221号住居跡などはやや小型の方形である。出土する土器は、櫛描簾状文と櫛描波状文を施す岩鼻式土器である。また、第244号住居跡は岩鼻式と吉ヶ谷式の土器が供伴する。さらに、吉ヶ谷式の土器を出土する第184号住居跡がある。

古墳時代前期の集落は、調査区全体に広がる。竪穴住居跡は160軒確認した。住居跡は重複が激しく、重層的に検出された。また、古墳跡によって壊されている住居跡も多く、完全な形で検出される住居跡は少ない。住居跡の主軸方向は、集落の西側に存在する河川跡（第48・79号溝跡）に影響をされ決まる住居跡と、集落全体の景観によって決まる住居跡がある。特に、北側の第48号溝跡に影響される住居跡は、南北方向に主軸をとる住居跡と約40度前後に傾く住居跡が存在する。また、西側の第79号溝跡に影響される住居跡は調査区南側の地域では、40度前後に傾く住居跡と調査区北側ではほぼ南北方向に主軸をとる住居跡に分かれる。一方で、集落のやや東側寄りの地域では、40度に傾く住居跡と南北方向の住居跡が混在し重複するなど規則性をとらえることができない。古墳時代前期の集落は、ほぼ全体に広がり、ほとんど居住空間としての利用がなされている。

住居跡からの出土土器は、多種多様である。大型で、細かな縄文がほどこされた吉ヶ谷系の土器と、いわゆる五領式土器である。吉ヶ谷系は東京湾沿岸の土器の影響を考えることができ、五領式は、畿内系・近江系・東海系・北陸系・吉備系な

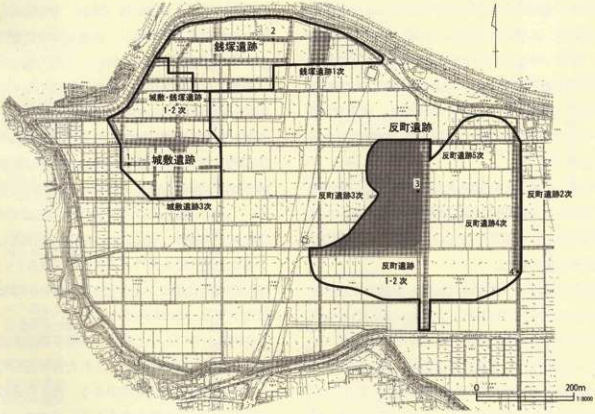


銭塚・城敷遺跡

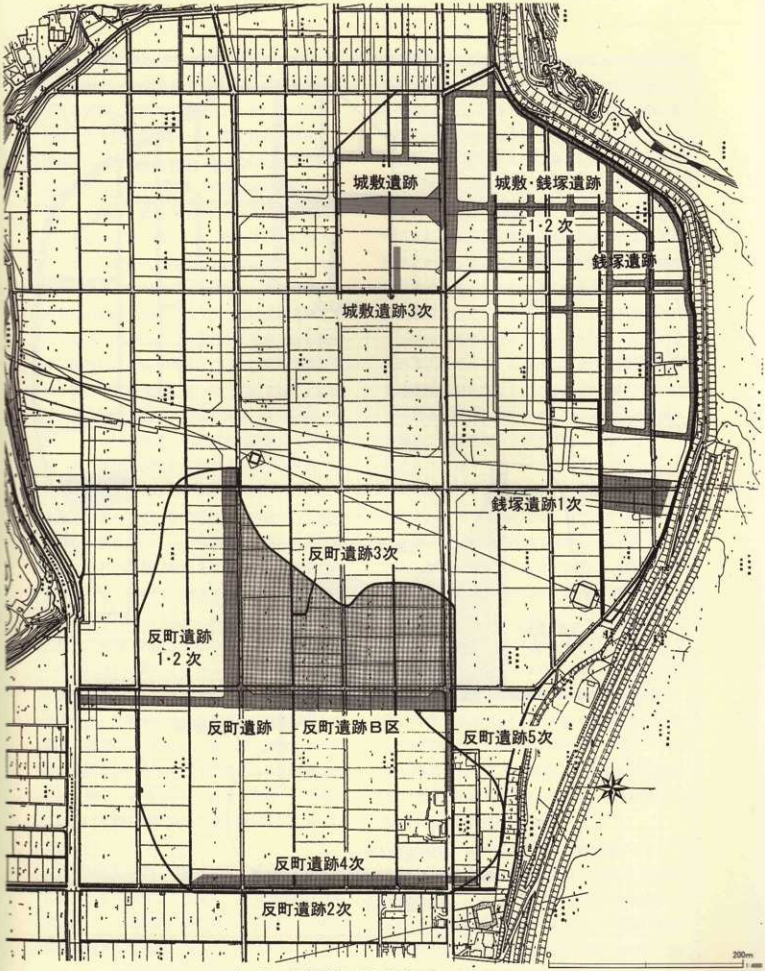
第Ⅰ層	灰褐色土	耕作土
第Ⅱ層	褐色シルト	黄灰色砂との混土層
第Ⅲ層	褐色シルト	黄灰色砂多、鉄分層上が明るい
第Ⅳ層	褐色シルト	黄灰色砂多、粘土との混土層、(古墳時代地山)
第Ⅴ層	褐色シルト	黄褐色粘土B(3～5)多、(古墳時代地山)
第Ⅵ層	黄褐色土	黄灰色粘土B(3～5)多、マンガン多 (弥生～古墳側溝層)
第Ⅶ層	黄褐色土	マンガン多(弥生時代地山)
第Ⅸ層	明褐色シルト	黄灰色粘土との混土層(新しい川の洗水砂)

反町遺跡

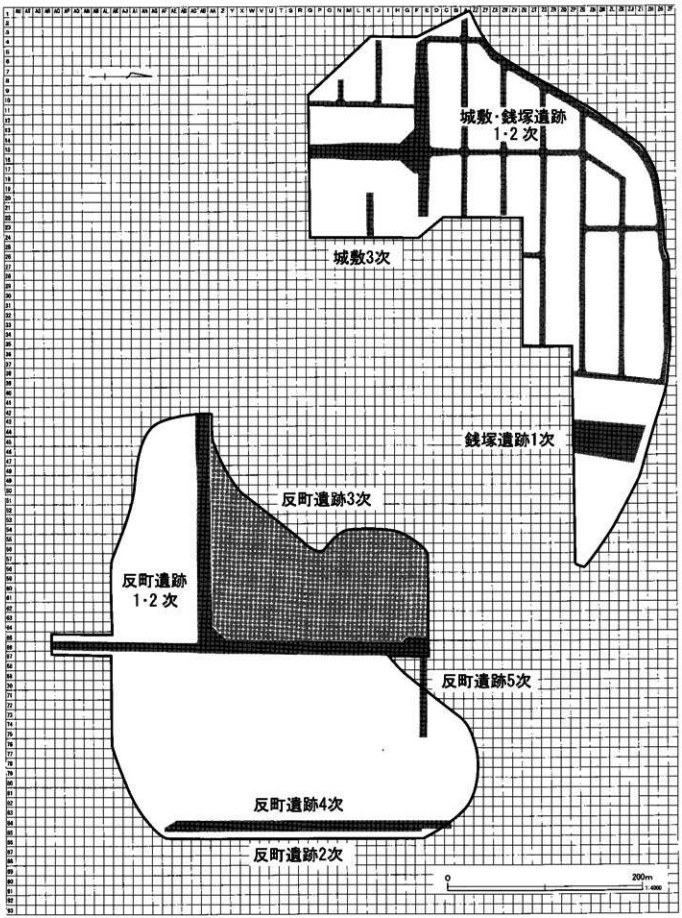
第Ⅰ層	耕作	
第Ⅱ層	明褐色土	鉄分多
第Ⅳ層	黒褐色土	古代の遺物包蔵層
第Ⅴ層	暗褐色土	ABCでは黄褐色土として捉えられた層
第Ⅵ層	黒褐色土	弥生時代の遺構切り込み層
第Ⅶ層	暗黄褐色土	弥生期の遺構確認層
第Ⅷ層	青灰色粘土	
第Ⅸ層	青灰色粘土	



第6図　基本層序



第7図　反町・城敷・銭塚遺跡の調査区位置図


城敷・銭塚遺跡
1・2次
城敷3次
銭塚遺跡1次
反町遺跡3次
反町遺跡
1・2次
反町遺跡5次
反町遺跡4次
反町遺跡2次
0
200m
1:4000

第8図　グリッド縮図

どの土器模倣によって成立したと見られる。

河川跡は、集落を取り巻くように検出された。集落の西側には第79号溝跡とした河川跡が存在し、南西から北東に流路をとる。覆土は青灰色粘土で覆われ、河川の中からは、古墳時代前期から中期にかけての土器や木製品・建築部材が大量に出土する。土器は、甕や台付甕が多く出土する傾向がみられるが、壺・高坏・坩・器台なども検出される。また、調査区北側には、第48号溝跡とした河川跡が検出されている。本溝跡は、第79号溝跡と調査区の北西で合流する。この合流部の北西にあたる第48号溝跡内には、灌漑土木施設である堰跡が一部良好な状態で残存していた。県内での発見は、熊谷市北島遺跡に次いで二例目である。構造は、北島遺跡の堰跡に類似するが、反町遺跡の堰跡は、７ｍほど残存しその構造的特徴も明らかとなった。前列の杭列と後列の杭列で構成され、中間は土砂による堤になり、全体が植物質のしがらみ遺構で覆われている築堤の構築方法で、二重杭列築堤型構造という。この堰跡に使用された杭や支保工などの構造材を全点について樹種同定分析を行った。その結果、使用される樹種と構造材の木取りの相関性、つまり、丸木材杭の樹種、幅広矢板杭の樹種、幅狭矢板杭の樹種、面取り矢板杭の樹種に違いが明らかになった。

河川跡からは、多くの土器とともに木製品も検出された。木製品には農具と道具、建築部材とがある。農具には、臼・杵・鍬・鋤・馬鍬などがある。道具には、容器としての槽がある。建築部材には、梯子・壁材・床材・柱材・梁材などがある。この他、武器の盾とみられる木製品が出土している。

古墳時代前期のこの地域では、新しい農耕社会に見られる木製農具の使用や、河川管理を行う灌漑土木として堰構築技術の導入などを図り、水田耕地の開発を積極的に行ったようである。

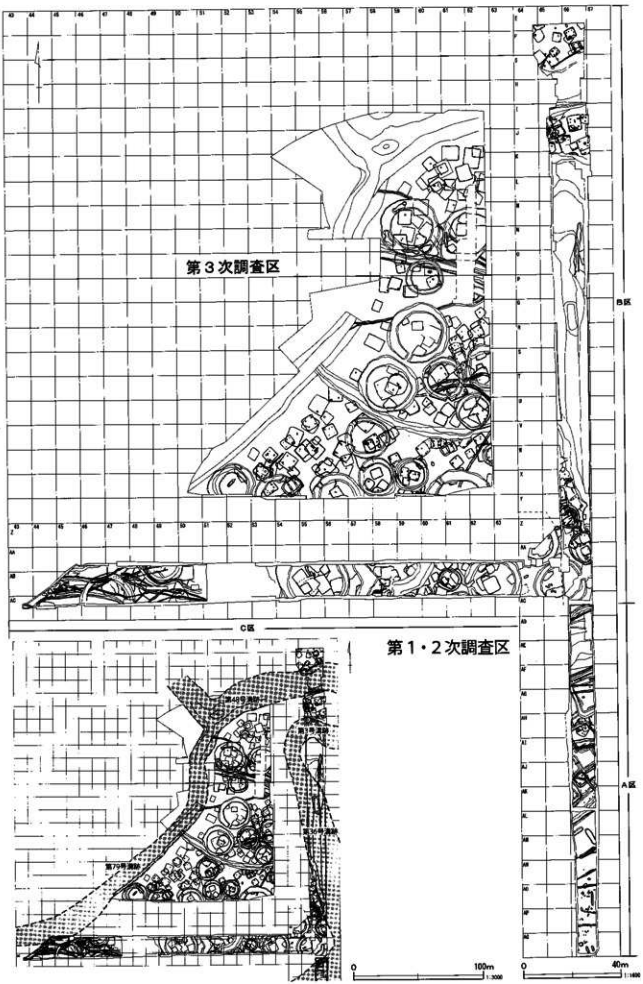
さらに、古墳時代前期の集落には、反町遺跡を最も特徴づける玉作工房の存在がある。今回の整理において、ガラス小玉の鋳型を第206号住居跡から検出した。ガラス小玉や水晶製勾玉・碧玉製管玉の玉作工房の存在がより明らかになった。

鋳型には、鋳型孔の中に細かなガラスフラグメント（ガラスのかけら）が残存しており、成分分析を行ったところ紺色のカリガラスであることが明らかになった。カリガラスは弥生時代から古墳時代にわたって流通し、特に弥生後期から古墳前期に多くなる。ガラス小玉の製作方法は、古墳時代前期になるとこれまで一般的に見られた引き伸ばし法から鋳型によるガラス再生法へと変化が見られるようである。このようなガラス鋳型は、関東南部地域から出土している。反町遺跡では、国内に数多く流通していたカリガラス製品の破損品を集め、鋳型を使ってガラス小玉に再生産していたことになる。

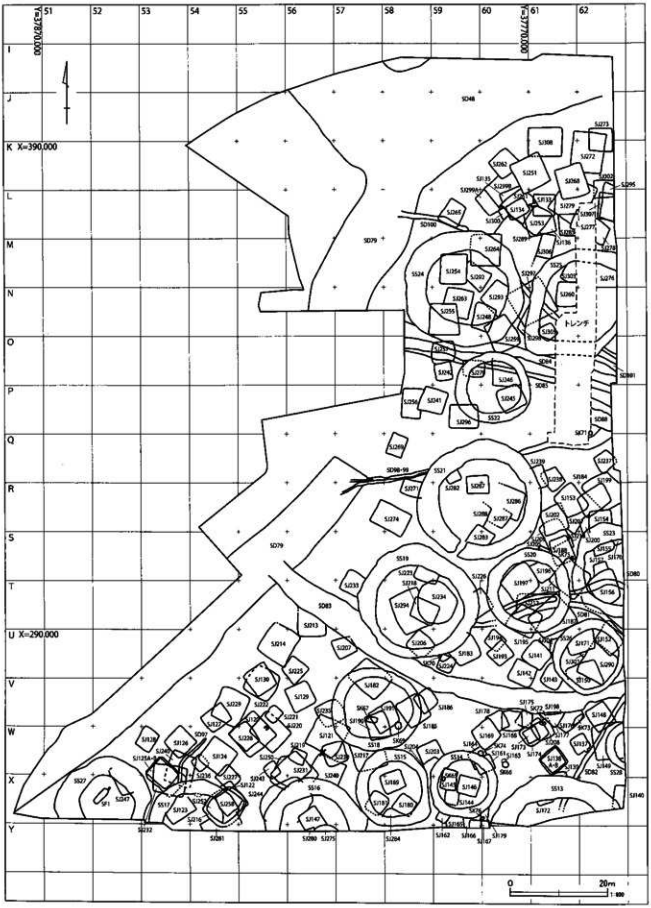
反町遺跡のガラス鋳型出土の意義は、このような歴史的背景の中で位置付けることができる。

古墳時代中期の住居跡はほとんど見られず、わずか３軒のみである。集落が移動し、群集墳が形成される。古墳群の中心は、調査区南側の第１・２次調査で検出した５世紀後半の前方後円墳である。この古墳を中心に反町古墳群は形成されたと考えられる。本調査区はその一部で、北側に展開した16基の円墳が確認された。第13号・第16号・第17号墳は周溝の掘り込みが深く全体の中では古い一群である。その中間を埋めるように次々と古墳が築造されるようである。人物埴輪・馬形埴輪・円筒埴輪などが出土している。６世紀前後に形成された初期群集墳である。

奈良時代の遺構は、竪穴住居跡が重なりあって４軒を検出した。住居跡からは「三田万」の墨書土器を出土し、「三田万」が人名なのか判然としないが、屯倉との関連を考えたい。出土した須恵器は南比企産で８世紀中葉から後半にかけての時期である。中世の遺構は検出されなかった。

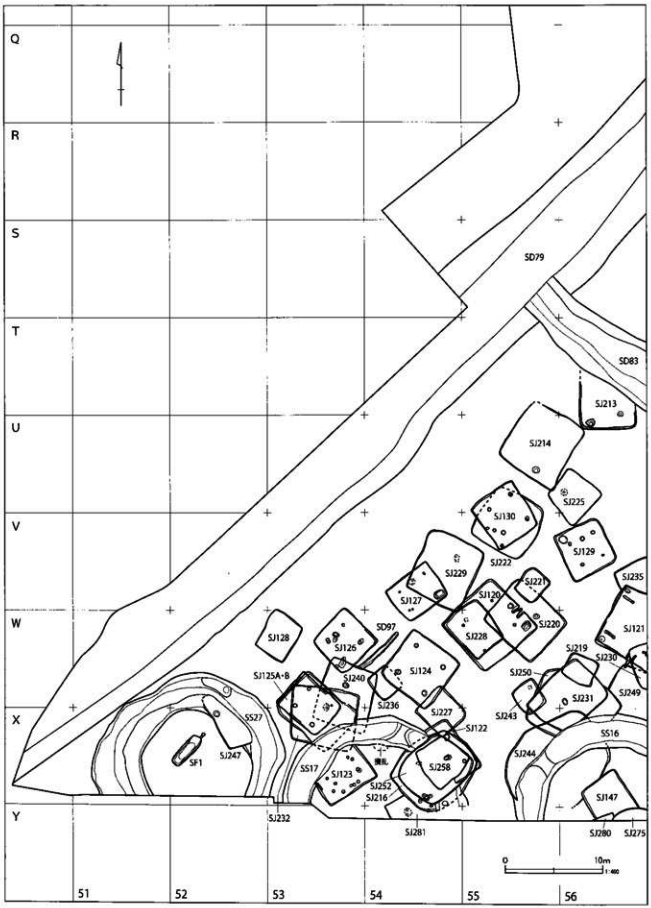


第９図　反町遺跡全体図

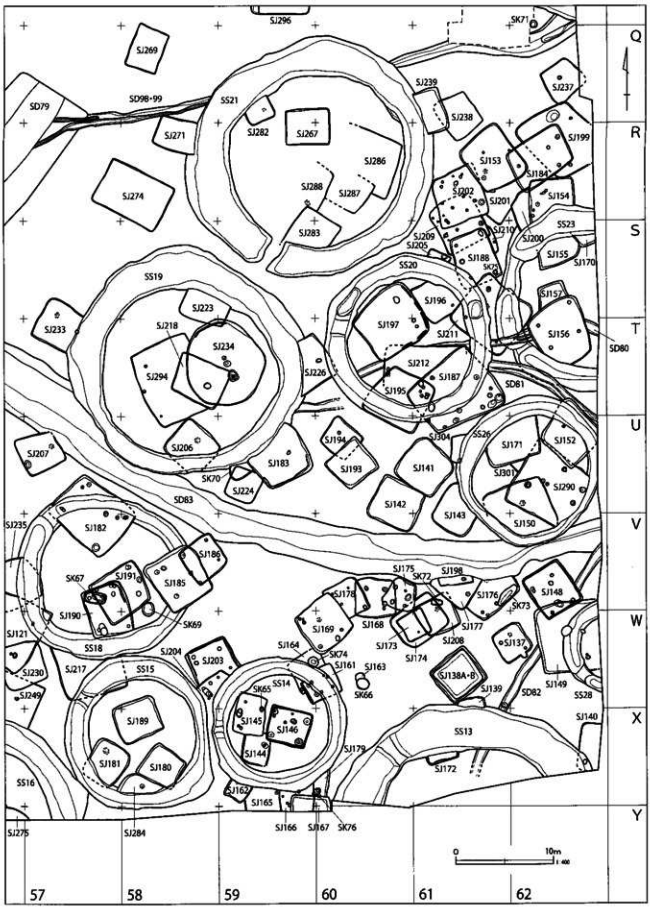


第10図　反町遺跡３次全体図（１）

第11図　反町遺跡３次全体図（２）



第12図　反町遺跡３次全体図（３）



第13図　反町遺跡３次全体図（４）

Ⅳ　集落跡の遺構と遺物

1．弥生時代の住居跡

反町遺跡第３次調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡14軒を検出した。これらの住居跡は、調査区の中央から南側にかけて検出された。集落の中心は、第１・２次調査区部分であり、今回の調査区の南東側にある。さらに集落の南東には、方形周溝墓５基と土器棺墓２基を検出している。

本調査区での住居跡14軒は、第139・140・144・145・149・184・216・221・226・228・233・244・275・284号住居跡である。

住居形態は第244号住居跡と第275号住居跡は円形に近い隅丸方形である。また、第284号住居跡は隅丸方形である。他の住居跡は方形を呈している。そのうち、第144号住居跡と第221号住居跡はやや小型である。

出土する土器は、櫛描簾状文と櫛描波状文を施す岩鼻式土器である。弥生時代後期前半の段階である。第139号住居跡からは波状文下に斜行沈線を施す。第140号住居跡からは柱状高坏や櫛描簾状文と櫛描波状文の組み合わせ、第144号住居跡からは櫛描直線文が施されている遺物が出土し、第149号住居跡からは口縁部が大きく外反し、胴部が強く張り出す器高の高い壺が出土している。第184号住居跡からは口縁部が大きく外反し、胴下半部が張り出す器高の高い壺、第221号住居跡からは口縁部が緩やかに外反するほぼ完形の平底小型甕が出土している。第226号住居跡からは口縁部が緩やかに外反しやや長胴の複合口縁の壺、第228号住居跡からは胴部の張り出しが弱い櫛描簾状文が施文される甕、第233号住居跡からは口縁部が輪積による段を３段設けている吉ヶ谷式の壺、第284号住居跡からは頸部と胴部の境界に櫛描簾状文を２段施す甕などが出土している。

一方、第184・244号住居跡からは、岩鼻式土器と吉ヶ谷式土器が供伴する。

第139号住居跡（第15図）

調査区の南側東寄り、W－61グリッドに位置する。第13号墳と重複する。北に第138号住居跡と隣接し、東２ｍに第82号溝跡が南東に走る。

平面形は不明であるが、北壁と東壁・西壁の一部が検出されコーナーが確認でき方形と見られる。主軸方向はN－90°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸2.97ｍ、短軸0.88ｍ、深さ31.2cmを測る。残る床面は平坦である。床面直上には炭化物層が検出された。

遺物は、１が甕の胴部である。ヘラ描の波状文下に斜行沈線を充填する下向き鋸歯文を施文している。

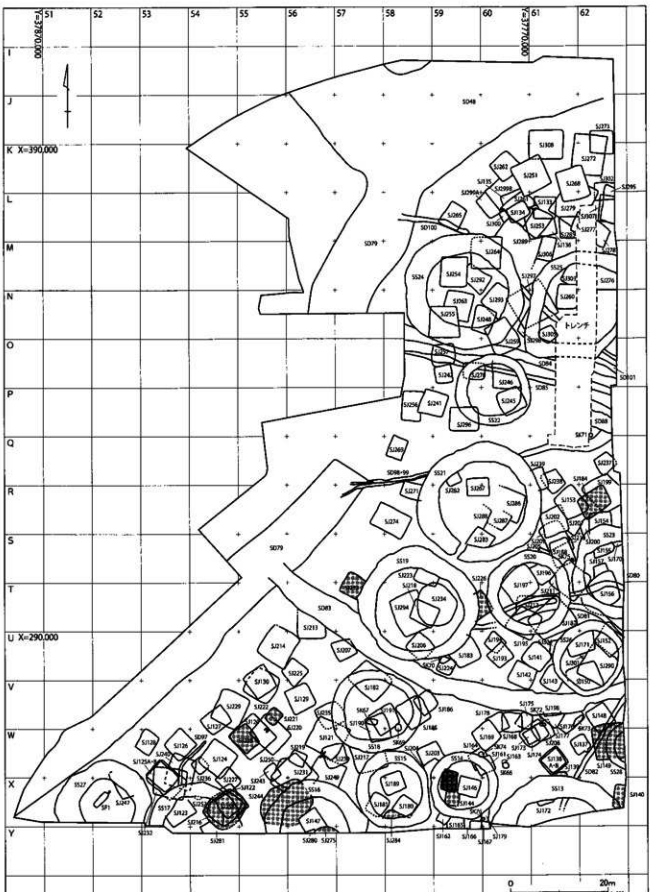
第140号住居跡（第16・17図）

調査区の南東コーナー、X－62グリッドに位置する。第13号墳と重複している。

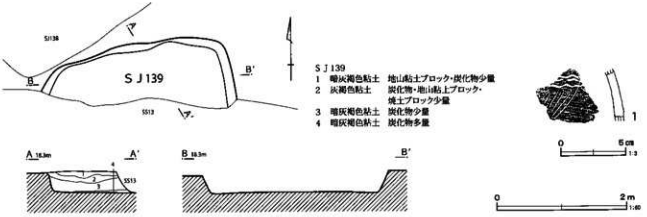
平面形は東側が調査区域外になっているため判然としない。また南側は第13号墳に切られているため、北西コーナー部から西壁の約半分を確認した。主軸方向はN－７°－Wを指す。残存する部分で、長軸4.83ｍ、短軸2.07ｍ、深さ27.6cmを測る。床面は、平坦である。中央付近から北側にかけて第４層の炭化物層が床直上を覆っていた。壁際には、第５層の三角堆積が見られ、この５層の直上に炭化物層が認められた。

施設はピットのみの検出であった。径52.0cm、深さ24.5cmを測る。

遺物は、１が壺の頸部から胴部にかけてである。頸部は５本１単位の櫛描簾状文下に粗雑な櫛描波状文を施文している。胴部は、ハケ調整が僅かに残る。２は柱状気味の高坏脚部である。縦のミガキが加えられている。３は甑の底部である。縦のハケ調整が行われている。４は複合口縁の壺である。口端部にキザミを施す。頸部に横位のハケ調



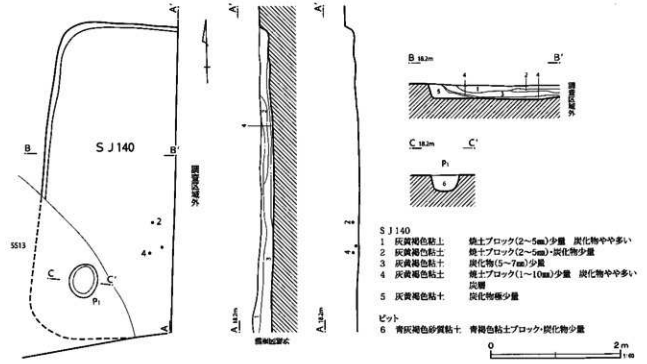
第14図　反町遺跡３次全体図（弥生時代住居跡）



第15図　第139号住居跡・出土遺物

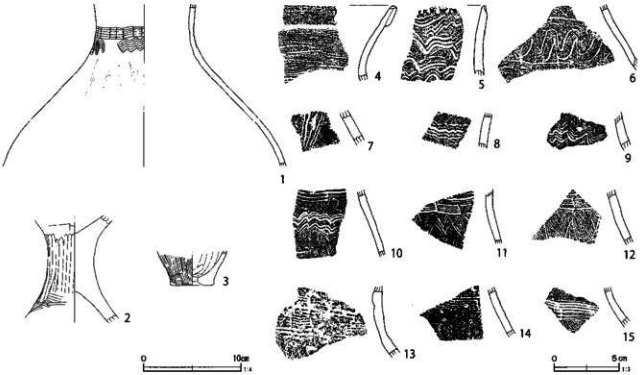
第３表　第139号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	弥生	甕	—	4.0	—	ACEHIJ	5	普通	にぶい赤褐		



第16図　第140号住居跡

整を行っている。５は直線的に立ち上がる甕である。口端部にキザミを施し３本１単位の粗雑な櫛描波状文を多段に施文している。６は壺の胴部上半である。竹管状工具による直線文に挟まれて同一工具による大ぶりの波状文を１段施文している。７は壺頸部である。収束沈線を充填する下向き鋸歯文を施文している。８は甕頸部である。櫛描波状文を施文している。９は甕頸部である。櫛描波状文を施文している。10は甕の胴部である。単位不明の粗雑な櫛描簾状文下に櫛描波状文を施文している。11は甕の頸部である。５本１単位の櫛描簾状文下に櫛描波状文を施文している。12は甕または壺の頸部である。６本１単位の櫛描簾状文下にやや大ぶりの櫛描波状文を施文している。また



第17図　第140号住居跡出土遺物

第４表　第140号住居跡出土遺物観察表（第17図）

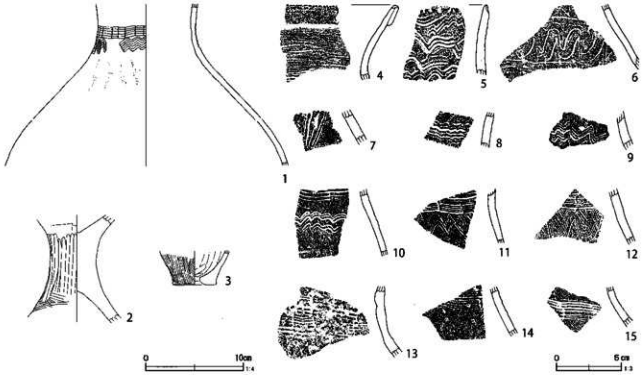
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	弥生	壺	—	—	—	HIJ	5	不良	赤褐		
2	弥生	高坏	—	11.0	—	AEHIK	85	普通	明褐	No.1	
3	弥生	甑	—	3.5	(4.6)	AIJ	30	普通	褐灰		
4	弥生	壺	—	5.8	—	CFG	10	普通	黒褐		
5	弥生	甕	—	5.4	—	EHIJ	5	普通	にぶい橙		
6	弥生	壺	—	4.2	—	HI	5	普通	浅黄		
7	弥生	壺	—	2.8	—	HIK	5	普通	にぶい橙		
8	弥生	甕	—	2.7	—	HI	5	普通	にぶい橙		
9	弥生	甕	—	2.9	—	AG	5	普通	にぶい褐		
10	弥生	甕	—	5.2	—	A	5	普通	にぶい赤褐		
11	弥生	甕	—	4.1	—	ACI	5	普通	灰褐		
12	弥生	壺	—	3.8	—	HIJK	5	普通	暗赤褐		
13	弥生	壺	—	5.4	—	HK	5	普通	にぶい黄褐		
14	弥生	甕	—	4.2	—	AJ	5	普通	橙		
15	弥生	壺	—	3.1	—	A	5	普通	にぶい赤褐		

下地のハケ調整が明瞭である。13は壺頸部である。７本１単位の櫛描簾状文を２段連接して施文している。14は甕頸部である。櫛描簾状文を２段施文している。15は甕または壺の頸部である。３本１単位の粗雑な櫛描簾状文を２段連接して施文している。器面にハケ調整が残る。

第144号住居跡（第18・19図）

調査区は南側東寄り、X－59グリッドに位置する。第145・146号住居跡に切られ、第14号墳と重複する。

平面形は南北にやや長い長方形である。主軸方向はN－7°－Eを指す。規模は第145・146号住居跡と重複するため残存する部分で、長軸3.35m、



第17図　第140号住居跡出土遺物

第４表　第140号住居跡出土遺物観察表（第17図）

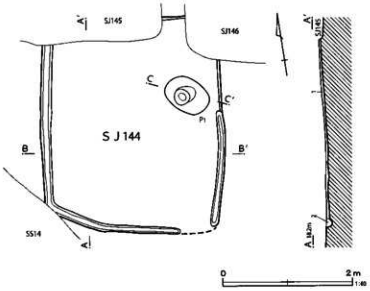
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	弥生	壺	－	－	－	HIJ	5	不良	赤褐		
2	弥生	高坏	－	11.0	－	AEHIK	85	普通	明褐	№1	
3	弥生	甕	－	3.5	(4.6)	AIJ	30	普通	褐灰		
4	弥生	壺	－	5.8	－	CFG	10	普通	黒褐		
5	弥生	甕	－	5.4	－	EHIJ	5	普通	にぶい橙		
6	弥生	壺	－	4.2	－	HI	5	普通	浅黄		
7	弥生	壺	－	2.8	－	HIK	5	普通	にぶい橙		
8	弥生	甕	－	2.7	－	HI	5	普通	にぶい橙		
9	弥生	甕	－	2.9	－	AG	5	普通	にぶい褐		
10	弥生	甕	－	5.2	－	A	5	普通	にぶい赤褐		
11	弥生	甕	－	4.1	－	ACI	5	普通	灰褐		
12	弥生	壺	－	3.8	－	HIJK	5	普通	暗赤褐		
13	弥生	壺	－	5.4	－	HK	5	普通	にぶい黄褐		
14	弥生	甕	－	4.2	－	AJ	5	普通	橙		
15	弥生	壺	－	3.1	－	A	5	普通	にぶい赤褐		

下地のハケ調整が明瞭である。13は壺頸部である。７本１単位の櫛描簾状文を２段連接して施文している。14は甕頸部である。櫛描簾状文を２段施文している。15は甕または壺の頸部である。３本１単位の粗雑な櫛描簾状文を２段連接して施文している。器面にハケ調整が残る。

第144号住居跡（第18・19図）

調査区は南側東寄り、Ｘ－59グリッドに位置する。第145・146号住居跡に切られ、第14号墳と重複する。

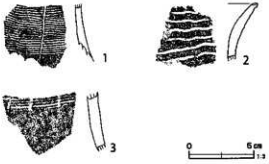
平面形は南北にやや長い長方形である。主軸方向はＮ－７°－Ｅを指す。規模は第145・146号住居跡と重複するため残存する部分で、長軸3.35ｍ、



第18図 第144号住居跡

第5表 第144号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	弥生	壺	—	4.0	—	AHIKL	5	普通	にぶい橙		
2	弥生	甕	—	4.5	—	AHIK	5	普通	にぶい赤橙		
3	弥生	甕	—	4.5	—	ACEIK	5	普通	にぶい褐	風化	



第19図 第144号住居跡出土遺物

短軸2.87m、深さ8.0cmを測る。

施設は壁周溝、ピットを検出した。壁周溝は西壁、南壁、東壁の南側から認められ、幅9.0～16.0cm、深さ3.3～5.4cmを測る。ピットは円形を呈し、断面はやや漏斗状の掘り込みである。規模は径68.0×50.0cm、深さ34.2cmを測る。

遺物の出土状況は、床面に現位置を留めるものはなく、いずれも覆土中から検出した。

遺物は、1が壺頸部である。8本1単位櫛描直線文を3段施文し、細い沈線を垂下させて切っている。2は甕の口縁部である。口端部に工具による押捺を廻らせヘラ描沈線による粗雑な波状文を連続して施文している。3は甕の頸部である。櫛描簾状文を施文している。

第145号住居跡（第20図）

調査区の南側東寄り、W・X－59グリッドに位置する。第144号住居跡、第14号墳と重複する。

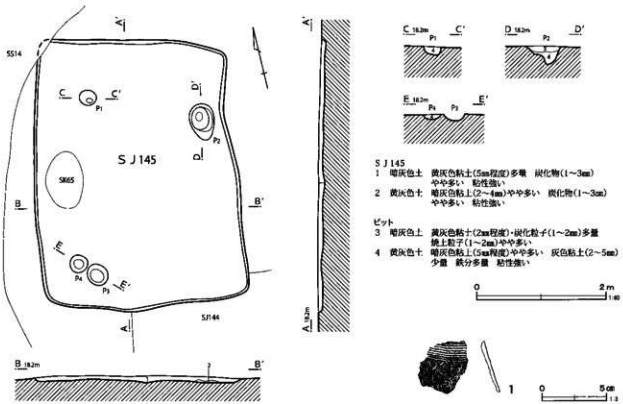
平面形は長方形である。主軸方向はN－12°－Eを指す。規模は長軸4.20m、短軸3.11m、深さ9.60cmを測る。地山からの掘り込みは非常に浅く、床面は平坦であるが硬化面はやや弱く、床面の検出は難しかった。

施設はピット4基を検出した。径26.0～57.0cm、深さ8.0～31.0cmを測る。ピットはいずれも浅く、掘り形も伴わないことから柱据え置きピットの可能性は低い。

遺物は、1が壺の頸部である。櫛描直線文を施文している。

第149号住居跡（第21～24図）

調査区の南側東寄り、V・W－62グリッドに位置する。第148号住居跡、第82号溝跡、第28号墳



第20図　第145号住居跡・出土遺物

第６表　第145号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　考	図版
1	弥生	壺	－	3.9	－	EIJK	5	普通	にぶい褐		

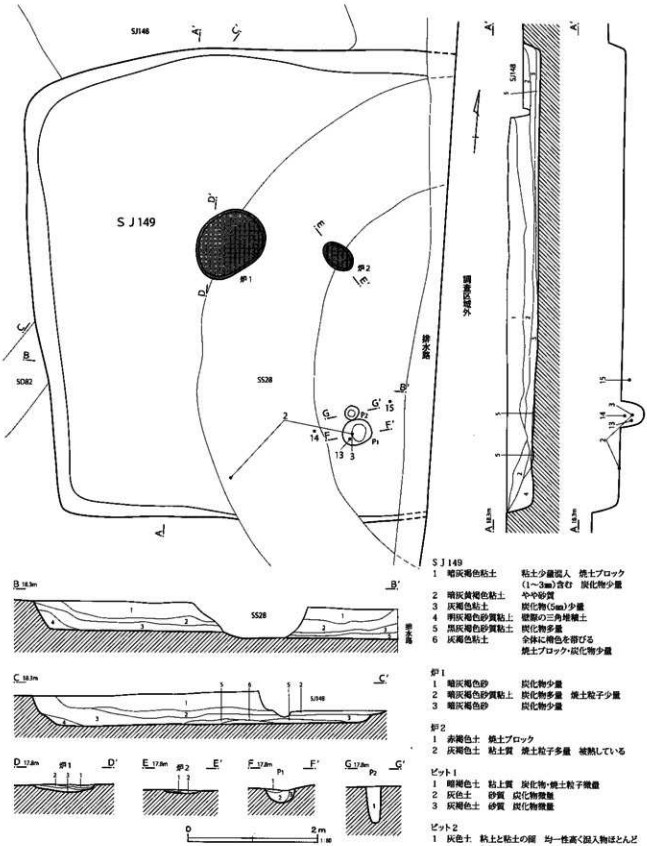
と重複する。本住居跡は、北壁側で第148号住居跡に切られていることから古いと判断される。また、中央部分に第28号墳の周溝が切り込んでいる。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－7°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸7.20m、短軸5.94m、深さ48.0cmを測る。住居跡の掘り込みは深く、北側に切り込まれた第148号住居跡の床面下に本住居跡の覆土が堆積しているのが確認された。床面は平坦である。

施設は炉跡２基、ピット２基を検出した。炉跡１は中央より北側に位置し、楕円形を呈している。径114.0×90.0cm、深さ10.6cmを測る。炉跡２は炉跡１の東側に位置し楕円形を呈している。径54.0×36.0cm、深さ5.4cmを測る。ピットは２基が繋がった形で検出している。径22.0～45.0cm、深さ22.0～56.0cmを測る。

遺物の出土状況は、南壁中央で周溝と重複する付近から大型の壺を検出した。また、南東のピット１・２付近から土製の勾玉を検出した。

遺物は、１～18に図示した。１は口縁部がやや強く外反し、胴部が強く張り出す壺である。頸部及び胴部の一部を欠損している。口縁部は複合口縁で断面三角形を呈する。口縁部下端にキザミを施している。口縁部直下からハケ調整が行われ部位によって方向を変えている。また、胴部上半は、ナデと粗いミガキによって消されている。内面にも丁寧なハケ調整が行われている。２は口縁部がやや強く外反し、胴部が強く張り出す複合口縁の壺である。口縁部は無文で頸部から胴部上半にかけて丁寧なハケ調整を行っている。胴上半部は粗いミガキによってハケ調整が消されている。胴部中央は木口状工具によるナデを施し、下半部はヘラナデが加えられている。３は複合口縁の壺である。口縁部無文で、頸部はヘラナデが行われてい



SJ149

1	暗灰褐色粘土	粘土少量混入　焼土ブロック(1～3mm)含む　炭化物少量
2	暗灰黄褐色粘土	やや砂質
3	灰褐色粘土	炭化物(5mm)少量
4	明灰褐色砂質粘土	壁際の三角堆積土
5	黒灰褐色砂質粘土	炭化物多量
6	灰褐色粘土	全体に褐色を帯びる　焼土ブロック・炭化物少量

炉1

1	暗灰褐色砂	炭化物少量
2	暗灰褐色砂質粘土	炭化物多量　焼土粒子少量
3	暗灰褐色砂	炭化物少量

炉2

1	赤褐色土	焼土ブロック
2	灰褐色土	粘土質　焼土粒子多量　被熱している

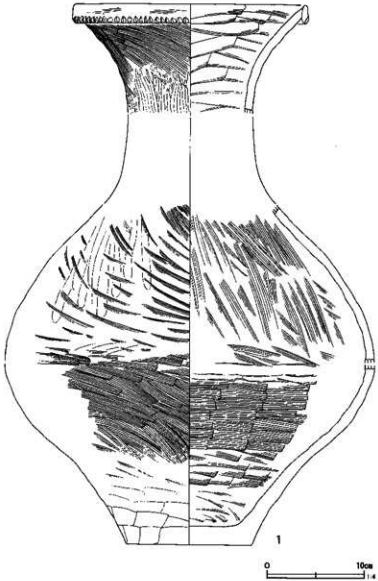
ピット1

1	暗褐色土	粘土質　炭化物・焼土粒子微量
2	灰色土	砂質　炭化物微量
3	灰褐色土	砂質　炭化物微量

ピット2

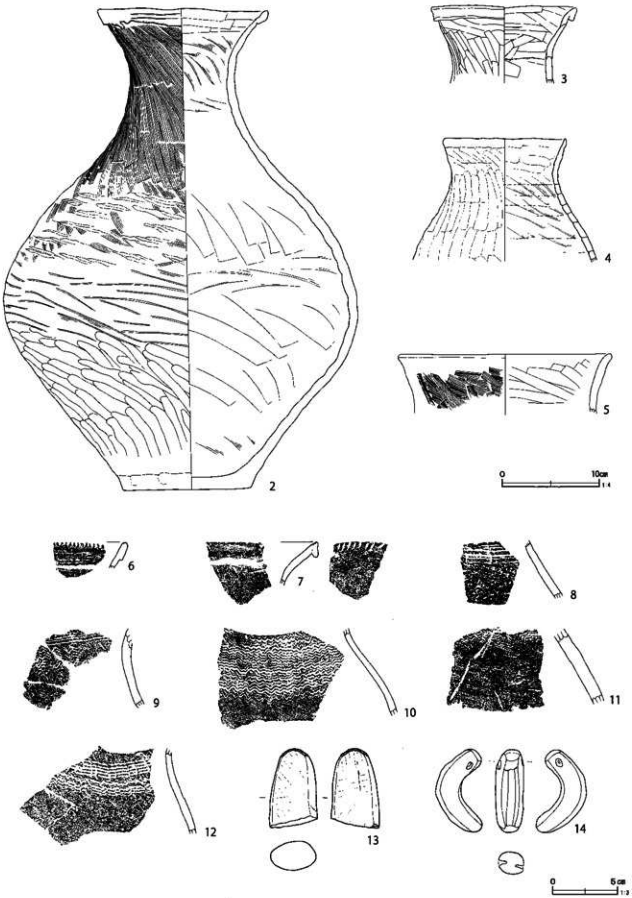
1	灰色土	粘土と粘土の層　均一性高く混入物ほとんどなし

第21図　第149号住居跡

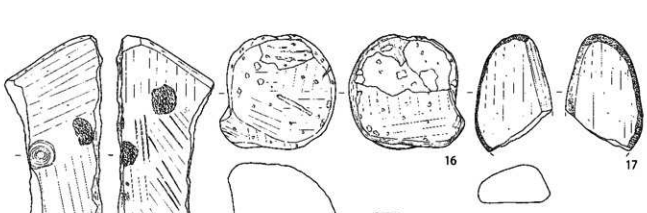


第22図　第149号住居跡出土遺物（1）

る。4は甕の上半部である。緩やかに外反し胴部はやや張り出す。外面は無文でナデが加えられ、内面上半には明らかな輪積痕が認められる。5は緩やかに外反する甕の口縁部である。口縁部は無文で以下ハケ調整が行われている。6は複合口縁の壺である。口端部にキザミを施し口縁部以下無文である。7は複合口縁の壺である。口端部内面にキザミを施す。口縁部以下無文である。8は壺の頸部である。櫛描簾状文を施文している。9は壺または甕の頸部である。櫛描直線文下に櫛描波状文を施文している。10は胴部が張り出す甕または壺である。櫛描波状文を多段に連続施文している。櫛描文下には、ハケ調整が行われている。内面にもハケ調整が認められる。11は大形の壺の胴部である。櫛描波状文を施文している。ハケ調整が残る。12は壺の頸部である。5本1単位の櫛描簾状文下に、櫛描波状文を施文している。13は敲石である。14は完形の土製勾玉である。長さ6.2㎝の小型勾玉である。先端部に開けられた孔は、両側から途中まで開けられ貫通していない。15～19は石製品である。17は敲石で他は砥石ある。



第23図　第149号住居跡出土遺物（2）



第24図　第149号住居跡出土遺物（3）

第7表　第149号住居跡出土遺物観察表（第22～24図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	弥生	壺	24.0	55.4	13.0	GHIJ	30	普通	にぶい橙		
2	弥生	壺	17.4	49.6	13.0	HIJ	80	良好	橙	No.2・3	77-1
3	弥生	壺	14.8	7.8	—	EHI	80	普通	橙	No.2・3　P1	
4	弥生	甕	(12.5)	12.5	—	HIJ	30	普通	にぶい橙		
5	弥生	甕	21.4	6.3	—	AHIJ	30	普通	黒褐		
6	弥生	壺	—	2.0	—	EHIK	5	普通	にぶい赤褐		
7	弥生	壺	—	3.3	—	ABCEHI	5	普通	にぶい橙		
8	弥生	壺	—	4.6	—	EHIK	5	普通	浅黄		
9	弥生	壺	—	4.5	—	AEG	5	普通	黒褐		
10	弥生	甕	—	6.7	—	AJL	10	普通	黒褐		
11	弥生	壺	—	5.7	—	AEHIJ	5	普通	にぶい黄橙		
12	弥生	壺	—	6.5	—	EGI	20	普通	にぶい橙	SJ148・149	
13	石製品	敲石	長さ6.1	幅3.8	厚さ2.5	重さ73.7　石材　砂岩				No.5	
14	土製品	勾玉	長さ6.2	幅3.9	厚さ2.0	BHIK	100	普通	にぶい橙	重さ41.03	148-1
15	石製品	砥石	長さ15.6	幅7.6	厚さ2.9	重さ535.2　石材　結晶片岩				No.4	152-2
16	石製品	砥石	長さ8.9	幅8.9	厚さ6.5	重さ78.4　石材　軽石					152-2
17	石製品	敲石	長さ9.0	幅6.0	厚さ3.2	重さ207.2　石材　砂岩					152-2
18	石製品	砥石	長さ4.2	幅3.2	厚さ2.4	重さ74.4　石材　砂岩					
19	石製品	砥石	長さ2.6	幅1.6	厚さ1.2	重さ1.0　石材　軽石					

第184号住居跡（第25・26図）

調査区の中央東寄り、R－62グリッドに位置する。第153・154・199号住居跡と重複する。

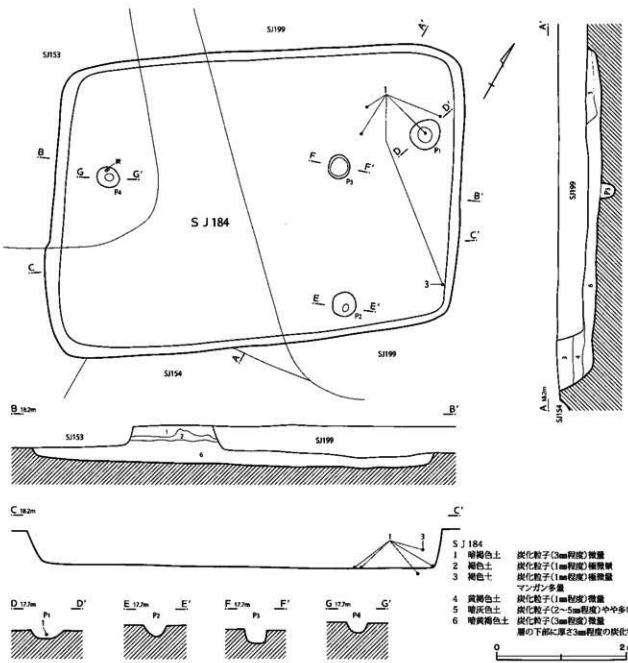
平面形は長方形である。主軸方向はN－58°－Eを指す。規模は長軸6.35m、短軸4.49m、深さ65.4cmを測る。確認面からの掘り込みが深い。床直には炭化物層が見られた。床面は平坦である。

断面観察では、本住居跡覆土中層の第5層下部にも炭化物層が見られたが床面として確認するにはいたらなかった。第6層を含め本住居跡の覆土を切り込む他の住居跡の可能性が考えられる。

施設はピット4基を検出した。径35.0～49.0cm、深さ10.2～21.0cmを測る。

遺物の出土状況は、北東コーナーに近いピット1周辺の床直から検出された。

遺物は、弥生時代後期の土器である。1は口縁

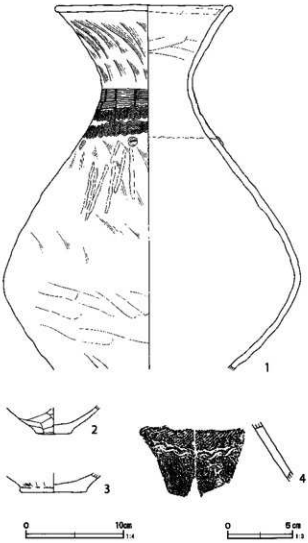


第25図　第184号住居跡

第８表　第184号住居跡出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調		備　　考	図版
1	弥生	壺	18.0	37.5	—	GI	50	普通	にぶい橙		№1～5	77-3・4
2	弥生	壺	—	2.9	3.8	ABE	65	良好	にぶい褐			
3	弥生	甕	—	2.0	6.8	AEHIJK	80	良好	赤褐	№1		
4	弥生	壺	—	4.5	—	AHIJ	5	普通	にぶい黄橙	赤彩か		

部が大きく外反し、胴下半部が張り出す壺である。口縁部は単口縁でハケ調整が残る。頸部は８本１単位の櫛描簾状文を２段施文している。またその下に櫛描波状文を簾状文が一部切る形で２段施文している。また、波状文下に線状孔を有する円形浮文を６単位貼付している。胴上半部は一部縦のミガキが認められる。この土器の内面は２次加熱を受け剥落が著しい。２は壺の底部である。３は甕の底部である。４は壺の頸部から胴部上半である。細かいＬＲ縄文下にＳ字状結節文が２段廻る。



第26図　第184号住居跡出土遺物

第216号住居跡（第27・28図）

調査区の南側西寄り、X－54グリッドに位置し、第227・252・281号住居跡、第17号墳と重複する。

平面形はやや膨らみのある隅丸長方形である。東壁と西壁はわずかに膨らみ、北壁と南壁は緩やかな弧を描く。各コーナー部分はわずかに鈍角となり開いていた。主軸方向はN－47°－Eを指す。規模は長軸8.04m、短軸5.76m、深さ45.0cmを測る。第5層直下の床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。なお、本住居跡の床下から第252号住居跡を確認した。

施設は炉跡2基、貯蔵穴、ピット4基を検出した。炉跡1は西側に位置し、楕円形を呈している。推定径42.0×54.0cmを測る。炉跡2は、東側に位置し、ほぼ円形を呈している。推定径54.0cmを測る。貯蔵穴は南側に位置し、円形を呈している。ピット1・2と繋がった形で検出した。径60.0cm、深さ30.0cmを測る。ピット4基は、径52.0～82.5cm、深さ3.5～33.7cmを測る。

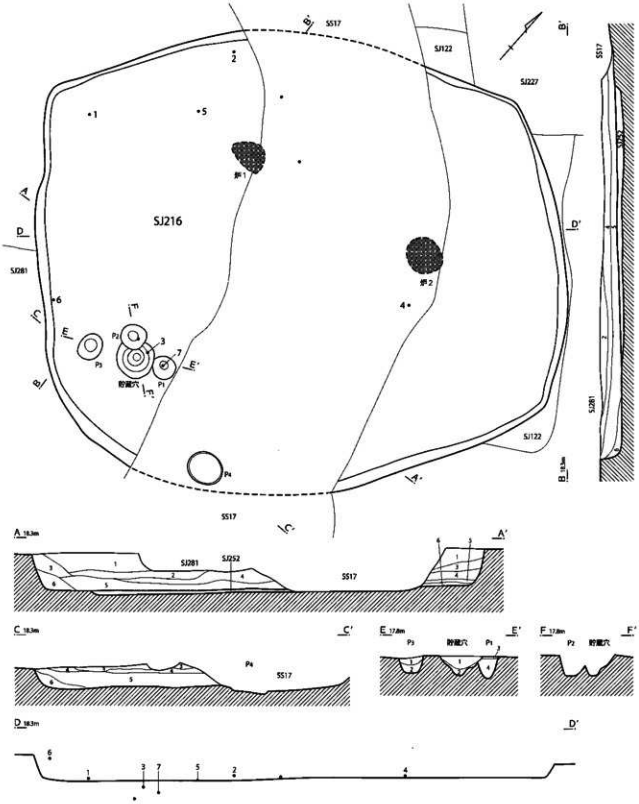
遺物の出土状況は、住居跡北壁西側から1・2の甕と貯蔵穴内から3の甕、周辺から6の壺底部を検出しピット1から7の砥石を検出した。

遺物は、1が複合口縁の甕である。口縁部は無文である。頸部以下は丁寧なハケ調整が行われている。口縁部は胴部径を上回る。2は折返し口縁の甕である。胴部径が口縁部径をわずかに上回る。口端部は工具による押捺を施す。口縁部以下胴部上半は丁寧なハケ調整がおこなわれている。胴部上半以下はヘラナデによりハケ調整を消している。3は複合口縁の甕である。口端部は工具による押捺を施している。口縁部以下はヘラナデによりハケ調整を消している。内面はヘラナデを施し一部ハケ調整が残る。4は壺の胴下半部である。外面はヘラナデが施されている。5は壺の底部である。ハケ調整が行われている。また、赤彩されている。6は壺の底部である。胴部は球胴形を呈すると考えられる。7は砥石、8は磨製石斧である。9は緩やかに外反する甕の口縁部である。口端部にキザミを施し以下にハケ調整が残る。10は甕の胴部である。櫛描簾状文下に簾状文を切って櫛描波状文を施文している。11は甕の胴部である。櫛歯状工具による斜格子文を施文している。

第221号住居跡（第29図）

調査区の南側西寄り、V－55グリッドに位置する。第220号住居跡と重複する。南西1mに第120号住居跡がある。

平面形は長方形である。主軸方向はN－41°－Eを指す。規模は長軸3.15m、短軸2.64m、深さ42.0cmを測る。確認面からの掘り込みはやや深いが規模の小さな住居跡である。断面観察によると、第5層の直下で床直上に炭化物層が見られた。覆



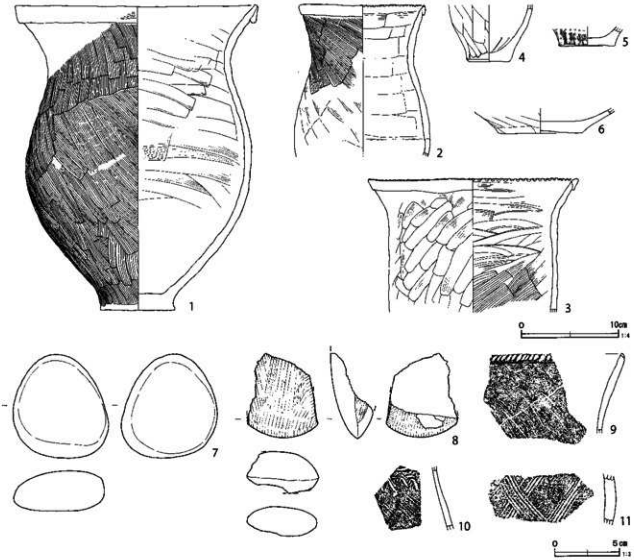
S J 216
1　茶褐色土　やや均一　炭化粒子(2～5mm)・焼土粒子(2～3mm)少量
　　鉄分・マンガン粒子少量　しまり強い
2　茶褐色土　やや均一　炭化粒子(2～3mm)・焼土粒子(2～3mm)微量
3　茶褐色土　やや均一　1層に同じ　炭化粒子・焼土粒子少量
4　黄褐色土　均一　炭化粒子(2～7mm)微量
5　茶褐色土　均一　炭化粒子(2～10mm)少量　最下面に炭化物層
6　茶褐色土　均一　5層に同じ　炭化粒子少量

貯蔵穴
1　暗褐色土　黄褐色土ブロック・炭化粒子多量
2　暗褐色土　炭化粒子を層状に含む

ピット
1　暗黄褐色土　炭化粒子を帯状に含む
　　黄褐色土ブロック多量
2　暗褐色土　炭化粒子少量
3　暗褐色土　炭化粒子少量
4　暗青灰色土　黄褐色土ブロック少量

0　2m
1:80

第27図　第216号住居跡



第28図　第216号住居跡出土遺物

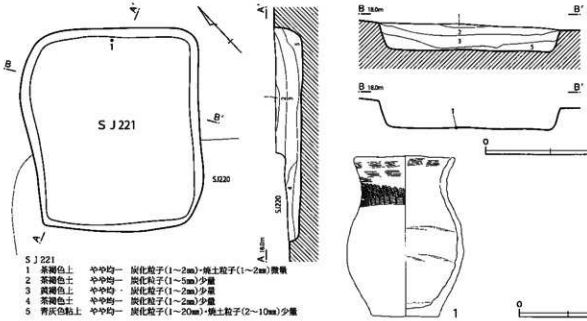
第９表　第216号住居跡出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	弥生	甕	24.6	31.0	7.7	HIK	80	良好	橙	No.7	77-2
2	弥生	甕	13.1	15.5	—	BIJ	50	不良	にぶい赤褐	No.4	77-5
3	弥生	甕	21.7	12.7	—	HIJL	20	良好	明赤褐	貯蔵穴　SJ122	
4	弥生	壺	—	5.8	4.2	AHI	60	普通	にぶい橙	No.1	
5	弥生	壺	—	2.0	5.8	ACIJ	80	良好	にぶい黄橙	赤彩　No.2	
6	弥生	壺	—	2.6	8.5	AEHIJK	80	普通	明褐	No.6	
7	石製品	砥石	長さ7.9	幅7.3	厚さ3.3	重さ258.6　石材　砂岩				P1　No.1	
8	石製品	磨製石斧	長さ6.6	幅5.5	厚さ3.2	重さ66.0　石材　凝灰岩					153-1
9	弥生	甕	—	6.0	—	AG	5	普通	黒褐		
10	弥生	甕	—	4.9	—	AGI	5	普通	にぶい黄橙		
11	弥生	壺	—	3.7	—	AGHI	5	普通	にぶい黄橙		

土中層の第３層には黄褐色粘土層が堆積し、その上下の第２層と第４層は茶褐色土層で青灰色粘土が多く混在していた。床面は平坦である。

施設は検出されなかった。

遺物の出土状況は、北壁際の中央付近から１の甕を検出した他はほとんど検出されなかった。



SJ221
1 茶褐色土　やや均一　炭化粒子(1～2mm)・焼土粒子(1～2mm)微量
2 茶褐色土　やや均一　炭化粒子(1～5mm)少量
3 黄褐色土　やや均一　炭化粒子(1～2mm)少量
4 茶褐色土　やや均一　炭化粒子(1～2mm)少量
5 青灰色粘土　やや均一　炭化粒子(1～20mm)・焼土粒子(2～10mm)少量

第29図　第221号住居跡・出土遺物

第10表　第221号住居跡出土遺物観察表（第29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	弥生	甕	9.9	16.3	6.7	HI	100	普通	明赤褐	No1	78-1

遺物は、口縁部が緩やかに外反するほぼ完形の平底小型甕である。胴部径が口縁部径を上回る。口縁部にハケ調整が残る。頸部は６本１単位の櫛描波状文を施文し、これを切って下に櫛描簾状文を施文している。

第226号住居跡（第30・31図）

調査区の中央東寄り、T－59・60グリッドに位置する。第19・20号墳と重複する。南側１ｍに第81号溝跡が東西に走る。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－30°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸4.83ｍ、短軸2.76ｍ、深さ45.0cmを測る。床直上の第３層に炭化物層が見られた。床面は平坦である。

施設は炉跡のみの検出であった。炉跡は東側に位置し、楕円形を呈する。径57.0×39.0cm、深さ5.1cmを測る。

遺物の出土状況は、床直上から検出し、東壁やや北側から１の大型壺を、東壁と炉跡の中間から２・３の壺を検出した。

遺物は、１が口縁部緩やかに外反しやや長胴の複合口縁の壺である。口縁部は無文である。頸部以下ハケ調整が残るが頸部及び胴下半部はヘラナデ、胴部上半は、粗いミガキが施されている。また内面の一部にハケ調整が行われている。２は壺の胴部から底部にかけてである。全面ヘラナデが施されている。３は壺の底部である。４は壺の胴上半である。無文部に２本１単位の束線具で区画しＲＬ単節縄文を施文している。

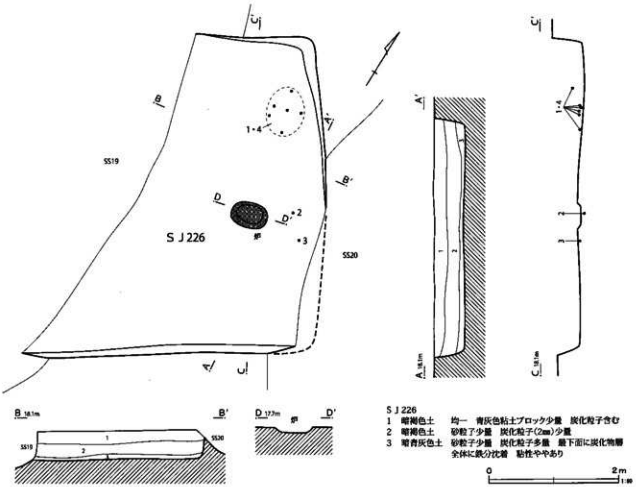
第228号住居跡（第32・33図）

調査区の南側西寄り、W－54・55グリッドに位置する。第120・220・229号住居跡と重複する。西２ｍに第124号住居跡がある。

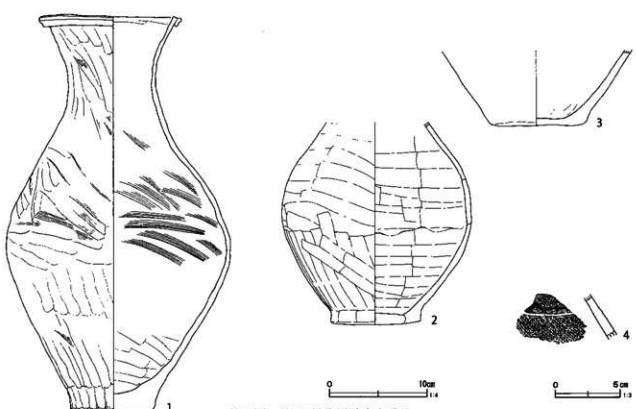
平面形は長方形である。主軸方向はN－38°－Wを指す。規模は長軸5.17ｍ、短軸4.32ｍ、深さ45.0cmを測る。床直上には炭化物層が見られた。特に炉跡周辺は炭化層が厚く堆積していた。床面は平坦である。

施設は炉跡のみの検出であった。北西側に位置し、円形を呈している。推定径48.0cmを測る。

遺物の出土状況は、炉跡と北壁の中間から煮沸



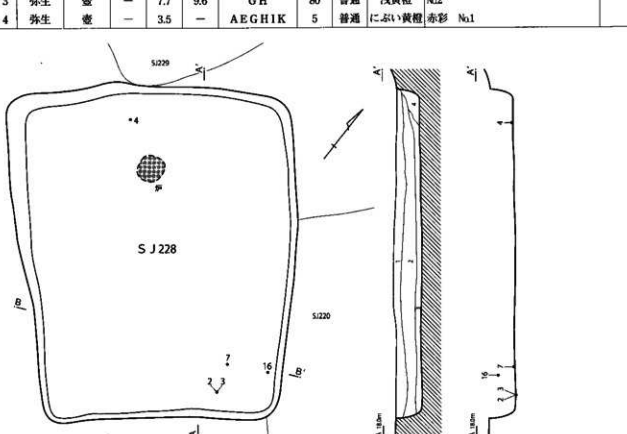
第30図　第226号住居跡



第31図　第226号住居跡出土遺物

第11表　第226号住居跡出土遺物観察表（第31図）

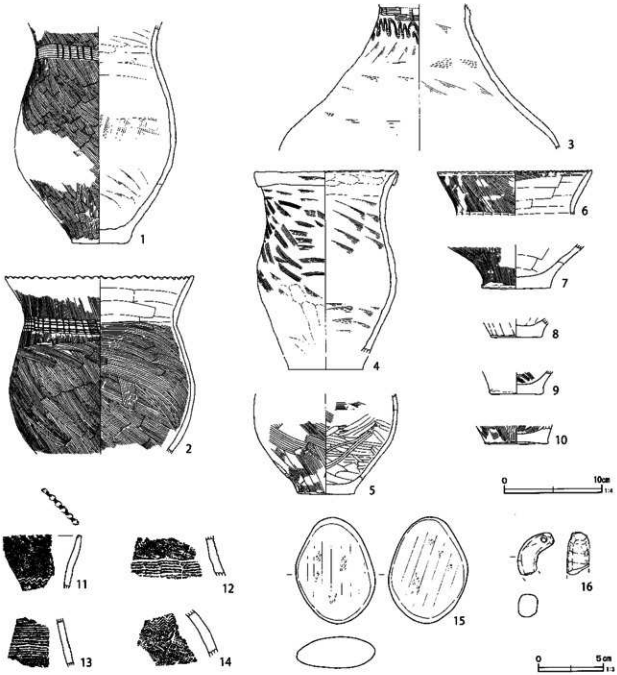
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　考	図版
1	弥生	壺	14.6	40.7	8.5	HI	70	普通	明赤褐	№1　T60G	78-2
2	弥生	壺	—	20.7	9.3	AEGHIK	70	普通	にぶい黄橙	№3	
3	弥生	壺	—	7.7	9.6	GH	80	普通	浅黄橙	№2	
4	弥生	壺	—	3.5	—	AEGHIK	5	普通	にぶい黄橙	赤彩　№1	



第32図　第228号住居跡

具の甕を検出した。また、南東コーナー部分から貯蔵具の壺と甕を検出した。東壁の南端壁際から土製勾玉を検出した。

遺物は、1が口縁部を欠損する甕である。胴部の張り出しは弱い。器面全体に丁寧なハケ調整が行われている。頸部は6本1単位の櫛描簾状文が施文されている。内面はナデが施され一部ハケ調整が残る。2は口縁部が直線的に外反する甕である。底部を欠損する。口端部にキザミを施す。口縁部付近を除き内外面に丁寧なハケ調整を行っている。頸部は6本1単位の櫛描簾状文を施文している。3は壺の頸部から胴部上半にかけてである。頸部は4本1単位櫛描簾状文を施文し、その下に粗雑な櫛描波状文を施文している。胴部はナデ及び粗いミガキが施され、ハケ調整が僅かに残る。4は口縁部径と胴部径がほぼ同一の折返し口縁の甕である。全体は無文でハケ調整後に粗いナデが施されている。内面も同様であるが胴部中央のみ指頭によるナデが施されている。5は甕の胴下半部である。外面底部までやや粗いハケ調整が行われている。内面はハケ調整後粗いミガキが施されている。6は直線的に外反する甕の口縁部である。



第33図　第228号住居跡出土遺物

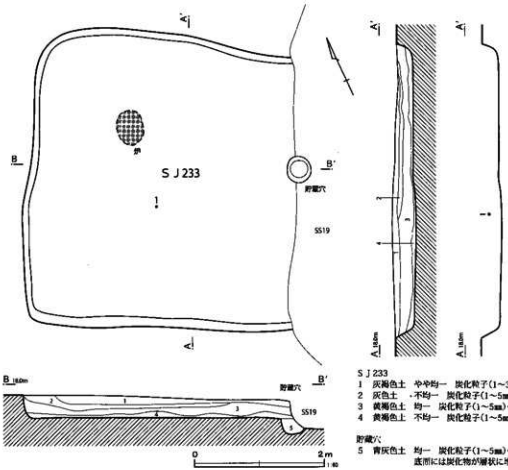
口縁部はハケ調整が行われている。口端部にキザミを施し頸部に櫛描簾状文を施文している。7は胴が張る甕の底部である。外面は底部までハケ調整が行われている。8は甕の底部である。外面はヘラナデが施されている。9は甕の底部である。外面はナデが施され内面はハケ調整が残る。10は甕の底部である。内外面ともにハケ調整が行われている。11は緩やかに外反する甕の口縁部である。口端部は工具による押捺を廻らせ頸部は櫛描波状文を施文している。12は甕の頸部である。櫛描簾状文を施文している。13は甕の頸部である。6本1単位の櫛描直線文を2段施文している。14は甕の胴部である。やや球胴ぎみである。5本以上1単位の櫛描波状文を施文している。ハケ調整が残る。15は砥石である。16は土製勾玉の破片である。

第233号住居跡（第34・35図）

調査区の中央西寄り、S・T－57グリッドに位置する。第19号墳と重複する。南側2mに第83号

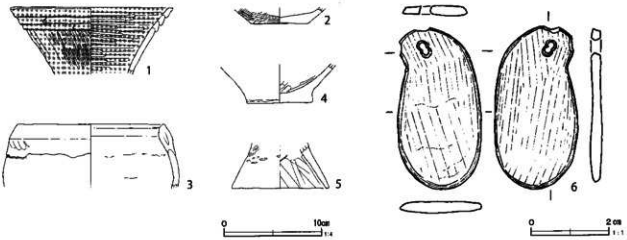
第12表　第228号住居跡出土遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	弥生	甕	—	22.4	6.0	GHIJ	60	良好	にぶい橙		78-3・4
2	弥生	甕	19.3	18.2	—	GI	50	普通	黒褐	No.2	79-1・2
3	弥生	壺	—	15.1	—	HJK	90	普通	浅黄橙	No.2	79-4・5
4	弥生	甕	14.8	18.5	—	BEI	70	普通	赤褐	No.4	78-5
5	弥生	甕	—	10.3	5.9	AEIK	70	普通	灰褐		
6	弥生	甕	(16.0)	4.5	—	ADEI	10	普通	黒褐		
7	弥生	甕	—	4.5	7.1	AGIK	50	良好	にぶい褐	No.3	
8	弥生	甕	—	1.9	5.0	EGHIK	90	普通	灰褐	風化	
9	弥生	甕	—	2.3	5.4	ABEHIK	90	普通	暗褐	風化	
10	弥生	甕	—	1.9	6.6	AEHIK	90	普通	黒褐		
11	弥生	甕	—	4.0	—	EHIK	5	普通	橙		
12	弥生	甕	—	3.0	—	EHI	5	普通	にぶい橙		
13	弥生	甕	—	3.5	—	EIK	5	普通	黒褐		
14	弥生	甕	—	3.5	—	AEIK	5	普通	灰黄褐		
15	石製品	砥石	長さ8.2	幅6.1	厚さ2.6	重さ166.1	石材	砂岩			153-1
16	土製品	勾玉	長さ(3.2)	幅(2.8)	厚さ(1.7)	GI	50	良好	明赤褐	重さ11.1　No.1	148-1



第34図　第233号住居跡

溝跡が北東に走る。平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－27°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸4.50m、短軸4.11m、深さ33.0cmを測る。施設は炉跡、貯蔵穴を検出した。炉跡は推定径48.6cmを測る。貯蔵穴は東側中央に位置し径36.0cm、深さ24.0cmを測る。



第35図　第233号住居跡出土遺物

第13表　第233号住居跡出土遺物観察表（第35図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	弥生	壺	16.2	6.9	—	AEI	80	普通	赤褐	赤彩　No1	81-1
2	弥生	壺	—	1.7	(5.8)	BCDE	25	普通	にぶい橙		
3	弥生	鉢	(14.9)	6.6	—	HIK	20	普通	浅黄橙		
4	弥生	甕	—	4.0	6.7	CEIJ	40	普通	にぶい黄橙	外面煤付着	
5	弥生	台付甕	—	4.6	(10.0)	AEHIK	45	普通	橙		
6	石製品	垂飾	長さ4.2　幅2.2　厚さ0.3　重さ4.6　石材　結晶片岩							穿穴有り	151-6

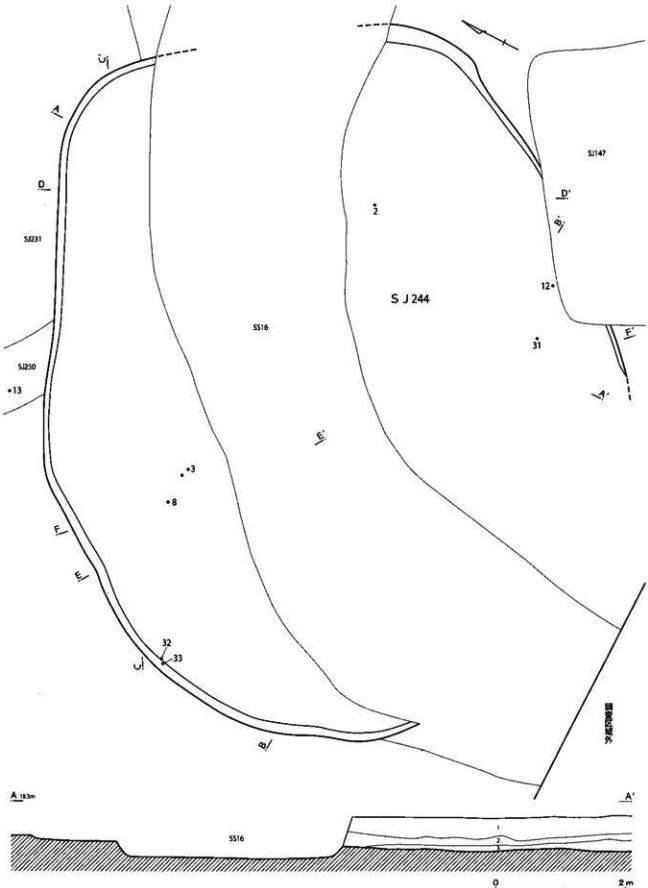
遺物は、1・2が壺である。1は吉ヶ谷式の壺の口縁部である。口縁部は輪積による段を3段設けている。頸部は縦のミガキが加えられている。3は体部内湾気味に立ち上がる鉢、4は甕の底部、5は台付甕である。6は石製品の垂飾である。

第244号住居跡（第36～39図）

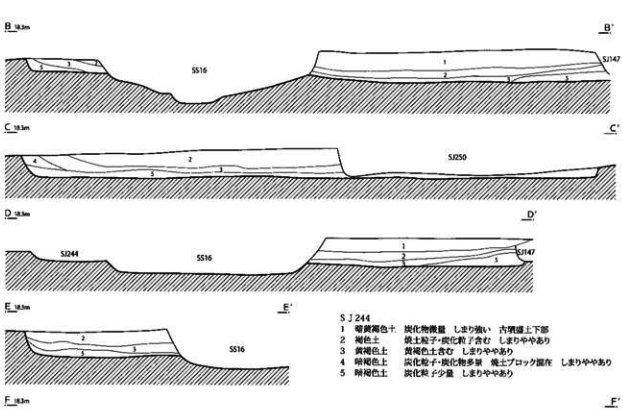
調査区の南側中央寄りX－55・56グリッドに位置する。第147・231・250号住居跡、第16号墳と重複する。南側は調査区域外にかかる。

住居跡の中央部分に第16号墳の周溝が切り込んでいる。平面形は楕円形である。主軸方向はN－48°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸10.50m、短軸9.0m、深さ45.0cmを測る。断面観察によると第1層は古墳の盛り土の沈下に伴う客土である。このため第1層は古墳の周溝より内側に堆積している。さらに盛り土の重みで床面が下がり、周溝外側で検出された床面と高低差がある。

遺物は、1が壺の口縁部破片である。2は壺の底部である。外面に赤彩が施され、ハケ調整が残る。3は「く」の字状口縁甕、4はやや大型の甕、6は底部やや張り出す甕である。ヘラナデが加えられている。8は甕の底部である。外面にヘラナデが加えられている。9は甕の底部である。内外面にハケ調整が残る。12は高坏の脚部である。内外面にヘラナデが加えられている。13は口縁部を欠損する甕である。口縁部直下と胴部上半に振幅の大きい櫛描波状文を施文している。頸部は櫛描簾状文を施文しているが櫛描波状文に切られている。内外面ハケ調整が行われている。14は口縁部径が胴部径を下回る甕である。底部を欠損している。胴部最大径まで櫛描波状文を4段施文している。15は口縁部僅かに外反する甕である。口端部は押捺が加えられている。外面は無文である。16は、吉ヶ谷式の甕である。頸部から胴部上半にかけて縄文が施されている。縄文は、単節RLを横方向に施す。また、施文に伴う端末結節が認められる。胴部下半はヘラナデを施す。17は緩やかに外反する複合口縁の壺である。口端部及び口縁下端に工具による押捺が加えられている。頸部は無文である。18は緩やかに外反する複合口縁の壺で

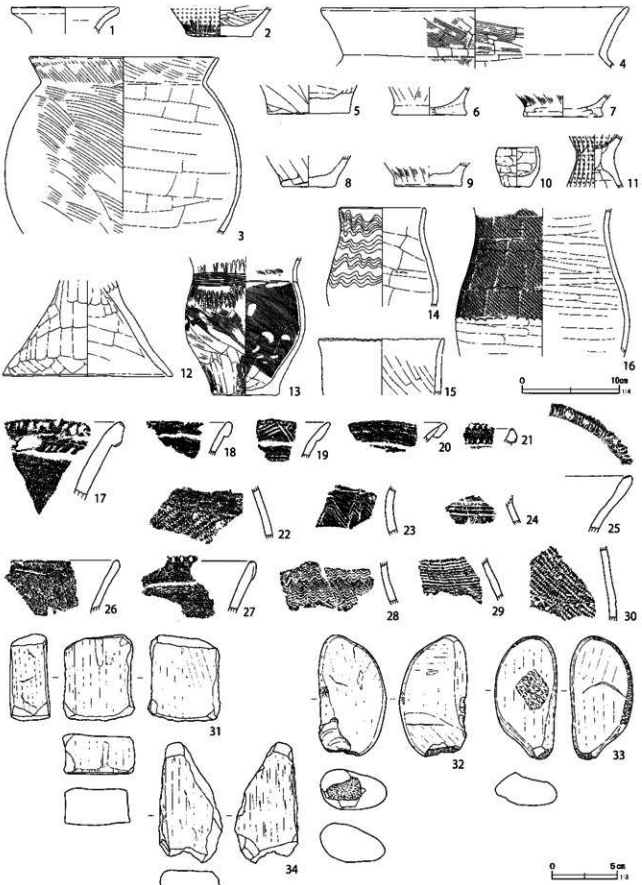


第36図　第244号住居跡（1）

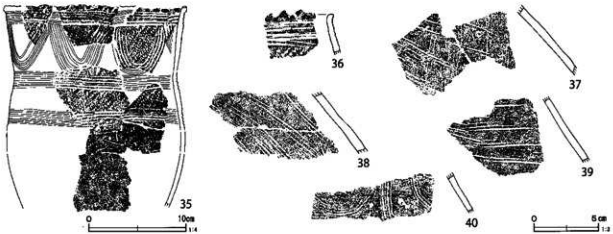


第37図　第244号住居跡（2）

ある。口縁部以下無文である。19は緩やかに外反する折返し口縁の壺である。口縁部は櫛歯状工具により鋸歯文を施文している。頸部は櫛歯状工具による直線文を施文している。20は18と同様の複合口縁の壺である。21は複合口縁の壺である。口端部と口縁部下端にキザミを施している。22は壺の胴上半部である。無文下に浅い沈線で区画してＬＲ単節縄文を施文している。23は甕の頸部である。櫛描簾状文とその下に大ぶりの櫛描波状文を施文している。24は甕の頸部である。櫛描直線文とその下に櫛描波状文を施文している。25はやや大きく外反する甕の口縁部である。口端部に爪による浅い刺突列が廻る。26は甕の口縁である。ハケ調整が行われている。27は折返し口縁の壺である。口端部に工具による押捺を施している。口縁部以下無文である。28は甕の頸部である。櫛描波状文を連続施文している。29が甕の胴部上半である。櫛描簾状文を連続施文している。30が吉ヶ谷式の甕である。ＲＬ単節縄文を連続施文している端末結節が一部認められる。31・34は砥石で、32・33は敲石である。35は弥生中期後半の甕である。口縁部は直線的に立ち上がる。口端部に工具による押捺を施す。口縁部より胴部上半にかけて、ＬＲ単節縄文を地紋施文し、５本１単位の束線具により、直線文３段、上向き弧線文１段を施文している。非常に薄手の造りである。36は内傾する甕である。口端部に工具による押捺を廻らせ横位条痕下にＬＲ単節縄文を施文している。37～39は壺の胴上半部で同一個体と考えられる。４本１単位の櫛歯状工具により粗雑な斜行文を施文し、40は壺の胴上半部である。櫛歯状工具によるＪ字状文を施文している。



第38図　第244号住居跡出土遺物（1）

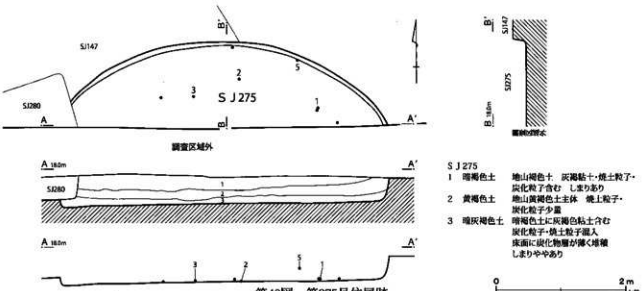


第39図　第244号住居跡出土遺物（２）

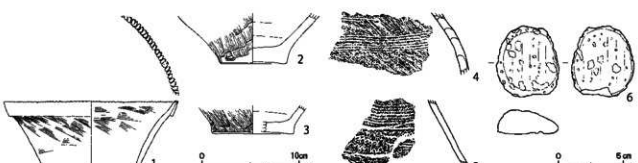
第14表　第244号住居跡出土遺物観察表（第38・39図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(11.1)	2.8	－	AEIJK	10	普通	灰褐		
2	土師器	壺	－	3.1	7.0	ACHI	100	良好	にぶい黄橙	赤彩　No.1	
3	土師器	甕	(19.8)	18.7	－	AEHIKM	20	普通	にぶい橙	石英多　No.8	
4	土師器	甕	(31.6)	6.2	－	ABEHIK	5	良好	にぶい黄橙	雲母多	
5	土師器	甕	－	2.8	(8.0)	AEHIJK	40	普通	にぶい橙	底部黒変	
6	土師器	甕	－	3.0	(7.8)	DEGIJ	40	普通	明赤褐	輪台状	
7	土師器	甕	－	2.3	(8.4)	DI	25	良好	褐灰		
8	土師器	甕	－	3.2	5.2	BEH	70	普通	にぶい赤褐	No.3	
9	土師器	甕	－	2.4	6.6	ACDGHI	80	良好	にぶい橙		
10	土師器	手づくね	4.0	4.0	3.2	ACEHI	90	普通	にぶい黄橙		
11	土師器	高坏	－	5.5	－	AEHIK	70	普通	浅黄橙	赤彩　弥生中期高坏か	
12	弥生	高坏	－	9.8	17.4	AEHIJ	55	普通	黒	宮ノ台か　No.6	
13	弥生	甕	－	14.1	6.6	AEGHIK	60	普通	にぶい黄橙	No.9	79-3
14	弥生	甕	8.6	10.1	－	ACEGHIJK	50	普通	にぶい褐	全面煤付着	
15	弥生	甕	(12.8)	5.7	－	AEHIJK	40	普通	にぶい赤褐	内面煤付着	
16	弥生	甕	－	15.2	－	AEIK	30	普通	にぶい褐		
17	弥生	壺	－	5.9	－	EHIK	5	普通	にぶい橙	外面風化	
18	弥生	壺	－	2.5	－	AEHIJK	5	良好	にぶい黄橙	内外面煤付着	
19	弥生	壺	－	2.7	－	ACEHIK	5	普通	にぶい黄褐	雲母多	
20	弥生	壺	－	1.9	－	AEHIK	5	普通	橙		
21	弥生	壺	－	1.3	－	EHIJK	5	普通	にぶい赤褐		
22	弥生	壺	－	4.0	－	AEHIKL	5	普通	にぶい橙	チャート	
23	弥生	甕	－	3.7	－	AEHIJK	5	良好	にぶい褐		
24	弥生	甕	－	2.1	－	AEIK	5	普通	黒褐		
25	弥生	甕	－	4.3	－	ACEHIJK	5	良好	にぶい赤褐		
26	弥生	甕	－	4.0	－	CEHIKL	5	良好	にぶい黄橙	チャート	
27	弥生	壺	－	4.0	－	ACEHIK	5	普通	明赤褐	外面赤化　二次被熱	
28	弥生	甕	－	3.3	－	AIK	5	普通	褐		
29	弥生	甕	－	3.3	－	AEIK	5	普通	灰褐		
30	弥生	甕	－	5.7	－	AEIJK	5	普通	灰褐	footer が関　二次被熱	
31	石製品	砥石	長さ6.7	幅5.5	厚さ3.1	重さ169.2	石材	砂岩		No.7	153-1
32	石製品	敲石	長さ9.3	幅5.2	厚さ3.2	重さ185.9	石材	砂岩		No.4	
33	石製品	敲石	長さ9.5	幅4.8	厚さ2.8	重さ160.3	石材	砂岩			
34	石製品	砥石	長さ9.3	幅4.9	厚さ2.3	重さ154.7	石材	緑泥片岩		No.5	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
35	弥生	甕	(19.0)	—	—	GHI	5	不良	にぶい黄橙	SS16墳丘一括	79-6
36	弥生	甕	—	3.2	—	EG	5	普通	褐	SJ132	
37	弥生	壺	—	5.5	—	EG	5	普通	褐	SJ132	
38	弥生	壺	—	4.8	—	EG	5	普通	褐	SJ132	
39	弥生	壺	—	5.2	—	EG	5	普通	褐	SJ132	
40	弥生	壺	—	3.2	—	EG	5	普通	褐	SJ132	



第40図　第275号住居跡



第41図　第275号住居跡出土遺物

第15表　第275号住居跡出土遺物観察表（第41図）

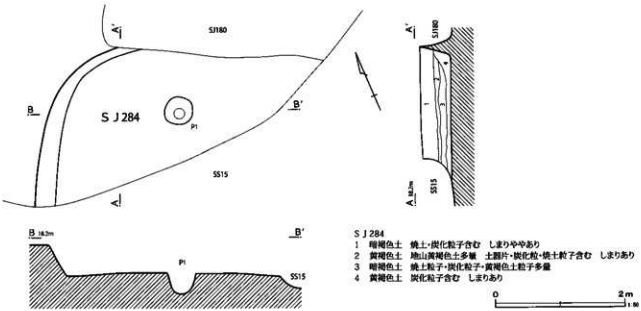
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	弥生	壺	(18.0)	6.8	—	CGJ	30	普通	にぶい黄橙	№2	
2	弥生	壺	—	5.2	7.0	ACJ	55	良好	暗赤褐		
3	弥生	壺	—	2.9	(8.3)	CHIJK	35	普通	赤褐	№7	
4	弥生	甕	—	4.7	—	AEGHIKM	5	普通	にぶい褐	内外面煤付着	
5	弥生	壺	—	4.7	—	AEGHIK	5	普通	灰黄	№4	
6	石製品	砥石	長さ5.4　幅4.8　厚さ2.0　重さ13.2　石材　軽石								153-1

第275号住居跡（第40図）

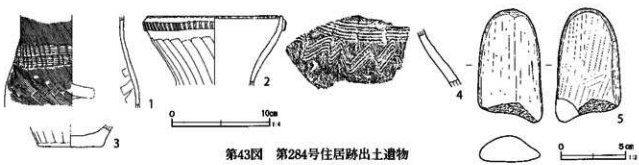
調査区の南側中央寄り、Y－56・57グリッドに位置する。第147・280号住居跡と重複する。

平面形は南側を調査区域外がかかるため判然としないが円形に近い。主軸方向はN－69°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸5.08m、短軸1.32m、深さ43.8cmを測る。床直上に炭化物層が薄く堆積していた。床面は平坦である。

遺物は、1が大きく外反する複合口縁の壺である。口端部にキザミを施している。頸部はハケ調整が残る。内面にも粗いハケ調整が残る。2は壺の底部である。ヘラナデが施されている。3は壺



第42図 第284号住居跡



第43図 第284号住居跡出土遺物

第16表 第284号住居跡出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	弥生	甕	—	9.4	—	ACE	30	普通	にぶい黄褐		
2	弥生	壺	(14.0)	7.1	—	CHI	20	普通	浅黄橙		
3	弥生	甕	—	2.3	6.6	EHIJK	80	普通	明黄褐		
4	弥生	甕	—	4.4	—	EHIJ	5	普通	灰褐		
5	石製品	敲石	長さ9.7	幅5.1	厚さ2.2	重さ122.4	石材	砂岩			

の底部である。ハケ調整が残る。4は甕の胴部である。7本1単位の櫛描直線文を施文している。器面にハケ調整が残る。5は壺の頸部である。櫛描直線文とその下に振幅の短い櫛描波状文を施文している。6は砥石である。

第284号住居跡（第42・43図）

調査区の南側中央寄り、X－57・58グリッドに位置する。第180号住居跡、第15号墳と重複する。北西1mに第181号住居跡がある。

平面形は重複遺構がある為、判然としない。主軸方向はN－65°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸3.42m、短軸2.01m、深さ48.0cmを測る。

施設はピットのみの検出であった。径42.0cm、深さ30.6cmを測る。

遺物は、1が甕で、頸部と胴部の境界に櫛描簾状文を2段施文している。2は緩やかに内湾する複合口縁の壺である。口端部内面に工具による押捺が廻る。口縁部外面に刺突列を設けている。頸部は無文でハケ調整が残る。3は甕の底部である。4は甕の頸部である。5本1単位の櫛描簾状文とその上下に簾状文を切って櫛描波状文を施文している。5は敲石である。

2．古墳時代の住居跡

古墳時代前期の集落は、調査区全体に広がり、竪穴住居跡163軒を検出した。住居跡は、重複が激しく、重層的に検出されることから平面プランの検出が難しく、断面観察を優先的に行い、その結果から平面形を確定した。このため、ほとんどの住居跡にトレンチを入れた。住居跡の主軸方向は、集落の西側に存在する河川跡（第48・79号溝跡）に影響される。集落域は蛇行する河川跡に削られた埋没台地の、台地縁辺部まで広がっていた。

住居跡からの出土土器は、多種多様性が大きく、細かな縄文をほどこされた吉ヶ谷系の土器と、いわゆる五領式土器が出土する。五領式土器は、畿内系・近江系・東海系・北陸系・山陰系などの土器模倣によって成立したと見られる。

第141号住居跡からは「5」の字状口縁甕、千種甕、第148・174号住居跡からは東海地方の大廓式土器を検出し、このほか第148号住居跡から伊勢湾岸の二重口縁壺、在地の吉ヶ谷式土器の大型壺などが出土した。第161号住居跡からはパレス高坏、第203号住居跡からも小型パレス高坏を出土した。第182・183・202・230号住居跡からはパレス壺を出土した。第186・197号住居跡からは大型器台、第193号住居跡からは吉ヶ谷系の無文甕が出土した。

また、第196・241・248・251・259・262・267・271・273・293・295・296・302・308号住居跡からは東海系のS字状口縁甕を出土したが、いずれも、S字の器肉厚く形態がだれた状態である。第141・179・206号住居跡からは鉢型の多孔甑を出土、第222・229号住居跡からは直口壺が出土した。第234号住居跡からは北陸系土器が多く、S字状口縁甕、複合口縁壺、台付甕、甕、口唇部にキザミをもつ素口縁甕、千種甕、近江系の受口状口縁甕、北陸系の小型であるが、「5」の字状口縁甕、吉ヶ谷系甕、装飾器台、器台、二重口縁壺などが出土した。

第120号住居跡（第45～50図）

調査区の南側西寄り、V・W－54・55グリッドに位置する。第220・228号住居跡と重複する。北西側には第229号住居跡、北東側に第221号住居跡がある。断面観察により、第228号が最も下位に確認され古く、その上に第220号が造られ、これを壊して第120号が造られていることが分かる。

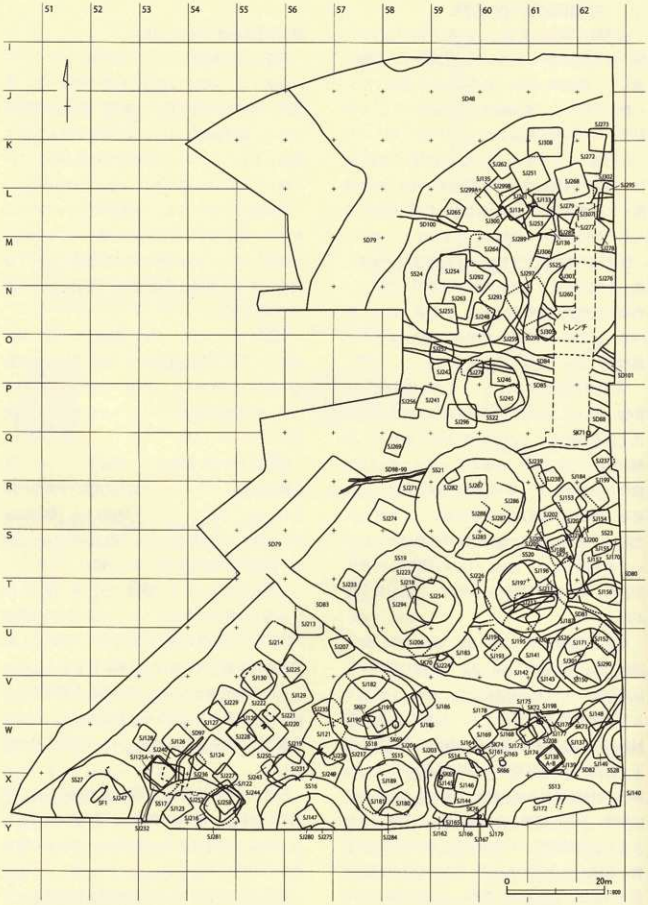
平面形は方形である。主軸方向はN－47°－Eを指す。北に対してほぼ斜めに傾く。この方向は、北西側に存在する河川跡の第79号溝跡に並行する向きである。規模は長軸7.26m、短軸7.15m、深さ25.8cmを測る。

床面は平坦である。カマド周囲はやや硬く引き締まっていた。覆土は、カマド部分にはカマド構築の崩落土が堆積していたが、住居跡は全体がほぼ均一の黄褐色の粘土ブロックを多く含む暗灰褐色土で覆われていた。

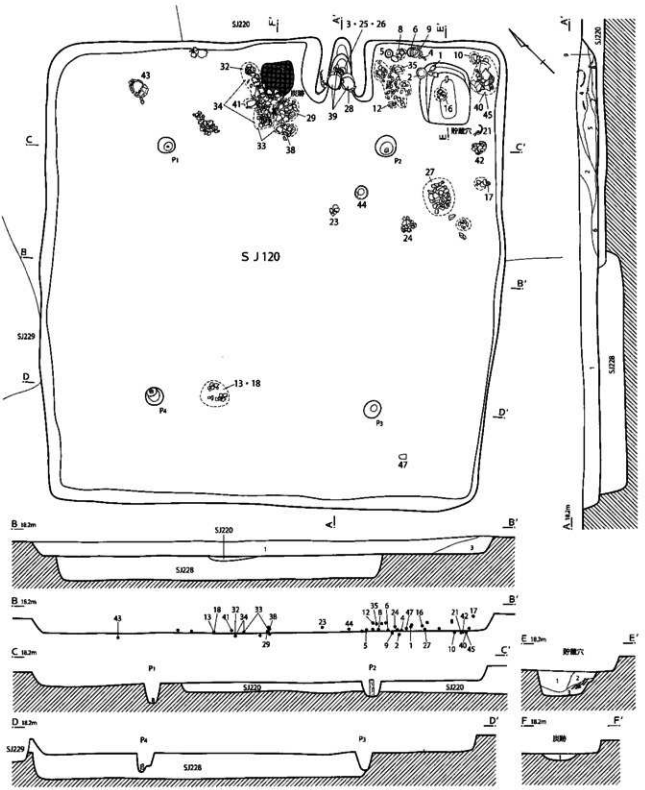
施設はカマド、炭溜まり、貯蔵穴、ピット4基を検出した。カマドは、北東側の壁の中央やや南寄りに設けられている。全長101.4cm、幅76.0cm、深さ36.0cm、燃焼部幅33.0cm、焚口部幅43.0cmを測る。両袖が住居跡内に長く伸び残存していた。一方、煙道は壁部分までは確認できたが、屋外に伸びる部分は検出されなかった。カマド内には横並びの状態で二個体の甕が設置されたまま出土した。設置された甕の直下には、支脚に使われていたとみられる埦が検出された。焚口部から燃焼部にかけては、床面からほぼ平坦に伸びている。カマド左側に浅く掘り窪んだピット内から炭溜まりを検出した。

貯蔵穴は東に位置し、形態は長方形である。貯蔵穴の規模は、径76.5×93.5cm、深さ37.4cmである。ピットは4基検出され、直径26.0～33.0cm、深さ23.0～29.0cmである。

遺物の出土状況は、当時の生活を復元する上で貴重な様相を示していた。まず、カマド内には、



第44図　反町遺跡３次全体図（古墳時代住居跡）



S J 120

1 暗灰褐色土　黄褐色粘土ブロック多量　粒子細かい　粘性強い

2 暗灰褐色土　1層と異なり粘土含む

3 淡灰白色土　粒子細かく粘性強い

カマド

4 暗褐色土　炭化物・焼土粒子微量　しまり強い

5 暗褐色土　炭化物・焼土粒子4層より多量　灰色おびる　しまり強い

6 暗灰褐色土　炭化物・焼土粒子微量　灰まじり　しまり強い

7 暗褐色土　炭化物微量　焼土粒子・焼土ブロック多量　しまり強い

8 灰色土　灰　炭化物上体層　しまり弱い

9 赤褐色土　焼土ブロック主体　火井崩落土

貯蔵穴

1 黄褐色土　黄褐色粒子・炭化粒子含む　しまりややあり

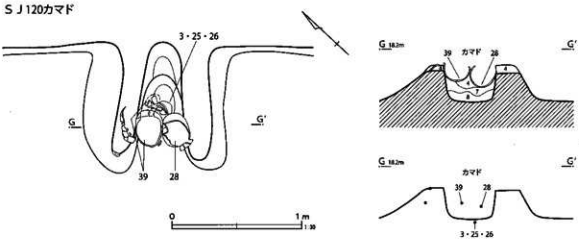
2 黄褐色土　黄褐色土主体　炭化粒子少量

3 灰褐色土　粘土質　炭化粒子少量

炭跡

1 黒褐色土　炭化物・灰を主体　焼土粒子・ブロック混入

第45図　第120号住居跡（1）



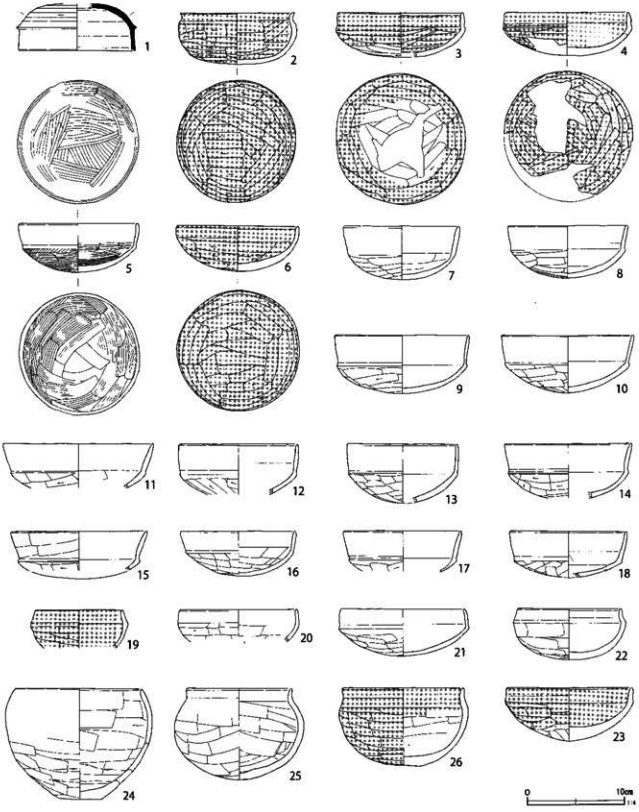
第46図　第120号住居跡（2）

使用した状況と推定される甕28・39が二つ掛けの横並びで検出された。カマド左側には、煮沸用具の甕、小型甕、甑類がまとまった状況で出土した。一方、カマド右側には供善用の坏蓋1、坏2～9・12・19、埦類25・26がまとまって出土した。また、貯蔵穴内からは、甕30と坏14・16を出土し、北東隅に大型甑40が、さらに、貯蔵穴の前提部には、坏17・21・23、埦24、小型甕42、甕27、壺44が検出され、貯蔵・調理用土器とみられる。そのほかの空間部分からは土器の出土は少なく、ピット4付近から坏2点13・18を検出した。

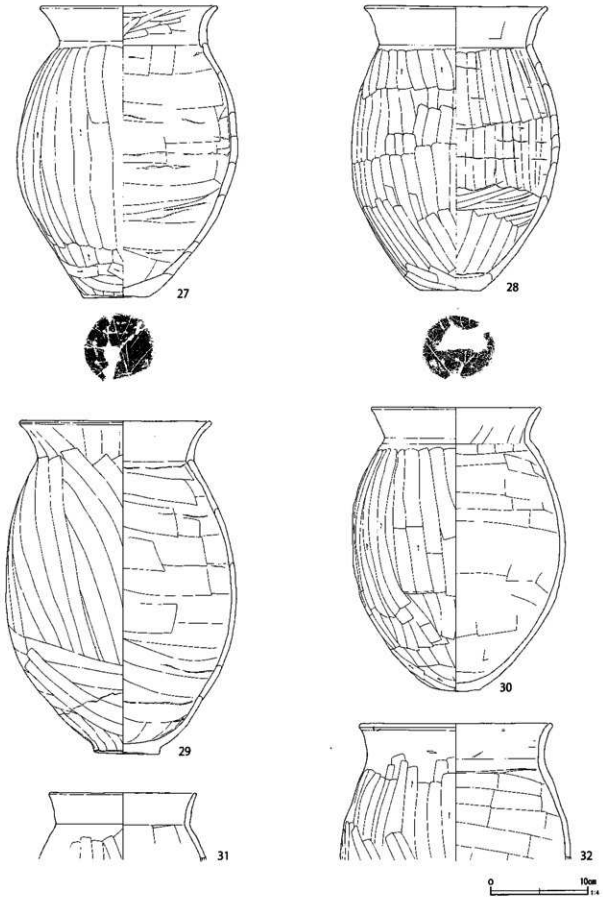
遺物は、古墳時代後期に相当する。坏類は須恵器坏身、坏蓋模倣の特徴ある土器、いわゆる、模倣坏が定量出土する。1は陶邑産須恵器蓋でTK23形式である。2～23は土師器坏である。2は比企型坏の原初形態で口唇部が緩やかに屈曲する。3～6、19～23は身模倣坏、7～15・17・18は蓋模倣坏である。24～26は埦である。27～39・45は甕である。形態は口縁部が緩く「く」の字状に開いて立ち上がる。胴部は中位および下半に最大径をもつ。調整は口縁部横ナデ、胴部外面縦方向のヘラケズリ、内面は横方向のヘラナデ調整されるものが多くみられる。底部は平底で木葉痕が見られるものもある。40・41は甑である。42は小型甕、43・44・46は壺である。47～49は砥石である。

第17表　第120号住居跡出土遺物観察表（第47～50図）

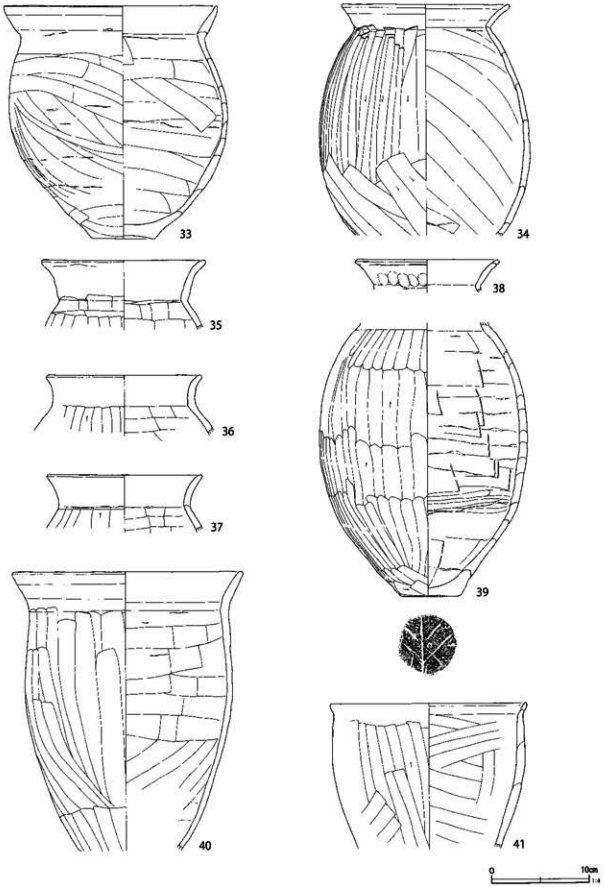
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	蓋	(12.0)	4.8	－	IK	30	良好	灰	陶邑　TK23　№28	
2	土師器	坏	11.9	5.2	－	ACDEGHIJ	100	良好	にぶい橙	比企型坏　赤彩　№31	142-1
3	土師器	坏	13.0	4.8	－	ACEHIJ	95	良好	橙	身模倣坏　赤彩　カマド№5	142-2
4	土師器	坏	12.7	4.4	－	DIK	70	良好	赤褐	身模倣坏　赤彩　№43	142-3
5	土師器	坏	12.1	5.0	－	ABCEHIM	100	普通	橙	身模倣坏　№37	142-4
6	土師器	坏	12.3	4.6	－	ACDEGHIJ	95	普通	浅黄橙	身模倣坏　赤彩　№34	142-5
7	土師器	坏	(11.8)	5.4	－	ACEHIK	70	普通	橙	蓋模倣坏　カマド	142-6
8	土師器	坏	12.2	5.3	－	ABCDEHI	50	普通	明赤褐	蓋模倣坏　№35	142-7
9	土師器	坏	13.8	5.9	－	AEHI	80	普通	にぶい赤褐	蓋模倣坏　№33	142-8
10	土師器	坏	13.6	5.8	－	ACDEHI	75	良好	橙	蓋模倣坏　№25	142-9
11	土師器	坏	(15.4)	4.6	－	AEHIJK	10	普通	橙	蓋模倣坏　器面磨滅　SJ220	
12	土師器	坏	(12.2)	5.2	－	CHI	20	普通	橙	蓋模倣坏　№39　カマド	
13	土師器	坏	11.4	6.0	－	ACHI	50	普通	にぶい橙	蓋模倣坏　№12	142-10



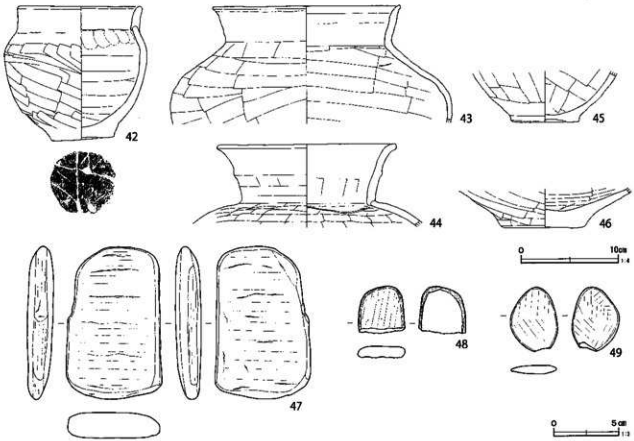
第47図　第120号住居跡出土遺物（1）



第48図　第120号住居跡出土遺物（2）



第49図　第120号住居跡出土遺物（3）



第50図　第120号住居跡出土遺物（4）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　考	図版
14	土師器	坏	(13.0)	5.6	—	ADEHK	35	普通	にぶい橙	蓋模倣坏　貯蔵穴	
15	土師器	坏	(14.0)	4.0	—	AEGHIJK	15	普通	橙	蓋模倣坏　SJ220	
16	土師器	坏	(11.7)	4.6	—	AEHIJK	80	普通	にぶい橙	模倣坏　No.30	143-1
17	土師器	坏	(12.0)	4.2	—	AEGHIK	20	普通	橙	蓋模倣坏　No.19	
18	土師器	坏	(12.0)	4.7	—	DHI	45	普通	橙	蓋模倣坏　No.12	143-2
19	土師器	坏	(9.0)	3.9	—	AEIJK	20	普通	橙	身模倣坏　赤彩　覆土	
20	土師器	坏	(12.0)	3.3	—	ADEHJK	20	普通	橙	身模倣坏　覆土	
21	土師器	坏	12.5	4.8	—	ABEH	70	普通	明赤褐	身模倣坏　No.22	143-3
22	土師器	坏	10.8	5.2	—	ACHI	70	普通	橙	身模倣坏　覆土	143-4
23	土師器	坏	12.8	5.5	—	ACHI	70	普通	にぶい褐	身模倣坏　赤彩　No.23	143-5
24	土師器	埦	12.9	11.3	4.3	ACEGH	90	普通	明赤褐	外面煤付着　No.15	119-1
25	土師器	埦	10.8	9.3	—	ACEHI	100	普通	にぶい橙	カマド　No.5	119-2
26	土師器	埦	12.4	7.9	3.1	ACEHIJK	60	普通	橙	赤彩　カマドNo.5	119-3
27	土師器	甕	17.8	30.1	7.0	AEGHIJK	90	普通	にぶい橙	木葉痕　底部外面煤付着	108-1
28	土師器	甕	(18.4)	29.1	6.2	AEGHIJK	75	良好	明赤褐	木葉痕　カマド	108-2
29	土師器	甕	19.4	34.1	6.7	AEGHIKM	70	普通	にぶい褐	No.8　カマド	108-3
30	土師器	甕	17.1	29.2	5.1	ACEHIJK	95	良好	にぶい橙	貯蔵穴	108-4
31	土師器	甕	(15.1)	6.8	—	ACEHIK	10	普通	にぶい橙	雲母目立つ　貯蔵穴	
32	土師器	甕	19.3	14.2	—	CEHIK	80	普通	明赤褐	No.5	
33	土師器	甕	(21.8)	23.9	6.4	AEGHIKM	65	普通	にぶい褐	内面煤付着　No.7・9	
34	土師器	甕	17.1	23.8	—	AGI	60	普通	にぶい橙	赤彩　No.5・7	108-5
35	土師器	甕	(16.8)	7.1	—	AEHIK	25	良好	にぶい赤褐	No.38	
36	土師器	甕	(15.8)	6.2	—	ACEHIM	10	普通	にぶい赤褐	カマド	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
37	土師器	甕	(15.8)	5.9	—	ADEHI	10	普通	にぶい褐		
38	土師器	甕	(14.5)	3.4	—	EHIJK	15	普通	にぶい黄橙	№10	
39	土師器	甕	—	28.2	5.8	AEGHIK	70	良好	にぶい赤褐	木葉痕　カマド	
40	土師器	甑	23.1	28.7	—	ACEGHIK	90	良好	にぶい橙	底部外面煤付着　№26	139-1
41	土師器	甑	(20.0)	14.9	—	CEHIJ	20	普通	にぶい橙	№6	
42	土師器	小型甕	12.2	12.6	6.4	AEHIJ	80	普通	にぶい赤褐	木葉痕　№21	116-1
43	土師器	壺	19.1	12.1	—	AEHIJK	70	良好	にぶい黄橙	覆土　№1	
44	土師器	壺	18.2	8.6	—	ACEHIJ	70	良好	にぶい橙	№24	
45	土師器	甕	—	5.2	(6.6)	AEHI	40	普通	橙	輪台状　風化顕著　№26	
46	土師器	壺	—	4.0	8.3	AEHIK	90	普通	橙		
47	石製品	砥石	長さ11.7　幅7.4　厚さ2.0　重さ305.1　石材　結晶片岩							№13	152-1
48	石製品	砥石	長さ3.8　幅3.7　厚さ1.0　重さ21.1　石材　砂岩								
49	石製品	砥石	長さ5.0　幅3.7　厚さ0.8　重さ18.2　石材　砂岩								

第121号住居跡（第51～54図）

調査区の南側中央寄り、V・W－56・57グリッドに位置する。第230・235・249号住居跡、第18号墳と重複する。本住居跡の6ｍほど西側に第120号住居跡が位置する。

平面形は長方形である。主軸方向はN－30°－Eを指す。規模は長軸7.35ｍ、短軸6.84ｍ、深さ31.2cmを測る。床面は平坦である。東西および北側の壁際には、焼土溜まりを検出した。

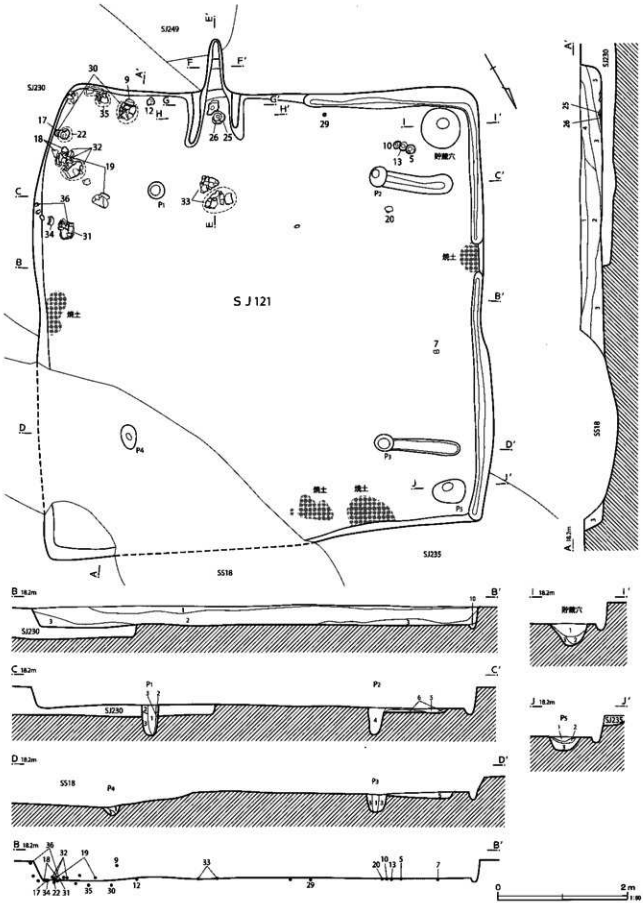
施設は壁周溝、カマド、貯蔵穴、ピット5基を検出した。壁周溝は南壁から西壁に沿って確認された。幅0.14～0.30ｍ、深さ7.7～10.0cmを測る。カマドは南側に位置し、全長1.64ｍ、幅0.83ｍ、燃焼部幅0.40ｍ、深さ39.0cm、燃成部幅0.74ｍ、深さ33.0cm、煙道部幅0.82ｍ、深さ18.0cmを測る。カマド掛け口の支脚として高坏が逆位で設置されていた。転用支脚である。また、焚き口付近から甕がつぶれた状態で検出した。

貯蔵穴は西コーナーに位置し、円形を呈している。規模は、径62.0cm、深さ33.0cmを測る。ピットは5基検出し、ピット1～5は径26.0～50.0cm、深さ16.5～45.0cmを測る。ピット2は径26.0cm、深さ40.0cmを測る。ピット2から西壁に向かって住居跡内の床に仕切り溝が伸びていた。ピット3は径21.0cm、深さ27.0cmを測る。ピット2同様、ピット3からも西壁に向かって住居跡内の床に仕切り溝が確認された。

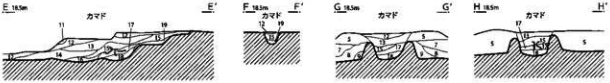
遺物の出土状況は、カマドを中心に左右で器種構成が異なる。カマド左側の東コーナー部には、多くの土器が出土している。これらの器種は、若干の坏類が検出されているものの主に甕・鉢・小型壺類が多く、煮沸・調理用器種で構成されている。また、右側の南西コーナー部には、貯蔵穴があり、須恵器坏蓋・土師器坏・壺類が、さらに、貯蔵穴の前面には、三点の坏が重なるように出土し、この部分は、貯蔵・供善器種で構成されている。さらに、カマド内には、高坏が逆位の状態で検出され、支脚として使用されたものである。なお、カマド前底部には大型甑がつぶれた状態で検出された。このように、当時の使用状況が復元できる出土状況である。

なお、カマド右側の南壁中央部から滑石製紡錘車が出土した。

遺物は、1～4が須恵器蓋である。いずれもTK208～23段階で口唇部短い、東海産か。5～7は内斜口縁の坏である。8～12・15・16は蓋模倣坏、13は身模倣坏、14は比企型坏である。18は埦、19～21は壺で、19は口縁部が外反し口唇部外面に面をもつ。胴部は球形で平底である。24～26は高坏である。坏部の器高浅く低脚である。27・28は土玉、29は滑石製紡錘車である。30～32は甕である。30・31は口縁部が上方に直線的に立ちあがり、



第51図　第121号住居跡（1）



S J 121
1 淡灰色土　炭化物あり　粒子細かい　粘性強い
2 黒色土　黄褐色土ブロック多量　粒子細かい
3 淡黄褐色土　炭化粒子多量　粘性強い
　住居の貼り床　固くしまっている　黄褐色の粘土を張る
4 灰褐色土　粒子粗い　焼土粒子含む　粘性強い
5 暗褐色土　焼土粒子多量（カマド崩）　粘性強い
6 暗黒色土　炭化物なし　粘性とても強い　古墳の周溝の覆土
7 暗褐色土　黄褐色粒子・炭化粒子含む　しまりややあり
8 暗褐色土　黄褐色粒子・粘土ブロック含む　しまりあり
9 暗褐色土　焼土粒子・炭化粒子含む　粘土ブロック混入
　しまり・粘性ややあり
10 暗褐色土　黄褐色土・炭化粒子含む　しまりやや弱い

カマド
11 暗褐色土　焼土粒子含む　しまりややあり
12 暗褐色土　焼土粒子・炭化粒子含む　しまりやや弱い
13 暗褐色土　焼土粒子・炭化粒子含む　しまりややあり
14 黄褐色土　黄褐色土粒土ブロック・焼土ブロック・炭化ブロック含む
　天井崩落土含む
15 茶褐色土　焼土ブロック(3～4cm)多量　炭化粒子・黄褐色粘土粒子含む
　天井崩落土含む
16 黒褐色土　黒色炭化物主体　焼土粒子・焼土ブロック含む　炭化層
17 茶褐色土　茶褐色土主体　焼土ブロック含む　15層に近似
18 黄褐色土　黄褐色土主体　焼土粒子含む
19 黄褐色土　黄褐色土主体　炭化粒子含む

貯蔵穴
1 暗褐色土　炭化粒子・黄褐色粒子含む　焼土粒子混入
　1層の底面に炭化物が層状に堆積
2 暗褐色土　黄褐色粒子・炭化粒子含む　しまりややあり
3 黄褐色土　地山土主体

ピット1～4
1 暗褐色土　炭化粒子含む　しまり弱い（柱痕）
2 褐色土　黄褐色土・炭化粒子含む　しまりややあり
3 褐色土　黄褐色土多量　しまりあり
4 褐色土　炭化粒子・黄褐色土粒子含む　しまり弱い
5 褐色土　炭化粒子含む　黄褐色土混入
6 黄褐色土　黄褐色土主体　しまり・粘性あり

ピット5
1 黒褐色土　炭化粒子多量　しまりやや弱い
2 暗褐色土　炭褐粒子少量　しまりややあり
3 暗褐色土　黄褐色粒子・炭化粒子含む　しまり弱い

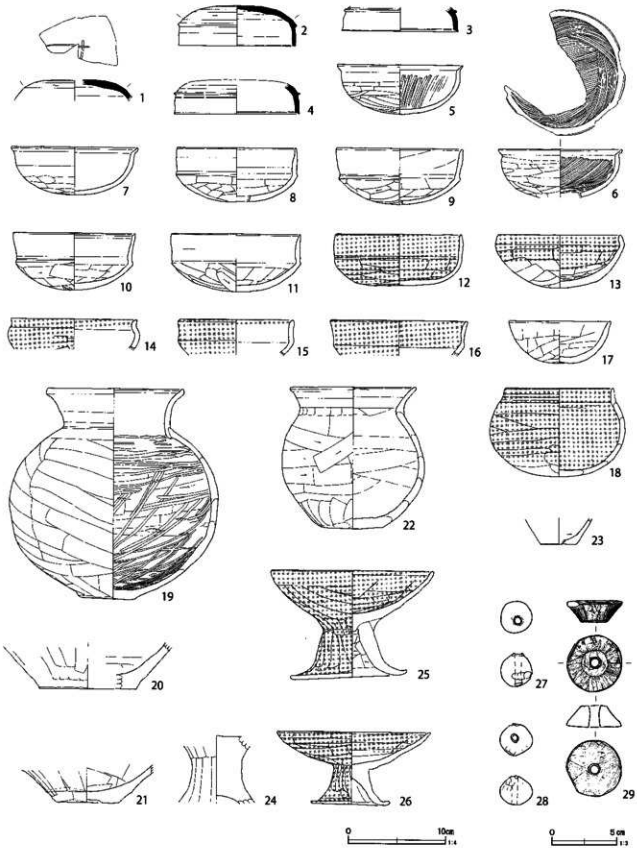
第52図　第121号住居跡（2）

やや外反する。胴部下半に最大径をもつ。32は口縁部が外反して立ちあがる。胴部中位に最大径をもつ。33は大型甑である。胴部中位に把手が付く。

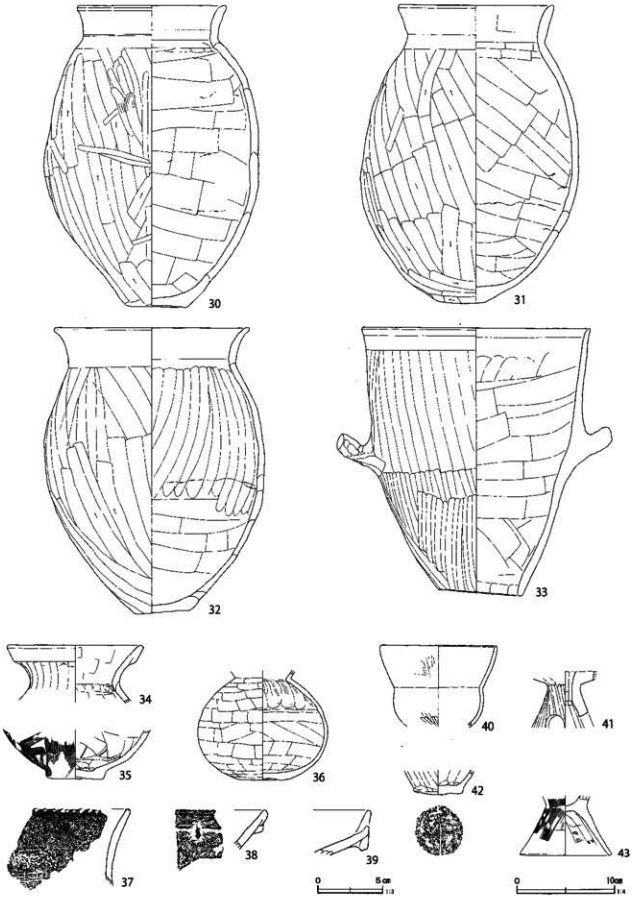
34～41は混入遺物と見られる。34～36は壺である。37は緩やかに外反する甕口縁部である。口端部にキザミを施し頸部に櫛描波状文と櫛描簾状文を施文している。38は直線的に外反する折返し口縁の壺口縁部である。口縁下端に楕円形の浮文を貼付している。39は有段口縁の壺口縁部である。口端部は接合部分で欠損している。口縁部に櫛描波状文を施文している。頸部は無文である。40は坩で口縁部が内湾気味に立ち上がり口径の方が体部径よりも大きい。42は甕底部で木葉痕が残る。41は器台、43は台付甕の台部である。

第18表　第121号住居跡出土遺物観察表（第53・54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	須恵器	蓋	－	2.2	－	EIK	25	良好	灰		
2	須恵器	蓋	(12.2)	4.1	－	EIKL	30	良好	灰	陶色　TK208～(TK23)	
3	須恵器	蓋	(12.0)	2.5	－	EIK	5	良好	灰	陶色	
4	須恵器	蓋	(13.0)	3.1	－	IK	15	良好	明青灰	陶色	
5	土師器	坏	13.0	5.0	－	AHIK	100	良好	橙	内外面風化　No3	143-6
6	土師器	坏	(12.7)	4.9	－	ACEHIJK	50	普通	橙		143-7・8
7	土師器	坏	(13.0)	4.9	－	AHI	25	不良	橙	No30	
8	土師器	坏	(12.4)	5.5	－	AEHIJK	75	普通	橙	蓋模倣坏　粒径細かく精選	143-9
9	土師器	坏	(13.0)	5.7	－	ACEHIJK	45	良好	明赤褐	蓋模倣坏　No9	143-10
10	土師器	坏	12.6	5.8	－	CEHIJK	85	良好	浅黄橙	蓋模倣坏　No5	144-1
11	土師器	坏	(13.5)	5.9	－	AHIJK	75	普通	にぶい赤褐	蓋模倣坏	144-2
12	土師器	坏	(12.9)	5.2	－	AEHIK	60	良好	赤褐	蓋模倣坏　赤彩　No8	144-3
13	土師器	坏	12.8	5.4	－	AEGHIJK	100	良好	にぶい橙	身模倣坏　赤彩　No4	144-4
14	土師器	坏	(12.9)	3.1	－	AIK	10	普通	にぶい橙	比企型坏　赤彩	
15	土師器	坏	(11.6)	3.6	－	ACDE	20	不良	明赤褐	蓋模倣坏　赤彩　貯蔵穴	



第53図　第121号住居跡出土遺物（1）



第54図　第121号住居跡出土遺物（２）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
16	土師器	坏	(14.0)	3.6	—	ACEHIK	30	普通	橙	蓋模倣坏　赤彩　貯蔵穴	
17	土師器	埦	10.5	4.3	2.2	AEHIJ	95	良好	橙	№15	119-4
18	土師器	埦	11.0	9.0	—	EHIK	90	普通	にぶい橙	赤彩　№17・18	119-5
19	土師器	壺	13.9	21.4	5.7	AEGHIK	90	普通	にぶい褐	外面胴部～底部煤付着	84-1
20	土師器	壺	—	4.8	(14.0)	AEHIK	30	普通	にぶい橙	№2	
21	土師器	壺	—	4.1	6.1	AEHIJK	60	普通	にぶい橙	輪台状	
22	土師器	小型甕	12.9	14.4	6.5	AEGHIJ	70	良好	にぶい赤褐	№14	116-2
23	土師器	小型甕	—	2.7	(3.6)	CEI	25	普通	にぶい黄橙	カマド	
24	土師器	高坏	—	6.9	—	ACEHIKM	90	普通	橙		
25	土師器	高坏	16.6	10.9	12.1	ADEHIJK	85	良好	にぶい橙	赤彩　№32	127-1
26	土師器	高坏	15.8	7.5	8.0	AEHIJK	95	良好	橙	赤彩　№33　カマド	127-2
27	土製品	土玉	2.5	2.6	0.5	DGI	100	良好	にぶい橙	重さ14.0	148-2
28	土製品	上玉	2.4	2.2	0.5	DGIK	100	良好	橙	重さ12.2	148-2
29	石製品	紡錘車	長さ4.3	幅4.2	厚さ1.7	重さ37.8　石材　滑石				№1	151-1
30	土師器	甕	15.0	31.1	6.4	AEHIJK	70	良好	にぶい橙	外面煤付着　カマド	108-6
31	土師器	甕	15.8	30.5	4.6	AEHIJK	80	良好	にぶい橙	№25	109-1
32	土師器	甕	19.6	29.4	5.3	ACEHIJK	90	良好	橙	№19～21・31・81	109-2
33	土師器	甑	(23.4)	27.2	8.2	AEHIJK	75	良好	明赤褐	№6・7	139-2
34	土師器	壺	(13.4)	5.9	—	CEGHIK	30	普通	橙	№26	
35	土師器	壺	—	5.1	5.8	EHIK	50	普通	にぶい黄橙	№11	
36	土師器	壺	—	11.2	3.9	AEGHIJK	30	普通	明赤褐	№25・29	
37	土師器	壺	—	5.8	—	AEHI	5	普通	にぶい赤褐		
38	土師器	壺	—	3.0	—	ACIK	5	普通	にぶい橙		
39	土師器	壺	—	2.2	—	AEH	5	普通	淡黄		
40	土師器	坩	(11.9)	8.3	—	EHIK	20	普通	橙		
41	土師器	器台	—	5.7	—	AEHIJK	55	普通	橙	風化顕著	
42	土師器	甕	—	2.5	5.0	ADEHIJ	70	良好	にぶい赤褐	木葉痕　煤付着	
43	土師器	台付甕	—	6.1	(9.0)	AIK	60	普通	橙		

第122号住居跡（第55・56図）

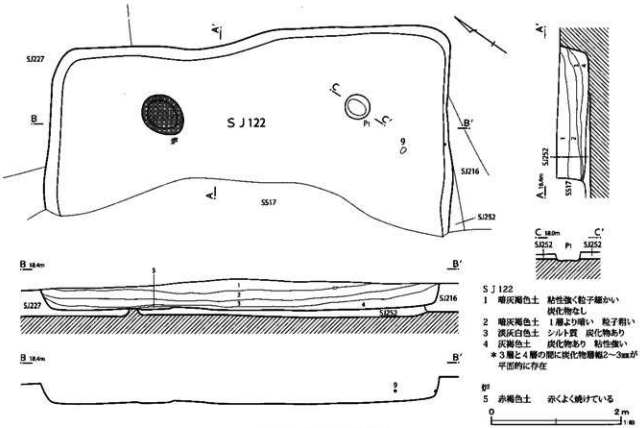
調査区の南側西寄り、X－54・55グリッドに位置する。第216・227・252・258住居跡と重複する。本住居跡の西側に第17号墳が位置し、西側半分が重複する。

新旧の関係は、断面観察や平面観察により、第17号墳が最も新しい。住居跡は、本住居跡が新しく、第216号住居跡が最も古く、第252・227号住居跡を壊して本住居跡が構築されている。

平面形は重複遺構があるため判然としないが、概ね方形である。主軸方向はN－35°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸6.12m、短軸2.31m、深さ48.0cmを測る。床面は、ほぼ平坦である。

施設は炉跡、ピットを検出した。炉跡は北側に寄った位置にあり、楕円形を呈している。規模は径54.0×70.0cm、深さ2.5cmを測る。また、東寄りのコーナーにピットを検出した。規模は径38.0cm、深さ10.7cmを測る。

遺物は、1が壺、2が甕、3・4が坩、5が鉢、6・7が高坏、13が補修孔をもつ鉢口縁部破片である。9～12は石器である。9・10は敲石、11・12は砥石である。8・14～19は弥生時代後期の土器片である。8は甕で口唇部キザミを施す。14は甕胴部である。櫛描波状文を施文している。15は直立気味の甕口縁部である。口端部にキザミを施し器面にハケ調整を行っている。16は口縁部が直線的に外反する折返し口縁の壺である。口縁下端に工具によるキザミを施し頸部にハケ調整を行っている。17は緩やかに外反する甕口縁部である。口端部内面にキザミを施し頸部に櫛描簾状文を施

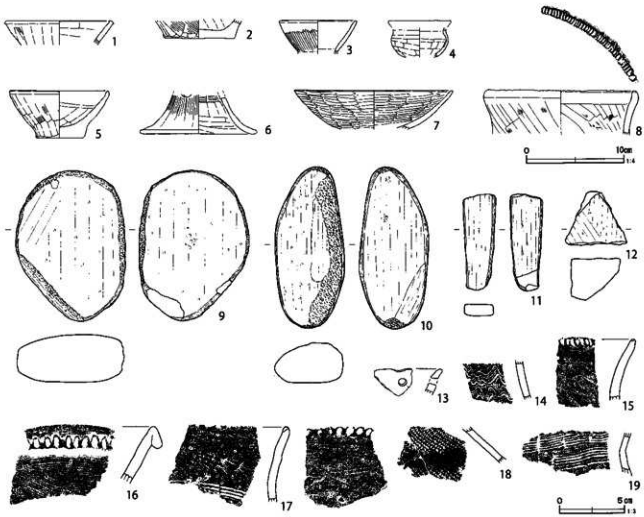


第55図　第122号住居跡

第19表　第122号住居跡出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(10.8)	2.5	－	AEHIJK	20	普通	灰白		
2	土師器	甕	－	1.9	7.2	AEHIJK	100	良好	にぶい褐		
3	土師器	坩	(8.0)	3.1	－	EHIJK	40	普通	にぶい橙	風化顕著	
4	土師器	坩	－	3.1	－	EHIJK	20	普通	にぶい橙		
5	土師器	鉢	(10.2)	4.8	4.8	ACDEHIJK	70	普通	にぶい橙		
6	土師器	高坏	－	4.1	(12.0)	AEHIKLM	30	普通	灰白	内外面風化	
7	土師器	高坏	(16.2)	4.0	－	AEHIJK	40	普通	浅黄橙		
8	弥生	甕	(15.0)	4.6	－	AEHIJ	30	普通	にぶい赤褐	№44　SS17	
9	石製品	敲石	長さ11.6	幅8.5	厚さ3.7	重さ551.4	石材	凝緑岩		№2	152-1
10	石製品	敲石	長さ12.4	幅5.4	厚さ3.3	重さ296.7	石材	砂岩			152-1
11	石製品	砥石	長さ7.4	幅2.6	厚さ1.0	重さ33.0	石材	結晶片岩			
12	石製品	砥石	長さ4.1	幅4.7	厚さ3.7	重さ59.3	石材	砂岩			
13	土師器	鉢	－	2.1	－	EHIK	5	普通	にぶい橙		
14	弥生	甕	－	3.0	－	CEIJK	5	普通	灰褐		
15	弥生	甕	－	4.6	－	AHIJK	5	普通	灰褐		
16	弥生	壺	－	4.4	－	AEHIJK	5	普通	橙		
17	弥生	甕	－	5.7	－	AEHIJK	5	普通	褐	内外面煤付着	
18	弥生	壺	－	4.0	－	ACIJK	5	普通	橙	赤彩	
19	弥生	壺	－	3.3	－	AEHIK	5	普通	浅黄橙		

文している。18は壺胴部上半である。無文帯を挟んでＲＬ単節縄文を２段施文している。無文部を赤彩している。19は壺頸部である。５本１単位の櫛描簾状文を２段以上施文している。下段の簾状文は簾止めの部分が曖昧である。



第56図　第122号住居跡出土遺物

第123号住居跡（第57～59図）

調査区の南側西寄り、X－53・54グリッドに位置する。第17号墳と重複する。東1mに第216号住居跡がある。

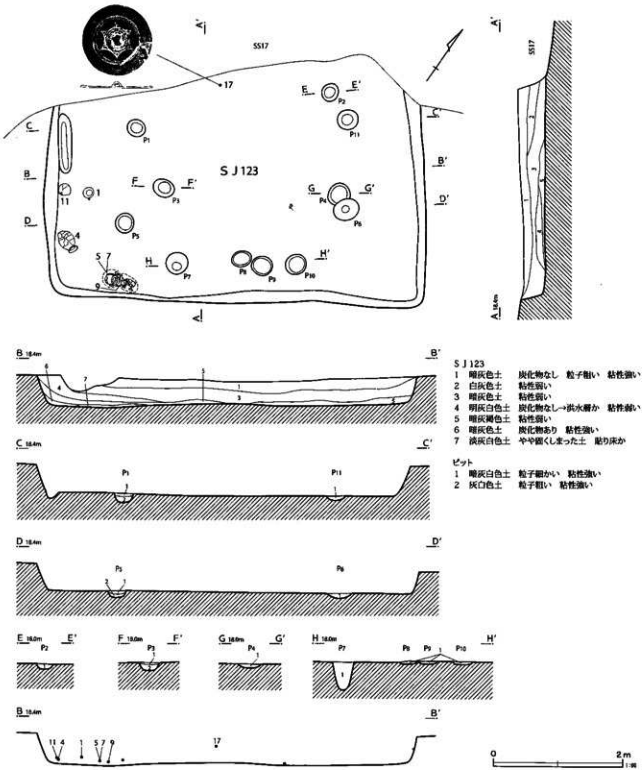
平面形は第17号墳と重複するため北側が判然としないが、概ね方形を呈する。主軸方向はN－55°－Eを指す。規模は残存する南北部分で、長軸5.89m、短軸3.68m、深さ42.0cmを測る。床面は平坦である。床直上には第5層の炭化物層が堆積していた。また、南東コーナー部付近には貼り床が認められた。

施設は壁周溝、ピット11基を検出した。径26.0～37.0cm、深さ3.0～44.0cmを測る。壁周溝は西壁沿いに認められた。幅24.0cm、深さ7.8cmを測る。

遺物の出土状況は、南コーナー部分を中心に甕・小型甕が検出され、西壁部分には高坏・小型壺が検出された。

遺物は、1が小型壺で胴部のみである。算盤玉状の形態だがやや下膨れ型である。2は壺の底部で木葉痕がある。3は大型の甕で口径が大きい。4は甕で口縁部が外反し口唇部が折り返され、外面に指圧痕が残る。胴部張りがあり中位に最大径をもつ。5・6・10は小型甕で、5は丸甕である。7～9は甕の破片である。

11は高坏、12は坩である。13は複合口縁の壺口縁部である。口縁部は無文である。14は緩やかに外湾する壺口縁部である。複合口縁である。口縁部にLR単節縄文を施文している。15は内湾する鉢である。口縁部を沈線で区画し、口縁部は細いLR単節縄文で施文している。また体部は無節L

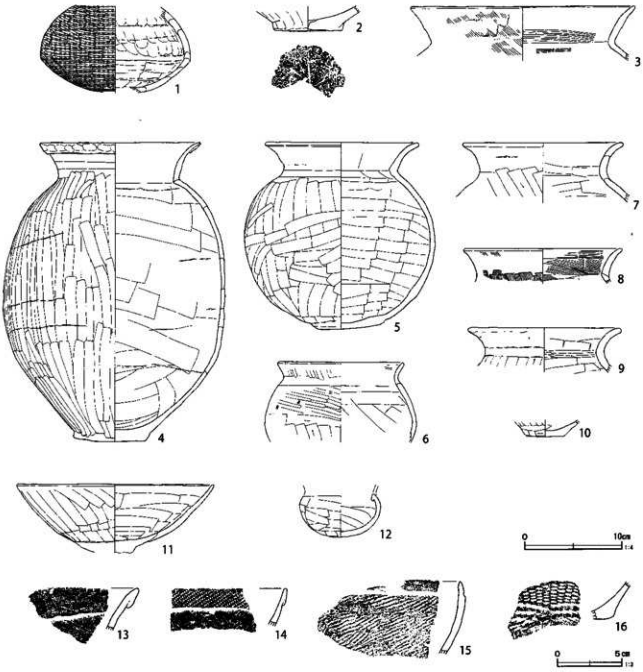


第57図　第123号住居跡

縄文を施文している。16は籠目圧痕の付いた壺底部である。底面は方形を呈す。古墳時代前期に該当するものと考えられる。

第123号住居跡出土内行花文鏡（第59図17）

17の内行花文鏡は、第17号墳の周溝確認調査のために設定したトレンチから鏡面を上にした状態で検出された。当初、第17号墳に伴うものと考えていたが、古墳の調査終了後に実施した下層遺構調査の結果、鏡出土地点の下層に住居跡（第123号住居跡）が存在することが確認されたため、住



第58図　第123号住居跡出土遺物（1）

居跡の覆土上層から出土したものであると判断した。鏡は、住居跡中央部の床面から27cmほど浮いた状態で出土しており、住居跡に直接伴うものとは言い難い。おそらく住居跡廃絶後、一定期間経った後に廃棄されたものか、あるいは溝跡、土壙等の別遺構に伴う可能性が考えられる。

直径7.5cmの内行花文鏡である。重量26.7ｇ、鏡縁部厚2.3mm、鏡体部分の厚さ0.8～1.0mmを測る。銅色は全体に黄味がかった青緑色を呈する。

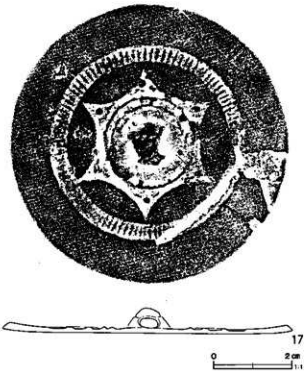
調査時のガジリによって生じた、鏡体を貫通する大きな破損箇所が櫛歯文帯部分にあるため周縁部は大きく歪んでいる。鏡面側の周縁部には無数の細かなひび割れがあり、ブロンズ病が進行している。布帛等の付着物は見られないが、赤色顔料が鏡面と櫛歯文帯の文様凹部に一部付着する。

鈕はやや小さめの半球形を呈し、径1.2cm、高さ0.5cmである。鈕孔は楕円形で、鈕孔下辺は鏡背面と高さが一致する。鈕孔縁は丸味をもち、鈕

孔を錆化した泥が塞いでいる。

鏡背は鈕の周りにやや不鮮明な円圏を二重に巡らし、内区文様は六弧の連弧文である。連弧文の間にはそれぞれ珠文が１つずつ配されているが、鈕孔開口部左下の珠文はほとんど見えない。珠文は平頂の小珠で、仔細に観察すると、鈕側に「八」の字状の細線がつき、「只」字状を呈しているものがある。これは舶載製内行花文鏡の単位文様の一つである結目状文の変化した文様の可能性もあり、注目される。内区外周部にはやや間隔の粗い櫛歯文帯を巡らし、外区へはわずかな段差をへて至っている。外区は幅1.2㎝の素文の平縁で、上面はわずかに凹んでいる。中心から外縁部に向かって1.0㎜ほどの反りをもつ。鏡背文様のうち、鈕孔開口方向の左側延長線上にあたる圏線、珠文、櫛歯文帯の一部に、鋳潰れや鋳上がりが甘くなっている箇所が目立つ。おそらく湯口に関連するものであろう。

本鏡は、鈕孔下辺が鏡背面と高さが一致することや外区上面が匙面をなす形態的な特徴から古墳時代前期の伝製鏡と考えられる。先学の分類に照らせば、森浩一氏のＡⅡ式（森1970）、清水康二氏のＢ１式（清水1994）に該当する。鏡背文様の構成は、大阪府御旅山古墳の内行花文鏡ｈ種（面径6.1㎝）に類似する。積極的な年代的根拠はないが、御旅山古墳が前期後葉前半に位置づけられることから、本鏡もそれに近い年代であろう。



第59図　第123号住居跡出土遺物（２）

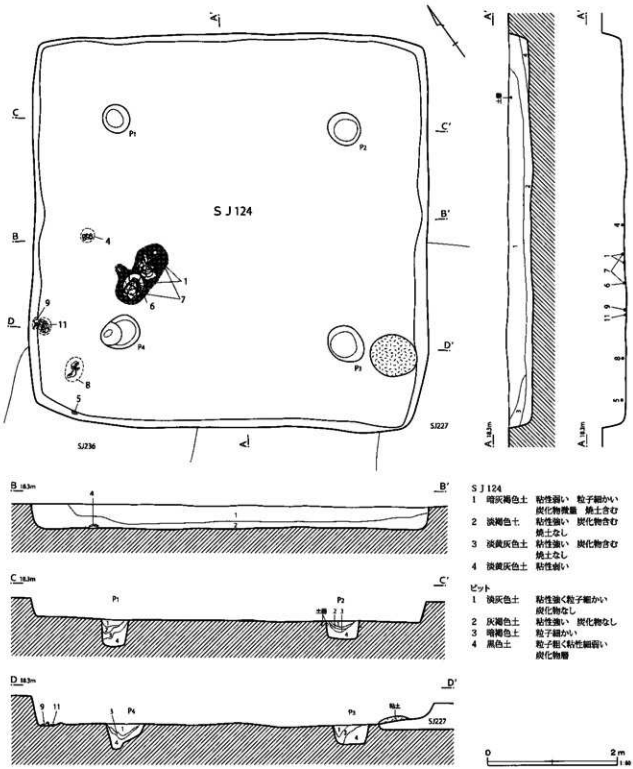
第20表　第123号住居跡出土遺物観察表（第58・59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	小型壺	－	8.7	－	ACDEGIJK	100	普通	にぶい橙	赤彩 No.1	93-1
2	土師器	壺	－	2.6	(7.0)	BCEHIJK	50	普通	橙	木葉痕	
3	土師器	甕	(23.8)	5.7	－	CEHIJ	15	普通	にぶい褐		
4	土師器	甕	16.2	30.6	7.3	AEGHIK	90	普通	にぶい褐	外面煤付着 No.3	109-3
5	土師器	小型甕	15.4	19.1	6.6	AEHIK	70	普通	褐灰	外面煤付着 No.4	116-3
6	土師器	小型甕	(12.7)	8.2	－	CEGHIK	30	普通	明赤褐	砂粒多	
7	土師器	甕	(16.1)	6.2	－	AEHIJK	30	普通	にぶい褐	No.4	
8	土師器	甕	(16.0)	3.5	－	AEGHIJ	5	普通	にぶい赤褐		
9	土師器	甕	(15.2)	4.6	－	CEGHIK	25	普通	にぶい橙	砂粒多　煤付着 No.7	
10	土師器	小型甕	－	1.7	3.7	CEHJK	90	普通	にぶい黄橙		
11	土師器	高坏	20.2	7.1	－	AEHIK	90	良好	にぶい橙	No.2	128-4
12	土師器	坩	－	4.4	－	ABCEHI	80	良好	にぶい黄橙		
13	土師器	壺	－	3.2	－	BCEK	5	普通	褐灰		
14	弥生	壺	－	2.9	－	CEHK	5	普通	にぶい褐		
15	弥生	鉢	－	5.5	－	AGHIJ	5	普通	にぶい黄橙		
16	土師器	壺	－	2.9	－	ACEGI	5	普通	にぶい黄橙	籠目文土器	
17	銅製品	鏡	伝製六弧内行花文鏡　直径7.5　重量26.7							覆土上層	202-1-5

第124号住居跡（第60・61図）

調査区の南側西寄り、W－54グリッドに位置する。第227・236号住居跡と重複する。本住居跡は、断面観察によっても明らかであるが、第227号住居跡を壊して構築されている。また、北1mに第127号住居跡、東1mに第120・228号住居跡がある。

平面形は方形である。主軸方向はN－36°－W



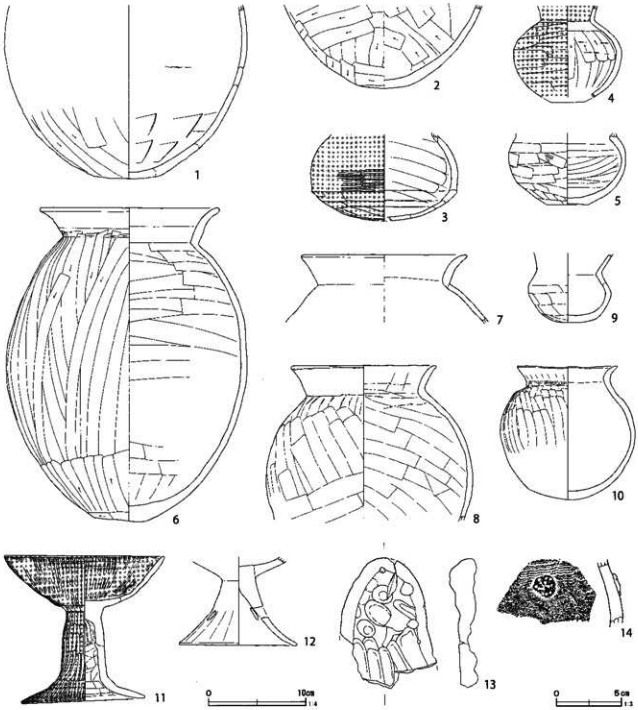
第60図　第124号住居跡

を指す。規模は、長軸6.16m、短軸6.00m、深さ40.2cmを測る。床面は、平坦である。東壁の南東コーナー寄りに粘土溜まりが検出された。西にあるピット4の北側には炭化物が床直上に検出された。

施設はピット4基を検出した。径44.0～62.0cm、深さ28.0～41.5cmを測る。炉跡は不明である。

遺物の出土状況は、ピット4の炭化物が検出された部分から甕類が出土し、南西コーナー部分に小型壺・甕、西壁際に高坏と小型壺を検出した。

遺物は、1～14を図示した。1・2は大型の壺である。3は下膨れの壺、4・5は小型壺、6～



第61図　第124号住居跡出土遺物

第21表　第124号住居跡出土遺物観察表（第61図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	－	17.8	7.0	AEHIK	60	普通	にぶい橙	№2・3	
2	土師器	壺	－	8.7	5.1	CEGIJL	40	良好	にぶい橙	チャート	
3	土師器	壺	－	9.0	－	AEG	45	良好	明赤褐	赤彩　黒斑	
4	土師器	小型壺	－	9.4	－	ACDEHIJL	40	普通	にぶい褐	赤彩　チャート	
5	土師器	小型壺	－	7.3	4.2	ACDEGHL	90	普通	にぶい褐	チャート　№8	
6	土師器	甕	18.0	32.3	4.9	ADEHIJK	90	普通	にぶい橙	№1	109-4
7	土師器	甕	16.6	7.0	－	EGHI	30	普通	橙	器面ざらつく　№1・2	
8	土師器	甕	14.7	15.9	－	AEHIJK	50	良好	にぶい褐	胴部外面煤付着　№7	109-5・6
9	土師器	坩	－	7.1	－	EG	70	不良	橙	器面ざらつく　胎土粗	137-1
10	土師器	小型甕	10.1	13.6	－	DEIJ	95	不良	赤黒	床直	116-4
11	土師器	高坏	16.5	14.7	(12.5)	AEHIJK	80	良好	にぶい橙	赤彩　№6	127-3
12	土師器	高坏	－	9.0	11.7	DEGH	60	普通	浅黄橙	石英多　二孔一対	
13	土製品	粘土板	－	－	－	CEGH	50	不良	にぶい黄橙	先端被熱　表面指押え	
14	弥生	壺	－	5.2	－	EG	5	普通	にぶい黄褐		

8は甕で、胴部に張りをもち中位に最大径がある。9は坩、10は小型甕、11は高坏で、柱状脚で端部が大きく開く、坏部および脚部外面は丁寧なミガキを施す。12は高坏脚部で二孔一対の透かしである。13は粘土板である。14は壺の胴部である。櫛描波状文を施文し、有孔の円形浮文を貼付している。

第125A号住居跡（第62・64・65図）

調査区の南側西寄り、W・X－53グリッドに位置する。第125B・232・240号住居跡、第17号墳、第97号溝跡と重複する。西1m内に第27号墳、北2mに第126・128号住居跡がある。

断面観察の結果、第4層直下に床面を確認し、第4層下層は125B号住居跡の覆土と判断した。第125A号住居跡が第125B号住居跡を切って構築されていた。

平面形は歪んだ長方形である。主軸方向はN－47°－Wを指す。規模は、残存する部分で、長軸7.03m、短軸5.22m、深さ42.0cmを測る。床面は、ほぼ平坦である。

遺物は、第65図19が南側の覆土中から検出された有稜高坏である。脚部長脚で脚端部は屈曲し開く形態である。古墳時代中期の和泉期の所産である。重複する第125B号住居跡からは、第64図に図示した古墳時代前期の五領期の遺物が出土した。出土遺物からも本住居跡が新しいことがわかる。

第125B号住居跡（第63～65図）

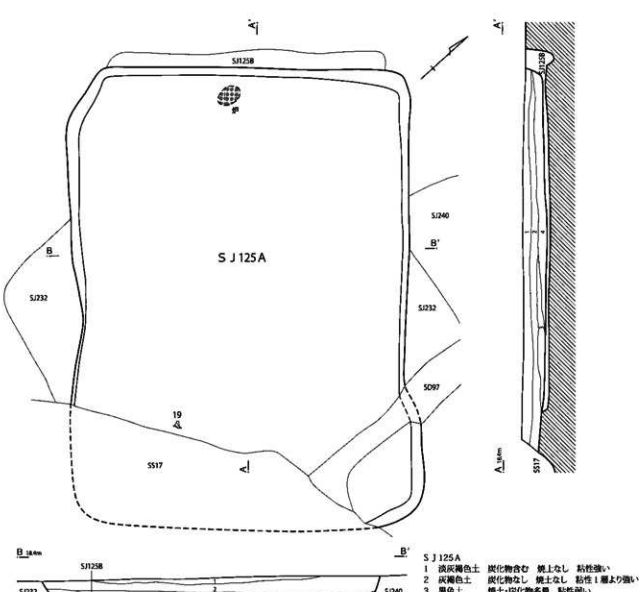
調査区の南側西寄り、W・X－53グリッドに位置する。第125A・232・240号住居跡、第17号墳、第97号溝跡と重複する。西1m内に第27号墳、北2mに第126・128号住居跡がある。

平面形は長方形である。主軸方向はN－47°－Wを指す。規模は、残存する部分で、長軸5.51m、短軸4.25m、深さ42.6cmを測る。床面は、平坦である。北壁の中央付近に焼土の堆積が見られた。

施設は炉跡、壁周溝、ピット4基を検出した。炉跡は北壁寄り中央に焼土の堆積部分が認められる範囲である。壁周溝は西壁、北西壁、北東壁沿いに認められた。幅13.0～26.0cm、深さ5.0～11.8cmを測る。ピットは径21.0～47.0cm、深さ3.9～7.3cmを測る。

遺物の出土状況は、南西コーナー部分のピット4付近に甕類がやや床面より高い位置につぶれた状態で検出された。また、南東コーナーには、壺類と吉ヶ谷の甕が検出された。ピット1とピット2の中間には、台付甕・甕・小型甕などの煮沸用具が検出された。

遺物は、2～4は小型壺である。2は口縁部が「ハ」の字状に大きく開き胴部は膨らむ。口縁部から胴部丁寧な縦方向のミガキを施す。5は壺、

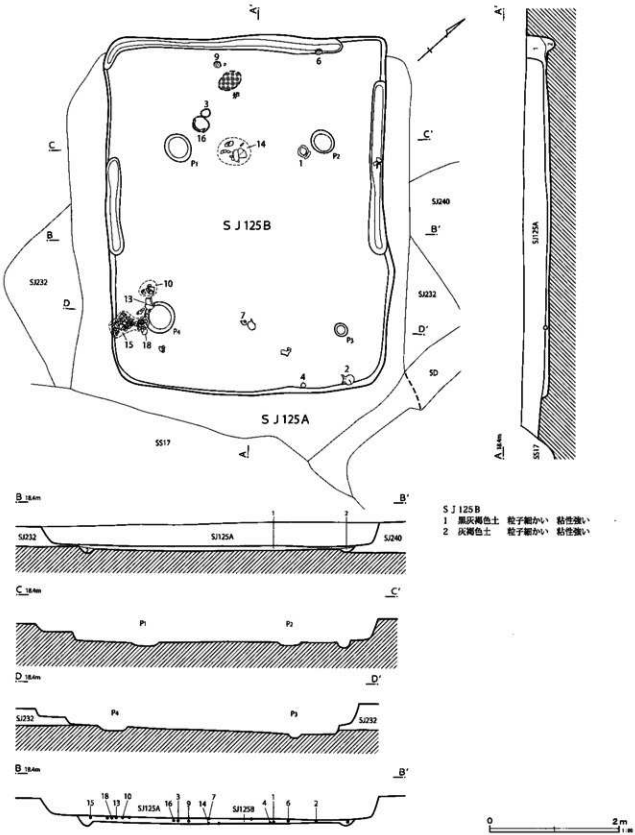


第62図　第125号住居跡（1）

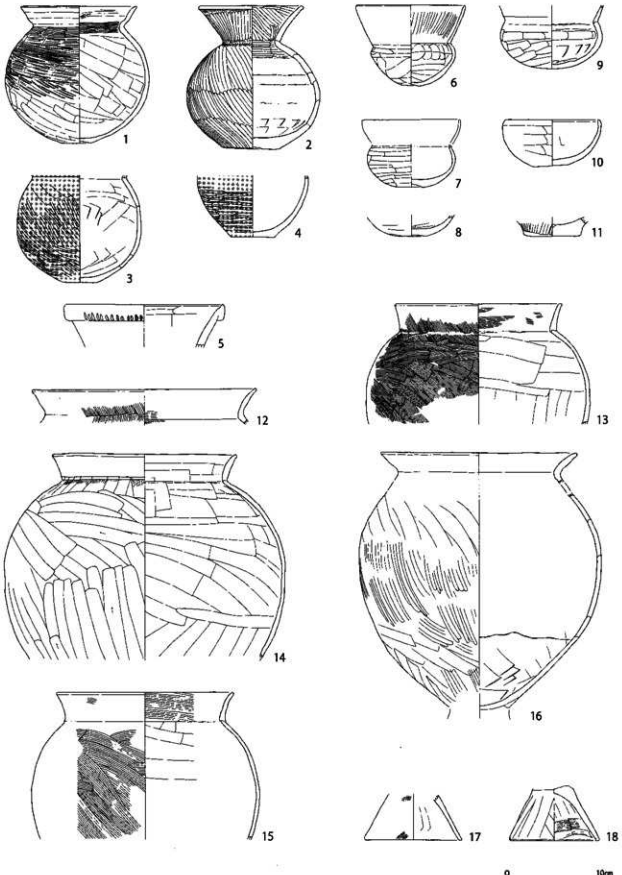
6～8は坩、9は鉢である。10は坏、1・11～15が甕である。1は口縁部が外傾して立ち上がり、胴部が球形に張る。胴部上半はミガキ、下半はヘラナデを施す。16～18は台付甕である。19～21は高坏、23は鉢である。

24は口縁部が緩やかに外反する吉ヶ谷式の甕である。25・26は砥石である。25は棒状で表裏面に擦痕が見られる。緑色岩である。26が緑色片岩で本遺跡からは多くみられる。

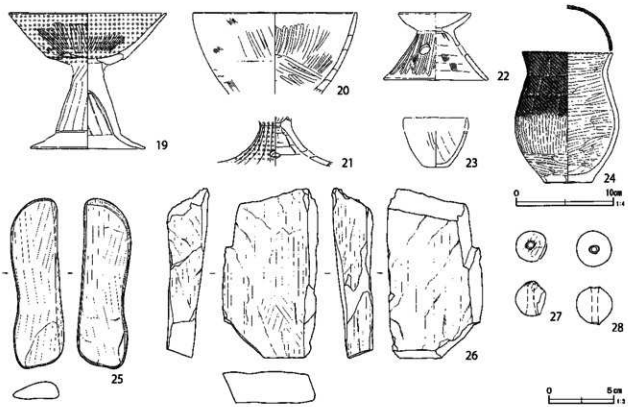
27・28は土玉である。本集落から土玉を出土した住居跡は第121・125・126・129・147号住居跡の5軒である。中でも第129号住居跡からはまとまって14個を検出している。土玉は網のおもりに使われたと考えられる。



第63図 第125号住居跡（2）



第64図　第125号住居跡出土遺物（1）



第65図　第125号住居跡出土遺物（２）

第22表　第125号住居跡出土遺物観察表（第64・65図）

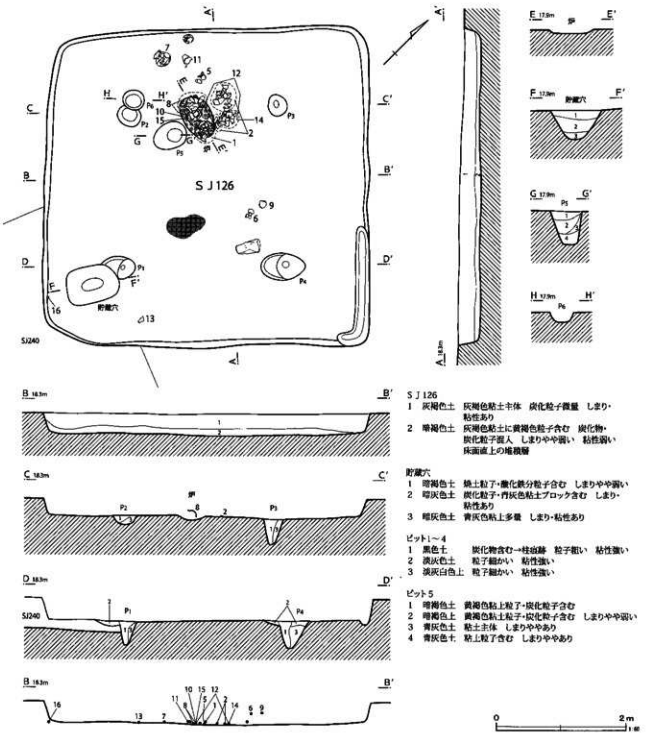
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	11.8	14.0	3.2	ABCDEHI	90	普通	にぶい橙	№15	110-1
2	土師器	小型壺	10.5	14.6	6.0	ADEHI	90	普通	橙	№1	93-2
3	土師器	小型壺	－	11.0	(3.6)	AEHI	30	普通	褐灰	赤彩　外面煤付着	
4	土師器	小型壺	－	6.4	4.5	AHIK	80	普通	淡黄	赤彩　№2	
5	土師器	壺	(16.2)	4.5	－	EHI	10	普通	橙	口縁キザミ	
6	土師器	坩	11.2	8.2	2.0	AEGHIJK	95	普通	にぶい黄橙	外面煤付着	137-2
7	土師器	坩	－	4.4	2.5	CEHIK	80	普通	にぶい赤褐	№5	
8	土師器	坩	－	2.2	3.0	CEHI	70	普通	明赤褐		
9	土師器	鉢	－	6.5	－	ACEHI	80	普通	にぶい橙	№12	119-6
10	土師器	坏	9.6	4.8	3.4	AEHJKL	75	普通	橙	チャート　風化顕著　№11	144-5
11	土師器	甕	－	1.7	6.0	HIJK	50	普通	にぶい褐		
12	土師器	甕	(23.0)	3.7	－	CHIK	15	普通	明赤褐		
13	土師器	甕	(17.0)	12.4	－	CEHIK	20	普通	にぶい赤褐	№10	
14	土師器	甕	(18.8)	21.1	－	ACEHIK	40	良好	灰黄褐	№16	
15	土師器	甕	(18.0)	15.1	－	ACDEHIJ	20	普通	にぶい赤褐	内外面二次被熱　№8	
16	土師器	台付甕	(20.0)	26.0	－	ACEK	50	普通	灰黄褐	№17	
17	土師器	台付甕	－	4.7	(10.0)	AHIJ	20	普通	橙		
18	土師器	台付甕	－	5.4	(9.2)	AEHI	55	普通	明赤褐	№7	
19	土師器	高坏	16.2	13.8	(11.7)	CEHIK	70	普通	にぶい黄橙	坏部内外面赤彩　№19	
20	土師器	高坏	(16.8)	8.4	－	CEHIJ	30	普通	浅黄橙		
21	土師器	高坏	－	5.1	－	AEHI	75	普通	浅黄橙	赤彩　四孔	
22	土師器	器台	7.3	6.9	10.5	AIK	95	普通	橙		133-1
23	土師器	鉢	－	3.7	(2.0)	AJ	25	普通	淡黄	胎土緻密	
24	弥生	甕	(9.4)	13.3	4.9	AEIK	90	普通	にぶい赤褐	吉ヶ谷系	81-2
25	石製品	砥石	長さ13.1	幅4.2	厚さ2.0	重さ138.3	石材	緑色岩			
26	石製品	砥石	長さ13.1	幅7.4	厚さ3.2	重さ391.8	石材	緑色片岩			152-1
27	土製品	土玉	2.3	2.6	0.5	ADI	80	良好	にぶい橙	重さ12.2	148-2
28	土製品	土玉	2.7	2.9	0.4	DIK	100	良好	にぶい橙	重さ19.2	148-2

第126号住居跡（第66・67図）

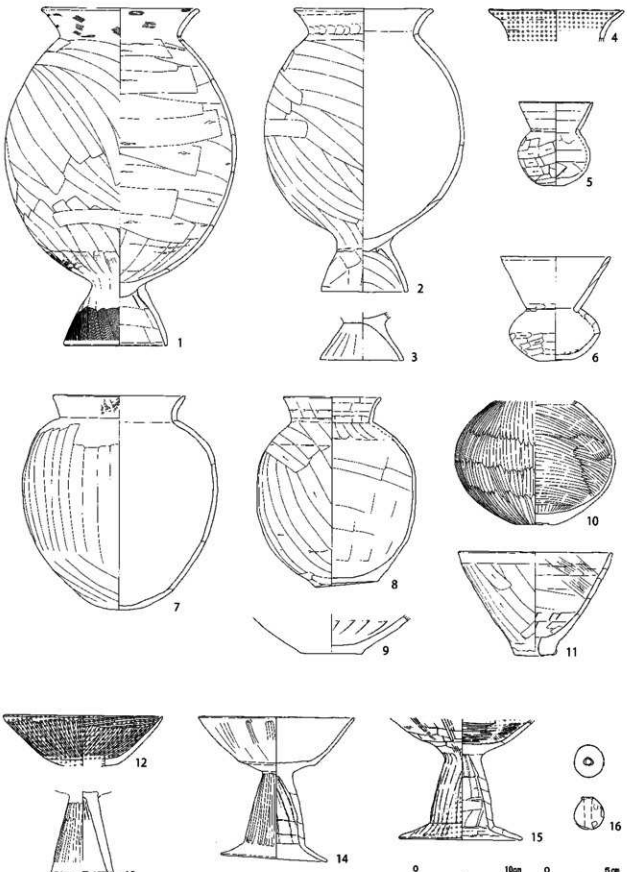
調査区の南側西寄り、W－53・54グリッドに位置する。第240号住居跡と重複する。東側１ｍを第97号溝跡が南北に走る。

平面形は方形である。主軸方向はＮ－45°－Ｅを指す。規模は長軸5.04ｍ、短軸4.92ｍ、深さ33.0㎝を測る。床面は平坦であるが、わずかに中央部分がくぼむ。

施設は壁周溝、炉跡、貯蔵穴、ピット６基を検出した。壁周溝は東壁側のみにあり、幅12.0㎝、深さ9.0㎝を測る。炉跡は楕円形を呈し、径65.0×45.0㎝、深さ4.0㎝を測る。貯蔵穴は南コーナーに



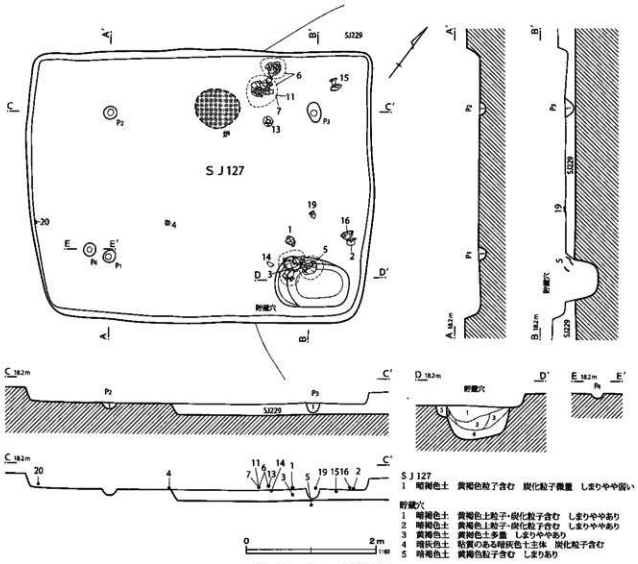
第66図　第126号住居跡



第67図　第126号住居跡出土遺物

第23表　第126号住居跡出土遺物観察表（第67図）

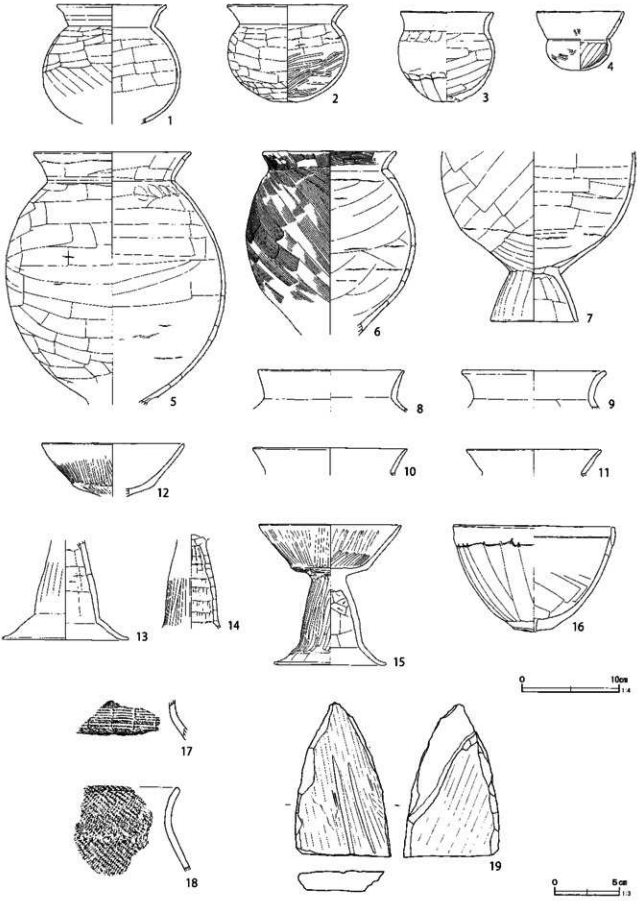
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	台付甕	(15.9)	34.6	10.5	ACEGHI	50	普通	にぶい黄橙	№10	96-1
2	土師器	台付甕	14.2	29.1	8.9	AEHIJK	70	普通	にぶい赤褐	№1・7・9	96-2
3	土師器	台付甕	―	5.0	(8.7)	EHIK	50	普通	明赤褐		
4	土師器	壺	(14.0)	3.2	―	ACEK	15	普通	にぶい橙	赤彩	
5	土師器	坩	7.6	8.5	2.2	ADI	85	普通	にぶい黄橙	№5	137-3
6	土師器	小型壺	11.4	10.5	4.0	DGIJ	80	普通	にぶい橙	№15	93-3
7	土師器	小型壺	13.4	22.0	4.3	AEHIJK	80	普通	灰褐	№4	110-2
8	土師器	壺	9.8	19.3	6.5	ABCEHIK	90	良好	にぶい黄橙	外面煤付着　№11・12	84-2
9	土師器	壺	―	4.0	6.3	AEHI	50	普通	橙	№13	
10	土師器	壺	―	12.6	4.0	AGHIK	90	普通	にぶい黄橙	外面二次被熱　№11	84-3
11	土師器	甕	(15.8)	10.5	4.2	AEHI	70	普通	にぶい黄橙	№3	139-3
12	土師器	高坏	16.4	5.2	―	ACEHIJK	75	普通	灰褐	赤彩　№8・11	
13	土師器	高坏	―	9.0	―	CEHIK	85	普通	にぶい黄橙	№14	
14	土師器	高坏	16.0	14.4	10.6	ACEHIK	85	普通	橙	内外面風化　№8	127-4
15	土師器	高坏	―	12.3	12.8	ACDEHIJ	70	普通	にぶい黄橙	赤彩　№11	
16	土製品	土玉	2.4	2.5	0.5	DI	80	普通	にぶい橙	№1　重さ11.8	148-2



S J 127
1　暗褐色土　黄褐色粒子含む　炭化粒子微量　しまりやや弱い

貯蔵穴
1　暗褐色土　黄褐色上粒子・炭化粒子含む　しまりややあり
2　暗褐色土　黄褐色上粒子・炭化粒子含む　しまりややあり
3　黄褐色土　黄褐色土多量　しまりややあり
4　暗灰色土　粘質のある暗灰色土主体　炭化粒子含む
5　暗褐色土　黄褐色粒子含む　しまりあり

第68図　第127号住居跡



第69図　第127号住居跡出土遺物（1）

設けられており、径80.0×55.0cm、深さ45.0cmを測る。ピットは径32.0～68.0cm、深さ13.0～53.0cmを測る。主柱穴は４基である。ピット２は浅いが、ピット１が36.0cm、ピット３が41.0cm、ピット４が42.0cmと深くいずれも第１層が柱痕跡の土層とみられる。

遺物の出土状況は、炉跡の部分から台付甕の煮沸具と小型甕・小型壺・高坏を検出し、北壁寄りから甕・坩・甑を検出した。貯蔵穴周辺からは出土土器はなく、壁際に土玉を検出した。第67図６・９は覆土第１層中から検出した。

遺物は、１～３が台付甕で、口縁は「く」の字状に外反する。胴部はラグビーボールのようにやや縦長の楕円状に膨らむ。台部は「ハ」の字状に開く内湾脚である。４・８～10は壺である。４は壺の口縁である。５は坩で、体部が球形に膨らみ、口縁が直線的に立ち上がり外反する。６・７は小型壺で、６は口縁部が大きく開き直線的に外反する。体部に比べ口縁部の器高が高い。11は鉢型甑、12～15が有稜高坏である。16は土玉である。

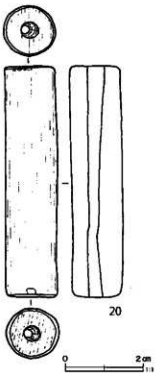
第127号住居跡（第68～70図）

調査区の南側西寄り、Ｖ・Ｗ－54グリッドに位置する。東側は第229号住居跡と重複する。南側２ｍに第124号住居跡、第97号溝跡がある。

平面形は長方形である。南壁がやや短くわずかに台形状を呈する。主軸方向はＮ－53°－Ｅを指す。規模は長軸5.28ｍ、短軸4.10ｍ、深さ18.0cmを測る。床面は平坦である。

施設は炉跡、貯蔵穴、ピット４基を検出した。炉跡は推定径66.0cmを測る。貯蔵穴は楕円形を呈し、南東コーナーに位置する。径110.0×66.0cm、深さ51.0cmを測る。ピットは径20.0～32.0cm、深さ5.4～13.7cmを測る。

遺物の出土状況は、炉跡と北壁の間に台付甕が検出され、北東コーナーに高坏が検出された。対面する南東コーナーには貯蔵穴があり大型の甕・小型壺・高坏を検出した。これらの南寄り東壁際には、小型甕と鉢型甑が組み合わさった状態で検出された。また、住居跡の中央に坩、西壁際の中央から碧玉製管玉を検出した。



第70図　第127号住居跡出土遺物（２）

遺物は、１が小型丸底壺、２・３は鉢、４は坩、５・７は台付甕、６・８～11は甕、12～15が高坏である。16は鉢型甑、17が甕の頸部である。8本１単位の櫛描簾状文を施文している。18が吉ヶ谷式の甕である。口端部よりＲＬ単節縄文を横位連続施文している。このほかに、19は緑泥片岩の砥石、20は緑色凝灰岩製の大型の管玉である。

第128号住居跡（第71図）

調査区の南側西寄り、Ｗ－52・53グリッドに位置する。東側２ｍに第126号住居跡がある。

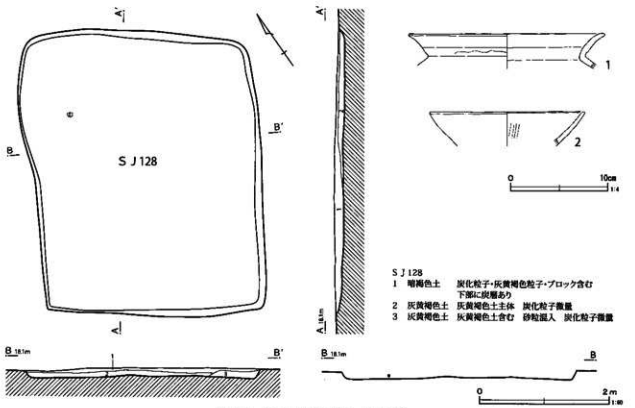
平面形は長方形である。主軸方向はＮ－33°－Ｅを指す。規模は長軸4.41ｍ、短軸3.54ｍ、深さ15.0cmを測る。床面は平坦で、細かな炭化物粒が多く散在している。

施設は検出できなかった。

遺物は、甕口縁部破片と高坏の破片を検出した。

第24表　第127号住居跡出土遺物観察表（第69・70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	小型壺	(11.2)	12.2	—	ABCEHIJ	60	普通	赤橙	二次被熱　煤付着	
2	土師器	鉢	12.2	9.9	2.4	ADEH	95	良好	にぶい橙	№8	119-7
3	土師器	鉢	9.3	9.2	—	CEIK	100	普通	にぶい黄橙	№14	119-8
4	土師器	坩	9.0	6.0	—	ABCEK	75	普通	橙	器面磨滅　赤彩痕　№13	137-4
5	土師器	台付甕	15.8	26.0	—	AEGHIK	80	普通	にぶい橙	2～5㎜の石英含む	
6	土師器	甕	13.6	18.7	—	ABEHI	60	普通	にぶい黄橙	№2・3	110-3
7	土師器	台付甕	—	17.3	8.9	AEHIJK	50	普通	橙	№3	
8	土師器	甕	(16.0)	4.3	—	ACEHIK	20	普通	灰褐	石英・雲母目立つ	
9	土師器	甕	(14.8)	3.8	—	ACEHIK	20	普通	灰黄	貯蔵穴	
10	土師器	甕	(16.0)	2.8	—	ACEIK	45	普通	橙		
11	土師器	甕	(14.0)	2.7	—	ACEHIK	50	普通	にぶい橙	№3	
12	土師器	高坏	14.7	5.4	—	AEHIK	45	普通	灰白	風化	
13	土師器	高坏	—	10.2	13.0	ACEHIJM	95	普通	橙	風化　№4	
14	土師器	高坏	—	9.6	—	ABEK	80	普通	橙	№12	
15	土師器	高坏	14.7	14.3	11.6	ACDEHIJK	65	普通	にぶい橙	風化　№5	127-5
16	土師器	甑	16.8	10.8	—	ACEHIK	95	普通	にぶい橙	単孔式　鉢型甑　№7	139-4
17	弥生	甕	—	3.1	—	AEH	5	普通	浅黄橙		
18	弥生	甕	—	6.5	—	AEK	5	普通	にぶい黄橙		
19	石製品	砥石	長さ11.9	幅7.4	厚さ1.8	重さ212.1	石材	緑泥片岩		№6	152-1
20	石製品	管玉	長さ6.0	幅1.3	厚さ1.4	重さ19.4	石材	緑色凝灰岩		№1	151-5



第71図　第128号住居跡・出土遺物

第25表　第128号住居跡出土遺物観察表（第71図）

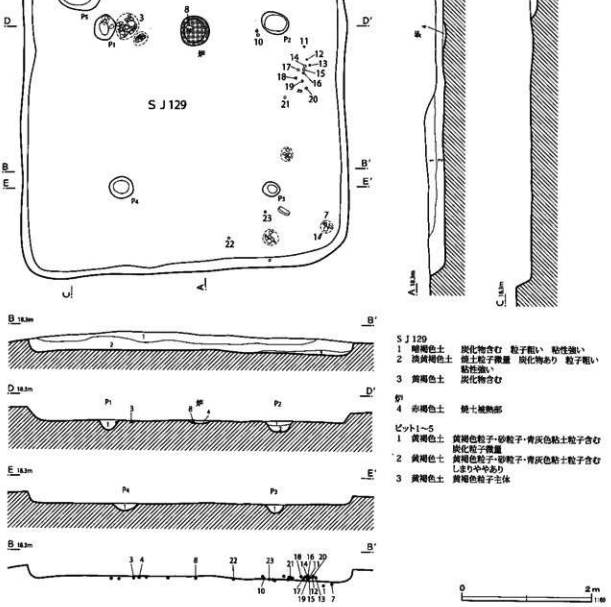
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	甕	(20.0)	3.6	—	ACEHJ	20	普通	灰褐	雲母多	
2	土師器	高坏	(16.0)	3.1	—	AEHIK	5	良好	にぶい黄橙		

第129号住居跡（第72・73図）

調査区の南側中央寄りV－56グリッドに位置する。北側に第225号住居跡、北西側2mに第222号住居跡、南東側1mに第235号住居跡がある。

平面形は方形である。主軸方向はN－25°－Wを指す。規模は長軸5.17m、短軸5.01m、深さ27.0cmである。施設は炉跡、ピット5基を検出した。炉跡は円形を呈し、長径45.0cm、深さ5.0cmを測る。ピットは、径24.0～92.0cm、深さ10.0～16.0cmを測る。

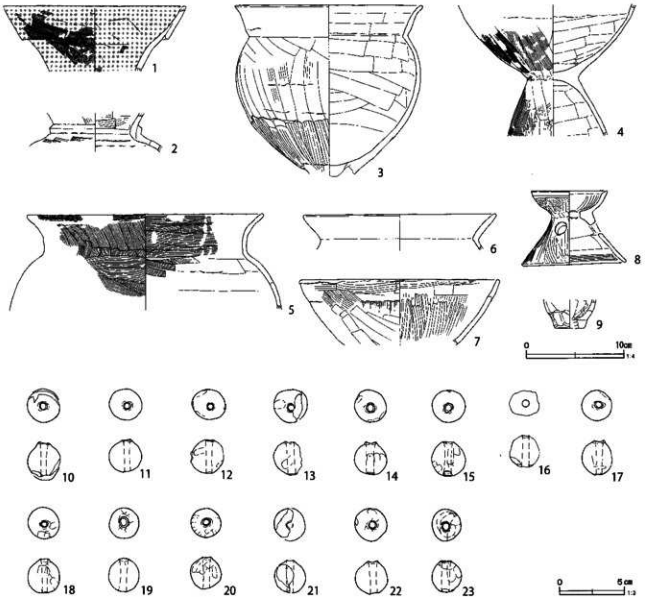
遺物の出土状況は、炉内から器台を検出した。また、炉の西側と北側に台付甕をそれぞれ検出した。さらに、南東コーナー部分に壺の口縁部破片、高坏の坏部を検出した。また、東壁中央部分の床



第72図　第129号住居跡

直上から14個の土玉を検出した。土錘であると考えられ、漁労具の網の錘として利用されたものであると考えられる。

遺物は、1・2が壺である。1が複合口縁壺である。内外面に赤彩が施されている。調整は外面にハケメが残る。2は頸部で口縁部と胴部を接合し、頸部外面に粘土紐を貼り付けた突帯が巡る。3・4は台付甕である。3の底部と台部との接合は、ソケット式で胴部本体は凸型に粘土が丸く突出する。5・6は甕である。5はハケメ調整で、口縁部外面は縦に、内面は横方向に施す。胴部外面は横および斜め方向に施している。口唇部外面に短い単位で横方向のハケメが見られた。7は高坏で、外面はハケメの後ナデを施し、内面は縦方向のミガキ調整である。8は器台である。坏部は内湾して立ち上がり、脚部はハの字状に開く。三方透かしの円孔である。10~23は土玉である。14個を実測したが、大きさは2.2cm~2.5cm、重さが11.6g~15.5gである。中心の孔径は0.5~0.7cmである。



第73図　第129号住居跡出土遺物

第26表　第129号住居跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	—	6.6	—	EHIKL	15	普通	灰白	赤彩　№29	
2	土師器	壺	—	4.0	—	EHIK	25	良好	にぶい黄橙		
3	土師器	台付甕	19.1	17.4	—	AEHIJK	85	普通	赤褐	№3	
4	土師器	台付甕	—	13.5	—	AEHIJK	50	普通	褐	二次被熱・煤付着	
5	土師器	甕	(24.0)	9.9	—	ACEJK	20	良好	にぶい赤褐		
6	土師器	甕	(19.7)	3.7	—	AEGHIK	15	普通	明赤褐		
7	土師器	高坏	20.3	6.8	—	ACEHIJ	20	普通	明赤褐	№28	
8	土師器	器台	7.8	7.4	10.5	CEHIJK	100	普通	明赤褐	№7	133-2
9	土師器	ミニチュア	—	2.9	(3.0)	CDEHJ	40	普通	明赤褐		
10	土製品	土玉	2.5	3.0	0.6	GI	70	不良	明赤褐	№11　重さ11.7	
11	土製品	土玉	2.5	2.0	0.6	ACI	100	良好	明赤褐	№12　重さ13.1	148-2
12	土製品	土玉	(2.5)	2.6	0.5	ADI	95	良好	にぶい黄橙	№13　重さ14.2	148-2
13	土製品	土玉	2.5	2.5	0.6	I	70	不良	明赤褐	№14　重さ11.6	
14	土製品	土玉	2.5	2.4	0.7	EIJ	100	良好	にぶい橙	№15　重さ13.4	148-2
15	土製品	土玉	2.5	2.6	0.5	ADEGI	100	良好	橙	№16　重さ15.5	148-2
16	土製品	土玉	2.3	2.4	0.5	I	80	不良	明赤褐	№17　重さ9.3	
17	土製品	土玉	2.4	2.6	0.7	AI	100	良好	橙	№18　重さ13.3	148-2
18	土製品	土玉	2.4	2.6	0.4	EGI	100	良好	にぶい橙	№19　重さ14.6	148-2
19	土製品	土玉	2.3	2.5	0.5	I	100	良好	にぶい橙	№20　重さ12.8	148-2
20	土製品	土玉	2.2	2.5	0.5	ADI	100	良好	橙	№21　重さ11.9	148-2
21	土製品	土玉	2.3	2.1	0.6	DG	30	不良	明赤褐	№23　重さ8.9	
22	土製品	土玉	2.5	2.5	0.5	AI	100	良好	明赤褐	№30　重さ14.2	
23	土製品	土玉	2.4	2.4	0.6	DI	100	良好	橙	№25　重さ11.8	148-2

第130号住居跡（第74～76図）

調査区の南側西寄り、U・V－55グリッドに位置する。第222号住居跡と重複する。北1mに第214号住居跡、南西1mに第229号住居跡、南東2mに第129号住居跡がある。

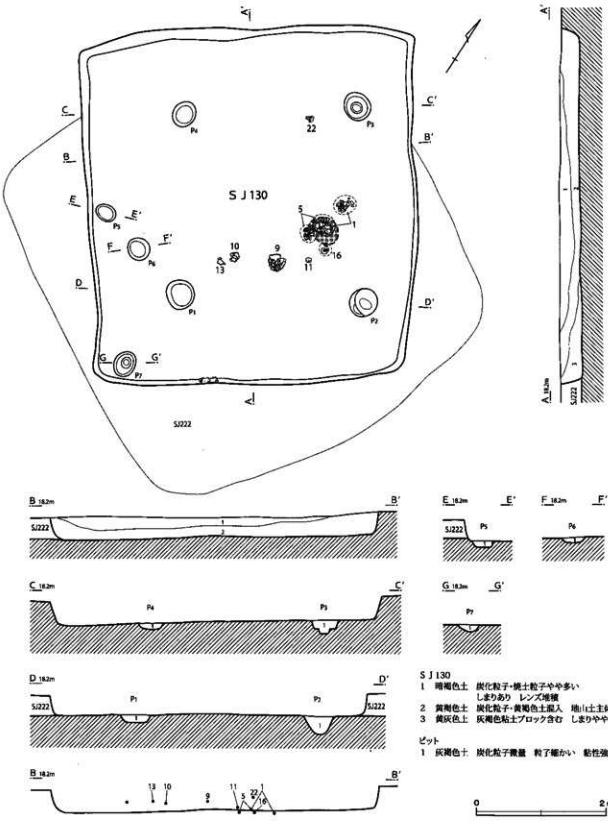
平面形は長方形である。主軸方向はN－33°－Wを指す。規模は長軸5.45m、短軸4.90m、深さ27.0cmを測る。床面は平坦である。中央やや東寄りの床面が焼けていた。炉跡の可能性もあるが焼土の広がりが大きく焼土を覆うように壺・高坏がつぶれた状態で検出された。

施設はピット7基を検出した。径34.0～45.0cm、深さ8.6～25.2cmを測る。

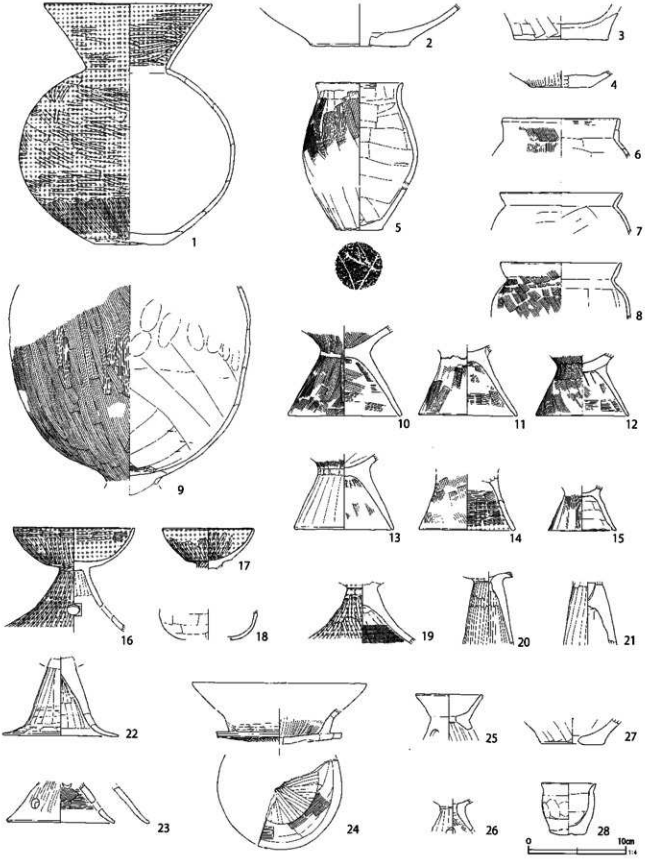
遺物の出土状況は、四本の主柱穴に囲まれた中に集中する。一般的な住居跡は四本の主柱穴に囲まれた外のエリアから様々な器種組成に応じて出土することから、通常の状態とは異なる。ピット1とピット2の中間に台付甕が集中し、ピット2とピット3の中間に壺・高坏・吉ヶ谷式の甕が出土した。

遺物は、1～29を図示した。1～4が壺である。1は平底で胴部が球形に張る。口縁部は外反する。5は小型甕である。5は直立気味に立ち上がる甕である。口縁部はナデを施し胴部はハケ調整を行っている。底部に木葉痕が付く。6は直口甕、7・8は「く」の字甕である。9～15は台付甕、9は台付甕の胴部下半である。底部は半球状に突出し、ソケット状のはめ込み式である。16～23は高坏である。16は埦形の坏部に外反する四方透かしの脚部が付く。24～26は器台である。24は装飾器台の坏部破片である。27は甑の底部破片、28はミニチュア土器である。

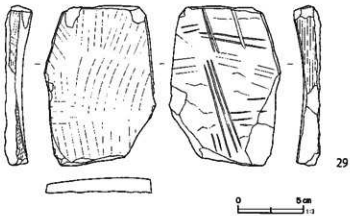
炉跡の周囲に遺物が集中して出土するのが特徴である炉内からは、第75図5の小型甕が出土している。小型甕の形態は、平底の底部で外面に木葉痕が見られる。また、9・10・11・13は台付甕の破片である。炉の北側からは、1の底部平底の壺、南側に16の高坏が出土している。



第74図 第130号住居跡



第75図　第130号住居跡出土遺物（1）



第76図　第130号住居跡出土遺物（2）

第27表　第130号住居跡出土遺物観察表（第75・76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(17.2)	24.8	7.5	EHIJK	80	普通	にぶい赤褐	赤彩　No.8・9	84-4
2	土師器	壺	—	4.4	(10.4)	AHI	30	普通	橙	赤粒子多	
3	土師器	壺	—	2.7	9.8	EGHI	50	普通	橙	石英多	
4	土師器	壺	—	1.7	(6.0)	ABEH	45	良好	にぶい橙	石英多	
5	土師器	小型甕	8.9	15.1	4.9	AEGHIK	60	普通	灰黄褐	木葉痕　外面煤付着	116-5
6	土師器	甕	(12.0)	4.1	—	BEGHIJK	10	普通	明赤褐	煤付着	
7	土師器	甕	(12.5)	4.3	—	CEGHIJ	5	普通	にぶい赤褐	器面風化	
8	土師器	甕	(12.4)	5.8	—	CEGJK	40	普通	明赤褐		
9	土師器	台付甕	—	21.4	—	CEIJK	65	普通	にぶい褐	ほぞ穴タイプ　No.4	
10	土師器	台付甕	—	9.2	(11.5)	CEHIJ	70	普通	橙	No.3	
11	土師器	台付甕	—	7.2	(10.2)	BCEHIJK	80	普通	橙	器面磨滅　No.5	
12	土師器	台付甕	—	6.4	9.4	CEHIJK	70	普通	赤		
13	土師器	台付甕	—	7.7	(10.1)	EGHIJK	85	普通	にぶい褐	砂粒多　風化　No.2	
14	土師器	台付甕	—	5.7	(9.8)	ACEK	25	普通	にぶい橙	赤彩	
15	土師器	台付甕	—	4.6	(7.0)	CEGHIJ	50	普通	にぶい橙	砂粒多	
16	土師器	高坏	12.5	10.7	—	ADEHIJ	70	良好	にぶい黄橙	赤彩　No.6　四孔	127-6
17	土師器	高坏	(9.4)	4.2	—	ACEHIJK	70	普通	にぶい橙	赤彩　外面風化	
18	土師器	高坏	(10.0)	3.1	—	ACEIK	25	普通	橙		
19	土師器	高坏	—	6.0	—	ACHIK	30	普通	橙	赤彩	
20	土師器	高坏	—	7.4	—	ADEGHIK	50	普通	にぶい黄橙		
21	土師器	高坏	—	6.4	—	AEGHIK	30	普通	明赤褐		
22	土師器	高坏	—	8.1	11.8	GHIJ	95	良好	浅黄橙	No.10	
23	土師器	高坏	—	4.1	(11.0)	AEHIK	20	普通	橙	三孔二段	
24	土師器	装飾器台	—	3.6	—	ACDEK	30	普通	にぶい黄橙		
25	土師器	器台	(6.8)	4.7	—	AEHIK	60	普通	にぶい黄褐	内外面風化　三孔	
26	土師器	器台	—	3.5	—	AEHIK	70	普通	にぶい橙	四孔	
27	土師器	甑	—	2.6	(6.4)	ADEGIK	30	普通	にぶい黄橙	内外面風化	
28	土師器	ミニチュア	(5.6)	5.3	3.6	AEGHIK	75	良好	にぶい黄橙	外面煤付着	126-1
29	石製品	砥石	長さ12.3　幅8.6　厚さ2.1　重さ198.1　石材　砂岩								152-1

第137号住居跡（第77・78図）

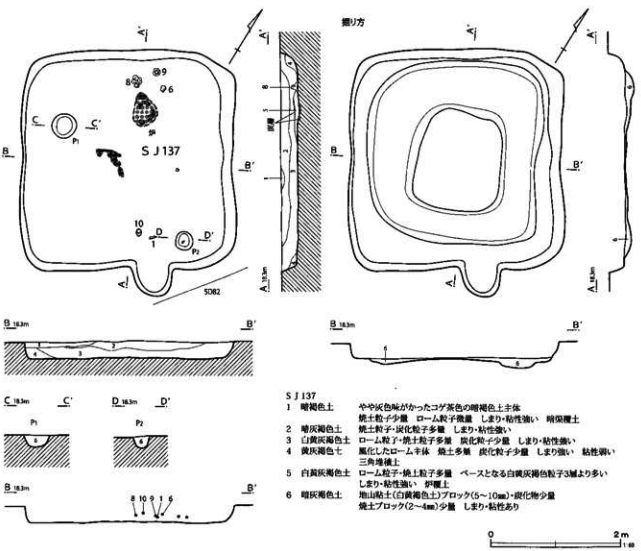
調査区の南側東寄り、W−61・62グリッドに位置する。東側１ｍに第149号住居跡、北側２ｍに第176号住居跡、南東側１ｍに南北に第82号溝跡が走る。

平面形は方形である。南壁の一部に張出しをもつ。主軸方向はＮ−34°−Ｗを指す。規模は長軸3.33ｍ、短軸3.25ｍ、深さ25.2㎝を測る。床面は貼り床が施され、平坦である。掘り形は中央部分に地山を残し、ドーナツ状に浅く掘り込んでいる。３層の下面、床直上に炭化物層を検出した。この炭化層は植物繊維質で、ワラやアシのような形質のものが炭化層に貼りついている。この炭化層は、第４層の上に堆積しており、三角堆積の直上であることから住居廃絶後の堆積層である。

施設は炉跡、張出し部、ピット２基を検出した。炉跡はほぼ円形を呈し、推定径36.6㎝を測る。貼り出し部は東西60.0㎝、南北54.0㎝を測る。ピットは径24.0〜41.0㎝、深さ18.0〜19.0㎝を測る。

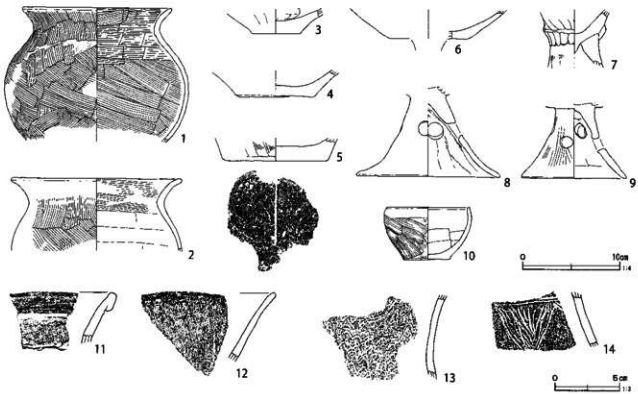
遺物の出土状況は、炉跡の北側に高坏の破片を検出した。一方、対面する南壁の張り出し部付近に甕・鉢を検出した。

遺物は、１が小型甕、２が甕である。細かなハケメ調整が見られる。口縁部は緩やかに「く」の字状に開き、胴部は球形を呈している。３〜５は壺底部である。６〜９は高坏である。６は有稜高



第77図　第137号住居跡

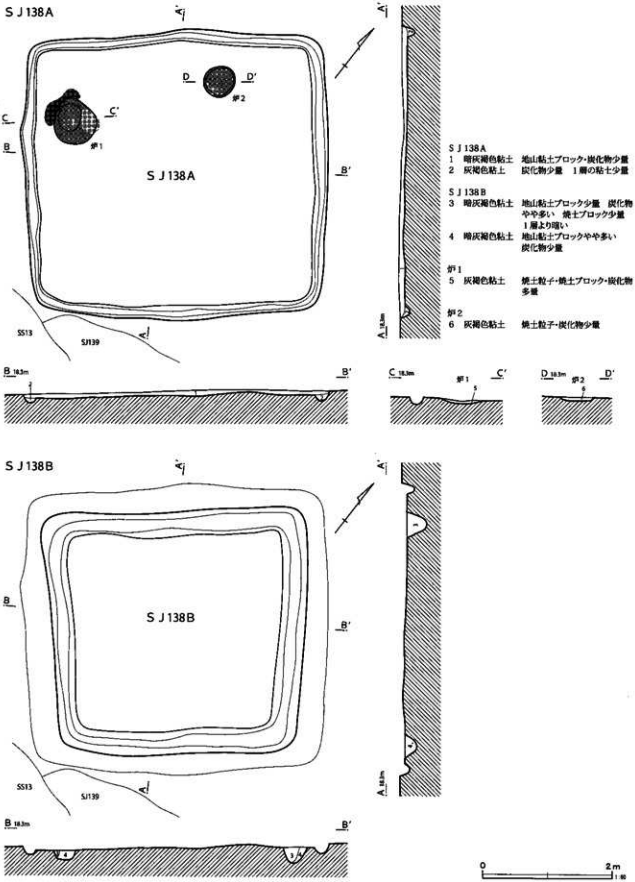
坏で坏部が大きく外傾し直線的に立ち上がる。7は脚部と坏部の接合部分で、坏部の底部が凸型に突出し、脚部がドーナツ状に中心が抜けているソケット式の接合方法である。外面の接合部に粘土紐の補強帯を貼り付け、指で押しあてている。8は四方透かしで、9は三方二段透かしである。10は小型鉢、11～13は吉ヶ谷系である。11は折り返し口縁壺、12は素口縁鉢、13は壺頸部である。単位不明の櫛描波状文を多段に施文している。14は壺頸部である。櫛描簾状文下に収束沈線を充填する下向き鋸歯文を施文している。



第78図　第137号住居跡出土遺物

第28表　第137号住居跡出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　考	図版
1	土師器	小型甕	15.3	13.7	—	AEHIJK	60	良好	にぶい褐	内外面口縁部煤付着　No.5	116-6
2	土師器	甕	(17.0)	7.4	—	EHJ	20	良好	橙	粗い刷毛目	
3	土師器	壺	—	2.6	5.0	ACEHI	65	普通	明赤褐	雲母多	
4	土師器	壺	—	2.7	(7.6)	AJM	40	普通	にぶい赤褐		
5	土師器	壺	—	2.4	10.5	ACEHIJ	80	普通	にぶい黄橙	木葉痕	
6	土師器	高坏	—	3.0	—	EHIJK	35	普通	橙	砂粒　No.3	
7	土師器	高坏	—	5.9	—	ABHIJ	90	普通	橙		
8	土師器	高坏	—	9.1	(14.5)	ABCEHI	80	普通	橙	四孔　器面磨滅　No.1	
9	土師器	高坏	—	7.7	10.8	ABCEHIJ	95	普通	にぶい橙	三孔二段　No.2	
10	土師器	鉢	8.5	5.4	4.6	ADEHIJ	95	普通	にぶい橙	No.4	120-1
11	土師器	壺	—	3.9	—	BCEIK	5	普通	明褐		
12	土師器	鉢	—	5.2	—	EIK	5	普通	浅黄橙		
13	弥生	壺	—	6.4	—	BEHI	5	普通	浅黄橙		
14	弥生	壺	—	4.5	—	AHIJ	5	普通	浅黄橙		



第79図　第138号住居跡

第138A号住居跡（第79・80図）

調査区の南側東寄り、W－61グリッドに位置する。南1m内に第139号住居跡、第13号墳がある。

平面形は方形である。主軸方向はN－53°－Eを指す。規模は長軸4.65m、短軸4.48m、深さ6.6cmを測る。掘り込みは浅く、床面は平坦である。

施設は壁周溝、炉跡2基を検出した。壁周溝は遺構内を全周し、幅16.0～25.8cm、深さ8.0～12.5cmを測る。炉跡1は北西にあり、径63.0～72.0cmを測る。炉跡2より新しい。炉跡2は北側にあり、ほぼ円形を呈している。径48.0cm、深さ5.0cmを測る。

遺物は少なく、1～7を図示した。1は甕口縁部破片、2は高坏脚部破片である。3は複合状の比厚口縁を呈する壺である。口縁部以下無文である。4は緩やかに外反する単口縁の壺である。頸部に粗雑な櫛描波状文を施文している。5はやや大きく外反する壺口縁部である。口端部断面は三角形を呈する。口縁部以下無文である。6は壺の頸部である。単位不明の櫛描波状文を施文している。7は緑泥片岩の砥石である。

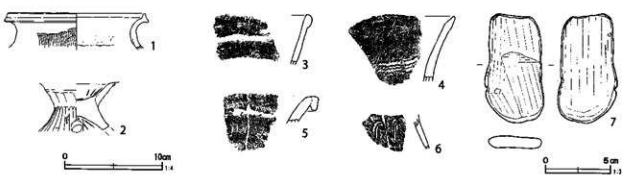
第138B号住居跡（第79・80図）

調査区の南側東寄り、W－61グリッドに位置する。本住居跡は、第138A号の内側に、周溝が検出され入れ子状に検出された。新旧関係は、第138A号が新しく、第138B号が古い。南1m内に第139号住居跡、第13号墳がある。

平面形は方形である。主軸方向はN－53°－Eを指す。規模は長軸4.05m、短軸3.78m、深さ10.8cmを測る。

施設は周溝を検出した。この周溝は全周する。周溝の規模は、幅30.0～42.0cm、深さ18.0～30.0cmである。

遺物は検出されなかった。



第80図　第138号住居跡出土遺物

第29表　第138号住居跡出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	(14.0)	3.8	－	AEHIJK	15	良好	橙		
2	土師器	高坏	－	5.1	－	ABEGHIK	70	普通	にぶい橙	三孔　W61G	
3	弥生	壺	－	3.8	－	CEHIJ	5	普通	にぶい橙		
4	弥生	壺	－	5.0	－	AHIJ	5	普通	橙		
5	弥生	壺	－	2.1	－	AEHI	5	普通	浅黄橙		
6	弥生	壺	－	2.7	－	EHIJ	5	普通	淡黄		
7	石製品	砥石	長さ8.3	幅4.6	厚さ1.1	重さ68.6	石材	緑泥片岩			

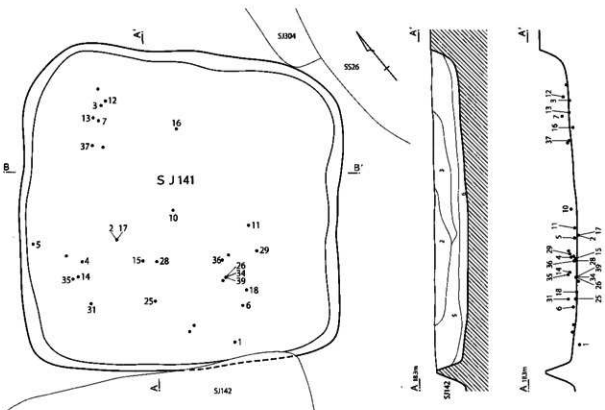
第141号住居跡（第81～83図）

調査区の中央東寄り、U－60・61グリッドに位置する。第142号住居跡と重複する。東１ｍ内に第304号住居跡、第26号墳、南東１ｍに第143号住居跡がある。

平面形はやや北側コーナーが歪んだ方形である。主軸方向はＮ－42°－Ｗを指す。規模は長軸5.03ｍ、短軸4.91ｍ、深さ53.4cmを測る。床面は、中央部分がわずかに窪み引き締まっていた。床直上に炭化物層を確認した。施設は検出できなかった。

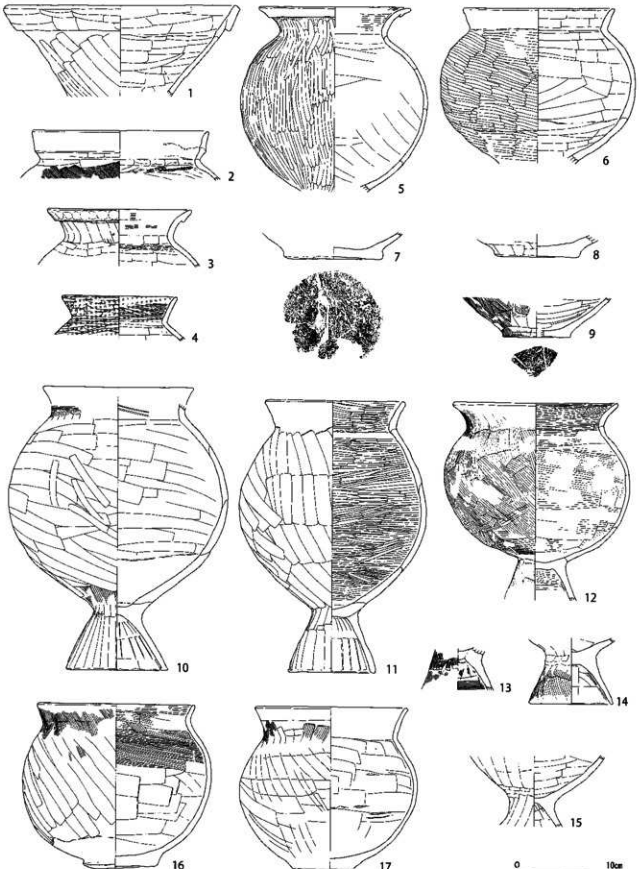
遺物の出土状況は、住居跡の中央南から西側に多く認められる。中央に10の台付甕を検出した。中央から南東部分にかけて台付甕・壺・高坏・小型鉢を検出した。南壁中央部分には高坏・小型甕・壺類を検出した。また、対面する北西コーナー部分から壺類を中心に台付甕を含めまとまって検出した。なお、南西コーナーから出土した遺物は床面よりやや高い位置で検出した。

遺物は、１は大型の折り返し口縁壺である。２は口縁部が上方に立ち上がる「５」の字甕である。３～５は壺である。３・５は口縁部が外反し、短く折り返されている。５の胴部は球形を呈し調整は縦方向にミガキが施されている。６は鉢である。外傾して立ち上がり、胴部は球形を呈する。調整は横方向にミガキが施されている。10～15は台付甕である。12は小型台付甕である。16～18・21は小型甕である。25～30は高坏、31～33は器台である。34は吉ヶ谷式の壺である。口縁部を欠損して

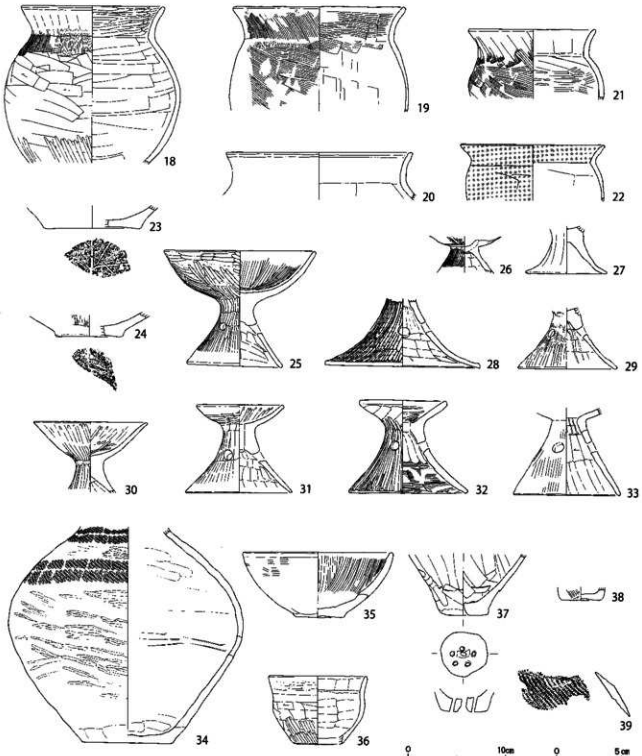


SJ141
1　青灰色粘土　やや不均一　黄褐色粘土層　青灰色粘土ブロック(5～50mm)多量　炭化粒子(2～3mm)・焼土粒子(2～3mm)少量
2　褐色粘土　やや不均一　炭化粒子(2～5cm)・焼土粒子(2～10mm)少量
3　黄褐色粘土　やや均一　炭化粒子(2～3mm)少量
4　黄褐色粘土　均一　炭化粒子(2～3mm)・焼土粒子(5～10mm)少量
5　褐色粘土　やや均一　炭化粒子(2～3mm)多量　焼土粒子(2～10mm)少量
6　褐色粘土　やや不均一　5層に比べ炭化粒子・焼土粒子やや多い　最下面に炭化物

第81図　第141号住居跡



第82図　第141号住居跡出土遺物（1）



第83図　第141号住居跡出土遺物（2）

いる。胴部上半にＲＬ単節縄文を２帯施文している。縄文帯内に端末結節が一部認められる。胴下半部は粗いミガキが施されている。35・36は鉢である。35は内外面にミガキが施されている。37は１＋５の多孔甑である。甑には、一孔型と多孔型があり、第179・206号住居跡からも多孔甑が出土している。39は壺胴部上半である。ＲＬ単節縄文を施文している。

第30表　第141号住居跡出土遺物観察表（第82・83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	23.4	9.4	－	ACEHIJK	60	普通	にぶい橙	№17	85-1
2	土師器	甕	(18.0)	5.0	－	ABCHJ	15	普通	にぶい黄橙	「5」の字甕　№16	
3	土師器	壺	(14.8)	5.9	－	AEGHIJK	20	普通	橙	№9	
4	土師器	壺	11.7	4.6	－	ACEHIK	90	普通	橙	赤彩　№3	
5	土師器	壺	(15.5)	18.8	－	EHIJK	45	普通	にぶい橙	№1	84-5
6	土師器	鉢	(15.4)	15.8	－	AEHIJK	40	良好	にぶい褐	№25	120-2
7	土師器	壺	－	2.8	10.2	AEHIJK	70	普通	にぶい赤褐	木葉痕　№10	
8	土師器	壺	－	2.4	8.1	ADG	80	普通	橙		
9	土師器	壺	－	4.1	(7.0)	ACDEHIJ	20	良好	灰褐	木葉痕	
10	土師器	台付甕	－	27.6	10.2	CEGHIJM	40	普通	灰褐	砂粒多　№15	
11	土師器	台付甕	13.8	27.9	9.1	AEG	90	普通	褐	器壁堅緻　№23	96-3
12	土師器	小型台付甕	16.9	20.1	－	AEIJK	80	普通	にぶい黄橙	№7	102-1
13	土師器	台付甕	－	4.3	－	CEIK	70	普通	にぶい橙	№11・27	
14	土師器	台付甕	－	6.8	(8.4)	ACDEHIJ	65	良好	にぶい褐	№4	
15	土師器	台付甕	－	7.3	－	ACEHIJK	60	良好	にぶい橙	内面全面焼　№18	
16	土師器	小型甕	16.0	16.8	7.2	EHIJ	80	普通	にぶい橙	№14	116-7
17	土師器	小型甕	(15.3)	16.6	6.2	AEGHIJK	70	普通	にぶい橙	外面煤付着　№16	116-8
18	土師器	小型甕	14.6	16.1	－	ACEGHIK	60	良好	褐灰	外面煤付着　№26	118-1
19	土師器	甕	(17.4)	10.7	－	AEHIJK	30	普通	にぶい黄橙		
20	土師器	甕	(19.0)	4.9	－	EGHI	15	普通	にぶい橙		
21	土師器	小型甕	13.0	7.1	－	AEHIJ	85	普通	にぶい橙		118-2
22	土師器	鉢	(14.6)	5.8	－	ABCHIJ	15	普通	にぶい橙	赤彩	
23	土師器	壺	－	1.4	(10.2)	CEHIJK	25	普通	明赤褐	木葉痕	
24	土師器	壺	－	2.2	(7.0)	ACEI	25	普通	淡黄	木葉痕	
25	土師器	高坏	15.4	11.8	9.6	EHIJK	80	普通	にぶい橙	三孔　№20	128-1
26	土師器	高坏	－	3.7	－	AHIJK	90	良好	にぶい黄橙	赤彩　№27	
27	土師器	高坏	－	4.8	(8.0)	EHIJK	70	普通	明赤褐		
28	土師器	高坏	－	6.4	(16.0)	ABEHI	70	普通	浅黄橙	赤彩　四孔　№19	
29	土師器	高坏	－	6.2	10.0	ACEHI	100	良好	浅黄橙	三孔　№24	
30	土師器	高坏	(11.6)	7.2	－	CEHIJK	40	普通	明赤褐		
31	土師器	器台	8.7	9.0	(10.7)	ACEGHIJ	70	普通	にぶい橙	三孔　№6	133-3
32	土師器	器台	8.8	9.5	12.0	EHJ	80	良好	橙	二孔	133-5
33	土師器	器台	－	9.0	10.9	ABCEHIJK	85	普通	橙	石英多　三孔	133-4
34	弥生	壺	－	22.0	9.4	EHI	60	普通	にぶい橙	№27	81-3
35	土師器	鉢	15.3	6.7	5.0	AEHIJK	80	普通	明褐	№5	120-3
36	土師器	鉢	9.9	7.0	(5.1)	AEHIJK	70	普通	にぶい黄橙	風化顕著　№28	120-4
37	土師器	甑	－	6.3	5.0	AEHJK	80	良好	橙	№12	139-5
38	土師器	ミニチュア	－	1.4	(4.0)	BEIJK	50	普通	にぶい黄橙		
39	弥生	壺	－	3.5	－	ACE	5	普通	にぶい黄橙	網目状縄文　№27	

第142号住居跡（第84・85図）

調査区の中央東寄り、U・V－60・61グリッドに位置する。第141号住居跡と北側で重複する。東1mに第143号住居跡、北西1mに第193号住居跡があり、南1m内に第83号溝跡が東西に走る。

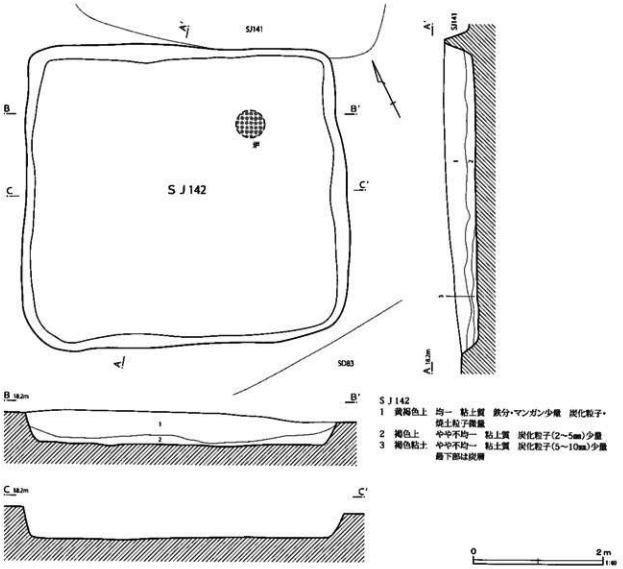
平面形は歪んだ方形である。主軸方向はN－25°－Wを指す。規模は長軸4.95m、短軸4.62m、深さ45.0cmを測る。床面は平坦である。地山からの掘り込みはやや深く、壁の立ち上がりも垂直である。南西部分の第3層とした床直上に炭化物層を確認した。施設は北東に炉跡一基を検出した。

遺物の出土状況は極めて少なく、覆土から少量の遺物を検出した。

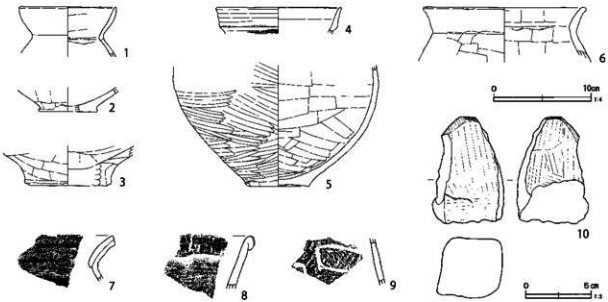
遺物は、1がヒサゴ壺、4は直口壺の口縁部破片とみられる。5は壺の胴部下半で、外面は丁寧なミガキが施されている。7～9は弥生土器である。7は大きく外反する壺の口縁部である。内面折り返し口縁となる。口縁部以下無文である。8は複合口縁の壺である。口縁部以下無文である。9は中期の壺胴部である。地紋にLR単節縄文を施文し、沈線による楕円文等の単位文を施文しているものと考えられる。10は砥石である。

第143号住居跡（第86・87図）

調査区の中央東寄り、U・V－61グリッドに位



第84図　第142号住居跡



第85図　第142号住居跡出土遺物

第31表　第142号住居跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(10.0)	5.1	—	AEHIJKM	20	普通	橙	東海系土器の模倣か	
2	土師器	壺	—	2.5	(6.0)	ACEHIJK	30	良好	橙	輪台	
3	土師器	壺	—	4.1	(9.0)	AEGHIK	20	良好	にぶい黄橙	雲母多	
4	土師器	壺	(12.8)	2.7	—	AEHIKM	15	普通	にぶい赤褐	外面二次被熱　煤付着	
5	土師器	壺	—	12.4	6.2	AEHIJK	50	良好	にぶい橙		
6	土師器	甕	(16.8)	5.5	—	ACEHIJK	10	良好	にぶい橙		
7	弥生	壺	—	3.4	—	CEHIK	5	普通	明赤褐		
8	弥生	壺	—	4.0	—	AEHIKL	5	普通	明赤褐	内外面風化	
9	弥生	壺	—	3.6	—	ACEHIJK	5	普通	にぶい赤褐	丘い違い変形Ⅰ字文	
10	石製品	砥石	長さ8.2	幅5.5	厚さ4.7	重さ283.9	石材	緑色岩			

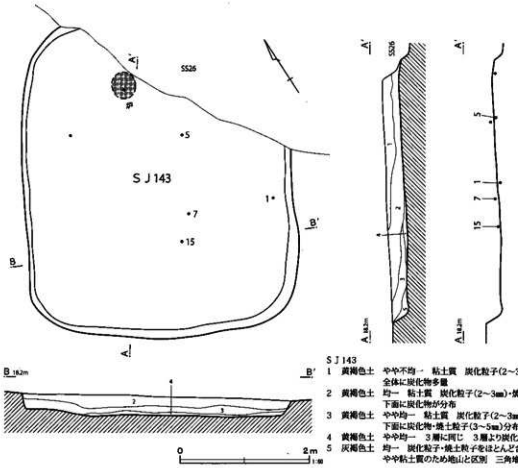
置する。第26号墳と重複する。南側１ｍに第83号溝跡が東西に走る。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はＮ－33°－Ｅを指す。規模は残存している部分で、長軸4.20ｍ、短軸4.62ｍ、深さ30.0cmを測る。床面は平坦である。

施設は炉跡を検出した。炉跡は住居跡北寄りに設けられていた。炉跡の上面に甕の破片を検出した。

遺物の出土状況は、住居跡北側の炉跡付近に５の甕を検出した。また、東壁寄りに壺の口縁部破片を検出した。住居跡中央付近からは、高坏・小型甕の破片を出土したが、やや床面より高い位置である。

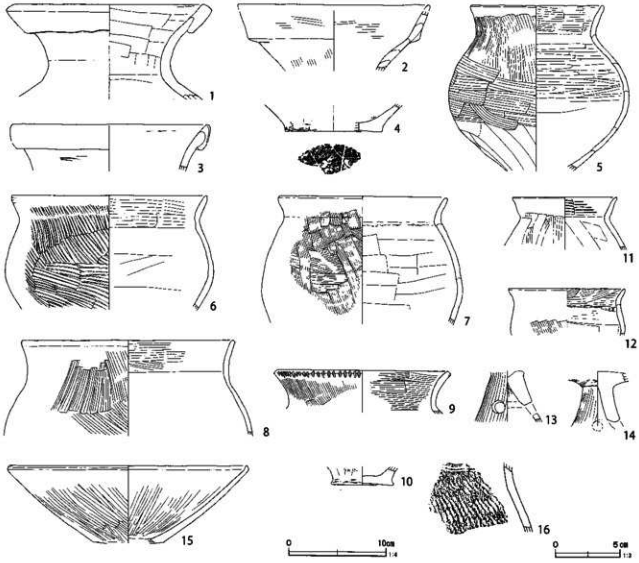
遺物は、１～４が壺である。１・３は折り返し口縁壺、２は二重口縁壺である。４は壺の底部破片で外面に木葉痕が残る。５・11は小型甕である。調整は、外面口縁部から胴部にかけて縦方向のハケメ、胴部中位の最大径部分に横方向のハケメを施す。内面は細かい横ナデが施されている。６～10は甕である。６は、やや粗いハケメ調整である。９は口唇部先端にキザミが施されている。13～15が高坏である。15は大型の有稜高坏である。内外面とも丁寧なミガキが施されている。16は弥生中期終末の甕の胴部である。櫛描簾状文下に無節Ｒ縄文を施文している。



第86図 第143号住居跡

第32表 第143号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(19.4)	9.8	－	AEHIJK	40	普通	にぶい黄橙	No6	
2	土師器	壺	－	6.2	－	AEGHIJKM	10	普通	橙		
3	土師器	壺	－	4.7	－	CEHIJKM	5	普通	にぶい橙		
4	土師器	壺	－	2.9	(10.0)	EHIJK	15	普通	にぶい橙	木葉痕	
5	土師器	小型甕	13.6	16.8	－	EHIJK	60	普通	にぶ赤褐	No1	118-3
6	土師器	甕	(20.0)	11.8	－	AJ	20	普通	にぶい褐	やや粗い刷毛目	
7	土師器	甕	(17.0)	13.0	－	EHIJ	15	普通	浅黄橙	No5	
8	土師器	甕	(22.5)	9.9	－	GI	30	普通	褐		
9	土師器	甕	(17.6)	4.3	－	CEHM	15	普通	明赤褐	口唇キザミ	
10	土師器	甕	－	1.9	(6.2)	AEHIJK	45	普通	灰黄褐		
11	土師器	小型甕	(10.6)	5.3	－	AEGIJ	5	普通	黒褐		
12	土師器	鉢	12.0	4.8	－	ADEIJ	35	普通	明赤褐		
13	土師器	高坏	－	5.2	－	DGIJ	80	普通	にぶい橙	二孔一対	
14	土師器	高坏	－	5.6	－	AEIJK	90	普通	にぶい赤褐	三孔	
15	土師器	高坏	(24.3)	8.0	－	EHIJ	30	普通	橙	No4	
16	弥生	甕	－	5.3	－	ACDHI	5	普通	にぶい橙		



第87図　第143号住居跡出土遺物

第146号住居跡（第88・89図）

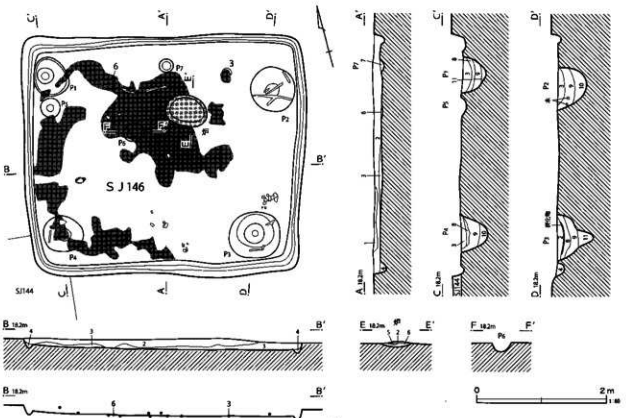
調査区の南側東寄り、W・X－59グリッドに位置する。第144号住居跡と重複する。西1ｍ内に第145号住居跡、北東2ｍに第161・164号住居跡がある。

平面形は長方形である。主軸方向はN－75°－Wを指す。規模は長軸4.32ｍ、短軸3.65ｍ、深さ15.0cmを測る。床面は、多くの炭化物と暗褐色ブロックが混在した堆積層で覆われていた。特に、炉跡周辺から西壁にかけて多く堆積していた。

施設は壁周溝、炉跡、ピット7基を検出した。壁周溝は遺構を全周し、幅11.0～24.0cm、深さ2.7～4.3cmを測る。炉跡は楕円形を呈し、住居跡中央やや北寄りに位置する。規模は65.4×48.0cm、深さ4.4cmを測る。検出したピット7基は、径30.0～70.0cm、深さ7.0～53.6cmを測る。このうちピット1～ピット4は主柱穴と見られ、各コーナーの壁際に掘り込まれている。

遺物の出土状況は、炉跡の北側に3の小型甕を検出し、北東コーナーピット2から、台付甕の台部を検出した。

遺物は、1が小型壺の口縁部破片、2は口縁部直口する甕、3は小型甕、4・5は台付甕である。6は小型の細長い形状の砥石である。石材は結晶片岩である。

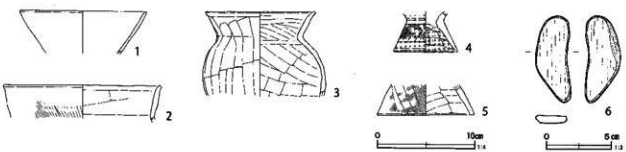


SJ146
1 暗褐色土　黄灰色粘土ブロック(5m程度)多量　炭化物少量　しまり・粘性強い
2 暗褐色土　黄灰色粘土ブロック(5～10m)・焼土ブロック(2～3m)少量
炭化物やや多い　しまり・粘性強い
3 黄灰色土　炭化物・暗褐色土ブロック(5～10m)やや多い
暗褐色土と黄灰色土混在　しまり・粘性強い
4 褐灰色土　黄灰色ブロック(2～5m)・炭化粒子(1～2m)少量　しまりやや強い
粘性強い

炉
5 暗灰色土　炭化物(5～7m)多量　粘土ブロック(1～2m)やや多い
6 焼土

ピット
7 褐灰色土　黄灰色ブロック(5m程度)やや多い　炭化粒子(1～2m)少量
しまりやや強い
8 暗灰色土　炭化物(5～7m)少量　黄灰色粘土(5～10m)多量　粘性強い
9 暗灰色土　黄灰色粘土(5～10m)少量　粘性強い
10 褐灰色土　炭化物(1～5m)少量　粘性強い
11 暗灰色土　クロチロの層　柱材が残った物

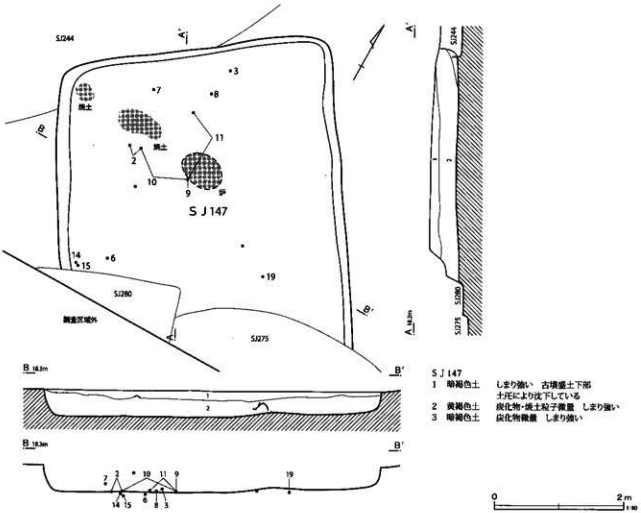
第88図　第146号住居跡



第89図　第146号住居跡出土遺物

第33表　第146号住居跡出土遺物観察表（第89図）

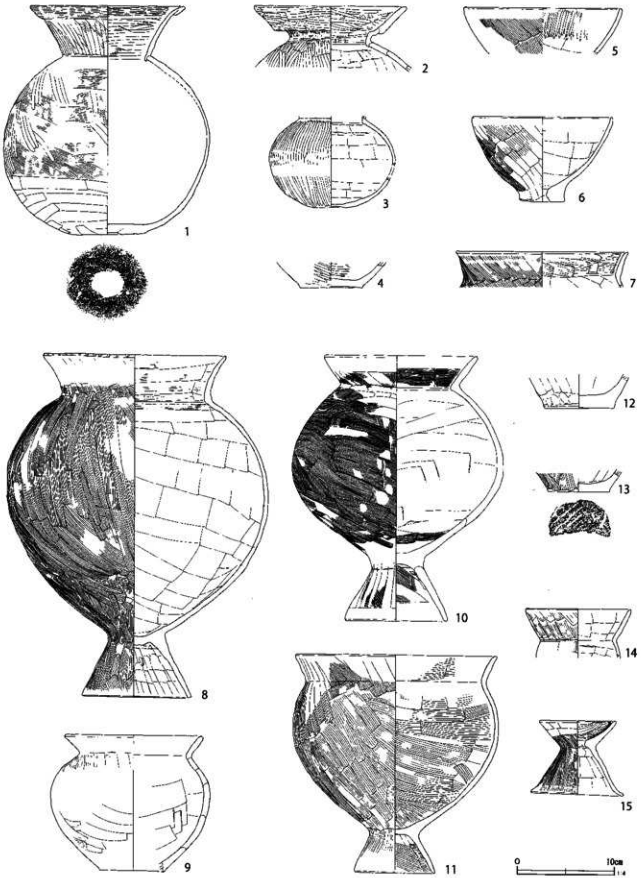
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	小型壺	(13.0)	4.4	—	ABEHIK	15	普通	橙	内外面風化	
2	土師器	甕	(16.2)	3.4	—	ABEHIK	10	普通	にぶい橙		
3	土師器	小型甕	11.2	8.7	—	ACEHIJK	60	普通	にぶい橙	№1	
4	土師器	台付甕	—	4.1	(6.5)	AEHIJK	25	普通	橙	赤彩	
5	土師器	台付甕	—	3.1	(10.0)	AEHIJK	15	良好	にぶい褐	P2	
6	石製品	砥石	長さ6.6	幅2.8	厚さ0.7	重さ18.1　石材　結晶片岩				№12	



第90図　第147号住居跡

第34表　第147号住居跡出土遺物観察表（第91・92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	15.7	23.6	6.6	ACJK	90	良好	橙	輪台	84-6
2	土師器	壺	15.5	6.7	—	ACEIJK	80	良好	橙	№2・3	85-2
3	土師器	小型壺	—	9.4	3.1	ACEIJK	50	良好	橙	№4	
4	土師器	壺	—	2.6	6.4	ACEIK	60	普通	にぶい橙	外面煤付着か	
5	土師器	高坏	(16.0)	4.7	—	AEGIJK	15	普通	明赤褐		
6	土師器	甑	(14.2)	8.7	4.7	ACEHIJK	40	良好	明赤褐	№11	
7	土師器	甕	(17.6)	3.6	—	ACHIJKL	25	普通	にぶい赤褐	外面煤付着　チャート	
8	土師器	台付甕	18.6	35.1	11.3	ACDEHIJK	80	良好	にぶい橙	№5　口唇キザミ	96-4
9	土師器	鉢	14.0	13.8	(6.7)	CEIK	50	普通	にぶい橙	№7	120-5
10	土師器	台付甕	15.4	27.2	10.3	ACEGHIK	95	普通	にぶい橙	細かい刷毛　№3・7	96-5
11	土師器	台付甕	(20.5)	22.4	8.0	AEHIJK	40	普通	にぶい赤褐	外面口縁～胴部煤付着	96-6
12	弥生	甕	—	3.4	7.2	ACHIK	55	良好	明赤褐	内外面被熱赤化	
13	土師器	甕	—	2.3	6.4	AHIK	50	良好	暗褐	網代痕	
14	土師器	鉢	(10.8)	4.9	—	ACEGHIJK	30	普通	にぶい橙	外面風化　№13	
15	土師器	器台	7.7	7.5	9.4	AEHIJK	95	良好	赤褐	№12	133-6
16	弥生	甕	—	7.4	—	ACEHIKM	5	普通	にぶい橙		
17	弥生	甕	—	5.1	—	ACEHIJ	5	普通	褐灰	北島か	
18	弥生	甕	—	4.9	—	CEHIK	5	普通	にぶい褐		
19	土製品	土玉	2.9	2.9	0.5	ADI	100	良好	明赤褐	№10　重さ21.7	148-2



第91図　第147号住居跡出土遺物（1）

第92図　第147号住居跡出土遺物（2）

第147号住居跡（第90～92図）

調査区の南側中央寄り、X・Y－56グリッドに位置する。第244・275・280号住居跡と重複する。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－33°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸4.65m、短軸4.38m、深さ39.0cmを測る。床面はやや凹凸があり、硬化面をもつ。炉跡の周囲は炭化物や焼土塊が多く堆積している。

施設は炉跡のみ検出した。推定径66.0×48.6cmを測る。

遺物の出土状況は、炉跡の西側で2の壺、9の鉢、10の台付甕を検出した。炉跡の北側からも8・11の台付甕と3の小型壺を検出した。また、炉跡を挟んだ対角線の南西コーナー付近からは器台・鉢・鉢型甑を検出した。

遺物は、1～4が壺である。5が高坏、6が鉢型甑、7が甕の口縁である。8・10・11は台付甕で、8の口唇部にはキザミが巡る。13の甕底部には網代痕が見られる。14は小型の鉢、15は器台である。16は吉ヶ谷式の甕である。LR単節縄文を連続施文している。17は弥生中期終末の甕の胴部である。櫛描直線文を施文している。直線文下にはLR単節縄文を施文している。18は緩やかに外反する甕口縁部である。口端部に工具による押捺を廻らせ口縁部下に櫛描波状文を連続して施文している。

第148号住居跡（第93～96図）

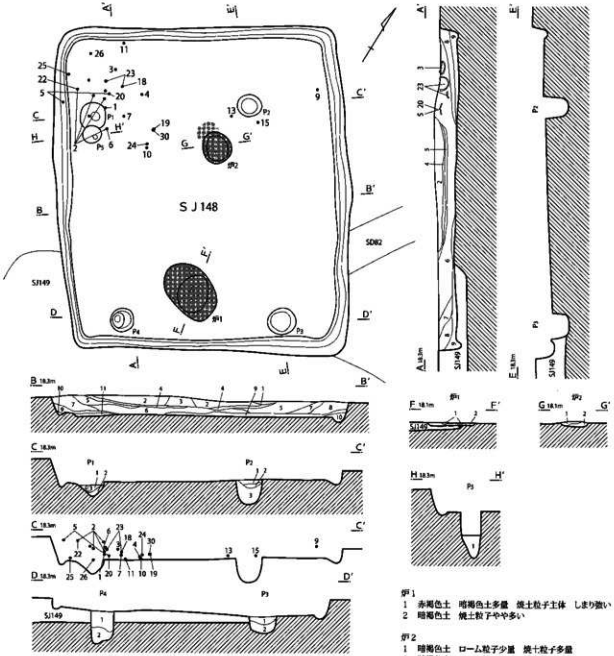
調査区の南側東寄り、V・W－62グリッドに位置する。第149住居跡、第82号溝跡と重複する。西側1mに第176号住居跡、南東1mに第28号墳、北側1mを第83号溝跡が東西に走る。

平面形は長方形である。主軸方向はN－34°－Wを指す。規模は長軸4.92m、短軸4.56m、深さ36.0cmを測る。床直上に炭化材や炭化物を検出し焼失住居跡と考えられる。床面は平坦である。

施設は壁周溝、炉跡2基、ピット5基を検出した。壁周溝は全周し、幅16.0～30.0cm、深さ3.2～5.6cmを測る。炉跡1は住居跡の南壁寄りに検出され、南東に位置し楕円形を呈している。径96.0×63.0cm、深さ2.8cmを測る。炉跡2は中央より北に位置し円形を呈している。径48.0cm、深さ6.0cmを測る。ピットは径34.0～42.0cm、深さ21.0～72.0cmを測る。

遺物の出土状況は、炉跡の東側に少しと西コーナー部に大半が集中している。検出した土器の器種構成をみると、炉跡東から甕・台付甕が検出され煮沸具のみである。一方、炉跡西側には、台付甕・小型甕・高坏が検出され煮沸・調理具が見られる。さらに西コーナー部からは、大型の壺・小型の壺・小型甕が検出され貯蔵具が多くみられた。台付甕は床直上の出土であるが、壺類は、床面よりやや高い位置で出土しており、住居壁の上部に棚状施設の存在を想定させる。いずれも第148号住居跡に伴う土器である。

遺物は、1～30に図示した。1・2は東海系のパレス壺である。1は平底で胴部が球形に張り、頸部外反し、口縁部が稜をもって外反する複合口縁壺である。胴部の輪積みは底部から胴下半部、胴部中位、肩部の三段に分割接合されている。その上に口縁部が貼り付けられる。調整は、胴部外面を縦方向のミガキ、頸部ハケメの後、ナデ調整、口縁部外面ナデ、内面はハケメを施す。また、頸



S J 148

1　灰褐色土　　粘土質　混じり気非常に多い　酸化鉄・炭化粒子・明灰褐色粒子・白色微粒子多量　しまり強い　粘性なし

2　黄褐色土　　ローム(明黄褐土)主体　酸化鉄・明褐色粒子・炭化粒子多量　しまり強い　粘性なし

3　灰褐色土　　粘土質　混じり気多い　酸化鉄・炭化粒子少量　明褐色粒子微量　白色微粒子多量　しまり強い　粘性なし

4　明灰褐色土　　焼土粒子やや多い　炭化粒子多量　上面に薄い炭層を形成　しまりやや強い　粘性なし

5　灰褐色土　　焼土粒子・炭化粒子・白色微粒子少量　しまりやや強い　粘性なし

6　灰褐色土　　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子(黄褐色)少量　白色微粒子微量　粘性わずか　しまりやや強い

7　灰褐色土　　焼土粒子少量　炭化粒子・ローム粒子(黄褐色)やや多い　白色微粒子微量　しまりやや強い　粘性弱い

8　灰褐色土　　焼土粒子・ローム粒子(黄褐色)多量　炭化粒子少量　白色微粒子微量　しまり強い　粘性弱い

9　灰褐色土　　炭層　上部に薄い炭化物層を形成　焼土粒子多量　ローム粒子少量　白色微粒子微量　しまりやや強い　粘性弱い

10　明灰褐色土　粘土質　焼土粒子多量　床面直上覆土(三角堆積)　しまり弱い　粘性強い

11　明褐色土　　ローム粒子多量　炭褐色粒子少量　焼土粒子微量　しまり・粘性やや強い　埋り方覆土

SP1

1　赤褐色土　暗褐色土多量　焼土粒子主体　しまり強い

2　暗褐色土　焼土粒子やや多い

SP2

1　暗褐色土　ローム粒子少量　焼土粒子多量

2　暗褐色土　ローム粒子少量　焼土粒子極多量

ピット1・2

1　暗褐色土　極めて均一性に乏しい層　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子多量　しまり強い　粘性弱い

2　灰褐色土　砂質　焼土粒子・炭化粒子少量

3　灰褐色土　砂質　炭化粒子極微量

ピット3

1　暗褐色土　粘土質　焼土粒子少量　炭化物微量

2　灰褐色土　砂質　炭化物微量

ピット4

1　灰褐色土　砂質　炭化物・焼土粒子多量

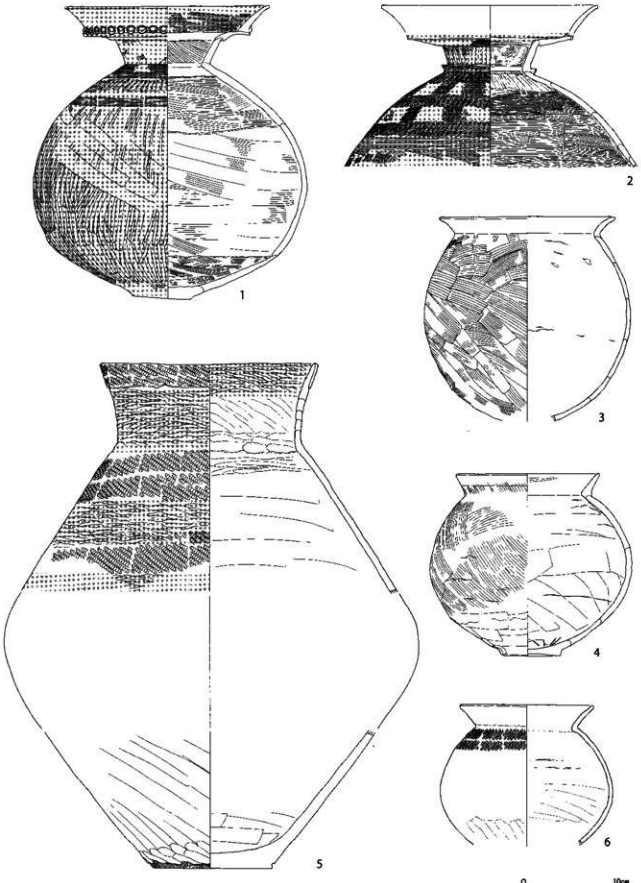
2　灰色土　炭化粒子極微量

ピット5

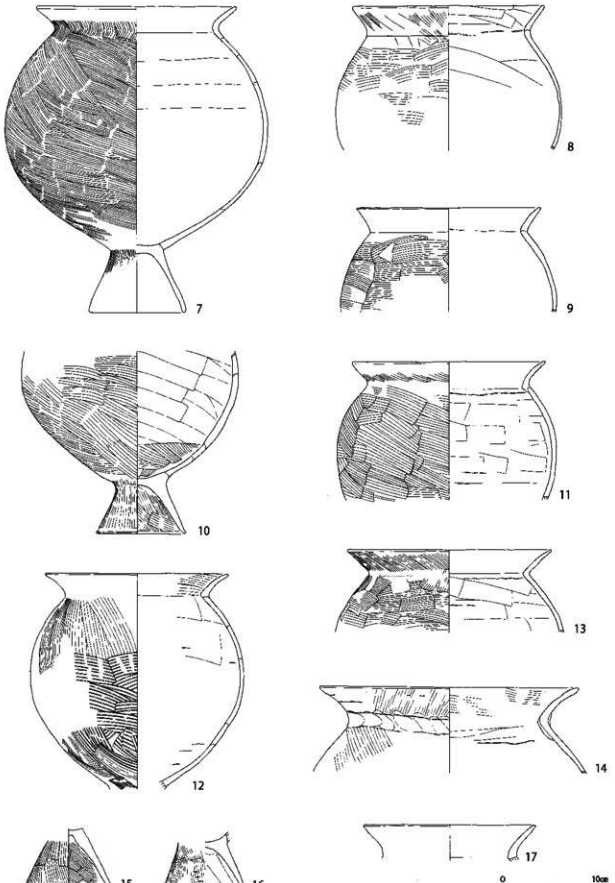
1　灰褐色土　砂質　炭化物極微量　灰色粘土少量

0　2m　1:40

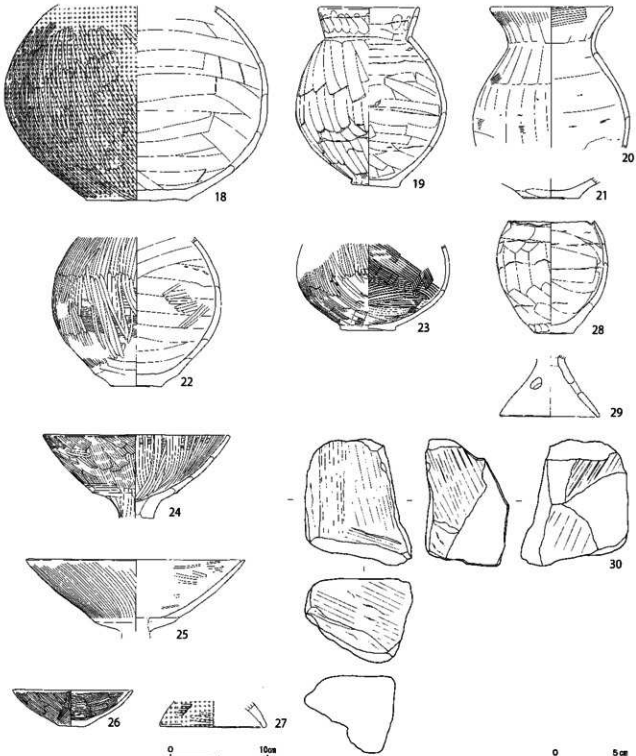
第93図　第148号住居跡



第94図　第148号住居跡出土遺物（1）



第95図　第148号住居跡出土遺物（2）



第96図　第148号住居跡出土遺物（3）

部外面には、二条の櫛描簾状文が巡りその中に櫛歯による刺突が逆時計周りで細かく等間隔に押し引きされている。さらに、口縁部外面下端には円形の浮文が張り付く。5は吉ヶ谷式の大型壺である。口縁部は折返し口縁で僅かに比厚している。口縁部はＲＬ単節縄文を施文し、頸部を無文としている。胴部上半にＲＬ単節縄文を間隔をあけて２段施文している。口縁部内面及び頸部、胴部上半縄文部以外に赤彩を施している。6は口縁部の屈曲外反する単口縁の広口甕である。口縁部は無文で胴上半部にＬＲ単節縄文を施文している。非常に薄手の造りである。30は閃緑岩の砥石である。

第35表　第148号住居跡出土遺物観察表（第94～96図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　上	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	21.0	30.2	6.0	EHIJ	90	良好	にぶい橙	赤彩　B　№20	86-1～3
2	土師器	壺	—	13.8	—	CEGHIJM	50	普通	にぶい橙	赤彩　B　№13・17・18	86-4～6
3	土師器	台付甕	(18.0)	20.6	—	EHIJK	40	普通	にぶい橙	B　№11	
4	土師器	小型甕	14.5	18.5	6.2	ACEGHIK	80	普通	にぶい橙	外面煤付着　風化　B　№5	118-4
5	土師器	壺	22.3	52.0	12.2	GI	20	良好	にぶい橙	赤彩　B　№7・16	81-4・5
6	土師器	甕	14.0	14.5	—	IJL	30	普通	にぶい赤褐	B　№18	110-4・5
7	土師器	台付甕	20.4	31.5	(9.7)	GI	90	普通	にぶい黄橙	B　№9	97-1
8	土師器	甕	(19.4)	14.9	—	AJM	60	普通	橙	B	
9	土師器	壺	18.8	10.7	—	EHJ	30	普通	橙	砂粒多　A　B　№1	
10	土師器	台付甕	—	18.6	8.9	DI	80	普通	にぶい黄褐	B　№4	
11	土師器	甕	19.8	14.2	—	AEHIJ	55	普通	橙	B　№12	
12	土師器	台付甕	18.7	22.0	—	ACEGIM	40	普通	にぶい橙	胎土粗　外面煤付着	
13	土師器	甕	(20.8)	8.5	—	ABEHI	30	普通	橙	B　№2	
14	土師器	甕	26.2	8.8	—	ABEH	60	普通	橙	石英多	
15	土師器	台付甕	—	6.1	9.1	ACEK	85	普通	橙	B　№1	
16	土師器	台付甕	—	5.8	8.4	ACEIJ	70	普通	橙		
17	土師器	甕	(17.6)	3.7	—	ACEHK	15	普通	にぶい橙	B	
18	土師器	壺	—	19.9	10.5	EHJ	70	良好	にぶい黄橙	赤彩　B　№10	
19	土師器	甕	10.2	18.2	5.0	ACEHIJ	100	良好	にぶい黄橙	A　№2	110-6
20	土師器	甕	(12.5)	14.4	—	DEHIJ	40	普通	にぶい橙	B　№16	
21	土師器	壺	—	2.1	5.7	AHIJ	80	普通	にぶい黄橙	B	
22	土師器	壺	—	15.3	5.2	DIJK	25	普通	褐灰	B　№15	
23	土師器	壺	—	8.7	5.7	ACEGHIJK	70	良好	橙	B　№10	
24	土師器	高坏	(18.9)	8.5	—	DIJ	50	普通	にぶい橙	B　№3	
25	土師器	高坏	22.3	7.4	—	EHIJM	95	普通	橙	B　№8	128-5
26	土師器	鉢	12.5	3.7	2.8	AEIJ	85	普通	にぶい黄橙	B　№21	
27	土師器	高坏	—	2.6	(11.0)	ACEIK	20	普通	にぶい橙	赤彩	
28	土師器	鉢	8.9	11.3	4.1	ACEGHIK	95	普通	にぶい黄橙	外面煤付着　B　ピット	
29	土師器	器台	—	6.3	10.2	EHIM	95	普通	橙	三孔　小石多	
30	石製品	砥石	長さ9.7	幅8.3	厚さ6.4	重さ504.5	石材	閃緑岩		№2	152-2

第150号住居跡（第97図）

調査区の中央東寄り、U・V－61・62グリッドに位置する。第290号住居跡、第26号墳と重複する。北1ｍに第301号住居跡、西1ｍに第143号住居跡、南1ｍ内に第83号溝跡が東西に走る。

平面形は方形と推定される。主軸方向はN－70°－Eを指す。残存する部分で、長軸6.27ｍ、短軸4.93ｍ、深さ10.8～25.2cmを測る。床直上には炭化物層が見られ、床面の貼り床粘土に炭化物が混在し貼り付いていた。床面の状態は中央部分がやや高く壁際が低く、壁際はややなだらかに立ち上がっていた。おそらく、第26号墳の墳丘盛り土の影響により床面が鎮圧され北側が沈下したものと考えられる。

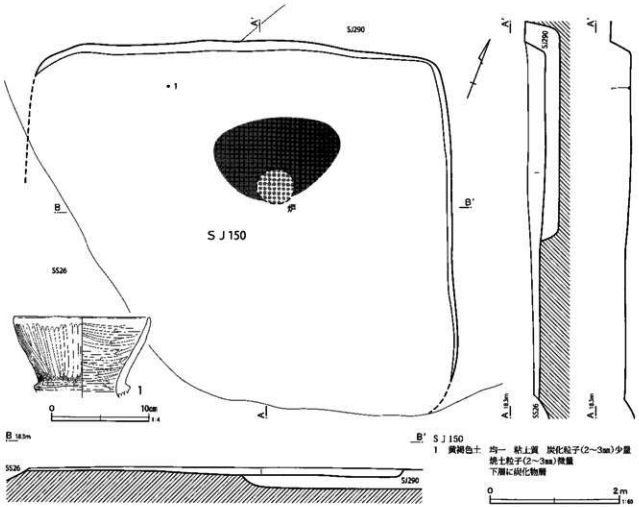
施設は炉跡を検出した。炉跡は住居跡中央付近にあり、径46.0×33.0cm、深さ4.8cmを測る。地山が堅く赤色に焼土化していた。

出土遺物は少量で、壺の口縁部破片を図示した。

第151号住居跡　欠番

第152号住居跡（第98図）

調査区の中央東寄り、T・U－62グリッドに位置する。第290号住居跡、第81号溝跡、第26号墳と重複する。東側は調査区域外にかかる。本住居跡は、西壁側で第290号住居跡を切り込んでいる。また、中央部分に第26号墳の周溝が切り込み、東壁には第81号溝跡が切り込んでいた。第81号溝跡は浅いため本住居跡の壁は溝跡底面で検出することができた。



第97図　第150号住居跡・出土遺物

第36表　第150号住居跡出土遺物観察表（第97図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(14.0)	8.1	－	ACEHIJK	20	良好	明赤褐		

平面形は歪んだ方形である。主軸方向はN－45°－Wを指す。規模は長軸5.03m、短軸4.99m、深さ31.7cmを測る。

施設はピットのみを検出した。径24.6cm、深さ23.4cmを測る。

遺物は少量の土器片を検出したが、図示すべき土器はなかった。

第153号住居跡（第99・100図）

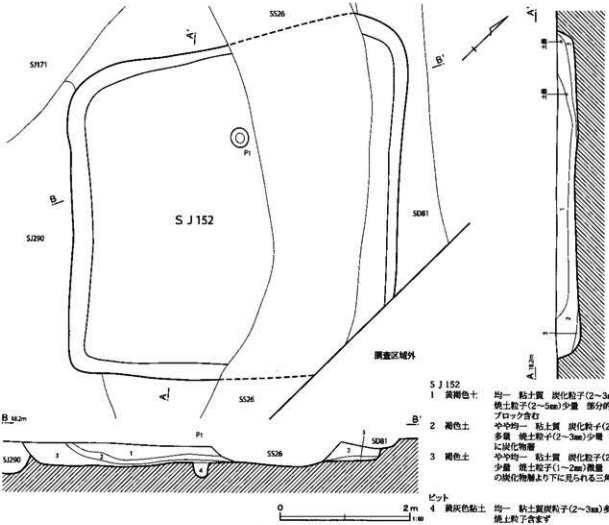
調査区の中央東寄り、R－61・62に位置する。東側に第184号、西側に202号、南側に201号住居跡と重複する。北1mに第238号住居跡がある。本住居跡は、いずれの住居跡も切り込んで構築されていることから最も新しい。

平面形は歪んだ長方形である。主軸方向はN－38°－Wを指す。規模は長軸6.31m、短軸5.02m、深さ21.0cmを測る。

施設は炉跡、ピット3基を検出した。炉跡は南西に位置し、円形を呈している。推定径48.0cmを測る。ピットは、径23.0～43.0cm、深さ22.5～49.0cmを測る。

遺物の出土状況は、炉跡の南側、南壁中央付近に壺、炉跡の対面である東壁中央のピット1周辺から台付甕・高坏を検出した。また、東壁やや北側から小型壺、北西コーナー部の床直から器台を検出した。

遺物は、1～3が壺である。1は平底の底部か



第98図　第152号住居跡

ら胴部が大きく外側に張り球形を呈する。胴部外面は細かなハケメを施し、底部付近はヘラナデである。2は小型壺で口縁部が長く内湾気味に立ち上がるヒサゴ壺である。3は口縁部破片である。内外面とも横方向のミガキが丁寧に施されている。5は台付甕、8は器台である。6は胴部外面に細かなハケメを施す「く」の字甕、7は高坏で、坏部内外面および脚部外面に細かなミガキが丁寧に施されている。9は口唇部にキザミをもつ甕である。

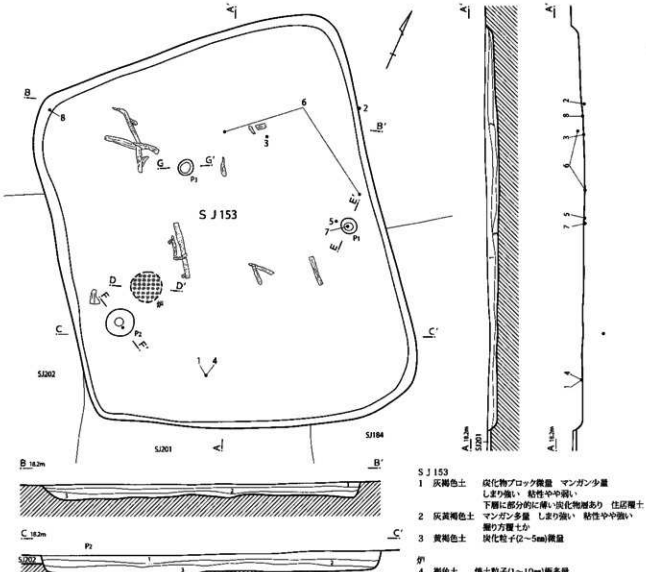
第154号住居跡（第101・102図）

調査区の中央東寄り、R・S－62グリッドに位置する。第184・199・200号住居跡、第23号墳と重複する。西1mに第201号住居跡、北西1mに第153号住居跡がある。本住居跡は南側を第23号墳によって壊されている。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－90°－Wを指す。残存する部分で、長軸4.67m、短軸4.21m、深さ30.8cmを測る。床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。断面観察の際、第3層で止まる墳砂を確認した。

施設はピット6基を検出した。径15.0～44.0cm、深さ7.0～31.8cmを測る。いずれも中央より西側に検出された。

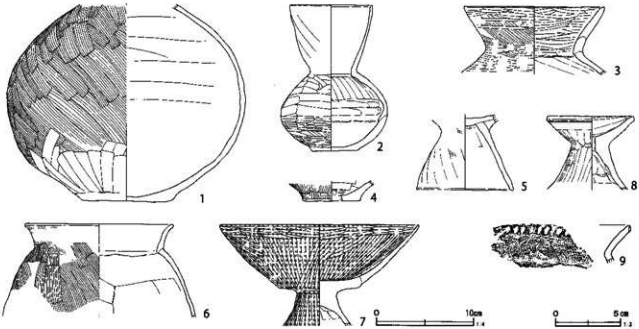
遺物の出土状況は、中央北寄りに器台・高坏を検出し、西壁際に石器と小型の手づくね土器を検出した。手づくね土器は覆土上層の第1層から検出された。本住居跡からは、この他に正確な出土位置は不明ながら2個体の手づくね土器が検出されている。



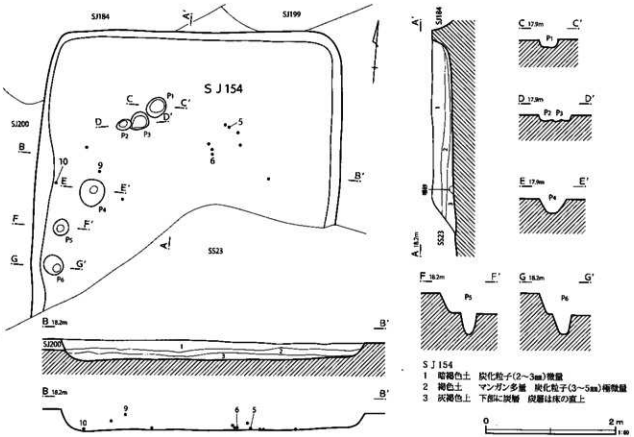
第99図　第153号住居跡

第37表　第153号住居跡出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	—	20.1	9.0	AEHIJK	90	普通	にぶい橙	No.6	
2	土師器	小型壺	8.4	14.9	4.9	ACEHK	90	普通	にぶい橙	No.1	93-4
3	土師器	壺	14.5	6.9	—	ADGIJ	70	普通	にぶい橙	No.4	
4	土師器	甕	—	2.1	(6.0)	DGI	30	普通	にぶい黄橙	No.6	
5	土師器	台付甕	—	7.7	10.0	ACEHIJ	75	普通	にぶい橙	No.3	
6	土師器	甕	(15.0)	9.5	—	AIJK	25	普通	にぶい褐	No.2・5	
7	土師器	高坏	20.4	10.3	—	DIK	90	普通	浅黄橙	赤彩　No.9	128-6
8	土師器	器台	(8.8)	7.6	—	AEGHIJKM	60	普通	にぶい橙	内面煤付着　No.8	
9	土師器	甕	—	2.9	—	ACEHIJ	5	普通	灰褐	口唇キザミ	

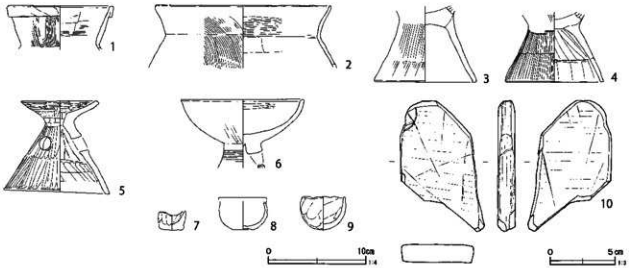


第100図　第153号住居跡出土遺物



第101図　第154号住居跡

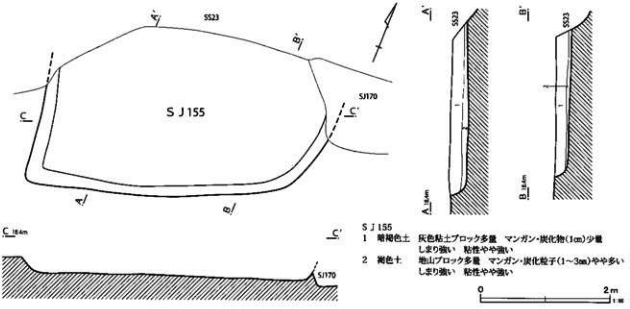
遺物は、1が折り返し口縁の壺の破片、2は広口の甕口縁部破片、3・4は台付甕の台部である。5は台部が長く「ハ」の字状に開く器台、6は坏部が埦形の高坏、7～9の3個体は手づくね。10は結晶片岩の砥石である。



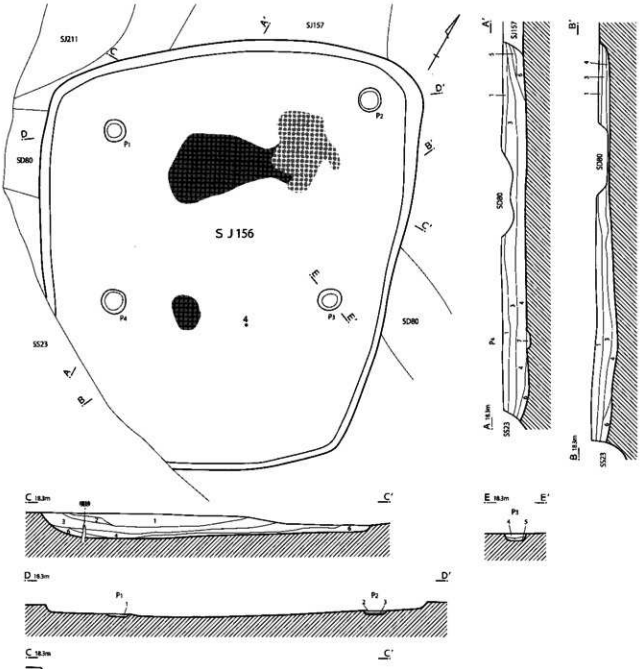
第102図　第154号住居跡出土遺物

第38表　第154号住居跡出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　考	図版
1	土師器	壺	(10.6)	4.5	―	AEHIJK	20	普通	灰黄褐	R62G	
2	土師器	甕	(18.0)	6.4	―	AEIJKM	15	普通	にぶい橙	風化顕著　R62G	
3	土師器	台付甕	―	7.3	10.4	AEGIJM	95	普通	にぶい橙	砂粒多	
4	土師器	台付甕	―	7.2	10.1	AEGIJM	100	普通	にぶい橙	砂粒多	
5	土師器	器台	7.6	9.2	11.0	ADEGIJK	100	良好	橙	三孔　No.4	133-7
6	土師器	高坏	12.6	7.0	―	AEHIJK	90	普通	橙	風化顕著　No.8	128-7
7	土師器	手づくね	(2.6)	1.9	2.5	AHIJK	80	良好	灰白	R62G	126-2
8	土師器	手づくね	―	2.9	2.1	ACEHI	70	普通	灰褐	R62G	
9	土師器	手づくね	4.3	3.4	―	ACEHIJK	100	普通	にぶい橙	底部黒斑　No.10	126-3
10	石製品	砥石	長さ10.0　幅6.5　厚さ1.4　重さ138.1　石材　結晶片岩							No.12	



第103図　第155号住居跡



S J 156

1 暗褐色土　灰色粘土ブロックやや多い　地山ブロック微量　炭化物ブロック(5～10mm)少量　土器片(1cm以下)やや多い　しまり強い　粘性なし

2 褐色土　灰色粘土ブロック少量　地山ブロックやや多い　しまり強い　粘性弱い

3 暗褐色土　地山ブロックやや多い　灰色粘土ブロック・マンガン少量　炭化粒子(1～3mm)・炭化物ブロック(5～10mm)・焼土粒子(1～3mm)・焼土ブロック(5～10mm)極多量　炭化物ブロック状に焼土が堆積　土器片(5～10mm)やや多い　しまり強い　粘性弱い　床面

4 褐色土　灰色粘土ブロック・暗褐色土やや多い　地山ブロック・マンガン・炭化粒子(1～3mm)少量　炭化物ブロック(5～10mm)多量　土器片(1cm以下)少量　しまり強い　粘性やや強い

5 黄褐色土　地山ブロック多量　灰色粘土ブロック少量　炭化粒子(1～2mm)微量　しまり強い　粘性やや強い

6 褐色土　地山ブロック・マンガン多量　灰色粘土ブロックやや多い　炭化粒子(1～3mm)少量　炭化物ブロック(5～10mm)微量　しまり強い　粘性やや強い

7 褐色土　地山ブロックやや多い　マンガン・炭化粒子(1～3mm)微量　しまり強い　粘性やや強い

ピット4

ピット1～3

1 褐色土　地山ブロック・暗褐色土やや多い　マンガン少量　炭化粒子(1～2mm)微量　しまり強い　粘性やや強い

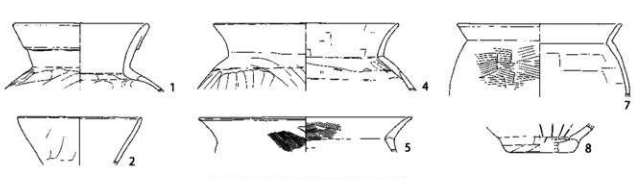
2 暗褐色土　地山ブロック・暗褐色土多量　マンガン・炭化粒子(1～3mm)やや多い　炭化物ブロック(1cm)微量　しまり強い　粘性やや強い

3 褐色土　地山ブロック・暗褐色土やや多い　マンガン多量　炭化粒子(2～5mm)少量　しまり強い　粘性やや強い

4 暗褐色土　地山ブロック少量　マンガン・炭化粒子(2～5mm)やや多い　しまり強い　粘性弱い

5 褐色土　地山ブロック少量　マンガンやや多い　炭化粒子(1～2mm)微量　しまり強い　粘性やや強い

第104図　第156号住居跡



第105図　第156号住居跡出土遺物

第39表　第156号住居跡出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	13.5	7.0	—	ABCEGHIK	100	普通	橙	片岩やや多　石英多	85-3
2	土師器	壺	(12.7)	4.9	—	BCEHIK	15	普通	にぶい黄橙		
3	土師器	壺	—	3.1	(3.4)	DGI	25	普通	にぶい黄褐		
4	土師器	壺	(18.8)	8.0	—	BCDEHKL	30	普通	にぶい褐	No.1　植物繊維	
5	土師器	甕	(21.8)	3.6	—	AEHIJ	5	普通	にぶい橙		
6	土師器	甕	(20.0)	4.7	—	ACEHI	10	普通	にぶい橙		
7	土師器	甕	(16.7)	7.5	—	BEHJ	30	良好	明赤褐		
8	土師器	甕	—	2.9	(6.8)	AEI	25	普通	にぶい黄橙		

第106図　第157号住居跡

第155号住居跡（第103図）

調査区の中央東寄り、S－62グリッドに位置する。南側に第170号住居跡、北側に第23号墳と重複する。

確認は極めて困難で、平面プランは検出したが、住居跡床面の検出が難しく、トレンチを入れ確認した。平面形は重複遺構があるため判然としないが、方形と判断した。主軸方向はN－74°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸4.48m、短軸1.98m、深さ27.0cmを測る。床面は、地山土と粘土ブロックを含むやや軟質の堆積層の直下で検出し、平坦である。

遺物は検出されなかった。

第156号住居跡（第104・105図）

調査区の中央東寄り、S・T－62グリッドに位置する。第157号住居跡、第23号墳、第80号溝跡と重複する。

確認は極めて困難で、平面プランおよび住居跡床面の検出が難しく、トレンチを入れ確認した。平面形は隅丸長方形と推定されるが、南側がやや狭くなり台形状であった。主軸方向はN－23°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸6.66m、短軸5.22m、深さ37.8cmを測る。床直上には炭化物層が見られた。住居跡の北東寄りに焼土の堆積層を検出した。また、その西側および中央付近には炭化物の堆積層が広がっていた。床面は平坦である。

施設はピット4基を検出した。径33.0～36.0cm、深さ6.3～42.0cmを測る。上屋を支えた主柱穴の可能性があるが、壁際に寄った位置での検出であった。

遺物の出土状況は、南側に壺の口縁部破片を検出した。

遺物は、1～4が壺で、1はやや大型の折り返しの複合口縁壺の口縁である。5～7はハケメを施した甕の口縁部破片である。8は甕の底部破片である。

第157号住居跡（第106図）

調査区の中央東寄りS－62グリッドに位置する。第156号住居跡と重複する。

平面形は南側が第156号住居跡に切られ重複があるため判然としない。残存する部分から方形であると推定される。主軸方向はN－69°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸3.03m、短軸1.95m、深さ34.2cmを測る。覆土の第2・3層には、褐色の地山ブロックが多く含まれることから埋め戻された可能性がある。

施設は検出されなかった。床面は平坦である。

遺物は、検出されなかった。

第161号住居跡（第107図）

調査区の南側東寄り、W－59・60グリッドに位置する。第164号住居跡、第14号墳と重複する。北1mに第169号住居跡、東2mに第163号住居跡、南西1mに第146号住居跡がある。

平面形は方形と推定される。主軸方向はN－65°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸3.60m、短軸2.57m、深さ13.4cmを測る。床面は、残存する西側と東側が平坦であり、中央部分が第14号墳に切られ検出できなかった。

施設は壁周溝、ピット7基を検出した。壁周溝は西壁沿に認められ、幅12.0～18.0cm、深さ1.4～2.9cmを測る。ピットは、ピット1～ピット4が主柱穴と考えられ、径22.0～44.0cm、深さ8.4～27.5cmを測る。

遺物は、1が壺の底部破片である。2は外湾する高坏の口縁部である。櫛描直線文が施文されている。古墳時代前期に該当すると考えられる。

第162号住居跡（第108・109図）

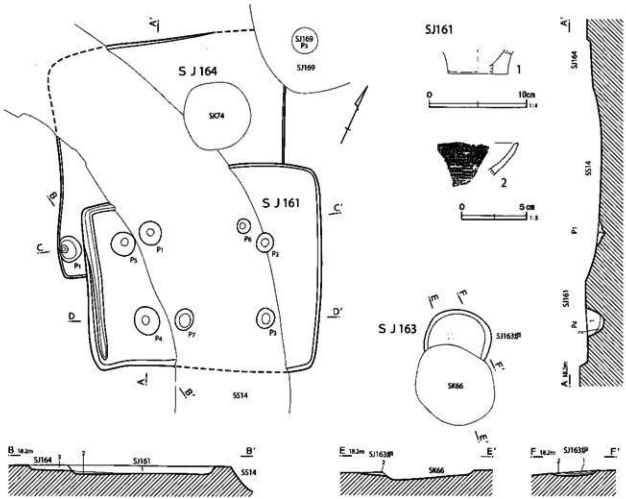
調査区の南側東寄り、X－59グリッドに位置する。第165号住居跡、第14号墳と重複する。西1mに第15号墳、南1mに調査区域外がかかる。

平面形は方形と推定される。主軸方向はN－55°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸2.34m、短軸1.85m、深さ30.6cmを測る。床面は平坦である。

施設は炉跡を検出した。第14号墳と重複するため南側半分のみの検出であった。残存する部分で、推定径24.0cmを測る。

遺物の出土状況は、南壁寄りに集中して検出された。東壁寄りから5に図示した大型の壺、その西側に台付甕が検出された。わずかな違いであるが、明らかに壁際の貯蔵具を検出した場所と中央寄りの台付甕を検出した場所に区別できる。この他、器台・坩が散在する。しかし、いずれの土器も床面からやや高い位置での検出である。

遺物は、1・2が小型壺、3が台付甕、4が器



S J 161
1 褐灰色土 炭化物(1～3mm)・暗灰色土ブロック(1cm程度)やや多い 粘性強い
2 暗灰色土 炭化物(1～3mm)・黄灰色土ブロック(5mm程度)やや多い 粘性強い

S J 164
3 暗灰色土 炭化物(1～5mm)少量 黄灰色土ブロック(5～15mm)やや多い 粘性強い

S J 161ピット
1 褐灰色土 黄灰色粘土(1～2mm)多量 粘性強い
2 暗灰色土 黄灰色粘土(5mm)やや多い 粘性強い

S J 163P
1 暗灰色土 炭化物(1～3mm)やや多い 桃土粒子(1～2mm)少量 粘性強い
2 暗灰色土 黄灰色粘土(2～3mm)・桃土粒子(2～3mm)やや多い 炭化物(2～10mm)多量 粘性強い

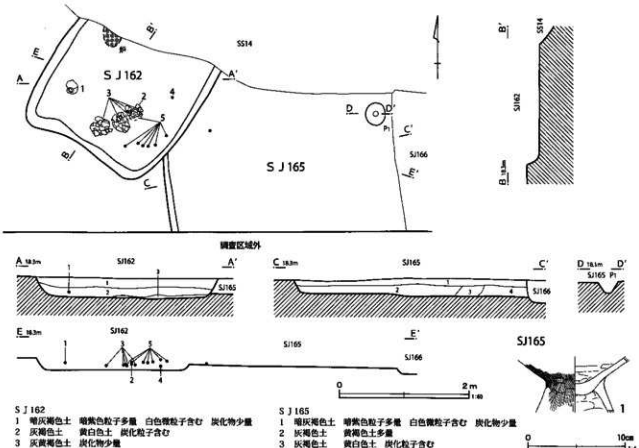
第107図 第161・163・164号住居跡・第161号住居跡出土遺物

第40表 第161号住居跡出土遺物観察表（第107図）

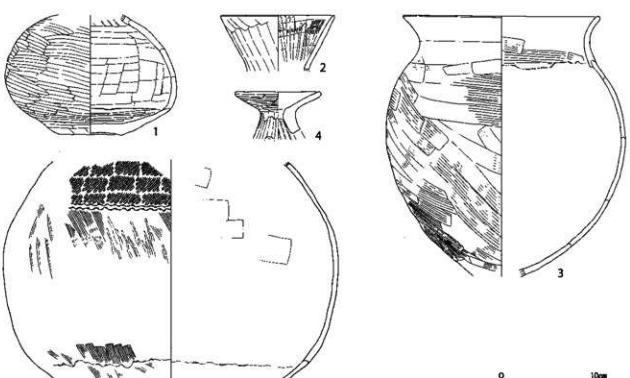
番号	種別	器種	LJ径	器高	底径	胎 土	残存	焼成	色調	備 考	図版
1	弥生	壺	—	2.5	(6.2)	AEHIJK	25	良好	赤褐	風化	
2	土師器	高坏	—	2.5	—	AEHIK	5	普通	橙		

第41表 第162号住居跡出土遺物観察表（第109図）

番号	種別	器種	LJ径	器高	底径	胎 土	残存	焼成	色調	備 考	図版
1	土師器	小型壺	—	12.2	6.6	AEHIJK	75	良好	橙	№13	
2	土師器	小型壺	(11.6)	5.7	—	AEHIK	10	普通	にぶい橙	風化 石英多 №8	
3	土師器	台付甕	(20.2)	26.6	—	AEHIJK	80	普通	にぶい橙	胎土粗雑 石英多	
4	土師器	器台	8.6	4.8	—	AEHIJK	80	良好	明赤褐	三孔 №1 X59G	
5	弥生	壺	—	23.2	—	HIJ	20	普通	明赤褐	№2～7・10	



第108図　第162・165号住居跡・第165号住居跡出土遺物



第109図　第162号住居跡出土遺物

台である。5は球胴形を呈する壺である。胴部上半にLR単節縄文を施文し、下端にS字状結節を2条施文している。

第163号住居跡（第107図）

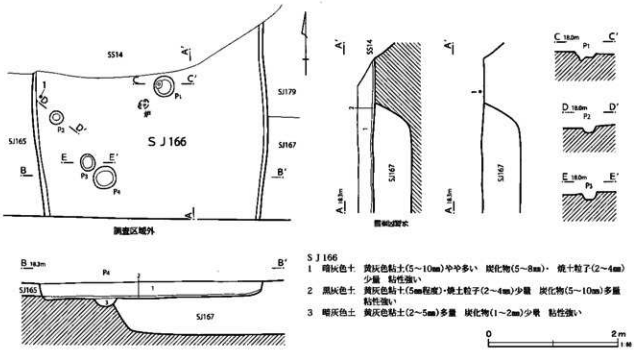
調査区の南側東寄り、W−59・60グリッドに位置する。第66号土壙と重複する。西2mに第161号住居跡がある。

遺構の掘り込みは認められず、確認面で炉跡のみを検出した。炉跡部分の掘り方が残存する部分で、推定径101.0cm、深さ6.5cmを測る。遺構確認面からは他の施設を検出することができなかった。確認面では、すでに本住居跡の床面または、地山面に掘り込まれていた。このため、炉跡の掘り方と燃焼部分の一部を検出したのみである。さらに第66号土壙によって南半分は壊されていた。

遺物は検出できなかった。

第42表　第165号住居跡出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	台付甕	—	5.7	—	BDEHM	60	普通	明赤褐	石英多　煤付着	



第110図　第166号住居跡

第111図　第166号住居跡出土遺物

第43表　第166号住居跡出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	—	2.1	7.2	AEHIJK	70	普通	明褐	風化　No.1	
2	弥生	壺	—	5.1	—	AEHIJK	5	普通	にぶい褐	SJ166・167	
3	弥生	壺	—	2.6	—	AEHIJK	5	普通	明褐	SJ166・167	
4	弥生	甕	—	2.1	—	AEHIJK	5	普通	にぶい黄橙	外面煤付着　SJ166・167	

第164号住居跡（第107図）

調査区の南側東寄り、W－59・60グリッドに位置する。第161・169号住居跡、第74号土壙、第14号墳と重複する。南２ｍに第146号住居跡がある。

平面形は重複が激しく、北壁と東壁の一部、西壁の一部と南西コーナーを確認したにとどまり長方形と推定される。主軸方向はＮ－37°－Ｗを指す。規模は残存する部分で、長軸3.47ｍ、短軸3.45ｍ、深さ6.3cmを測る。施設はピットのみの検出であった。径40.0cm、深さ13.6cmを測る。

遺物の検出はできなかった。

第165号住居跡（第108図）

調査区の南側東寄り、Ｘ－59グリッドに位置する。第162・166号住居跡、第14号墳と重複する。南側は調査区域外にかかる。

平面形は不明である。主軸方向はＮ－90°－Ｗを指す。規模は残存する部分で、長軸3.60ｍ、短軸2.10ｍ、深さ30.0cmを測る。

施設はピットのみの検出であった。径36.0cm、深さ15.0cmを測る。

遺物は、１の台付甕の台部のみであった。

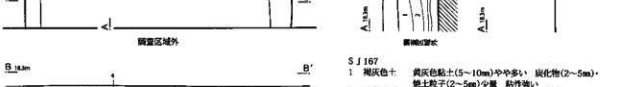
第166号住居跡（第110・111図）

調査区の南端東寄り、Ｘ－59グリッドに位置する。第165・167・179号住居跡、第76号土壙、第14号墳と重複する。第179号住居跡を切り、第167号住居跡の上面に掘り込んで構築されている。

平面形は北側を第14号墳と重複し、南側を調査区域外にかかっているため判然としないが長方形と推定される。主軸方向はＮ－90°－Ｗを指す。規模は残存する部分で、長軸3.60ｍ、短軸2.82ｍ、深さ24.0cmを測る。床直上にはやや厚く炭化物層が見られた。床面は平坦である。

施設は炉跡・ピット４基を検出した。炉跡は推定径18.0cmを測る。ピットは、径21.0～34.0cm、深さ9.0～38.0cmを測る。

遺物は、１～４の土器破片を図示した。１は甕の底部破片である。２は壺の頸部である。大ぶりの櫛描波状文を施文している。３は球胴形を呈する壺の胴部上半である。ハケ状工具による矢羽根状文を施文している。４は甕の口縁部である。口端に工具による交互押捺を施している。古墳時代の住居跡としたが、弥生時代後期の可能性もある。



第112図　第167号住居跡

第44表　第167号住居跡出土遺物観察表（第113図）

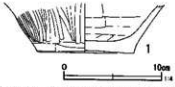
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	弥生	壺	－	4.9	9.8	ACEHIJK	50	普通	明褐灰	№2・3	

第167号住居跡（第112・113図）

調査区の南側東寄り、X－59・60グリッドに位置する。第166・179号住居跡、第13号墳と重複する。

平面形は南側が調査区域外にかかっているため判然としない。主軸方向はN－90°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸4.11m、短軸1.51m、深さ84.0cmを測る。本遺跡の中でも掘り込みの深い住居跡である。

遺物の出土状況は、北壁側で大型壺の底部破片を検出した。



第113図　第167号住居跡出土遺物

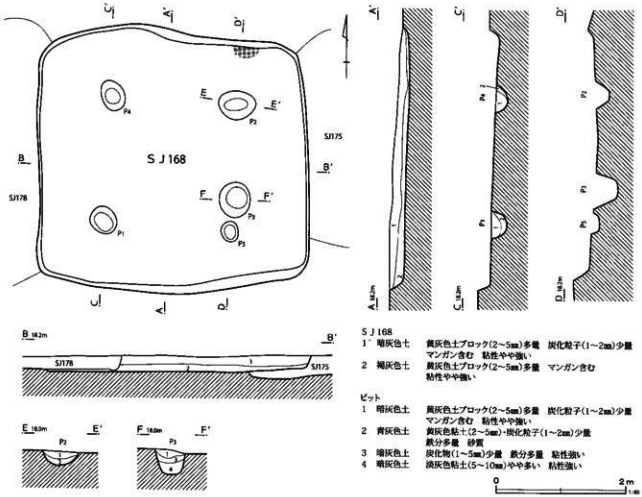
遺物は、1が壺の底部である。ヘラナデが加えられている。

第168号住居跡（第114・115図）

調査区の南側東寄り、V・W－60グリッドに位置する。第175・178号住居跡と重複する。南西1mに第169号住居跡、南東1m内に第173・174号住居跡、北側1m内に第83号溝跡が東西に走る。断面観察によると第178号住居跡に切られ、第175号住居跡を切り込んで構築されてた。

平面形は方形である。主軸方向はN－90°－Wを指す。規模は長軸4.17m、短軸4.14m、深さ23.0cmを測る。床面は平坦である。

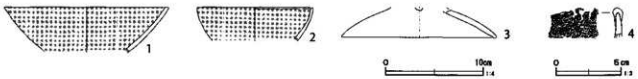
施設はピット5基を検出した。径30.0～56.0cm、深さ9.7～25.2cmを測る。主柱穴は掘り込みの深さが近似することからピット1・2・4・5と見られる。これらのピットに比べピット3は掘り込みが深く、規模が大きいことから貯蔵穴の可能性も



第114図　第168号住居跡

考えられるが、位置的にやや住居跡中央に寄っているため断定はできない。

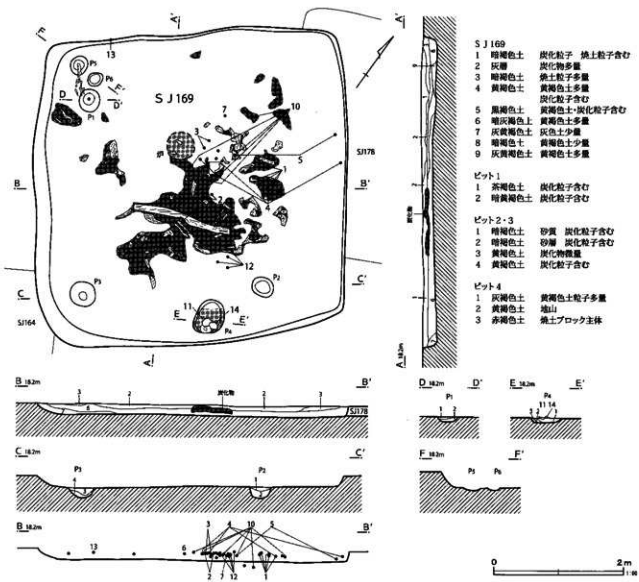
遺物は、覆土中からの出土が認められる。1～3は高坏の破片である。いずれも坏部内外面は赤彩が施されている。4は口唇部にキザミをもつ壺の破片である。



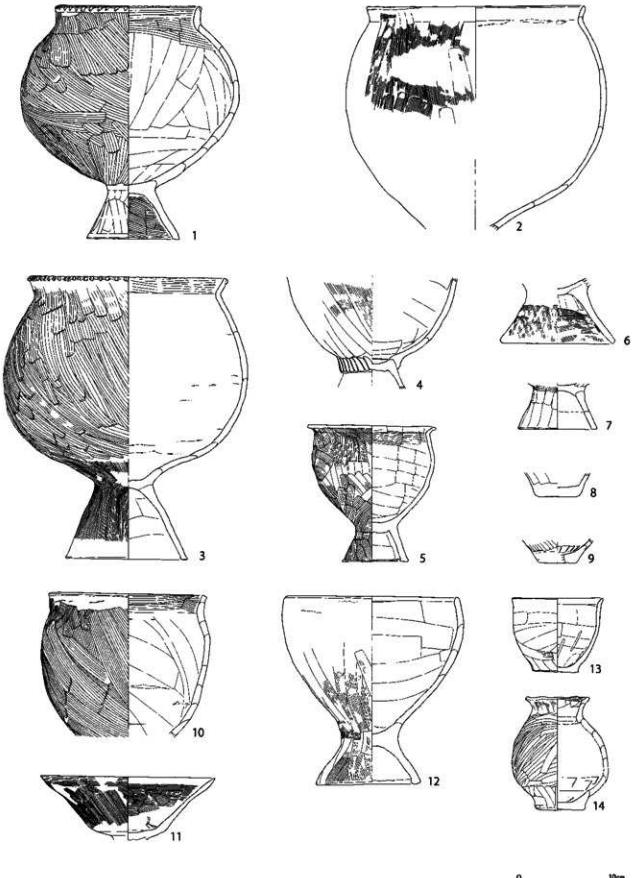
第115図　第168号住居跡出土遺物

第45表　第168号住居跡出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	(17.0)	4.6	—	AHIK	10	良好	橙	赤彩	
2	土師器	高坏	(12.0)	3.4	—	HI	10	普通	橙	赤彩	
3	土師器	高坏	—	3.0	(16.0)	HIJ	15	不良	黄橙	赤彩痕	
4	土師器	壺	—	2.3	—	CEHIK	5	普通	にぶい橙	口唇キザミ	



第116図　第169号住居跡



第117図　第169号住居跡出土遺物（1）

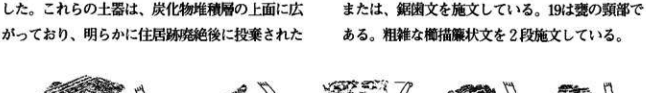
第169号住居跡（第116～118図）

調査区の南側東寄り、V・W－59・60グリッドに位置する。第164・178号住居跡と重複する。南1mに第161号住居跡、第14号墳、北東1mに第168号住居跡、北2mに第83号溝跡が東西に走る。

平面形はわずかに歪んだ方形である。主軸方向はN－32°－Wを指す。規模は長軸4.80m、短軸4.80m、深さ18.0cmを測る。

施設は炉跡、ピット6基を検出した。炉跡は中央よりやや西側に位置し、円形と推定される。推定径45.0cmを測る。ピットは、径23.0～58.0cm、深さ4.1～15.4cmを測る。

遺物の出土状況は、掘り込みのやや浅い住居跡であるが中央付近の覆土中から大量の土器を検出した。これらの土器は、炭化物堆積層の上面に広がっており、明らかに住居跡廃絶後に投棄されたものであると考えられる。1～7・10の土器は廃絶後に投棄された土器と見られ台付甕を中心とした煮沸具が主体である。一方、ピット4の上面から11の高坏と14の小型壺が検出された。13の小型鉢は北壁際から検出され本住居跡に伴う可能性がある。14は小型壺である。平底で胴部に膨らみをもち、口縁部は内外面ハケメ調整、胴部外面にはミガキが施されている。胴部下端はヘラナデ調整である。15は甕の胴部である。櫛歯状工具による粗い斜格子文を施文している。16は球胴形を呈する壺である。3本1単位の櫛描直線文を施文している。17は直線的に外反する甕の口縁部である。口端部外面に工具による押捺を廻らせている。18は壺の胴部である。櫛描波状文下に沈線で山形文または、鋸歯文を施文している。19は甕の頸部である。粗雑な櫛描簾状文を2段施文している。



第118図　第169号住居跡出土遺物（2）

第46表　第169号住居跡出土遺物観察表（第117・118図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	台付甕	14.4	23.9	9.5	DIJ	70	普通	にぶい橙	№25～29	97-2
2	土師器	台付甕	(22.0)	22.8	－	AEHIJK	60	普通	にぶい赤褐	№15・16	
3	土師器	台付甕	19.9	28.9	(12.5)	CEIK	75	普通	にぶい褐	№2・3	97-3
4	土師器	台付甕	－	11.4	－	AEHIJ	30	普通	赤褐	№9・10・25・35	
5	土師器	小型台付甕	12.9	13.9	6.9	AEIJK	65	普通	明赤橙	№5・34	102-2
6	土師器	台付甕	－	6.8	11.4	AEHIJ	75	普通	橙	№17	
7	土師器	台付甕	－	4.7	8.1	ACJM	100	普通	明赤褐	№1	
8	土師器	小型甕	－	2.4	(3.8)	ABCDEHM	40	普通	にぶい橙	砂粒多　胎七粗	
9	土師器	小型甕	－	2.6	(3.8)	CEHIJK	25	普通	にぶい橙		
10	土師器	小型甕	15.6	14.6	－	ADI	60	普通	にぶい赤褐	№5・8・13・14他	118-5
11	土師器	高坏	(18.0)	6.4	－	AEHJ	50	普通	明赤褐	№31	
12	土師器	高坏	17.6	19.2	10.7	AEHIJK	80	普通	明赤褐	№19～22	128-2
13	土師器	鉢	9.2	7.5	4.8	DEGHI	80	普通	にぶい橙	№36	120-6
14	土師器	小型壺	6.4	11.5	5.0	AEHIJK	95	普通	にぶい橙	№32	93-5
15	弥生	甕	－	4.6	－	G	10	普通	暗赤褐		
16	弥生	壺	－	4.1	－	AEGHIK	5	普通	灰黄褐		
17	弥生	甕	－	2.1	－	GJ	10	普通	橙		
18	弥生	壺	－	3.2	－	AEGHIK	5	普通	にぶい橙		
19	弥生	甕	－	2.6	－	AEGIK	5	普通	黒褐		

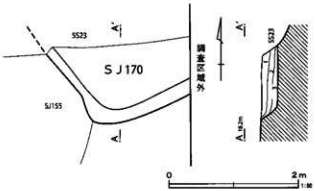
第170号住居跡（第119図）

調査区の中央東寄り、S－62グリッドに位置する。第155号住居跡、第23号墳と重複する。

平面形は重複遺構、調査区域外のため判然としない。主軸方向はN－71°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸1.98m、短軸1.98m、深さ27.0cmを測る。壁はやや緩やかに立ち上がる。床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。

施設は南西コーナー部分のみが残存しているだけで、検出されなかった。

遺物は検出されなかった。



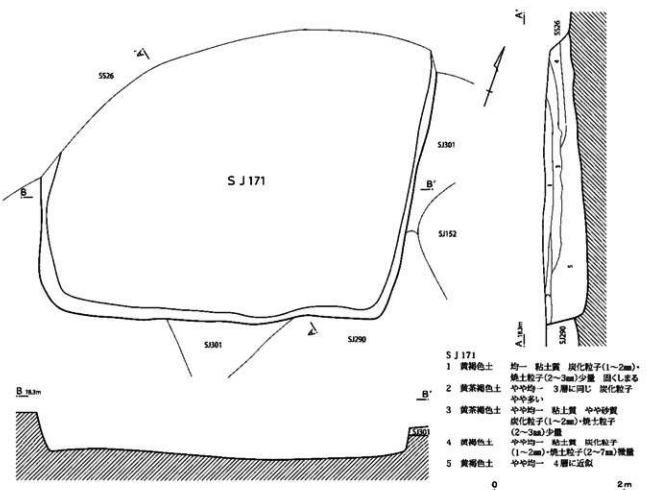
S J 170
1　暗褐色土　炭化粒子(1～2mm)・マンガン少量　しまり非常に強い　粘性弱い
2　褐色土　地山ブロック・灰褐色土やや多い　暗褐色土微量　マンガン多量
炭化粒子(3～5mm)少量　しまり強い　粘性弱い
3　褐色土　黒褐色土層(炭化物層)あり　地山ブロック・灰褐色土多量
マンガン・炭化粒子(1～5mm)やや多い　しまり強い　粘性やや強い

第119図　第170号住居跡

第171号住居跡（第120・121図）

調査区の中央東寄り、T－62　U－61・62グリッドに位置する。第290・301号住居跡、第26号墳と重複する。南2mに第150住居跡がある。

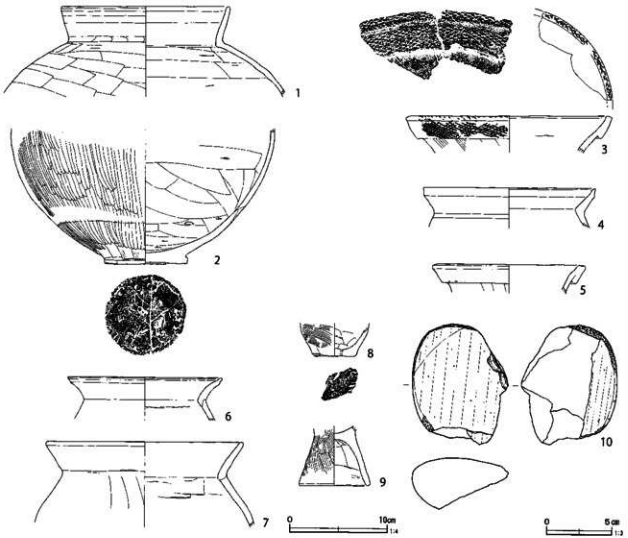
平面形は不明であるが、南壁を中心に東壁と西



第120図　第171号住居跡

壁を確認した。主軸方向はN－74°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸5.67m、短軸3.90m、深さ60.0cmを測る。床直上には炭化物層が見られた。床面は凹凸が見られ、南東部分がやや低くなっている。

遺物は、覆土中から検出した。1～5は壺である。1は素口縁の器壁がやや薄く、赤褐色の胎土である。3は大きく外湾する複合口縁の壺である。



第121図　第171号住居跡出土遺物

第47表　第171号住居跡出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	(17.2)	9.2	－	DGIJ	30	普通	にぶい橙		
2	土師器	壺	－	13.9	6.6	ABCDEGHI	60	普通	にぶい橙	木葉痕　片岩多	
3	土師器	壺	(20.0)	3.7	－	AHIJ	20	普通	浅黄橙		80-1
4	土師器	壺	(17.8)	4.1	－	AEHIK	10	普通	にぶい黄橙		
5	土師器	壺	(15.8)	2.9	－	AEHIJK	10	良好	にぶい橙		
6	土師器	甕	(15.7)	4.4	－	EHK	15	普通	明褐灰		
7	土師器	甕	(20.0)	8.8	－	CEHIJ	10	普通	橙		
8	土師器	甕	－	3.4	(4.0)	ADEHIJ	20	普通	黒		
9	土師器	台付甕	－	6.1	7.2	AEHI	100	普通	橙		
10	石製品	敲石	長さ9.2	幅7.4	厚さ4.3	重さ303.1	石材	砂岩			

口端部及び口縁部に網目状撚糸文を施文している。6～8は甕の破片である。9は台付甕の台部破片である。10は敲石である。

第172号住居跡（第122・123図）

調査区の南側東寄り、X－61グリッドに位置する。第13号墳と重複する。

平面形は不明であるが、南壁を中心に東壁と西壁の一部を確認した。主軸方向はN－75°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸3.68m、短軸0.64m、深さ47.0cmを測る。床面は地山粘土がやや硬くしまり、やや凹凸が見られ南東方向にやや低くなっている。

施設は壁周溝、ピットを検出した。壁周溝は遺構内を全周している。幅12.0～26.0cm、深さ4.0～6.7cmを測る。ピットは南西コーナーに検出され、径24.0cm、深さ55.5cmを測る。規模は小さいが貯蔵穴の可能性が考えられる。

遺物は、土師器の甕口縁と台付甕の台部を検出した。他に、砥石と敲石を検出した。3は、楕円形を呈したまご形である。4は、端部の一方に敲打痕をもつ。

第173号住居跡（第124・125図）

調査区の南側東寄り、W－60・61グリッドに位置する。第174・208号住居跡と重複する。北西1mに第168号住居跡がある。

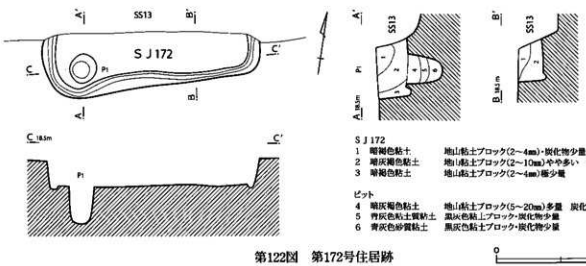
本遺跡の住居跡は、重複関係が多く認められるが、本住居跡は、連続する切り合い関係を追うことができる。本住居跡に切られている住居跡は、第208号住居跡である。一方、本住居跡を切っている住居跡は、古い順から第174・175・168・178・169・164・161号住居跡である。これらの順で土器の型式変化をとらえることはできないが、断面観察から明らかとなった調査所見である。

平面形は南壁に比べ北壁がやや長いがほぼ方形である。北西コーナー部分の壁が一部崩れたと考えられる。主軸方向はN－28°－Wを指す。規模は長軸2.70m、短軸2.64m、深さ18.0cmを測る。第174号住居跡に切られていたため、本住居跡の残存する掘り込みは浅い。さらに、本住居跡の東側の床下には第208号住居跡の覆土を検出した。床面は平坦である。

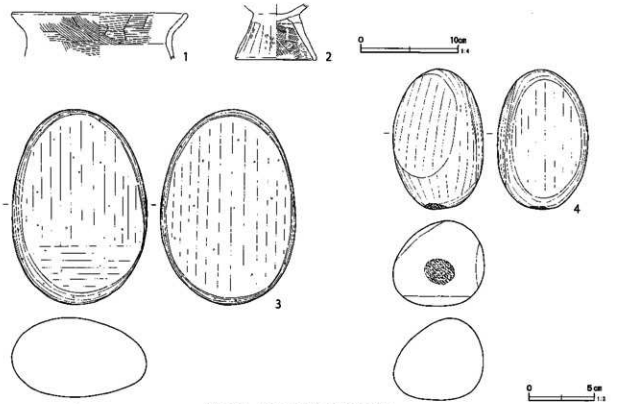
遺物の出土状況は、1の台付甕の台部が北壁西寄りの壁際から検出され、2の台付甕の台部と3の高坏の脚部が東壁やや南寄りの壁際から南東コーナー部分にかけて検出された。

遺物は、1・2・7・8が台付甕の台部である。3は大きく脚端部を広げる三方透かしをもつ高坏の脚部である。4・5は壺口縁部破片、6は甕の底部である。

9は球胴形を呈する壺である。胴部上半無文帯下にRL単節縄文を施文している。無文部は赤彩されている。



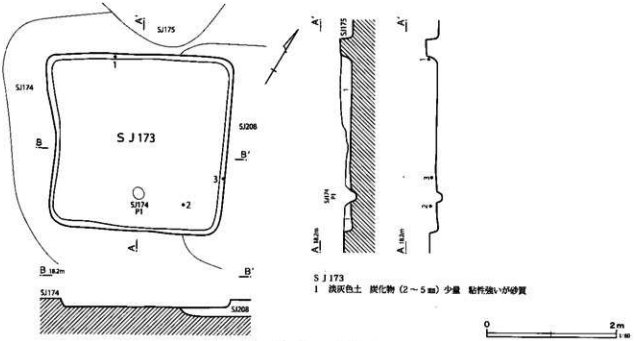
第122図　第172号住居跡



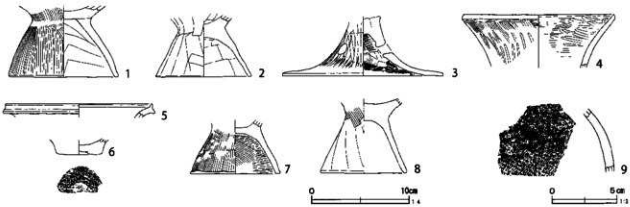
第123図　第172号住居跡出土遺物

第48表　第172号住居跡出土遺物観察表（第123図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	(18.0)	4.7	—	ACEHIJ	15	普通	にぶい橙		
2	土師器	台付甕	—	5.7	8.2	AEHIJ	70	普通	にぶい黄橙		
3	石製品	砥石	長さ15.0　幅10.4　厚さ6.2　重さ1325.3　石材　砂岩								152-3
4	石製品	敲石	長さ10.7　幅7.5　厚さ6.5　重さ758.0　石材　砂岩								152-3



第124図　第173号住居跡



第125図　第173号住居跡出土遺物

第49表　第173号住居跡出土遺物観察表（第125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	台付甕	－	7.3	(11.2)	EHIJK	60	普通	明褐	砂粒多 №3	
2	土師器	台付甕	－	6.3	9.8	AEIJK	95	良好	にぶい橙	外面被熱・煤付着 №2	
3	土師器	高坏	－	6.1	(16.5)	ACEGHI	70	良好	橙	三孔 №1	
4	土師器	壺	(15.5)	5.5	－	EFHIJK	20	普通	赤褐	SJ173・174	
5	土師器	壺	(15.0)	1.4	－	ACEHIJ	15	普通	明赤褐	SJ173・174	
6	土師器	甕	－	1.5	(4.1)	AEIJ	45	普通	にぶい黄橙	SJ173・174	
7	土師器	台付甕	－	5.5	9.2	ABEHJ	95	普通	にぶい橙	SJ173・174	
8	土師器	台付甕	－	7.6	8.7	EG	50	普通	橙	SJ173・174	
9	弥生	壺	－	4.9	－	AEHI	5	普通	灰黄	赤彩 SJ173・174	

第174号住居跡（第126図）

調査区の南側東寄り、W－61グリッドに位置する。第173・175・208号住居跡・第72号土壙と重複する。北西１ｍに第168号住居跡、北東１ｍに第177号住居跡がある。

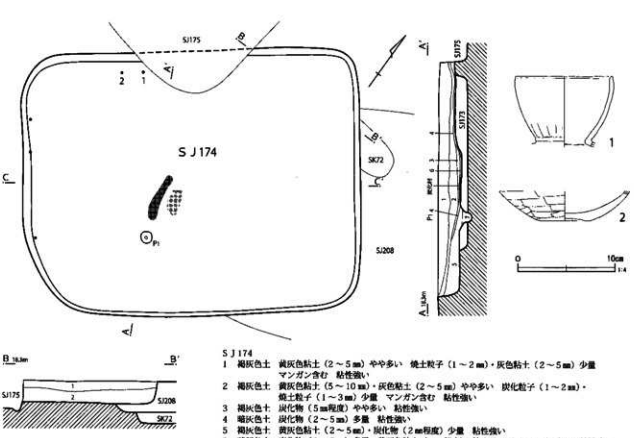
重複関係は、本住居跡を切って、第175号住居跡が存在する。一方、本住居跡の直下には第173号住居跡が位置し、切られている第208号住居跡、さらに、第72号土壙が位置する。断面観察による切り合い関係では、第72号土壙が最も古い遺構となる。

平面形は長方形である。主軸方向はＮ－54°－Ｅを指す。規模は長軸5.16ｍ、短軸4.08ｍ、深さ33.0㎝を測る。床面は、中央部分がわずかに凹み、周囲は平坦である。炉跡の周囲には炭化物が堆積している。断面観察によると覆土中層に炭化物層が認められ第４層とした。この炭化物層は、自然堆積である第５層の上面に堆積していた。第４・５層の堆積層下面に本住居跡の床面が存在し、その直下に第173号住居跡の埋土を確認した。

施設はピットのみの検出であった。径15.0㎝、深さ12.0㎝を測る。

遺物の出土状況は、壁際からの出土が目立つ。１・２は小型壺の破片であり、北壁際から検出された。

遺物は、１が小型壺の内湾する口縁部破片である。口唇部内面に面をもつ。２が小型壺のやや上げ底気味の底部破片である。外面の調整は細かな単位で横方向にナデを施している。内面は丁寧な横方向のナデを施している。



S J 174
1 褐灰色土 黄灰色粘土（2～5㎜）やや多い 焼土粒子（1～2㎜）・炭色粘土（2～5㎜）少量 マンガン含む 粘性強い
2 褐灰色土 黄灰色粘土（5～10㎜）・炭色粘土（2～5㎜）やや多い 炭化粒子（1～2㎜）・焼土粒子（1～3㎜）少量 マンガン含む 粘性強い
3 褐灰色土 炭化物（5㎜程度）やや多い 粘性強い
4 暗灰色土 炭化物（2～5㎜）多量 粘性強い
5 褐灰色土 黄灰色粘土（2～5㎜）・炭化物（2㎜程度）少量 粘性強い
6 暗灰色土 炭化物（2～7㎜）多量 黄灰色粘土（5㎜程度）・焼土粒子（2～5㎜）少量 粘性強い
7 青灰色土 暗灰色粘土（2～5㎜）やや多い 粘性強いが砂質

第126図 第174号住居跡・出土遺物

第50表 第174号住居跡出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 上	残存	焼成	色調	備 考	図版
1	土師器	小型壺	10.0	7.2	－	EHIJ	95	普通	橙	№3	
2	土師器	小型壺	－	3.0	4.5	AE	70	普通	橙	石英多 №2	

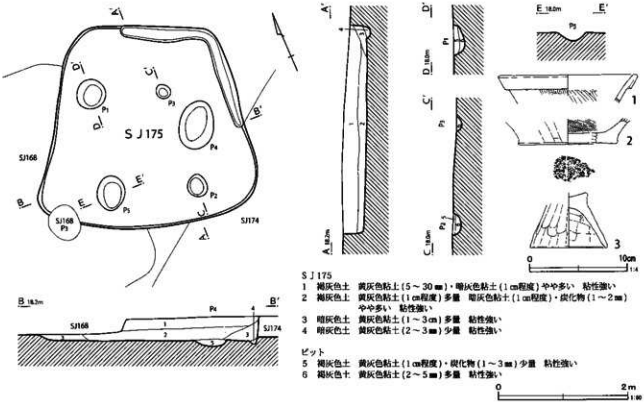
第175号住居跡（第127図）

調査区の南側東寄り、V－60・61グリッドに位置する。第168・174号住居跡と重複する。北側1m内に第83号溝跡が東西に走る。南側1m内に第173・208号住居跡がある。

確認は極めて困難で、平面プランの検出が難しく、トレンチを入れ断面による確認を行った。さらに、西壁は、第168号住居跡に切られていた。このため、南辺に比較して北辺がやや短く、さらに、北辺と東西辺との角度は鈍角になり、南辺と東西辺との角度は鋭角になっており、平面形は台形に近い不整方形である。主軸方向はN－20°－Eを指す。規模は長軸3.12m、短軸2.88m、深さ36.0cmを測る。床面は、平坦である。

施設は壁周溝、ピット5基を検出した。壁周溝は北東壁コーナーに沿って認められ、幅17.4～24.0cm、深さ2.4～7.7cmを測る。ピットは径23.0～78.0cm、深さ9.0～17.0cmを測る。いずれも浅く、覆土は黄灰色粘土で覆われていた。

遺物は、1が複合口縁の壺である。2は壺の底部破片で木葉痕が付いている。3は台付甕の台部破片である。



第127図　第175号住居跡・出土遺物

第51表　第175号住居跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考		図版
1	土師器	壺	(13.9)	2.9	－	EHIK	10	普通	にぶい橙			
2	土師器	壺	－	2.4	(10.0)	ACDEHIK	25	良好	橙	木葉痕		
3	土師器	台付甕	－	5.1	(7.9)	ADEHIJK	40	普通	赤褐	SJ176		

第176号住居跡（第128・129図）

調査区の南側東寄り、V・W－61・62グリッドに位置する。第177号住居跡、第73号土壙、第83号溝跡と重複する。西側２ｍに第208号住居跡、南側２ｍに第137号住居跡、東側１ｍに第148号住居跡がある。

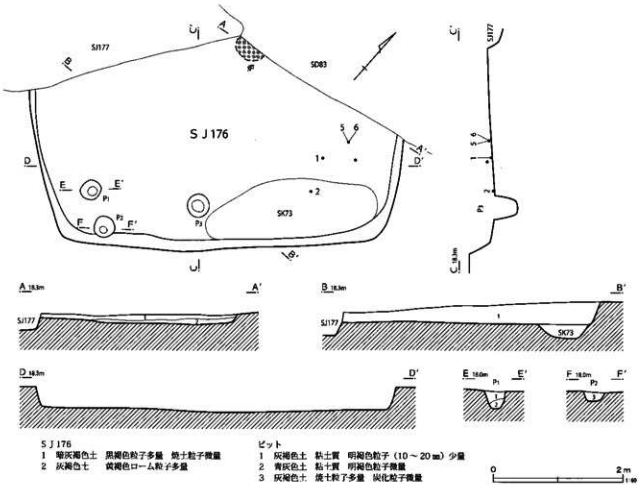
北側の第83号溝跡と第177号住居跡に切られ、北壁は残存しない。南壁と東壁および西壁の一部を検出した。平面形は不整形である。主軸方向はＮ－49°－Ｅを指す。規模は残存する部分で、長軸5.67ｍ、短軸3.24ｍ、深さ27.0㎝を測る。

施設は炉跡、ピット３基を検出した。炉跡は第177号住居跡、第83号溝跡と重複しているため、三日月状に一部検出した。推定径44.4㎝を測る。炉の焼土は赤褐色でやや硬くブロック状を呈する。ピットは南壁寄りに検出された。径28.0～36.0㎝、深さ17.0～32.0㎝を測る。

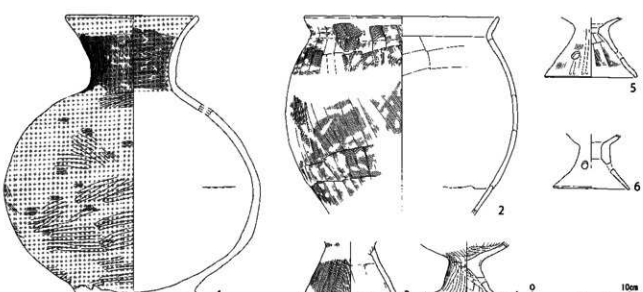
本住居跡の床下から土壙を検出した。検出した位置は、南東コーナー部分から南壁に沿って南壁の中央付近まで伸びる。形態は不整楕円形である。断面形態は船底型で、南東コーナー部分が最も深くなっている。規模は長軸2.72ｍ、短軸1.16ｍ、深さ35.0㎝であった。遺物は検出されなかったが暗褐色土で覆われ、炭化粒子を多く含む。

遺物の出土状況は、東壁寄りにまとまって出土している。１・２は床直上からの出土である。５・６の器台はやや床面よりわずかに浮いた位置での検出である。

遺物は、１がやや大型の壺である。平底のやや大きめの底部で、胴部が張りをもつ球形を呈する。



第128図　第176号住居跡

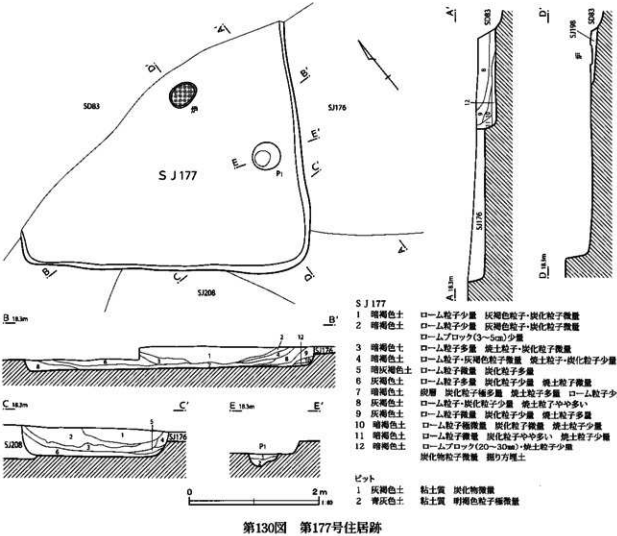


第129図　第176号住居跡出土遺物

第52表　第176号住居跡出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	(13.2)	29.0	11.1	AEGHIKM	60	普通	にぶい黄橙	赤彩　胎土粗雑	
2	土師器	台付甕	(20.0)	20.2	—	AEHIJK	30	不良	にぶい橙	内外面煤付着　赤化	
3	土師器	台付甕	—	5.8	9.5	BEIJK	80	普通	にぶい橙	SK1	
4	土師器	高坏	—	5.9	8.4	AEHIJK	50	良好	にぶい黄橙	三孔　SK1	
5	土師器	器台	—	6.1	9.5	AEHIJK	85	普通	にぶい橙	三孔　風化顕著　№1	133-8
6	土師器	器台	—	5.5	(7.7)	CEHIJK	60	普通	橙	三孔　風化顕著　№1	

口縁部はやや長く外反して立ち上がる。器壁はやや凹凸をもち、粘土紐の巻き上げによる成形とみられる。整形は、口縁部内外面にはハケメが施され、胴部外面にミガキが施されている。全体にナデが見られ、口縁部および胴部外面には赤彩が施されている。2・3は台付甕である。2は「く」の字甕で、口縁部は短く外傾して伸びる。胴部に張りをもち胴部中央に最大径がある。整形は縦方向のハケメを口縁部から底部方向に向かって数段に分けて施している。頸部および胴部下端に輪積み痕が残る。3は台付甕脚部である。「ハ」の字状に開いた直線的な脚部である。脚端部は面をもち角ばっている。4は高坏で三孔の丸い透かし穴が付く。5・6は器台である。いずれも脚部のみの残存である。5は脚部「ハ」の字に開く。6は柱状脚部である。いずれも三方透かしである。



第130図　第177号住居跡

第177号住居跡（第130・131図）

調査区の南側東寄り、V－61グリッドに位置する。第176・198・208号住居跡、第83号溝跡と重複する。西1mに第173号住居跡がある。

平面形は北壁および西壁が第83号溝跡に切られているため不明瞭である。主軸方向はN－51°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸4.44m、短軸2.34m、深さ42.0cmを測る。断面観察では、自然堆積の様相である。上層の第1層から4層までは暗褐色土、壁寄り下層には三角堆積の灰褐色土が堆積し、その上面である中間層から床直上にわたって炭化物層が見られた。床面は平坦である。

施設は炉跡、ピットを検出した。炉跡は北側に位置し、楕円形を呈している。径38.0×48.0cm、深さ4.0cmを測る。ピットは径42.0cm、深さ18.2cmを測る。

遺物は、1・2は壺の底部と見られる。3は台付甕の台部、4は小型の甕、5は高坏である。6は敲石である。

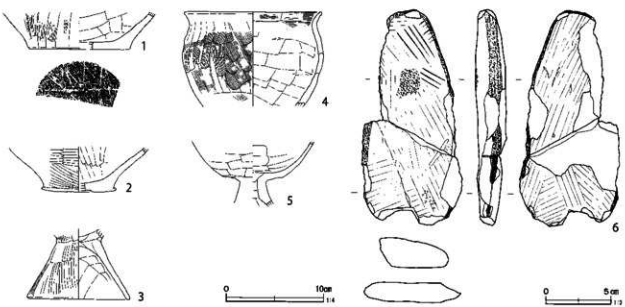
第178号住居跡（第132図）

調査区の南側東寄り、V・W－60グリッドに位置する。第168・169と重複する。北1m内に第83号溝跡が東西に走る。

平面形は方形と推定される。主軸方向はN－26°－Wを指す。規模は残存する部分で、3.75m、短軸3.69m、深さ16.8cmを測る。床面は平坦である。

施設は壁周溝、ピット3基を検出した。壁周溝は東壁沿いに認められる。幅14.0～18.0cm、深さ4.4～5.5cmを測る。ピット1およびピット3は、住居跡の主柱穴と見られる。径19.5～24.0cm、深さ7.2～10.1cmを測る。

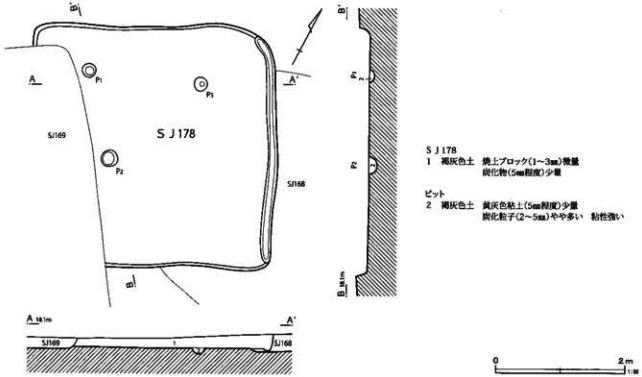
遺物は、覆土中から少量の土師器破片を検出したが、図示できるものはなかった。



第131図　第177号住居跡出土遺物

第53表　第177号住居跡出土遺物観察表（第131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	－	4.9	(10.2)	AEHI	40	普通	橙	木葉痕	
2	土師器	壺	－	4.6	(7.6)	AEIJK	50	普通	にぶい黄橙	外面黒斑　輪台状	
3	土師器	台付甕	－	7.2	(10.6)	ACEHIJKM	45	普通	にぶい黄橙		
4	土師器	小型甕	(14.0)	9.7	－	ACEHIJK	30	普通	明赤褐	外面煤付着	
5	土師器	高坏	－	6.7	－	ABEHI	45	普通	橙	石英多　器面磨滅	
6	石製品	敲石	長さ16.4　幅7.8　厚さ2.4　重さ341.9　石材　緑色岩								152-3



第132図 第178号住居跡

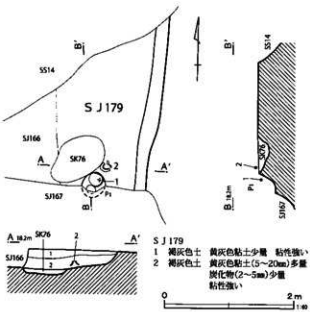
第179号住居跡（第133・134図）

調査区の南側東寄り、X－59・60グリッドに位置する。第166・167号住居跡、第76号土壙、第14号墳と重複する。東側1mに第13号墳がある。

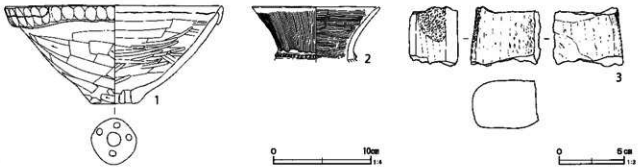
平面形は重複遺構があるため判然としない。主軸方向はN－8°－Eを指す。規模は残存している部分で、長軸2.22m、短軸1.53m、深さ36.0cmを測る。床面は平坦であるが、重複遺構が多く、切り合い付近では、床面に凹凸が見られる。

遺物の出土状況は、第167号住居跡に面した部分から鉢型甑と壺の口縁部破片を検出した。

遺物は、甑と壺、砥石を図示した。1は鉢型甑で逆「ハ」の字状に大きく開く形態である。口縁部は折り返され外面には指押さえの痕跡が残る。底部には中心に大きな穴があり、周囲に小型の穴が四個配置された1＋4の孔が開いている多孔式である。2は壺の口縁部破片である。口縁部の形態は素口縁である。外面は縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメが施されている。頸部には粘土紐を巻きキザミを施している。3は敲石である。両端が欠損する。



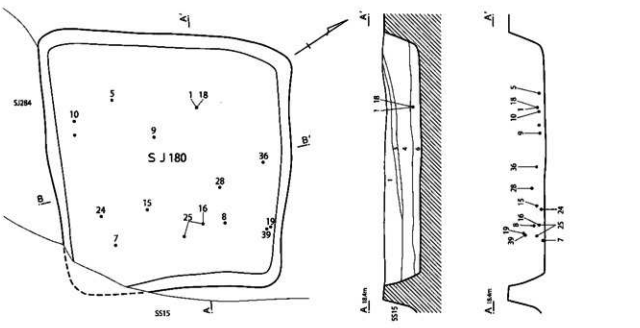
第133図 第179号住居跡



第134図　第179号住居跡出土遺物

第54表　第179号住居跡出土遺物観察表（第134図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	甕	22.2	10.1	4.7	EHIJ	100	良好	橙	No1	139-6
2	土師器	壺	13.0	5.6	—	AEHIJ	50	普通	にぶい橙	No2　SJ166・167	
3	石製品	敲石	長さ4.5	幅5.4	厚さ3.8	重さ147.5	石材	砂岩			152-3

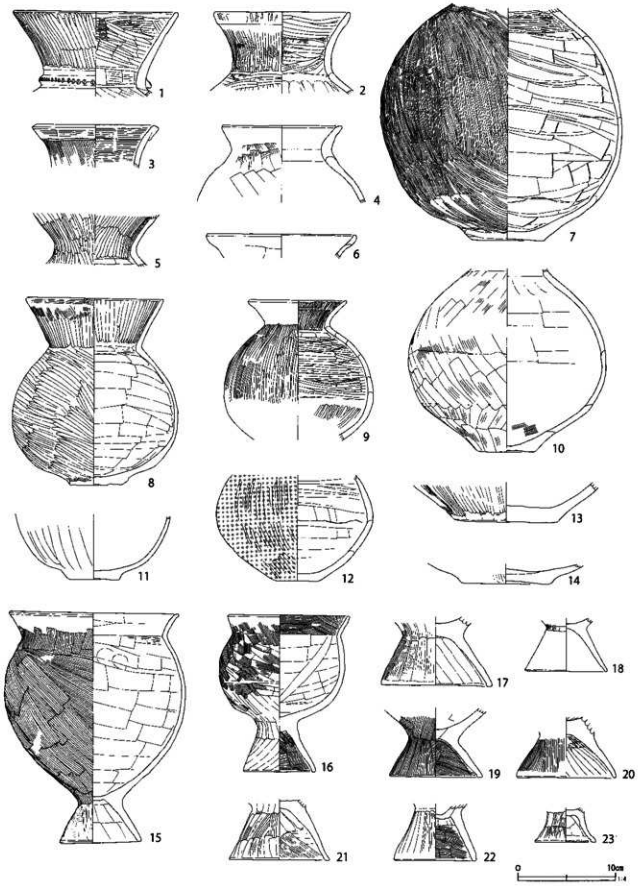


第135図　第180号住居跡

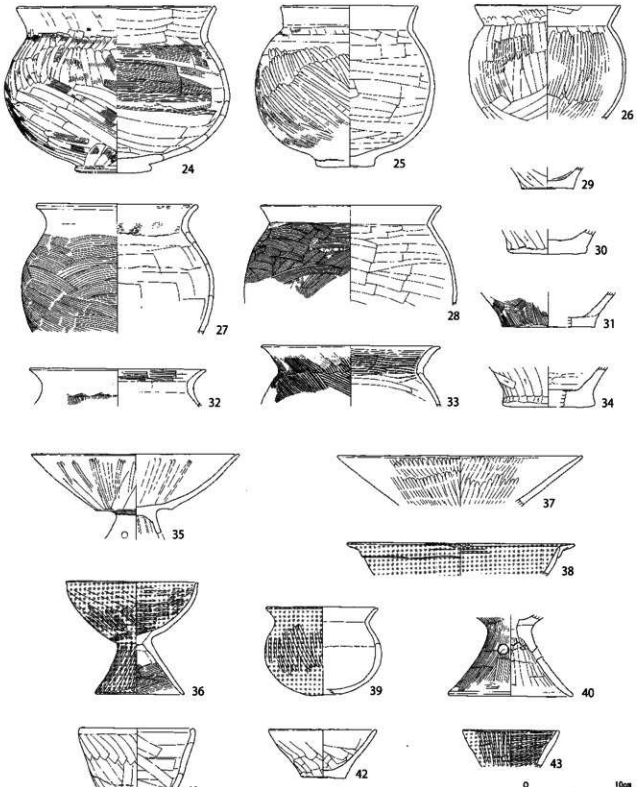
第180号住居跡（第135～138図）

調査区の南側中央寄り、X－59グリッドに位置する。第284号住居跡、第15号墳と重複している。北側1mに第189号住居跡、西側1mに第181号住居跡がある。

平面形は南西コーナーが第15号墳に切られ確認できなかったが、北辺に比べ南辺がやや短く歪んだ方形である。主軸方向はN－60°－Wを指す。規模は長軸3.75m、短軸3.66m、深さ54.0cmを測る。掘り込みが深く、壁の残存が良好で立ち上がりは



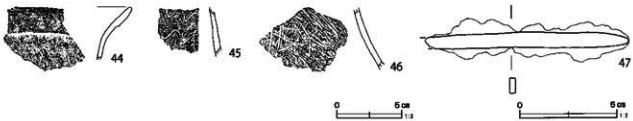
第136図　第180号住居跡出土遺物（1）



第137図　第180号住居跡出土遺物（２）

ほぼ垂直である。断面観察によると覆土中層の第３層は、黄褐色粘土層が住居跡北側から流れ込むように堆積している。また、第５層は掘り方埋土で床直上に炭化物層が見られた。床面は平坦である。

遺物の出土状況は、住居跡全体に広がって検出



第138図　第180号住居跡出土遺物（3）

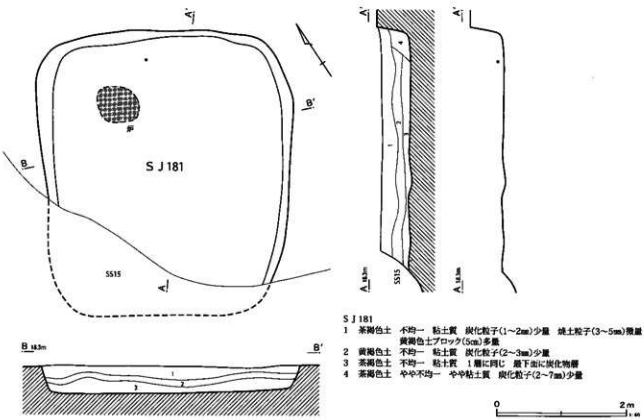
第55表　第180号住居跡出土遺物観察表（第136～138図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	16.6	8.7	－	AEGHIJK	95	良好	にぶい橙	№15	87-1
2	土師器	壺	(13.6)	8.3	－	CDEHIJ	30	普通	にぶい橙		
3	土師器	壺	(12.2)	4.4	－	EGHK	10	普通	浅黄橙		
4	土師器	壺	12.2	7.9	－	ACJ	30	普通	明赤褐		
5	土師器	壺	－	5.4	－	AEHIJK	95	良好	浅黄橙	№13	
6	土師器	壺	(15.1)	2.4	－	ACEGI	5	普通	赤		
7	土師器	壺	－	23.7	7.6	ACEGHIJKM	85	普通	にぶい黄橙	№9	
8	土師器	壺	14.0	19.1	5.5	ACEIK	90	良好	にぶい橙	輪台状　№5	87-2
9	土師器	壺	9.9	14.3	－	ACDEHIJ	85	普通	にぶい橙	№14	87-3
10	土師器	壺	－	18.8	5.8	ACEHIK	100	普通	橙	石英多　輪台状　№12	
11	土師器	壺	－	6.6	5.0	EHIJK	60	普通	赤褐		
12	土師器	壺	－	10.8	4.0	AEHIK	70	普通	にぶい橙	赤彩	
13	土師器	壺	－	4.1	10.6	ACEHIJK	50	普通	にぶい黄橙	雲母・石英多	
14	土師器	壺	－	2.1	9.0	EHIK	50	良好	明赤褐		
15	土師器	台付甕	17.1	23.6	7.8	ACEHIJK	90	良好	灰黄褐	LI線～胴部外面煤付着　№8	97-4
16	土師器	小型台付甕	(12.4)	16.0	7.5	AEHIJK	70	良好	にぶい褐	胴部外面煤付着　赤化　№6	102-3
17	土師器	台付甕	－	7.1	(11.4)	ACEHIK	60	普通	にぶい黄橙		
18	土師器	台付甕	－	5.5	(8.4)	CEI	55	普通	橙	№15	
19	土師器	台付甕	－	7.2	9.4	AEHIJK	70	普通	明赤褐	№2	
20	土師器	台付甕	－	6.3	(10.1)	AEHIK	50	良好	橙	金雲母多	
21	土師器	台付甕	－	6.2	10.4	ACDEHIJKM	80	普通	橙		
22	土師器	台付甕	－	5.9	8.5	CEIJK	90	普通	橙	器面磨滅	
23	土師器	台付甕	－	3.5	6.2	ABEHIKM	100	普通	橙	風化	
24	土師器	鉢	20.0	17.3	7.8	ABEHIJKM	80	良好	にぶい橙	№10	120-7
25	土師器	小型甕	(13.8)	16.4	(6.0)	AEHIJK	60	普通	にぶい赤褐	輪台状　№6・7	118-6
26	土師器	小型甕	(14.8)	11.5	－	AEHIJK	25	良好	明赤褐		
27	土師器	甕	(16.2)	13.3	－	CEIJK	30	普通	にぶい褐		
28	土師器	甕	(18.4)	10.3	－	AEHIJK	30	良好	灰褐	外面煤付着　№4	
29	土師器	甕	－	2.3	5.4	AHIJK	100	良好	橙		
30	土師器	甕	－	2.5	7.8	CDHIJK	100	良好	にぶい橙		
31	土師器	甕	－	3.6	(9.8)	EHIJK	20	普通	にぶい黄橙		
32	土師器	甕	(17.8)	3.8	－	CEHIJK	30	普通	にぶい褐		
33	土師器	甕	(17.8)	6.2	－	AEGHIK	25	普通	にぶい橙	粗い刷毛目　二次被熱	
34	土師器	甕	－	4.1	(9.5)	AEGHI	40	普通	にぶい橙	SS15	
35	土師器	高坏	21.3	8.8	－	AEHIJK	85	普通	橙		
36	土師器	高坏	13.6	11.5	9.1	EHIJK	95	普通	橙	赤彩　風化　№1	128-3
37	土師器	高坏	(25.0)	5.2	－	GHIJ	10	普通	灰白		
38	土師器	鉢	(23.0)	3.3	－	AEGHIJ	5	普通	にぶい橙	赤彩	
39	土師器	鉢	11.3	9.0	(3.3)	ACEHI	70	普通	橙	赤彩　№3	120-8

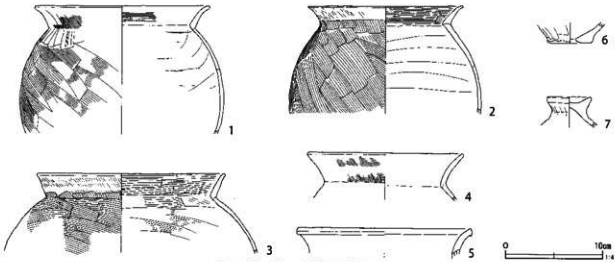
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
40	土師器	器台	—	8.3	(12.5)	AEHIJK	40	良好	橙	四孔	
41	土師器	鉢	(11.6)	6.7	—	DEHI	25	普通	浅黄橙		
42	土師器	鉢	10.9	4.9	4.2	ADEHIJK	100	良好	にぶい橙	輪台状	121-1
43	土師器	坩	9.8	3.8	—	ADEHIJK	90	普通	にぶい赤褐	赤彩	
44	土師器	壺	—	4.1	—	ACEI	5	普通	明赤褐		
45	弥生	壺	—	3.7	—	CEHIJ	5	普通	灰褐		
46	弥生	甕	—	4.9	—	ACI	5	普通	明赤褐		
47	鉄製品	棒状品	長さ10.5　幅0.8(最大)　厚さ0.3　重さ27.32								149-7

され、床面よりやや高い位置から出土している。器種の構成をみると、北西壁付近からは壺が検出され貯蔵具が中心、対角線上の南東付近からは台付甕・小型台付甕・鉢を検出し、調理、煮沸具が中心である。また、南西寄りには壺・鉢・台付甕が検出された。

遺物は、1～14が壺である。1は素口縁で、頸部に粘土紐を貼り付けキザミを加えている。口縁部内外面はミガキが施されている。3は折り返し口縁の壺である。内外面はハケ目が施されている。7は大型の壺で胴部は下から上に向かって4段に分けた丁寧なミガキが施されている。8・9・11・12は器高が15～20cm程度の中型の壺である。15～23は台付甕である。24は鉢、25・26は小型甕、27～34が甕である。35～37は高坏で、35は坏部の口径と底径比は2.5倍以上である。また、36は埦形タイプの坏部の高坏である。38は鉢の口縁で口唇部が外側に開くタイプである。40は器台の脚部である。42は平底の鉢である。44は折返し口縁の壺口縁部である。口縁部以下無文である。45は壺または甕の頸部である。櫛描波状文を施文している。46は弥生中期の甕の上半部である。斜位の粗い条痕が施されている。一部沈線が認められる。47は東壁中央の壁際から鉄製品が検出された。



第139図　第181号住居跡



第140図　第181号住居跡出土遺物

第56表　第181号住居跡出土遺物観察表（第140図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	(17.5)	13.2	－	CEHIK	20	普通	橙		
2	土師器	甕	(16.0)	11.1	－	AHIJ	40	普通	橙		
3	土師器	甕	(19.2)	8.2	－	EHIJK	20	普通	にぶい褐		
4	土師器	甕	(16.0)	4.8	－	ACEHIJK	30	普通	明赤褐		
5	土師器	甕	(17.8)	3.0	－	ACEHI	15	普通	にぶい黄橙		
6	土師器	甑	－	2.1	4.5	EHIJK	85	普通	にぶい黄橙		
7	土師器	蓋	－	3.0	－	ACEIK	70	普通	橙	つまみ径4.4cm	

第181号住居跡（第139・140図）

調査区の南側中央寄り、X－57・58グリッドに位置する。第15号墳と重複する。南東1m内に第284号住居跡、北東1mに第189号住居跡がある。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－34°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸3.87m、短軸3.78m、深さ42.0cmを測る。床面直上には炭化物層が見られた。床面はほぼ平坦である。

施設は炉跡のみの検出であった。推定径63.0cmを測る。

遺物の出土状況は覆土中から甕類が検出された。

遺物は、1～5が甕である。1・2は胴部に張りをもつ球形を呈している。3は胴部に張りをもつやや大型の丸甕と見られる。6は底部中央が一孔の甑である。7は直径4.4cmの円形の突出した部分の扁平な蓋のつまみと考えられる。

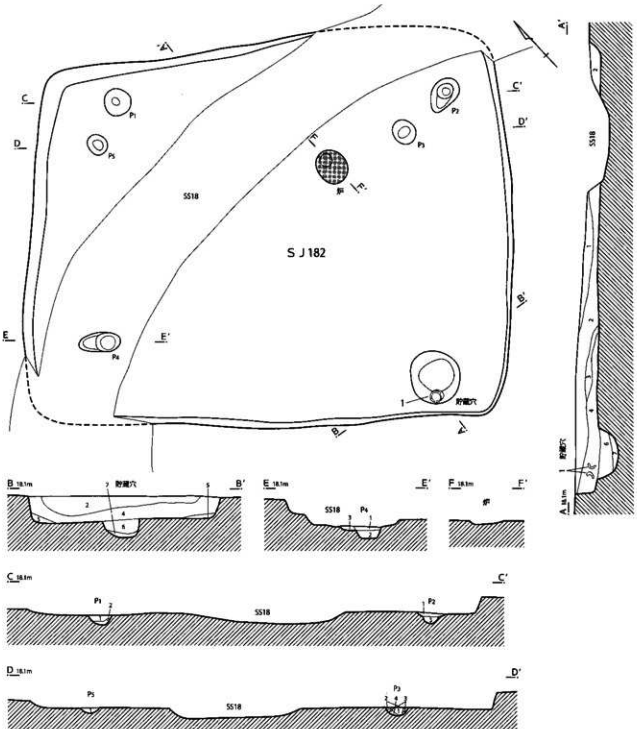
第182号住居跡（第141・142図）

調査区の南側中央寄り、U・V－57・58グリッドに位置する。第18号墳と重複する。南1mに第191号住居跡、北1mに第83号溝跡が東西に走る。

平面形は第18号墳が住居跡北東と南西コーナー部分を切っているが概ね長方形と推定される。主軸方向はN－45°－Wを指す。規模は長軸7.38m、短軸5.65m、深さ33.0cmを測る。床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。

施設は炉跡、貯蔵穴、ピット5基を検出した。炉跡は中央よりやや北東側に位置し、楕円形を呈している。径45.0×54.0cm、深さ5.0cmを測る。貯蔵穴は南東コーナー部分に位置し、径77.0cm、深さ27cmを測る。ピットは、径30.0～57.0cm、深さ7.0～27.0cmを測る。

遺物の出土状況は、南壁際に設けられたやや浅い円形の貯蔵穴上部から中型の台付甕が検出された。



SJ182

1　黄褐色土　やや均一　マンガン粒子(2～3mm)少量
2　黄褐色土　やや均一　炭化粒子(2～5mm)・焼土粒子(2～3mm)少量
床に接する部分に炭化物層
3　黄褐色土　やや均一　2層に同じ　やや橙色
4　黄褐色土　やや均一　2層に同じ　やや明色
5　黄褐色土　やや均一　かなり粘土質で地山に近い

貯蔵穴

6　褐色土　黄灰色粘土(2～30mm)少量　炭化物(2～5mm)やや多い
粘性やや強い
7　褐色土　炭化粒子(1～2mm)少量　粘性やや強い

ピット1・2

1　灰褐色土　橙色土少量
2　炭色土　灰色粘土少量
3　灰褐色土　橙色土少量

ピット3

1　灰黄褐色土　灰色粘土少量
2　暗黄褐色土　灰色粘土少量
3　灰黄色土　灰色粘土少量
4　黄褐色土　灰色土少量

ピット4

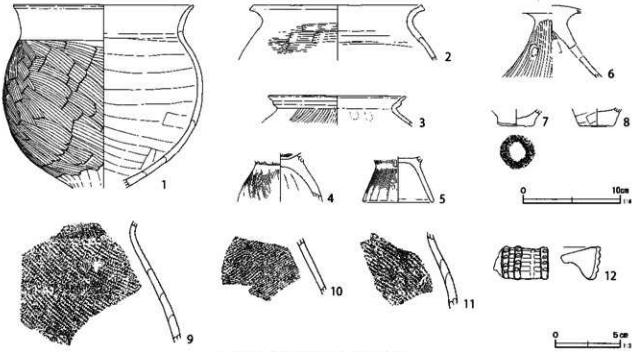
1　灰黄褐色土　灰色粘土少量
2　炭色土　橙色土多量　粘質
3　暗黄褐色土　灰色粘土少量

ピット5

1　灰褐色土　橙色土少量

0　2m　1:60

第141図　第182号住居跡



第142図　第182号住居跡出土遺物

第57表　第182号住居跡出土遺物観察表（第142図）

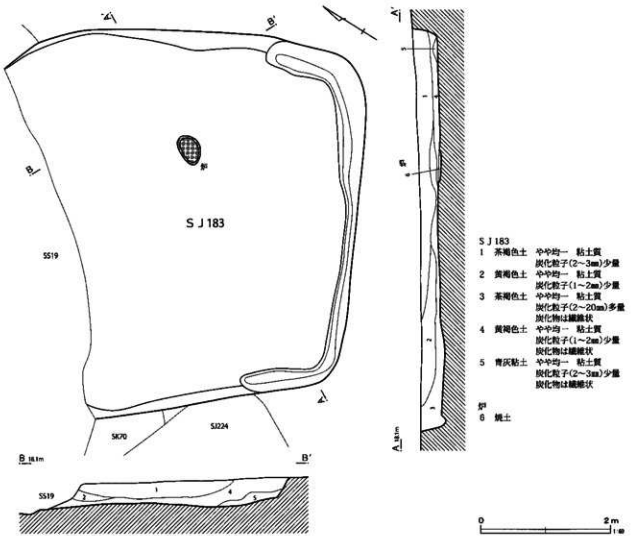
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	台付甕	18.6	18.7	－	DGIJ	90	普通	橙	№1	
2	土師器	壺	(17.1)	5.7	－	EHJ	10	普通	にぶい橙		
3	土師器	台付甕	(13.8)	3.0	－	ACEI	5	普通	にぶい黄橙	S字甕　金雲母片混入	
4	土師器	台付甕	－	5.0	－	ACDEHIJ	30	普通	橙		
5	土師器	台付甕	－	4.7	(7.2)	ABEIJ	35	普通	明赤褐	砂粒多	
6	土師器	高坏	－	7.4	－	CEHIJ	30	普通	にぶい赤褐	三孔	
7	土師器	小型壺	－	1.7	3.6	ACEHIJ	75	普通	にぶい橙		
8	土師器	小型壺	－	1.7	3.5	AJ	60	普通	にぶい褐		
9	弥生	壺	－	9.3	－	AEGHI	5	普通	褐灰		
10	弥生	壺	－	4.3	－	AEGHI	5	普通	褐灰		
11	弥生	甕	－	5.8	－	AEGHIK	5	普通	褐灰		
12	土師器	壺	－	2.5	－	CEHIK	5	普通	にぶい橙		

遺物は、1・3～5の台付甕である。1の調整は、ハケメを時計回りに斜め上方向に施す。3はS字状口縁甕である。2は壺、6は高坏で三方透かしである。7・8の小型壺の底部、9は吉ヶ谷式の壺である。頸部無文帯下にRL単節縄文を連続施文している。10は吉ヶ谷式の壺である。細かいLR単節縄文を連続施文している。11は吉ヶ谷式の甕である。RL単節縄文を連続施文している。12は壺の口唇部で断面三角形である。外面には棒状浮文が貼り付く。本来は四本貼り付いていたものが三本だけ残存する。

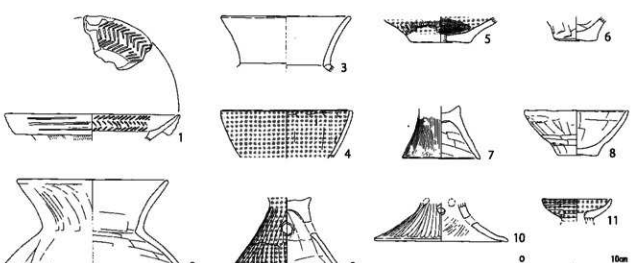
第183号住居跡（第143・144図）

調査区の中央西寄り、U－59グリッドに位置する。第224号住居跡、第19号墳と重複する。北東側1mに第194号住居跡、南東側1mに第193号住居跡がある。

平面形は、北壁がやや湾曲気味に確認され、西壁は第19号墳に切られ確認できなかった。南壁と東壁のコーナーはやや鋭角であることから歪んだ方形と推定される。主軸方向はN－58°－Eを指す。規模は残存している部分で、長軸5.79m、短軸4.50m、深さ42.0cmを測る。床面はやや凹凸が



第143図　第183号住居跡



第144図　第183号住居跡出土遺物

第58表　第183号住居跡出土遺物観察表（第144図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考		図版
1	土師器	壺	(18.0)	2.7	—	ACEK	15	普通	にぶい橙	雲母微粒多		
2	土師器	壺	(15.2)	9.2	—	ADEH	20	普通	にぶい橙			
3	土師器	壺	13.2	5.7	—	ABDEH	70	普通	灰黄	磨滅顕著　U59G		
4	土師器	壺	(13.0)	4.9	—	CEHIK	20	普通	にぶい橙	赤彩　磨滅顕著		
5	土師器	壺	—	2.6	(5.8)	EHIJ	20	普通	にぶい橙	赤彩		
6	土師器	壺	—	2.4	4.4	AEIK	55	普通	にぶい橙			
7	土師器	台付甕	—	5.3	8.1	ABEHI	100	普通	にぶい黄橙			
8	土師器	鉢	10.5	4.6	4.1	CEIJKM	100	普通	にぶい黄橙	内外面煤付着		121-2
9	土師器	高坏	—	7.4	11.2	EHI	55	普通	浅黄橙	赤彩　四孔		
10	土師器	高坏	—	4.0	(13.7)	EHIJK	50	普通	にぶい黄橙	四孔二段		
11	土師器	器台	7.0	2.3	—	ABEHK	90	普通	赤	赤彩　片岩混入		

見られた。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

施設は炉跡と周溝を検出した。炉跡径46.0×33.0cm、深さ3.0cmを測る。周溝は東壁沿いに認められる。幅14.0～18.0cm、深さ4.5～5.5cmを測る。

遺物の出土状況は、覆土中から破片を検出した。

遺物は1～6が壺である。1は壺の口縁部破片である。いわゆる榊ケ壺である。口縁部は外反し、粘土を貼り付けた断面三角形の複合口縁である。口縁部内面は弱い段をもち櫛歯状工具による羽状の刺突文が施されている。外面には横線が巡る。頸部外面にはハケメが施されている。2の壺は、張りのある肩部から「く」の字状に大きく屈曲して外方に大きく開く口縁部破片である。口縁部外面はナデ調整を施す。口唇部外面に輪積みの接合痕が残る。胴部外面は縦方向のナデを施し、内面は横方向のナデが見られる。3は、2と同様に口縁部が外方に大きく開いて立ち上がる。4は壺の口縁部破片である。内外面ミガキののち赤彩を施す。5は壺の底部破片で内外面赤彩を施す。7は台付甕の台部である。8は平底の「ハ」の字状に開く鉢である。9・10は高坏で、9は外傾に外反する高坏脚部で四方透かしである。10は裾を長くした脚部上下に二段、四方透かしを開けている。11は器台で、内湾する坏部が残存する。内外面に赤彩が施されている。

第185号住居跡（第145・146図）

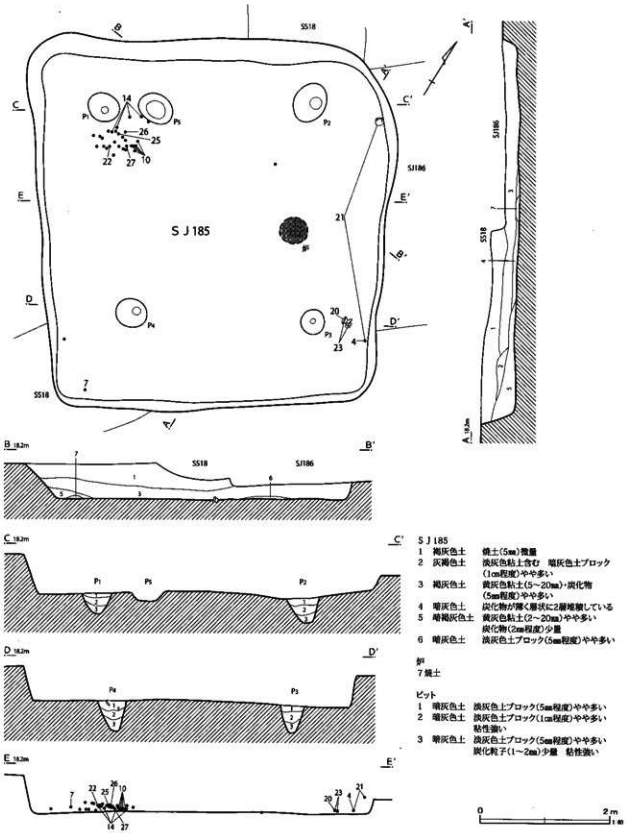
調査区の南側中央寄り、V－58グリッドに位置する。第186号住居跡、第18号墳と重複する。西側1m内に第191号住居跡がある。

平面形は方形である。主軸方向はN－32°－Wを指す。規模は長軸5.70m、短軸5.28m、深さ54.0cmを測る。第4層として断面でも確認したが、炉跡周辺の床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。

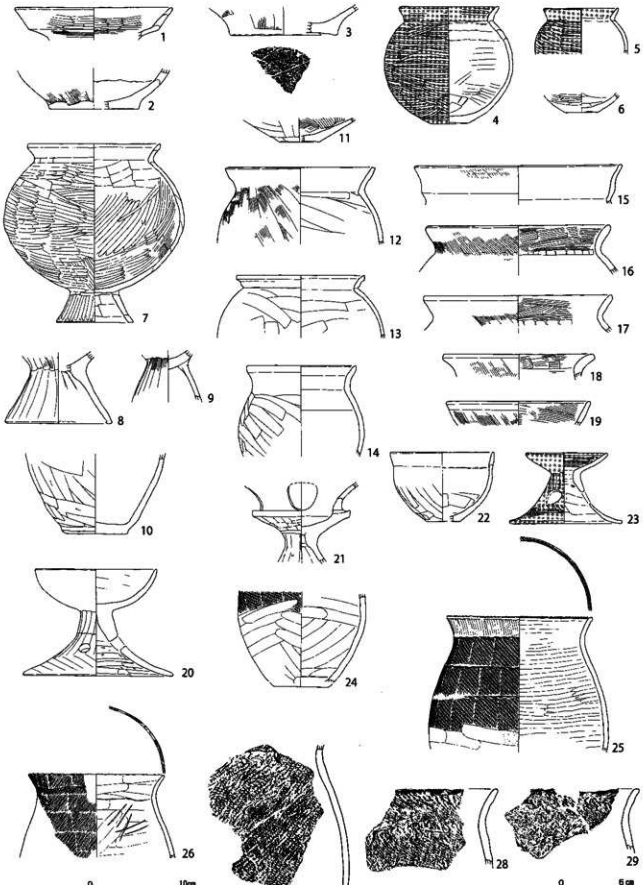
施設は炉跡、ピット5基を検出した。炉跡は東側に位置する。推定径42.0cmを測る。ピットは径36～63cm、深さ13～48cmを測る。

遺物の出土状況は、床面や覆土中からやや多くの土器を検出した。ピット1の南側床面に集中して甕・鉢類を検出した。また、ピット3と東壁の間に高坏と小型甕を検出し、南西コーナー部分から小型の台付甕を検出した。

遺物は、1～3は大型の壺、5・6は小型の壺である。7～9は台付甕、10・12～14・16～19は甕である。20は高坏、22は鉢、24～29は吉ヶ谷式の甕である。24は胴下半のみが検出された。25は、口縁部には縄文を施文しないもので、ハケメの痕跡が認められる。26・27は同一個体と考えられる。口唇部には縄文を施文することによって、細かい波状口縁となっている。口縁部から胴部にかけて単節LRの縄文を施している。28・29は同一個体と考えられる。



第145図　第185号住居跡



第146図　第185号住居跡出土遺物

第59表　第185号住居跡出土遺物観察表（第146図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	(16.0)	3.3	—	AEGHI	5	普通	にぶい橙		
2	土師器	壺	—	4.2	(9.2)	ACEHJ	20	普通	灰白		
3	土師器	壺	—	3.1	(11.0)	EHI	35	普通	にぶい橙	木葉痕	
4	土師器	鉢	10.1	12.0	4.0	ACIK	75	良好	浅橙	赤彩　粉っぽい　きめ細かい	121-3
5	土師器	小型壺	(7.5)	4.7	—	CEIK	30	普通	にぶい橙	赤彩	
6	土師器	小型壺	—	2.0	3.2	ACEGI	50	普通	にぶい黄橙	外面底部～胴部煤付着	
7	土師器	小型台付甕	(13.5)	18.3	7.9	ACDEGHIJ	40	良好	橙	内外面煤付着　№33	
8	土師器	台付甕	—	7.3	(11.0)	EHIK	40	普通	にぶい黄橙		
9	土師器	台付甕	—	5.3	—	EGIK	50	普通	橙	煤付着	
10	土師器	甕	—	8.2	6.6	CEHIK	80	普通	にぶい黄橙	№19～23	
11	土師器	壺	—	2.5	(4.2)	ACEGHIK	40	普通	明赤褐		
12	土師器	甕	(14.8)	7.8	—	AEHIK	25	普通	褐灰		
13	土師器	甕	13.0	6.4	—	BCHK	70	普通	にぶい褐	ザラッとした胎土	
14	土師器	小型甕	(11.2)	9.3	—	CEGHIJK	60	普通	暗褐	外面煤付着　№3・4・7他	
15	土師器	壺	(21.0)	4.0	—	CHIK	10	不良	にぶい褐	赤彩か	
16	土師器	甕	(18.4)	5.0	—	AEHIK	40	普通	にぶい黄橙		
17	土師器	甕	(19.0)	3.9	—	CEKM	15	普通	にぶい橙		
18	土師器	甕	(15.4)	2.6	—	EHIK	10	普通	にぶい橙		
19	土師器	甕	(14.6)	2.5	—	EHIK	30	普通	にぶい褐	外面煤付着　口唇キザミ	
20	土師器	高坏	12.4	11.0	15.4	CEHJ	95	普通	橙	№1	129-1
21	土師器	装飾器台	—	8.3	—	ACEHIKM	70	普通	橙	№32　SJ186　№1	136-7
22	土師器	鉢	10.4	7.0	3.4	ACEHJ	100	普通	にぶい橙	器面ザラつく　砂粒粗	121-4
23	土師器	器台	8.1	7.2	11.4	AEGH	75	普通	にぶい橙	赤彩　三孔　№1・2	133-9
24	弥生	甕	—	9.2	—	AEIK	30	普通	赤褐	№8・10・14他	
25	弥生	甕	(15.0)	13.8	—	AEHIK	40	普通	にぶい褐	№10・11・16	
26	弥生	甕	(13.7)	8.5	—	AEHIK	30	普通	にぶい黄褐		
27	弥生	甕	—	11.7	—	AEHIK	10	普通	にぶい黄褐	№18	
28	弥生	甕	—	6.1	—	ACEHIK	5	普通	灰褐	内外面煤付着　石英多	
29	弥生	甕	—	5.2	—	ABCEHIK	5	普通	灰褐		

第186号住居跡（第147・148図）

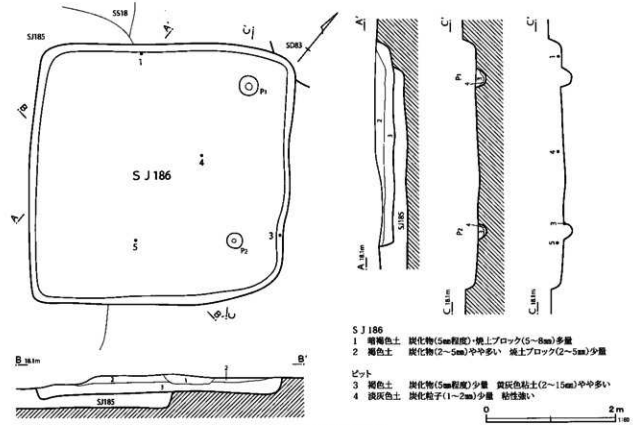
調査区の南側中央寄り、V－58・59グリッドに位置する。第185号住居跡、第83号溝跡、第18号墳と重複する。

平面形は方形である。主軸方向はN－38°－Wを指す。規模は長軸4.02m、短軸3.97m、深さ27.0cmを測る。本住居跡は第185号住居跡の上面に構築されているため、重複部分では床面がやや下がり気味である。

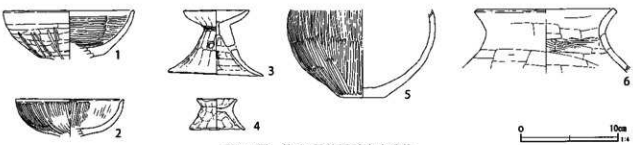
施設はピット2箇所検出した。径26.0～30.0cm、深さ14.0～15.0cmを測る。

遺物の出土状況は、北壁やや西寄りの壁際から1の高坏を検出した。東壁やや南寄りの壁際から3の器台、南壁部分から5の壺を検出し、中央部分から4の手づくね土器を検出した。

遺物は、1が有稜高坏で、内面に横方向のミガキを丁寧に施している。2は埦タイプの坏部をもつ高坏である。内外面には縦方向のミガキが丁寧に施されている。3の器台は、坏部がやや短く外方に開き、脚部は「ハ」の字状に開き端部で大きく外反する。中位に三方透かしの孔が見られる。5は壺である。平底の底部から球形の胴部が立ち上がる。上方から底部方向に順次ミガキが施されている。器壁はやや厚く、粘土紐の輪積みにより波打っている。6は甕である。口縁部が緩やかに外反する。口唇端部に面をもち窪む。口縁部は横ナデ、頸部内面にはハケメが残る。胴部はヘラナデを施す。



第147図　第186号住居跡



第148図　第186号住居跡出土遺物

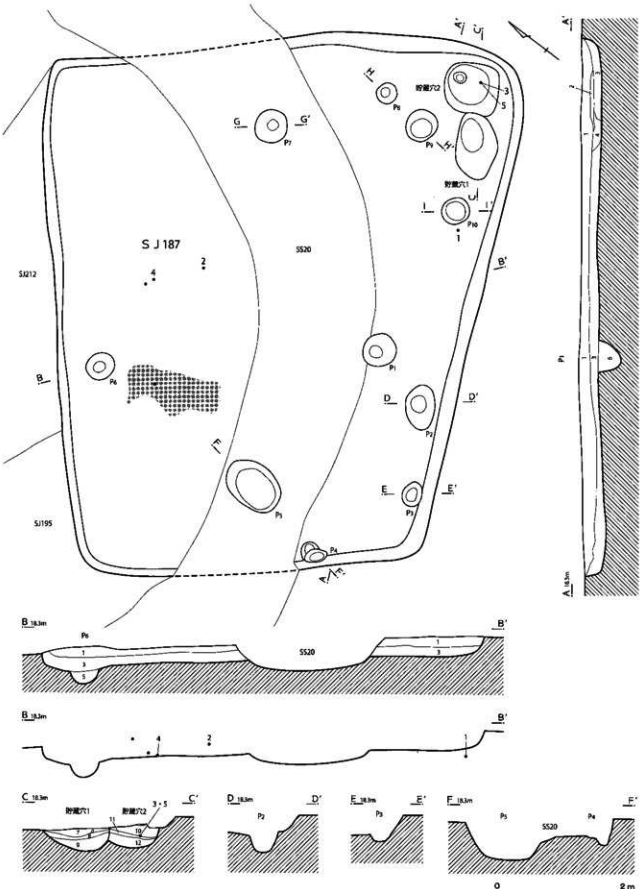
第60表　第186号住居跡出土遺物観察表（第148図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	13.4	5.0	－	AEHIJK	75	良好	橙	№2	
2	土師器	高坏	(11.0)	3.3	－	ACEHIJK	30	良好	にぶい橙		
3	土師器	器台	6.6	6.5	9.6	AEGIJKL	65	普通	にぶい橙	三孔　№5	133-10
4	土師器	手づくね	4.0	3.2	5.6	BEHIK	90	普通	にぶい橙	№3	
5	土師器	壺	－	9.0	4.8	AEHIK	60	普通	にぶい褐	№4	
6	土師器	甕	(14.0)	6.5	－	AEHIJ	30	普通	橙	風化	

第187号住居跡（第149～151図）

調査区の中央東寄り、T－61グリッドに位置する。第195・212号住居跡、第20号墳と重複する。北1mに第211号住居跡、東1m内に第26号墳、北1mに第80号溝跡が東西に走る。

平面の確認は極めて困難で、平面プランおよび住居跡床面は、トレンチを入れ確認した。中央を第20号古墳、西を第195号住居跡に切られている。また、東コーナーの壁はやや鋭角である。一方、南コーナーは鈍角であり、確認できたプランは歪んだ長方形となった。主軸方向はN－67°－Eを指す。規模は長軸8.29m、短軸6.63m、深さ30.1cm



第149図　第187号住居跡（1）

S J 187

1　暗褐色土　炭化粒子・炭化物を含む　しまりややあり
2　暗褐色土　炭化物粒子やや多い　焼土粒子微量
　　黄褐色粒子極多量
3　暗褐色土　2層直下に炭化物層を検出　炭化粒子・
　　炭化物多量　焼土粒子混在　土器片多量
4　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子少量　黄褐色粒子
　　極多量　黄褐色ブロック(20～40mm)ややあり

ピット

5　暗褐色土　黄褐色粘土主体　炭化物粒混入
　　しまり・粘性あり
6　暗褐色土　炭化物粒子やや多い　焼土粒子多量
　　黄褐色粒子極少量

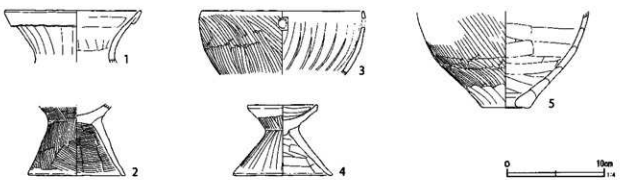
貯蔵穴1

7　褐色土　暗褐色土・地山ブロック・炭化粒子
　　(1～3mm)やや多い　炭化物ブロック
　　(5～15mm)・焼土ブロック(5～10mm)
　　少量　しまり強い　粘性ややあり
　　自然堆積
8　暗灰褐色土　炭化物ブロック(5～10mm)・焼土粒子
　　(1～3mm)微量
　　しまり強い　粘性ややあり
9　暗褐色土　地山ブロック・暗褐色土ややあり
　　炭化粒子(1～3mm)少量
　　しまり強い　粘性ややあり

貯蔵穴2

10　褐色土　暗褐色土多量　炭化物ブロック
　　(5～15mm)・炭化粒子(1～3mm)
　　ややあり　焼土粒子(1～3mm)
　　少量　しまり強い　粘性ややあり
11　暗褐色土　地山ブロック・炭化物ブロック
　　(5～15mm)少量　炭化粒子
　　(1～3mm)やや多い
　　しまり・粘性ややあり
12　褐色土　暗褐色土少量　炭化物ブロック
　　(3～5mm)微量　しまりやや弱い
　　粘性強い

第150図　第187号住居跡（2）



第151図　第187号住居跡出土遺物

第61表　第187号住居跡出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	14.0	5.3	―	ABHIJ	70	普通	黄橙	小石多　胎土粗　No.2	85-4
2	土師器	台付甕	―	7.3	9.8	ACDEHIJ	95	良好	にぶい橙	No.5	
3	土師器	高坏	(16.6)	6.6	―	AHIJ	25	普通	橙	No.1	
4	土師器	器台	7.2	7.2	10.2	CHJ	95	普通	にぶい橙	No.4	133-11
5	土師器	甑	―	10.0	4.9	AEHIJ	50	普通	橙	No.1	140-1

を測る。

施設は貯蔵穴2基、ピット10基を検出した。貯蔵穴1・2とも東コーナーで隣接した形で検出した。貯蔵穴1は楕円形を呈し、径63.0×101.0cm、深さ29.0cmを測る。貯蔵穴2は円形を呈し、径84.0cm、深さ36.0cmを測る。断面観察の結果、貯蔵穴2を切って貯蔵穴1が掘り込まれていた。ピットは、径30.0～93.0cm、深さ8.0～42.0cmを測る

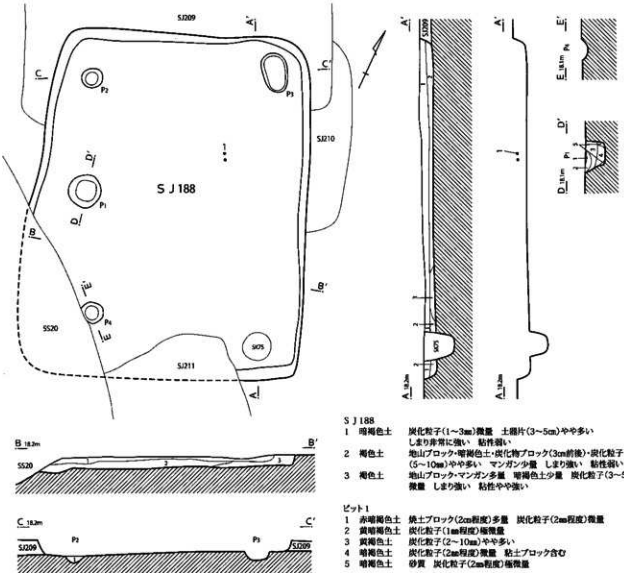
遺物の出土状況は、第3層から破片を多く検出した。貯蔵穴付近からは壺・甑を検出し、中央やや北寄りから台付甕、その北側で器台を検出した。

遺物は、1が口縁部が折り返された壺、2は台付甕の台部、3は口縁部上端に径6mm程に穴が開けられた高坏の坏部破片、4は無孔の器台、5は甑である。

第188号住居跡（第152・153図）

調査区の中央東寄り、S－61グリッドに位置する。第209・210・211号住居跡、第20号墳と重複する。北1mに第201・202号住居跡、西1mに第205号住居跡、東1m内、に第23号墳がある。

平面形は、南西コーナー部から南壁部分が第20号墳と第211号住居跡によって切られているため



第152図　第188号住居跡

プランを確認できないが西壁のプランがやや南側に向かって開いていることから南北に長い台形状を呈すると推定される。主軸方向はN－25°－Wを指す。規模は長軸5.29m、短軸4.20m、深さ18.0cmを測る。床面は平坦である。

施設はピット4基を検出した。径30.0～60.0cm、深さ18.0cmを測る。

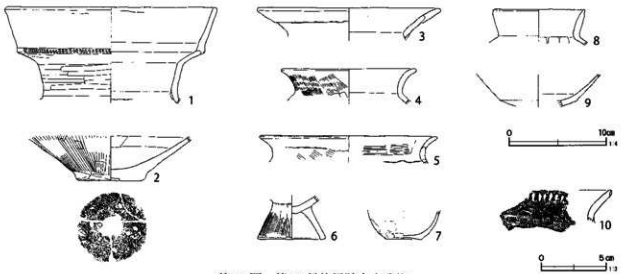
遺物の出土状況は、住居跡中央やや北寄りに壺口縁部破片を検出した。

遺物は、1～3が大型壺の破片である。1は複合口縁壺で口縁部下端にキザミが施されている。2は輪台状の底部である。3は口縁部が大きく開く。4は小型甕、6は台付甕の破片である。7・8は小型壺の破片で、8は直口壺の口縁部破片である。9は高坏の坏部である。10は口唇部にキザミをもつ甕である。

第189号住居跡（第154・155図）

調査区の南側中央寄り、X－58グリッドに位置する。北1mに第217号住居跡、第15号墳、南1mに第180・181号住居跡がある。

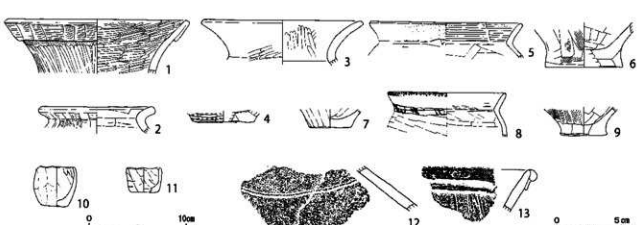
平面形は方形である。主軸方向はN－24°－Wを指す。規模は長軸4.61m、短軸3.96m、深さ66.0



第153図　第188号住居跡出土遺物

第62表　第188号住居跡出土遺物観察表（第153図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	弥生	壺	(21.1)	9.9	—	CEHM	20	普通	にぶい褐	口縁キザミ　No1	
2	土師器	壺	—	4.6	6.4	DGI	60	普通	にぶい黄褐	輪台状	
3	土師器	壺	(18.4)	3.3	—	ACEHIK	10	良好	にぶい黄橙		
4	土師器	小型甕	(13.8)	3.6	—	AEJ	25	普通	暗赤褐　SJ189		
5	土師器	甕	(18.0)	2.8	—	ACEGIJK	5	普通	にぶい黄橙		
6	土師器	台付甕	—	4.6	6.8	BEHJ	85	普通	にぶい赤褐		
7	土師器	小型壺	—	3.0	3.4	ACE	45	普通	にぶい黄橙		
8	土師器	小型壺	(9.4)	3.6	—	CEHIK	25	良好	灰褐		
9	土師器	高坏	—	3.3	—	AEHIJK	30	普通	明赤褐		
10	土師器	甕	—	2.5	—	ACEHIJ	5	普通	褐灰	口唇キザミ	

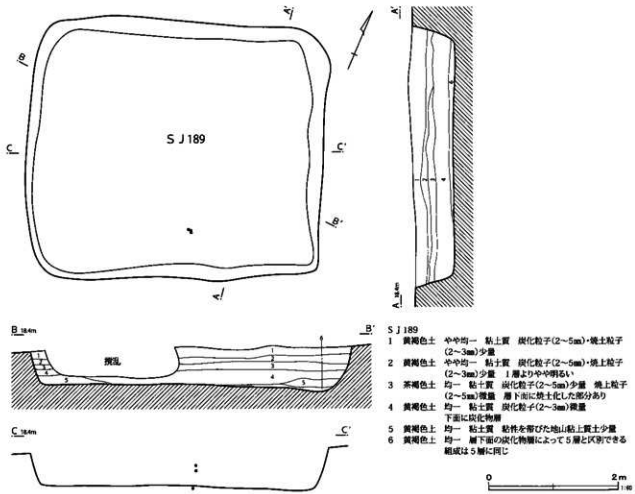


第154図　第189号住居跡出土遺物

cmを測る。確認面からの掘り込みは深く、壁の立ち上がりは垂直である。第4層および第5層直下の床直上に炭化物層が見られる。第6層は地山粘土を多く含む貼り床埋土である。

遺物の出土状況は、覆土中から多く検出した。

遺物は、1～4・6・7・9が壺の破片である。5は胴部に張りのある甕、8は口縁部にキザミをもつ甕の口縁部である。10・11は手づくね土器で



第155図　第189号住居跡

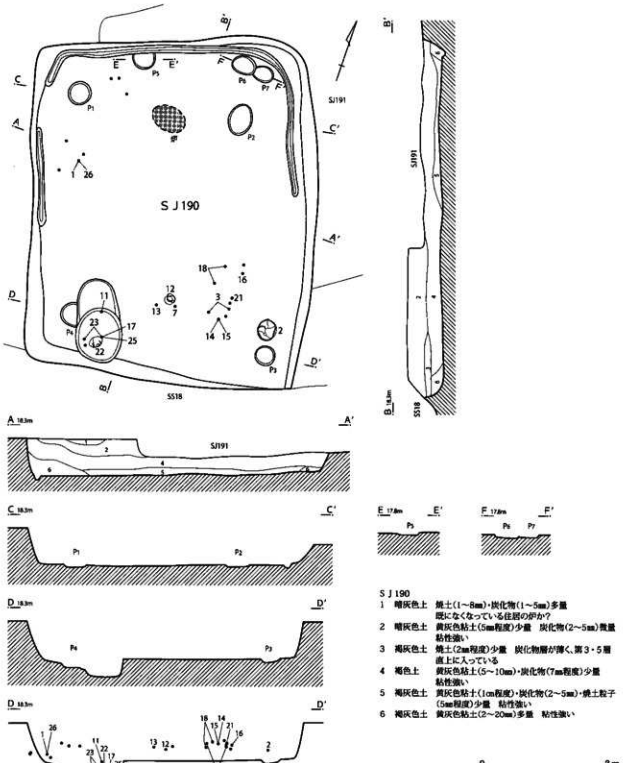
第63表　第189号住居跡出土遺物観察表（第154図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(18.2)	5.6	—	AEHIJKM	30	普通	にぶい橙		
2	土師器	壺	(11.3)	2.8	—	AEHIK	30	普通	にぶい橙		
3	土師器	壺	(16.0)	4.6	—	AEGHI	15	普通	にぶい黄橙		
4	土師器	壺	—	1.2	(6.4)	ADEG	30	普通	にぶい橙	赤彩　輪台痕	
5	土師器	甕	(15.4)	3.5	—	AEHIJK	20	良好	にぶい黄橙	煤付着	
6	弥生	壺	—	4.5	(8.0)	AEHIK	20	普通	橙	円板づくり	
7	土師器	壺	—	1.8	4.3	AEHIJK	40	普通	灰黄		
8	土師器	甕	(11.9)	4.5	—	ACEHIKM	20	普通	赤褐	口唇キザミ　被熱により内外面赤化	
9	土師器	壺	—	2.9	4.3	ACDEGHIK	90	良好	明赤褐	内面煤付着　輪台状	
10	土師器	手づくね	3.4	4.0	2.6	CEHIJ	60	良好	黒	全体に黒い	126-4
11	土師器	手づくね	(3.2)	2.5	(2.6)	AEHIJK	20	普通	黒褐		
12	弥生	壺	—	3.8	—	AEHIK	5	普通	灰白	赤彩	
13	弥生	壺	—	3.3	—	ABEHIJK	5	普通	褐灰	中～後期か	

ある。12は壺頸部である。細かいＲＬ単節縄文を施文し２本一単位の束線具による直線文で下端を区画している。無文部は赤彩されている。13は有段口縁の壺口縁部である。２段の貼り付け口縁で上段は突帯状となる。口縁部以下はハケ調整が行われている。

第190号住居跡（第156・157図）

調査区の南側中央寄り、Ｖ・Ｗ－57・58グリッ

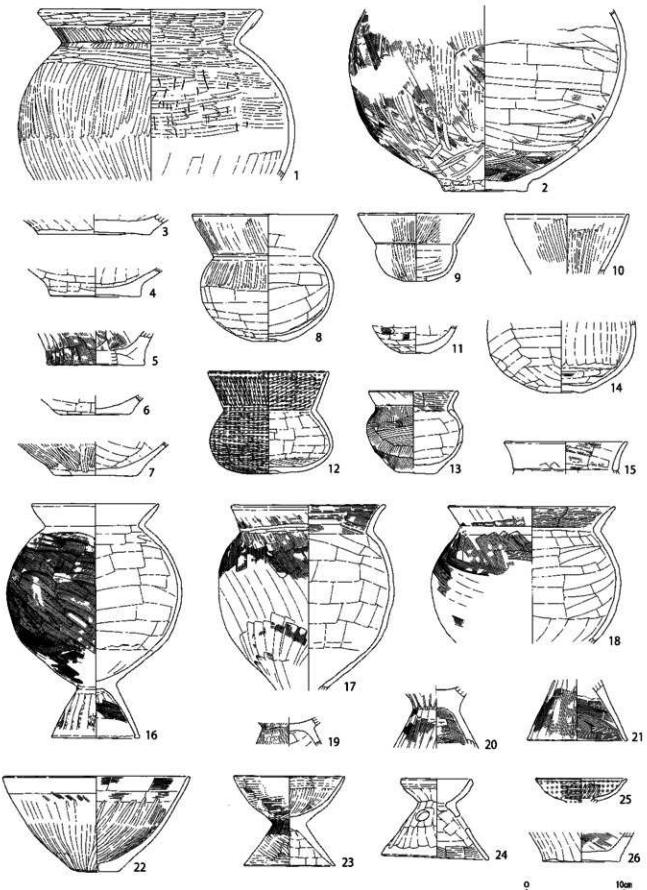


第156図　第190号住居跡

ドに位置する。第191号住居跡、第18号墳・第67号土壙と重複する。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－21°－Wを指す。規模は長軸5.32m、短軸4.37m、深さ56.0cmを測る。

施設は壁周溝、ピット7基を検出した。壁周溝は北西壁、北壁、北東壁に沿って認められた。幅8.0～15.0cm、深さ3.0～5.0cmを測る。ピットは、



第157図　第190号住居跡出土遺物

第64表　第190号住居跡出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　考	図版
1	土師器	壺	23.0	17.5	—	AEHIJK	70	普通	にぶい橙	SJ191　SK67	
2	土師器	壺	—	18.6	8.7	AEHIJKM	90	普通	にぶい赤褐	二次被熱　黒変　輪台状	
3	土師器	壺	—	2.1	11.6	ADEHK	95	良好	明赤褐	輪台状　№13・16	
4	土師器	壺	—	2.9	9.3	AHIJ	95	普通	浅黄橙	輪台状	
5	土師器	壺	—	3.5	(10.0)	ACEHIJK	20	普通	にぶい黄橙		
6	土師器	壺	—	2.0	7.1	AEHIK	90	普通	にぶい橙	風化　輪台状	
7	土師器	壺	—	3.5	8.6	AEHIJK	70	良好	赤		
8	土師器	小型壺	(14.3)	13.0	3.1	EGHIJK	90	普通	にぶい赤褐	風化顕著	
9	土師器	坩	(11.8)	6.9	(2.6)	ACEHIJK	25	普通	明赤褐		
10	土師器	小型壺	(12.6)	6.1	—	AEHIK	20	普通	にぶい橙		
11	土師器	坩	—	2.9	2.8	ADEHIJK	95	普通	明褐	№5	
12	土師器	小型壺	12.2	10.5	2.5	ACEHIJK	100	普通	にぶい褐	赤彩　№10　SJ191	93-6
13	土師器	鉢	(8.9)	8.5	3.5	AEHIJK	75	普通	赤褐	№10	121-5
14	土師器	小型壺	—	7.4	4.0	ACEHIJK	40	普通	にぶい赤褐	№14	
15	土師器	小型甕	(12.4)	3.3	—	ACDEHIJK	20	普通	にぶい赤褐	№14	
16	土師器	小型台付甕	13.0	24.0	8.3	BCHIJ	70	普通	橙	№21	102-4
17	土師器	台付甕	15.6	19.0	—	AEIJK	95	良好	明赤褐	外面煤付着	
18	土師器	小型甕	17.1	14.0	—	ACDEHIJK	80	良好	にぶい赤褐	№19・20　SJ191	118-7
19	土師器	台付甕	—	3.0	—	ACEHIK	100	良好	明赤褐	二次被熱　赤化　風化	
20	土師器	台付甕	—	6.4	—	ADEHIJK	60	普通	にぶい褐		
21	土師器	台付甕	—	6.3	10.3	AEHIJ	70	良好	明赤褐	№18　SJ191	
22	土師器	甑	18.8	9.8	4.1	ACEHIJK	90	普通	明赤褐	内外面・底部煤付着	140-2
23	土師器	高坏	(11.4)	9.2	9.3	ABDEGHI	60	良好	にぶい橙	№6・8	129-2
24	土師器	器台	7.0	8.1	10.6	AEHIJK	70	普通	明赤褐		133-12
25	土師器	器台	(9.4)	2.5	—	AEHIK	30	普通	にぶい橙	赤彩　№7・8	
26	土師器	甕	—	3.0	7.8	AEHIK	90	普通	にぶい赤褐		

幅30.0～50.0cm、深さ3.0～4.0cmを測る。

遺物の出土状況は、西壁中央付近に壺類の貯蔵具が検出され、南西コーナー部分の貯蔵穴付近から甑・台付甕・高坏が検出された。なお、南東コーナーからの投げ込みと見られる台付甕・壺・小型壺などの土器群が床面よりやや高い位置でまとまって検出された。

遺物は、1～7が大型の壺、8・10・12・14は小型壺、9・11は坩、13は鉢、15は小型甕の口縁部破片、16・17・19～21は台付甕、22は鉢型甑、23は坏部椀形の高坏、24・25は器台である。26が甕の底部である。

第191号住居跡（第158・159図）

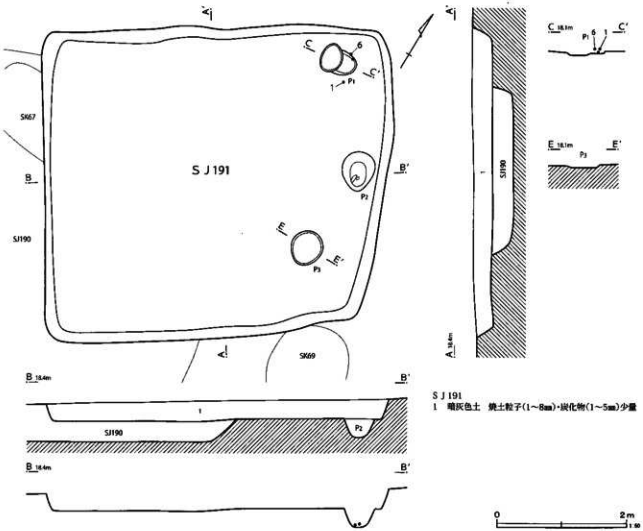
調査区の南側中央寄り、V・W－57・58グリッドに位置する。第190号住居跡、第67・69号土壙と重複する。北2mに第182号住居跡、南1mに第18号墳、東1m内に第185住居跡がある。

平面形は長方形である。主軸方向はN－31°－Wを指す。規模は長軸5.43m、短軸4.75m、深さ30.0cmを測る。

施設はピット3基を検出した。径33.0～60.0cm、深さ3.0～40.0cmを測る。

遺物の出土状況は、住居跡中央西側は第190号住居跡に切られているため不明である。東側の残存する部分から検出された遺物は、北東コーナー部分で小型の甕とやや大型の壺の口縁部破片を検出した。

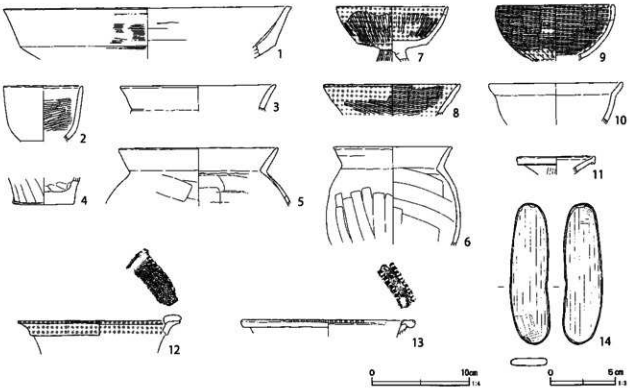
遺物は、1が大型壺の口縁である。2は小型壺の内湾する口縁部破片、3～6は甕である。7～9は高坏である。10は鉢、11は器台である。12は強く外反し、口縁内面が平坦面を形成する有段口縁の壺である。口端部にキザミを施し平坦面に棒



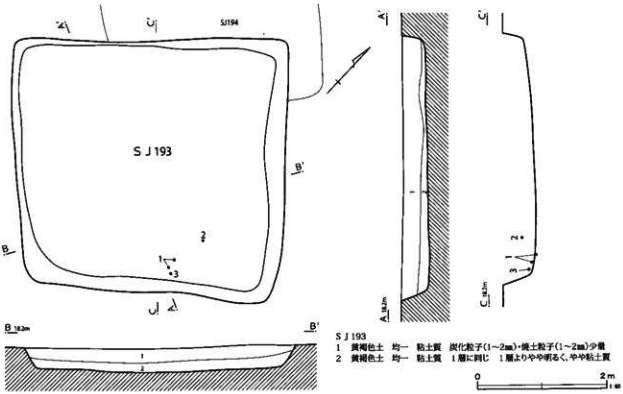
第158図　第191号住居跡

第65表　第191号住居跡出土遺物観察表（第159図）

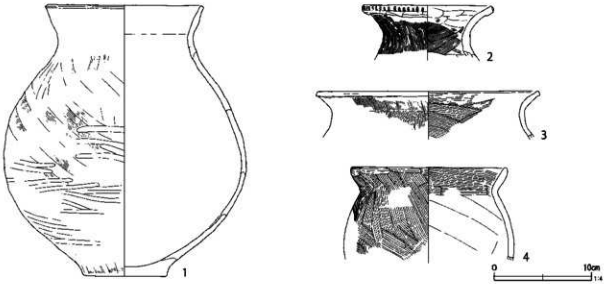
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(28.6)	5.3	－	BCEFHIJK	5	普通	にぶい赤褐	№3	
2	土師器	小型壺	(8.0)	5.6	－	EHIK	50	普通	にぶい橙	SJ190　SK67	
3	土師器	甕	(16.0)	2.7	－	ACEJ	10	普通	にぶい橙		
4	土師器	甕	－	2.8	6.4	ACEHIJ	85	普通	明赤褐		
5	土師器	甕	(16.0)	5.9	－	ACEGIJK	5	普通	にぶい橙		
6	土師器	甕	(12.0)	10.0	－	ABEHIJ	25	普通	橙	№5	
7	土師器	高坏	(11.6)	5.6	－	ACEIJ	50	普通	にぶい橙	赤彩	
8	土師器	高坏	(14.0)	3.3	－	ACEHIJ	20	良好	にぶい黄橙	赤彩	
9	土師器	高坏	(12.0)	5.7	－	ABCEHIJK	45	良好	にぶい橙	赤彩	
10	土師器	鉢	(13.6)	4.3	－	ACK	10	普通	にぶい橙		
11	土師器	器台	(8.0)	1.8	－	ACEHI	20	良好	にぶい黄橙	角閃石多	
12	土師器	壺	(16.7)	1.5	－	ACEHI	5	普通	にぶい黄橙	赤彩	
13	土師器	壺	(18.0)	1.7	－	CEHK	5	普通	にぶい黄橙		
14	石製品	砥石	長さ10.7　幅3.1　厚さ0.7　重さ38.9　石材　砂岩								152-3



第159図　第191号住居跡出土遺物



第160図　第193号住居跡



第161図　第193号住居跡出土遺物

第66表　第193号住居跡出土遺物観察表（第161図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　考	図版
1	土師器	壺	(15.8)	27.8	7.3	EHJK	85	普通	にぶい橙	小石多　胎土粗　№2・3	87-4
2	土師器	壺	13.2	5.6	－	ACEHJKM	100	良好	にぶい褐	№4　口唇キザミ	85-5
3	土師器	甕	(22.6)	5.0	－	AEHIJK	5	普通	にぶい黄橙	№1	
4	土師器	甕	(16.0)	9.8	－	EHIJM	40	普通	にぶい褐	SJ193・194	

状浮文を貼付している。13は直線的に外反する有段口縁の壺である。口縁内面は平坦面を形成する。口端部両縁にキザミを施す。14は砥石である。

第193号住居跡（第160・161図）

調査区の中央東寄り、U－60グリッドに位置する。第193号住居跡と重複する。西２ｍに第183号住居跡、南東１ｍに第142号住居跡、東２ｍに第141号住居跡がある。

平面形は方形である。主軸方向はN－47°－Eを指す。規模は長軸4.18ｍ、短軸3.87ｍ、深さ36.0㎝を測る。床面は平坦である。

施設は検出されなかった。

遺物の出土状況は、南壁寄り中央の床直から壺・甕類が検出された。貯蔵穴は確認できなかったが、遺物出土状況から判断して、この部分が住居跡の貯蔵空間である可能性が考えられる。

遺物は、１・２が壺である。１は胴部に細かな条痕による調整が施されている。２は頸部に条痕が施され、口縁部は器肉を厚くし断面の形状が四角い。口唇部には細かなキザミが施されている。３は口径が大きく、胴部に張りをもつやや大型の貯蔵用の甕である。

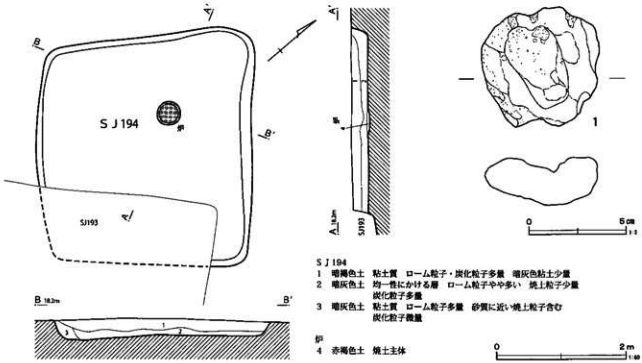
第194号住居跡（第162図）

調査区の中央東寄り、U－60グリッドに位置する。第193号住居跡と重複する。北１ｍに第81号溝跡が東西に走る。西２ｍに第183号住居跡、東２ｍに第141号住居跡がある。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－51°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸3.67ｍ、短軸3.32ｍ、深さ27.0㎝を測る。床面は平坦である。

施設は炉跡のみの検出であった。北寄りに位置し、円形を呈している。径36.0㎝、深さ4.8㎝を測る。

遺物は、椀型鍛冶滓を検出した。



第162図　第194号住居跡・出土遺物

第67表　第194号住居跡出土遺物観察表（第162図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	鉄滓	椀形滓	縦6.0	横6.1	厚さ2.3	重さ129.69					149-1

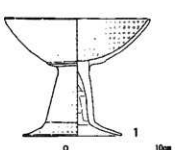
第195号住居跡（第163・164図）

調査区の中央東寄り、T・U－60・61グリッドに位置する。第187・212号住居跡、第20号墳、第81号溝跡と重複する。北1ｍに第197号住居跡、第80号溝跡、南東1ｍに第141号住居跡、南西1ｍに第194号住居跡がある。

重複遺構が多く、住居跡平面プランの確認は極めて困難で、住居跡床面の検出も難しかった。平面形は、南壁が長く南西コーナー部分は鋭角に西壁を検出し、不整形である。主軸方向はN－71°－Wを指す。規模は長軸7.08ｍ、短軸5.57ｍ、深さ23.4cmを測る。

施設はピット6基を検出した。これらのピットは北東コーナーに集中している。径26.0～54.0cm、深さ6.1～27.0cmを測る。

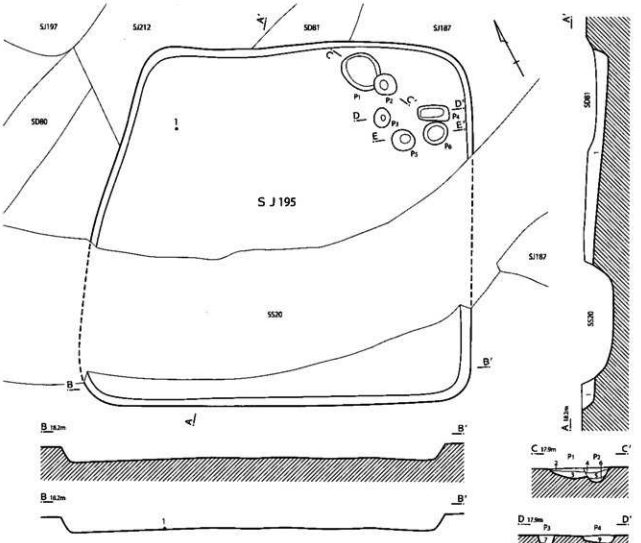
遺物は、1の高坏を北西コーナー部分の床面で検出した。坏部は口径と底径比が2.5倍で、脚部は柱状、脚端部は「ハ」の字状に裾が開くタイプである。



第163図　第195号住居跡出土遺物

第68表　第195号住居跡出土遺物観察表（第163図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	高坏	15.0	12.1	10.0	AEHIJK	70	普通	橙	赤彩　No1　T60G	129-3



SJ195
1 暗褐色土 焼土粒子微量 炭化物粒子少量

ピット
2 暗褐色土 褐色土・マンガン・炭化粒子(1～3mm)少量
焼土粒子(1～5mm)・焼土ブロック(5mm)やや多い
しまり強い 粘性弱い 土器片(5mm程度)含む
3 褐色土 暗褐色土・マンガン少量 炭化粒子(1～3mm)微量
しまり・粘性やや強い
4 暗褐色土 灰褐色土少量 炭化物ブロック(5～10mm)やや多い
炭化粒子(1～3mm)・焼土粒子(1～3mm)少量
しまりやや弱い 粘性弱い
5 褐色土 マンガン少量 炭化粒子(1～3mm)微量
しまりやや強い 粘性やや強い
6 褐色土 マンガンやや多い しまりやや弱い 粘性やや強い
7 暗褐色土 褐色土やや多い 炭化粒子(1～3mm)・
焼土粒子(1～3mm)少量 しまり強い 粘性弱い
8 暗褐色土 マンガン含む 炭化物ブロック(5mm)微量
しまり強い 粘性やや弱い
9 暗褐色土 褐色土やや多い 炭化物ブロック(5mm)・
焼土ブロック(5mm)多量 しまり強い 粘性弱い
10 暗褐色土 炭化粒子(1～3mm)・焼土粒子(1～3mm)やや多い
しまりやや弱い 粘性やや強い
11 暗褐色土 炭化粒子(1～3mm)少量 しまりやや弱い
粘性やや強い
12 褐色土 暗褐色土少量 しまり強い 粘性やや強い
13 褐色土 マンガンやや多い しまり・粘性やや強い

第164図 第195号住居跡

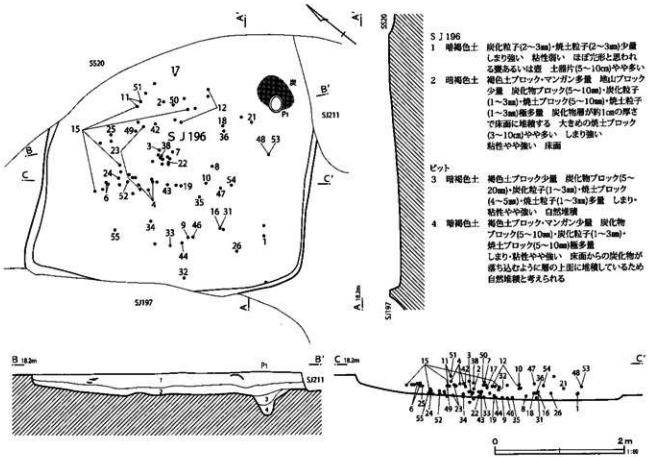
第196号住居跡（第165～168図）

調査区の中央東寄り、S・T－61グリッドに位置する。第197・211号住居跡、第20号墳と重複する。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－36°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸4.11m、短軸3.84m、深さ33.0cmを測る。

施設はピットのみの検出であった。径26.0cm、深さ24.8cmを測る。

本住居跡は北側を第20号墳に切られていたが、覆土中から大量の土器が検出された。遺物の出土状況は、住居跡の中心に集中するものの覆土中か

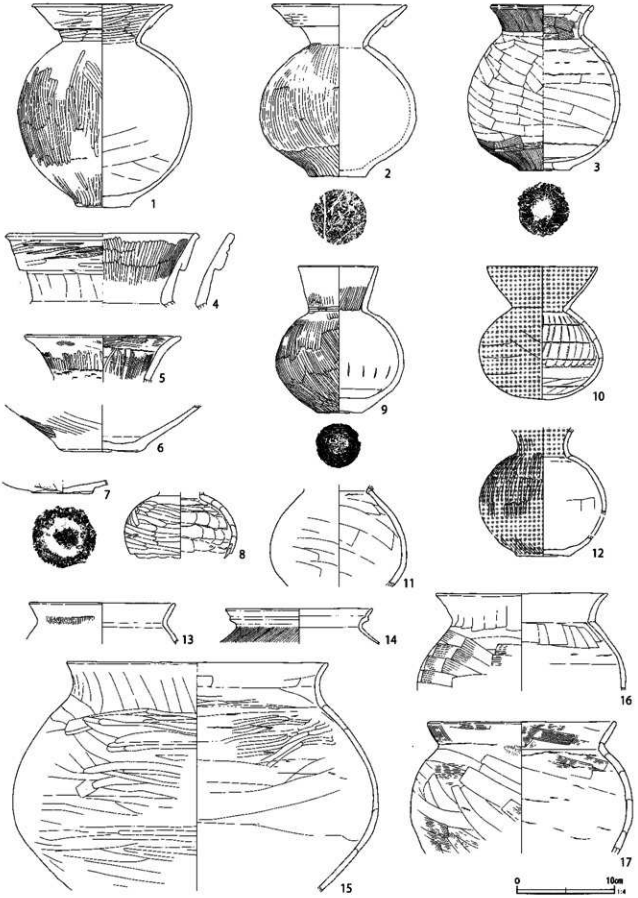


第165図　第196号住居跡

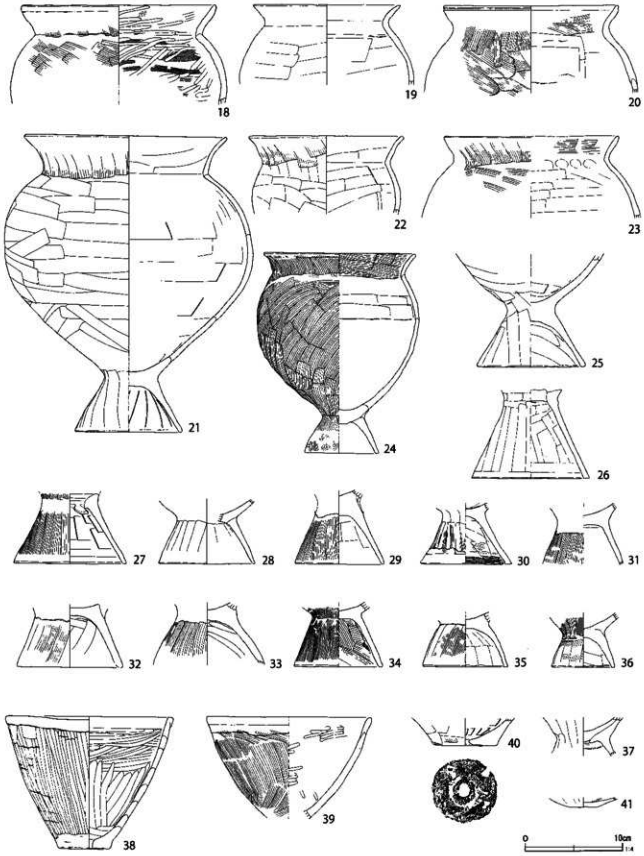
らの遺物と床直上からの遺物に区分できる。さらに出土地点によって細分することができるが、この点は恣意的な判断となる。

出土した遺物のうち、下層床直から検出されたのは、9・22・33・34・35・44・46の壺・台付甕・鉢と55の吉ヶ谷式の甕である。それ以外の遺物は概ね覆土中からの検出である。覆土西側からは、15の大型甕と4・6の大型壺、19・23の甕、24の台付甕が検出され、北側では、2・12の小型壺、49～51の高坏が検出された。また、南側では21・36などの台付甕の一群、8・10の小型壺と53・54の器台、47・48の高坏などの一群、1の壺、26・31・32の台付甕などの一群に分けられた。覆土中に廃棄された遺物にも位置によって器種構成のまとまりに違いが見られる。

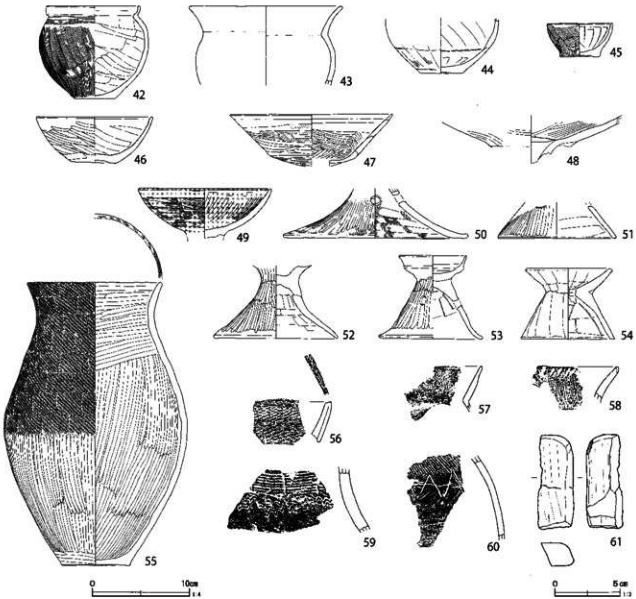
遺物は、1～61を図示した。1～7・11・12は壺である。8～10は小型壺、13・16・17・19・23はやや小型の「く」の字甕で胴部球状に膨らむ。14はS字状口縁甕である。15は大型の甕で胴部を横方向のミガキが施されている。18・20はやや受け口状の口縁部形態をした甕である。口唇端部外面に面をもつ。22・24は小型の台付甕である。21・25～37は台付甕である。38～40は鉢型の甑である。42～44・46は鉢、45はミニチュア、47～52は高坏、53・54は器台である。55は口縁部径が胴部形より小さく緩やかに外反する吉ヶ谷式の甕である。56は緩やかに外湾する複合口縁の壺である。口端部から口縁部にかけて網目状撚糸文を施文している。57は屈曲外反する小形壺の口縁部である。口縁部は無文である。古墳時代前期に属する。58は緩やかに外反する甕の口縁部である。口端部にキザミを施しハケ調整が行われている。59は甕の頸部である。櫛描簾状文下に櫛描波状文を施文している。60は球胴形を呈する壺の胴部である。ハ



第166図　第196号住居跡出土遺物（1）



第167図　第196号住居跡出土遺物（2）

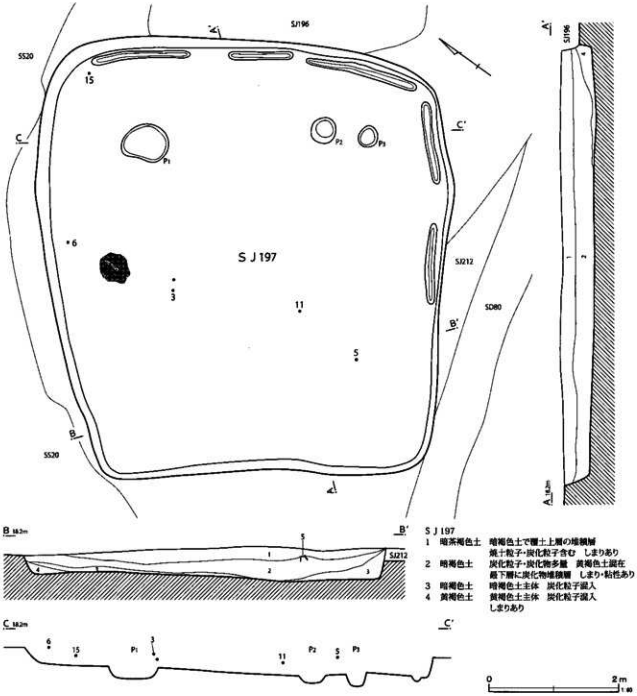


第168図　第196号住居跡出土遺物（3）

第69表　第196号住居跡出土遺物観察表（第166～168図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	14.0	20.8	5.4	EHIJ	100	良好	にぶい黄橙	№3	87-5
2	土師器	壺	13.6	17.5	5.8	EHIK	95	良好	浅黄橙	木葉痕　№43	87-6
3	土師器	壺	10.4	16.9	5.4	DGI	80	普通	明赤褐	輪台状　№37	88-1
4	土師器	壺	(22.2)	7.6	—	AEHJ	70	良好	にぶい橙	№34・35・56	85-6
5	土師器	壺	(15.6)	4.8	—	CEHIJK	25	普通	にぶい橙		
6	土師器	壺	—	4.8	7.6	ACJM	30	普通	明赤褐	№27・28	
7	土師器	壺	—	1.4	6.3	ACDEHIJ	85	普通	にぶい橙	輪台状　№54	
8	土師器	小型壺	—	6.7	—	AEGHIJK	95	普通	にぶい黄橙	№20	
9	土師器	小型壺	(8.2)	15.0	4.6	AEHIJK	90	良好	にぶい橙	№10　輪台状	93-7
10	土師器	小型壺	(11.3)	13.6	—	BCEHI	95	普通	にぶい黄橙	赤彩　№17	93-8
11	土師器	壺	—	10.4	—	EHI	35	普通	にぶい橙	器面荒れている　№51・59	
12	土師器	壺	—	13.0	5.4	CHIK	60	普通	にぶい橙	赤彩　№48・75	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
13	土師器	甕	(15.0)	4.2	—	AHIJ	20	普通	褐灰		
14	土師器	台付甕	(15.2)	3.6	—	ADHI	10	普通	橙	S字甕	
15	土師器	甕	26.7	23.3	—	CEHIK	50	普通	橙	№25・31・46・59	111-1
16	土師器	甕	17.5	10.0	—	CEHJ	60	普通	にぶい橙	外面煤付着　№5	
17	土師器	甕	(19.0)	13.5	—	ACEHIJK	25	普通	にぶい褐	№49	
18	土師器	甕	(19.8)	10.3	—	AEHIJ	30	普通	灰褐	№22　T61G	
19	土師器	甕	(15.0)	8.2	—	AEHJ	25	普通	橙	外面器面磨滅　№15	
20	土師器	甕	(17.8)	9.0	—	EHJ	15	普通	明赤褐		
21	土師器	台付甕	(20.7)	30.4	10.7	DEHJKM	90	普通	にぶい橙	№23	97-5
22	土師器	小型台付甕	(15.6)	8.0	—	ABDEHIJK	30	普通	灰褐	№73	
23	土師器	甕	(17.8)	8.4	—	AEHIJK	20	普通	橙	№40・63	
24	土師器	小型台付甕	15.6	20.4	7.1	ACEIK	70	良好	にぶい褐	№30	102-5
25	土師器	台付甕	—	11.5	(10.8)	EHIJK	50	普通	にぶい褐	№50	
26	土師器	台付甕	—	9.1	(12.1)	DGI	50	普通	にぶい橙	砂粒多　ほぞ穴タイプ　№2	
27	土師器	台付甕	—	7.1	(11.6)	ADGI	25	普通	にぶい黄橙	ほぞ穴タイプ	
28	土師器	台付甕	—	6.6	(9.8)	AEHJ	30	普通	明褐		
29	土師器	台付甕	—	7.5	9.1	ACE	50	普通	橙		
30	土師器	台付甕	—	6.2	8.2	AEGIJK	75	普通	にぶい橙		
31	土師器	台付甕	—	6.3	—	ABCEIK	70	普通	にぶい橙	テーブルタイプ　№5	
32	土師器	台付甕	—	6.4	(10.8)	AEHIJK	40	普通	にぶい黄橙	№1	
33	土師器	台付甕	—	6.4	—	ACHIJ	60	普通	橙	テーブルタイプ　№8	
34	土師器	台付甕	—	6.1	9.0	AEHIJK	95	普通	にぶい橙	№12	
35	土師器	台付甕	—	5.6	8.7	AEHIJK	95	普通	にぶい橙	№16	
36	土師器	台付甕	—	5.6	6.4	AHI	80	普通	にぶい橙	№21	
37	土師器	台付甕	—	4.0	—	ACDEHIJ	65	普通	明赤褐	ほぞ穴タイプ	
38	土師器	甑	16.7	13.5	5.1	DEHJK	100	普通	にぶい橙	№36	140-3
39	土師器	甑	(17.0)	10.4	—	AEHIJ	20	普通	橙		
40	土師器	甑	—	2.8	6.5	ACEGHIJK	100	普通	にぶい黄橙	外面一部煤付着	
41	土師器	坩	—	1.0	2.8	ACDEHIJ	75	普通	にぶい黄橙		
42	土師器	鉢	(9.5)	9.5	4.3	AEHIJK	90	良好	橙	受口状口縁近江系模倣	121-6
43	土師器	鉢	15.5	8.1	—	AEHIJ	15	普通	にぶい橙	№13	
44	土師器	鉢	—	5.7	4.4	EHIJK	45	普通	明赤褐	№9	
45	土師器	ミニチュア	(6.6)	3.4	4.0	CEHIJK	60	普通	橙		
46	土師器	鉢	12.0	4.2	4.6	ACDE	95	良好	にぶい黄橙	輪台状　№11	121-7
47	土師器	高坏	16.8	5.3	—	ACDHIJ	90	普通	明赤褐	№18	
48	土師器	高坏	—	4.9	—	ACEHIJK	30	普通	にぶい橙	ほぞ穴タイプ　№7	
49	土師器	高坏	13.5	5.1	—	CDEHJ	100	普通	にぶい橙	赤彩　№38	
50	土師器	高坏	—	5.0	(18.9)	HIJ	30	普通	にぶい橙	四孔　№44	
51	土師器	高坏	—	3.7	(12.1)	EGHIJ	15	普通	明赤褐	№51	
52	土師器	高坏	—	7.5	12.5	AEIJK	95	良好	明赤褐	№32	
53	土師器	器台	6.9	8.5	10.7	AEHIJ	95	普通	にぶい橙	三孔　SS20　№7	134-1
54	土師器	器台	8.6	7.2	(9.7)	ABDEHJK	70	普通	にぶい橙	上絵型器台　雲母多	134-2
55	弥生	甕	(14.0)	29.1	7.1	AEIK	90	普通	にぶい黄褐	№24	81-6
56	弥生	壺	—	3.1	—	AHI	5	普通	浅黄橙	赤彩	
57	土師器	小型壺	—	3.5	—	BEHIJ	5	普通	にぶい黄橙		
58	土師器	甕	—	2.8	—	BEHI	5	普通	橙	口唇キザミ	
59	弥生	甕	—	5.0	—	EHIJ	5	普通	にぶい橙		
60	弥生	壺	—	6.4	—	AEHIJ	5	普通	橙		
61	石製品	砥石	長さ8.3　幅2.8　厚さ1.9　重さ57.0　石材　砂岩								



第169図　第197号住居跡

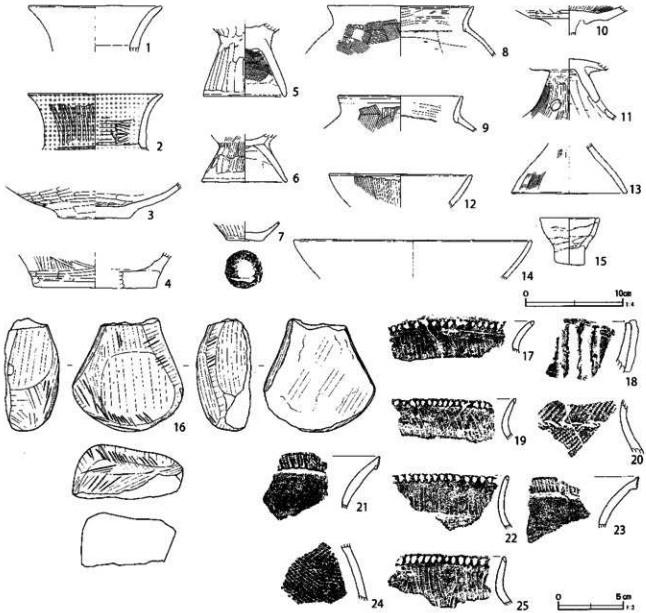
ケ調整下に沈線による山形文を施文している。61は砥石である。

第197号住居跡（第169・170図）

調査区の中央東寄り、S・T－60・61グリッドに位置する。第196・212号住居跡、第80号溝跡、第20号墳と重複する。南1mに第195号住居跡、東2mに第211号住居跡がある。

平面形は長方形である。主軸方向はN－46°－Eを指す。規模は長軸6.79m、短軸6.27m、深さ48.60cmを測る。床直上には炭化物層が見られ、北西の床面に炭化材が残存していた。床面は平坦である。

施設は壁周溝、ピット3基を検出した。壁周溝は北壁から東壁沿いにかけてとぎれとぎれに認められた。幅11.0～14.0cm、深さ4.4～8.5cmを測る。ピットは、径30.0～72.0cm、深さ11.5～19.6cmを測



第170図　第197号住居跡出土遺物

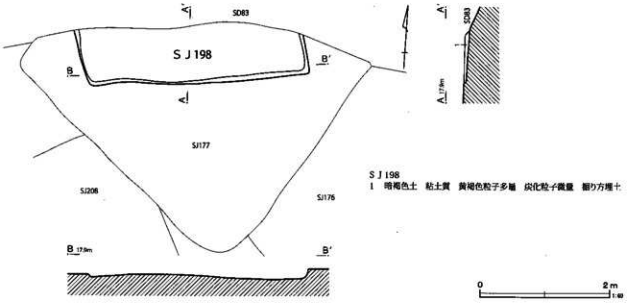
る。

遺物の出土状況は、覆土中からの検出である。炭化材の検出された付近から6の台付甕と3の壺を検出し、中央付近から11の高坏と5の台付甕を検出した。また、北側のコーナー部分から15のミニチュア土器を検出した。

遺物は、1～4が壺である。5・6は台付甕の台部である。8・9は甕の口縁部破片、10～14は高坏である。15はミニチュア、16は砥石である。17・19・22は大きく外反する甕の口縁部である。口端部にキザミを施し口縁部以下に縦のハケ調整を行っている。18は緩やかに外反する複合口縁の壺である。口縁部に棒状浮文を貼付している。20は壺の頸部である。ＬＲ単節縄文を施文し間にＺ字状結節文を1段施文している。21は口端部が垂直に立ち上がる単口縁の壺である。口縁部外面にハケ状工具による縦位の押捺列が認められる。頸部にハケ調整が行われている。24は壺の胴部である。網目状撚糸文を施文している。25は屈曲して直線的に立ち上がる甕の口縁である。口端部にキ

第70表　第197号住居跡出土遺物観察表（第170図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　上	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	(13.6)	4.7	－	AHJM	25	普通	浅黄橙		
2	土師器	壺	(14.0)	5.7	－	AEHIJ	20	普通	浅黄橙	赤彩	
3	土師器	壺	－	3.7	7.5	AHJM	55	良好	灰白	No.2	
4	土師器	壺	－	3.6	(12.7)	ACJ	20	普通	にぶい黄橙		
5	土師器	台付甕	－	7.5	8.5	AHIJ	100	普通	橙	No.6	
6	土師器	台付甕	－	4.9	8.6	AEHIJ	95	普通	赤橙	No.1	
7	土師器	小型壺	－	2.0	3.8	AJ	75	良好	にぶい橙	輪台状	
8	土師器	甕	(15.0)	5.1	－	AEHIJ	15	普通	にぶい赤褐		
9	土師器	甕	(12.6)	3.6	－	AEHIJK	10	普通	褐		
10	土師器	高坏	－	3.0	－	AEHIJK	55	普通	橙		
11	土師器	高坏	－	6.3	－	CEHIJK	85	普通	にぶい橙	三孔　No.5	
12	土師器	高坏	(14.8)	3.4	－	AHIJ	15	普通	明赤褐		
13	土師器	高坏	－	5.1	(11.8)	AHIJK	15	普通	にぶい黄橙		
14	土師器	高坏	(24.4)	4.0	－	AEHIJ	15	普通	明赤褐		
15	土師器	ミニチュア	6.0	4.7	2.8	AEHIJ	95	普通	淡橙	No.4	
16	石製品	砥石	長さ8.7	幅7.5	厚さ4.2	重さ369.2	石材	凝灰岩			152-3
17	土師器	甕	－	2.4	－	EIJ	5	普通	にぶい橙		
18	土師器	壺	－	3.9	－	EHIJ	5	普通	にぶい橙		
19	土師器	甕	－	3.2	－	EJ	5	普通	にぶい橙		
20	弥生	壺	－	4.3	－	EIJ	5	普通	淡黄		
21	土師器	壺	－	4.1	－	EHI	5	普通	浅黄橙		
22	土師器	甕	－	4.0	－	EIJ	5	普通	にぶい橙		
23	土師器	壺	－	3.8	－	EHI	5	普通	浅黄橙		
24	土師器	壺	－	4.4	－	EHIJ	5	普通	橙		
25	土師器	甕	－	3.7	－	EJ	5	普通	暗褐		

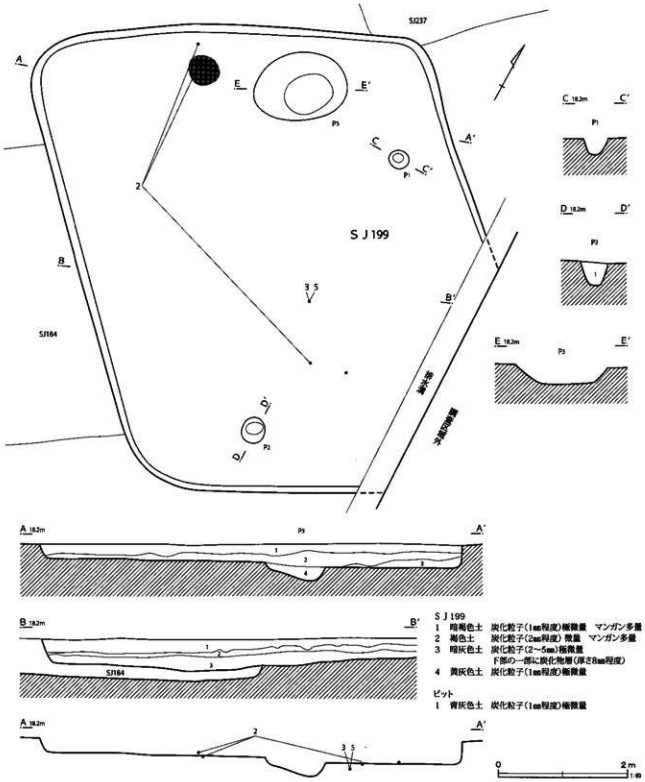


第171図　第198号住居跡

ザミを施しハケ調整が行われている。

第198住居跡（第171図）

調査区の南側東寄り、V－61グリッドに位置する。第177号住居跡に切られ、住居跡の下から検出された。第83号溝跡と重複する。南2mに第173・174・176号住居跡がある。



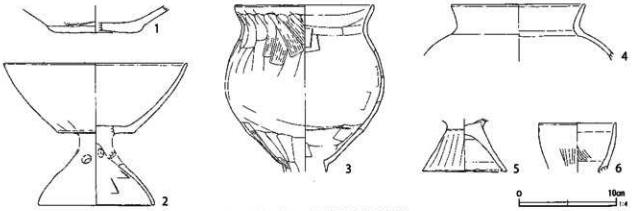
第172図　第199号住居跡

平面形は不明であるが、南東および南西のコーナーを検出した。

遺物は検出されなかった。

第199号住居跡（第172・173図）

調査区の中央東寄り、Q・R－62グリッドに位置する。第184・237号住居跡と重複する。南1mに第154号住居跡、西1mに第153号住居跡がある。南東側は排水溝、調査区域外にかかる。



第173図　第199号住居跡出土遺物

第71表　第199号住居跡出土遺物観察表（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	—	2.8	(8.4)	CEHIJ	40	普通	橙		
2	土師器	高坏	(18.8)	—	(11.8)	EH	20	やや不良	橙	粉っぽい　三孔二段	
3	土師器	台付甕	(14.4)	17.0	—	BCEHIJ	25	普通	灰黄褐	№3	
4	土師器	壺	(13.7)	5.8	—	ABDEHM	10	普通	橙	小石多　胎土粗	
5	土師器	台付甕	—	5.4	8.6	HM	95	普通	にぶい橙	№3	
6	土師器	坩	(8.0)	5.0	—	HJM	25	普通	橙		

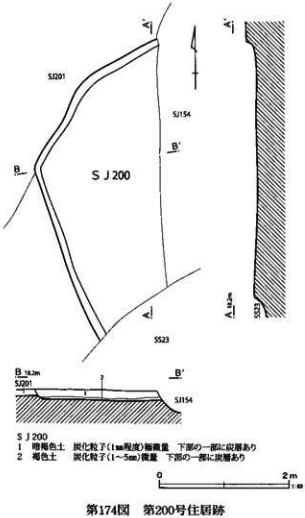
確認は極めて困難で、平面プランおよび住居跡床面の検出が難しく、トレンチを入れ確認した。平面形は全体に歪んだ長方形である。主軸方向はN－40°－Wを指す。規模は長軸7.36m、短軸6.14m、深さ22.8～39.0cmを測る。床直上の一部には炭化物層が見られ、北側に炭化材を検出した。床面は平坦である。

施設はピット３基を検出した。径33.0～144.0cm、深さ23.4～32.4cmを測る。

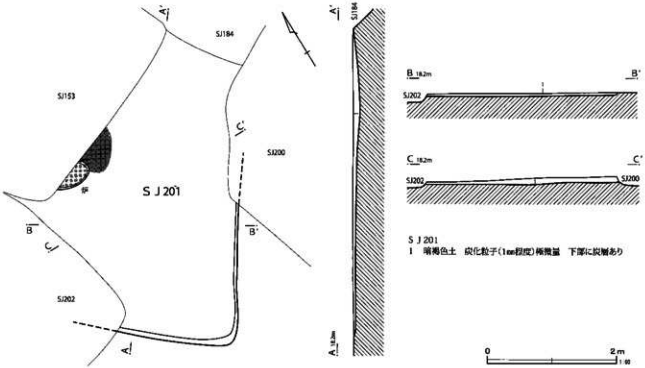
ピット３は貯蔵穴の可能性が考えられ、長径144.0cm、短径99.0cm、深さ23.4cmである。

遺物の出土状況は、炭化材を確認した北壁際に２の高坏を検出した。また、中央やや南側で３の台付甕を検出した。いずれも、床直上からの出土である。

遺物は、１は壺の底部破片、２は高坏である。坏部は口径と稜径比が2.4倍で、坏部の高さ7.0cmで脚部の高さは7.3cmとほぼ同じである。脚部は円錐状の内湾脚で端部は薄くなる。２段の三方透かし孔をもつ。３はやや小型の台付甕である。４は大型の壺である。６は坩の口縁部である。



第174図　第200号住居跡



第175図 第201号住居跡

第200号住居跡（第174図）

調査区の中央東寄り、R・S－62グリッドに位置する。第154・201号住居跡、第23号墳と重複する。

重複が激しく、平面形は不明である。確認は極めて困難で平面プランの検出が難しかった。トレンチを入れ、床直上の炭化物層が見られたことから床面を確認し、住居跡の範囲を確定した。床面は平坦である。主軸方向はN－21°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸3.46m、短軸1.41m、深さ16.8cmを測る。

遺物は、小破片のみで図示するものはなかった。

第201号住居跡（第175図）

調査区の中央東寄り、R－61・62 S－61グリッドに位置する。第153・184・200・202号住居跡と重複する。南1mに第209・210号住居跡、南東2mに第23号墳がある。

確認は極めて困難で、平面プランおよび住居跡床面の検出が難しく、トレンチを入れ確認した。平面形は不明である。主軸方向はN－36°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸4.69m、短軸3.36m、深さ8.3cmを測る。床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。

施設は炉跡のみの検出であった。推定径24.0×52.0cmを測る。

遺物は、小破片のみで図示するものはなかった。

第202号住居跡（第176・177図）

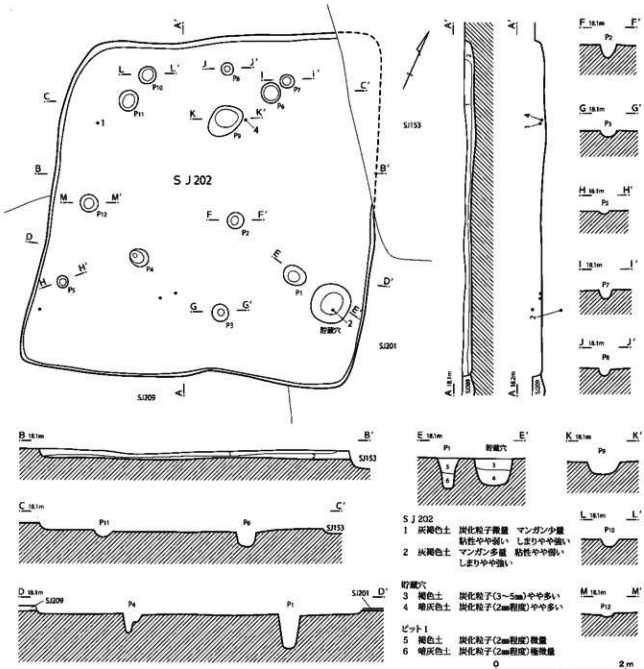
調査区の中央東寄り、R・S－61グリッドに位置する。第153・201・209号住居跡と重複する。南1mに第188号住居跡、西1m内に第21号墳がある。

平面形は歪んだ長方形である。主軸方向はN－10°－Wを指す。規模は長軸5.40m、短軸5.05m、深さ14.0cmを測る。床面は平坦である。

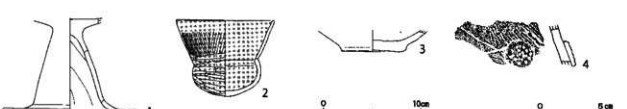
施設は貯蔵穴、ピット12基を検出した。貯蔵穴は南東コーナーよりやや上に位置し、径60.0cm、深さ37.0cmを測る。ピットは、径16.0～58.0cm、深さ5.0～49.30cmを測る。

遺物の出土状況は、北西コーナー部分から1の高坏脚部、貯蔵穴内から2の坩を検出した。

遺物は、1が高坏の脚部で下端が屈曲し大きく開く長脚である。2は坩で体部より口縁部の口径



第176図　第202号住居跡

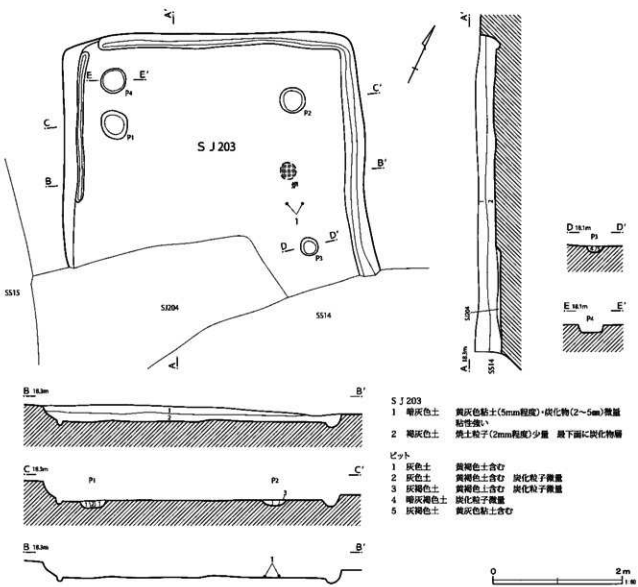


第177図　第202号住居跡出土遺物

が大きい。口縁から体部にかけて内外面は赤彩されている。3は壺の底部である。4は壺頸部である。RL単節縄文を施文し沈線で区画している。有孔の円形浮文を貼付している。

第72表　第202号住居跡出土遺物観察表（第177図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　考	図版
1	土師器	高坏	—	9.8	14.0	AEHIJK	55	普通	明赤褐	№4	137-5
2	土師器	坩	10.1	7.7	—	AEHIJK	100	普通	にぶい黄橙	赤彩　№1	
3	土師器	壺	—	2.2	6.4	ACHJ	85	普通	にぶい黄橙		
4	弥生	壺	—	3.1	—	ACDEHIJ	5	普通	橙	№5	



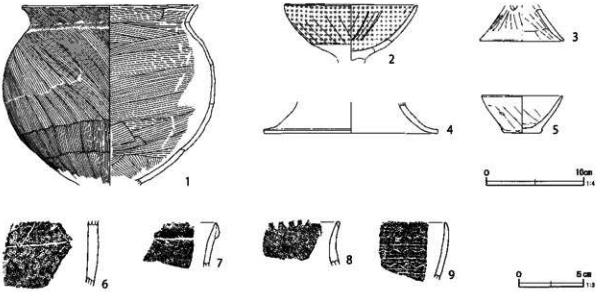
第178図　第203号住居跡

第203号住居跡（第178・179図）

調査区の南側中央寄り、W－58・59グリッドに位置する。第204号住居跡、第14号墳と重複する。南西１ｍに第15号墳がある。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－24°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸4.62ｍ、短軸4.44ｍ、深さ30.0cmを測る。床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。本住居跡の南側に直下には第204号住居跡の掘り込みがある。

施設は炉跡、壁周溝、ピット４基を検出した。炉跡は東壁寄りで、ピット２とピット３の中間に確認した。推定径24.0cmを測る。壁周溝は西壁北側、北壁、東壁から認められ、幅11.0～30.0cm、



第179図　第203号住居跡出土遺物

第73表　第203号住居跡出土遺物観察表（第179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	台付甕	17.9	18.5	－	CEI	50	普通	褐	No1・2	
2	土師器	高坏	13.7	5.7	－	HIK	95	普通	橙	赤彩　粉っぽい	
3	土師器	高坏	－	3.6	(8.6)	HJ	25	普通	橙		
4	土師器	高坏	－	3.2	(18.0)	EHM	5	普通	橙		
5	土師器	鉢	(8.4)	3.8	3.9	CEHIK	30	普通	にぶい黄橙		
6	土師器	壺	－	4.9	－	CHIJ	5	普通	にぶい橙		
7	土師器	壺	－	3.4	－	AHI	5	普通	にぶい黄橙		
8	土師器	甕	－	3.2	－	AEIJ	5	普通	にぶい橙		
9	土師器	坩	－	4.3	－	AEHIJ	5	普通	橙		

深さ4.6～9.1cmを測る。ピットは、径27.0～45.0cm、深さ7.0～11.0cmを測る。

遺物の出土状況は、炉跡とピット3の中間から台付甕を検出した。

遺物は、1が台付甕で、「く」の字状に屈曲した口縁部形態である。調整は胴部が斜め方向のハケメ、口縁部外面も斜め方向のハケメ、内面は横方向のハケメを施している。2の高坏は、体部が内湾気味に外傾して立ち上がる。3・4は高坏で、3は三方透かしの脚部である。5は小型の鉢である。6は沈線文様が見られる。7は口縁部折り返され口唇部にキザミ、8は素口縁の甕で口唇部にキザミが施されている。9は坩の口縁部で沈線区画の中に波線文が巡る。

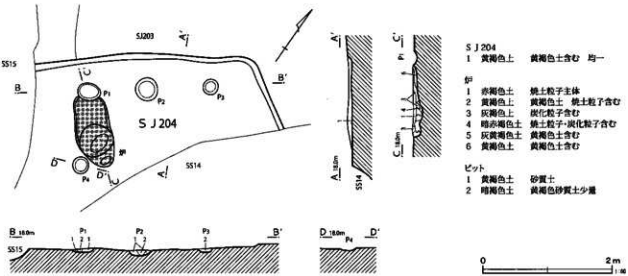
第204号住居跡（第180・181図）

調査区の南側中央寄り、W－58・59グリッドに位置する。第203号住居跡、第14・15号墳と重複する。

第203号住居跡の下部から検出され、掘り込みは極めて浅い。平面形は他の遺構と重複が多く不明である。主軸方向はN－38°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸3.90m、短軸1.85m、深さ6.0cmを測る。

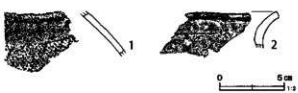
施設は炉跡、ピット4基を検出した。炉跡は、径114.0×60.0cm、深さ16.2cmを測る。西寄りに位置し、楕円形を呈している。ピットは4基で、径24.0～36.0cm、深さ3.0～7.0cmを測る。

遺物は、胴部に縄文が施された吉ヶ谷式の壺を



第180図　第204号住居跡

検出した。1は球胴形を呈する壺の胴部である。無文帯下にＲＬ単節縄文を施文している。2は大きく外反する甕の口縁部である。無文である。



第181図　第204号住居跡出土遺物

第74表　第204号住居跡出土遺物観察表（第181図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	弥生	壺	－	3.5	－	AEH	5	普通	浅黄橙	赤彩か	
2	土師器	甕	－	2.7	－	ACHI	5	普通	にぶい橙		

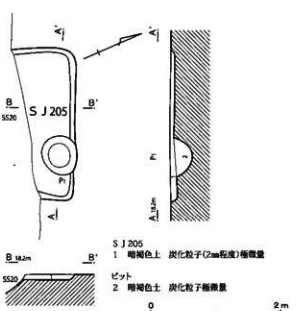
第205号住居跡（第182図）

調査区の中央東寄り、Ｓ－61グリッドに位置する。第20号墳と重複する。

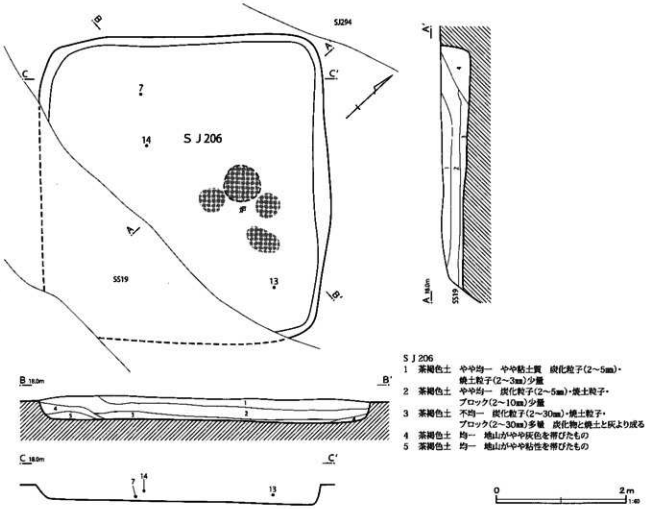
平面形は北西および北東コーナー部分を検出したが全体の形状は不明である。主軸方向はＮ－65°－Ｅを指す。規模は残存する部分で、長軸2.34ｍ、短軸0.78ｍ、深さ12.0cmを測る。

施設は北壁際にピットを検出した。径54.0cm、深さ21.0cmを測り、規模から貯蔵穴の可能性があるが断定できない。

遺物は、覆土中から少量の破片を検出したが、図示できるものはなかった。



第182図　第205号住居跡



第183図　第206号住居跡

第206号住居跡（第183・184図）

調査区の中央西寄り、U－58グリッドに位置する。第19号墳と重複する。北1ｍ内に第294住居跡がある。南東には第224号住居跡がある。

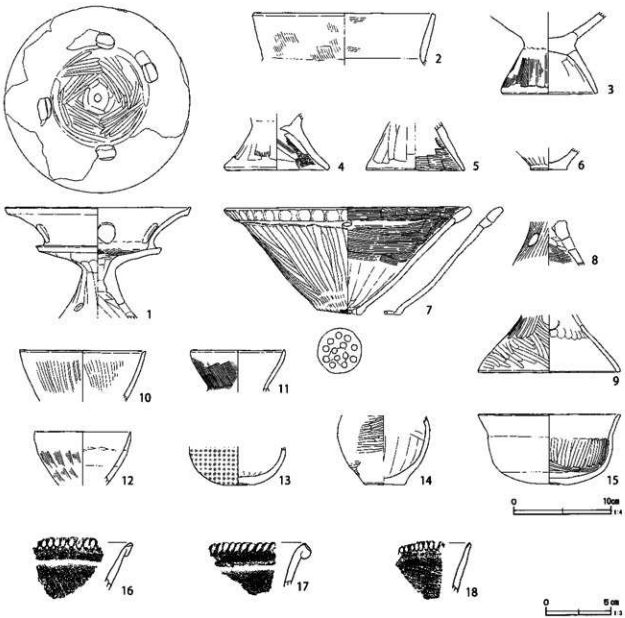
平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－46°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸4.62ｍ、短軸4.32ｍ、深さ41.4cmである。床面は平坦である。

施設は、炉跡を検出した。住居跡中央やや北寄りに径50.0cmの円形の焼土痕跡が検出された。炉跡の周囲からは、床面が円形に赤褐色に被熱した部分が見られた。

床直上の第3層は炭化物層である。焼土粒子や焼土ブロック、灰の堆積が見られた。断面観察によると、この第3層は、床面直上の堆積で間層も見られないことから住居跡廃絶直後の堆積層と考えられるが、住居跡壁では、三角堆積の第4・5層の上に堆積していることが注視される。

遺物の出土状況は、第2層中からの出土が多くみられ床面上の遺物は少量である。中央やや北西から7の鉢型甑と14の小型壺を検出した。また、南東コーナー部分からは13の坩の破片を検出した。

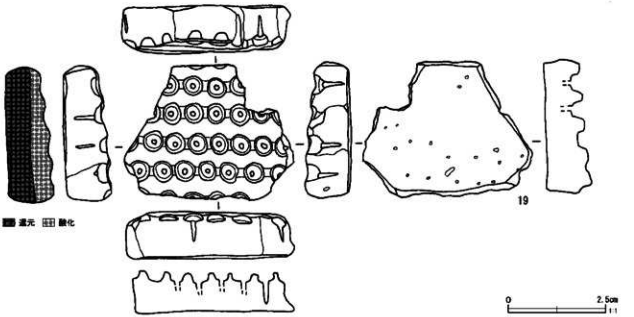
遺物は、1が装飾器台である。円形の器台部に坏部が貼り付く。坏部は大きく外反し、やや不均等な間隔であるが4ヶ所の四角形の透かし孔が見られる。口唇部は断面三角形を呈し外面に平坦面をもつ。脚部には円形の三方透かしである。2は直口壺の口縁部破片、3～5は台付甕の台部である。7は鉢型の多孔甑である。口縁端部は粘土を厚く貼り付け、外面には指押さえの痕跡が残る。



第184図　第206号住居跡出土遺物（1）

体部外面は縦方向にミガキ、内面は横方向の細かなハケメが見られた。多孔式の甑は、第179号住居跡からも検出されている。形態や整形方法は類似し、法量も近似する。8・9は高坏脚部、8は三方透かしをもつ円錐状の外反脚、9は内湾脚の形態である。10～13は坩、14は小型壺の胴下半部から底部にかけての破片、15は内面にミガキが施された鉢である。底部中央がやや上げ底になる。口縁部が外傾に開いて立ち上がり、頸部で大きく屈曲する。体部が内傾に内湾する「く」の字鉢である。16は直線的に外反する複合口縁の甕である。口端部にキザミを施す。口縁部以下は無文である。17は緩やかに外反する複合口縁の壺である。口端部にキザミを施している。口縁部以下にハケ調整が残る。18は僅かに外反する甕の口縁部である。口端部にキザミを施す。器面にハケ調整が残る。

19はガラス小玉鋳型である。鋳型は四辺が破損しており、台形状に一部分が残存している。上部から下部に向かって厚みが増しており、他の出土例では、鋳型の端部周辺が薄くなる傾向にあるこ

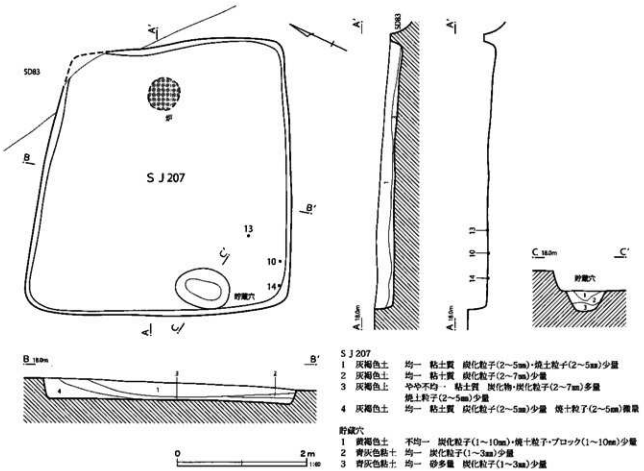


第185図　第206号住居跡出土遺物（2）

とから、上部側が鋳型の端部に近いと推定される。表面は褐色であるが、裏面は灰褐色化しており、裏面に高熱を受けていたと考えられる。表面に作り出された型孔は、横方向に連続して開けられ、器面には6列が残存している。型孔の底面中央には軸孔が開けられている。軸孔は、割れ口面の観察やX線写真から、裏面まで貫通されていない。裏面は、平坦に整形されている。

第75表　第206号住居跡出土遺物観察表（第184・185図）

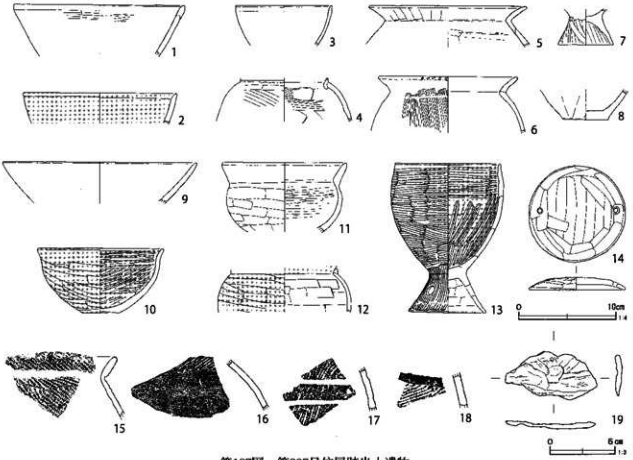
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	装飾器台	19.0	11.4	—	EHKM	85	普通	にぶい黄橙	トレンチ　U58G	136-8
2	土師器	壺	(18.4)	5.3	—	ACHIJK	20	普通	明赤褐		
3	土師器	台付甕	—	8.4	9.6	AEHI	50	普通	浅黄橙		
4	土師器	台付甕	—	5.8	(10.6)	ACJ	45	普通	にぶい黄橙		
5	土師器	台付甕	—	4.9	(10.2)	EHIJM	20	普通	灰褐		
6	土師器	小型甕	—	2.2	3.7	EIJ	70	普通	にぶい橙	トレンチ	
7	土師器	甑	24.8	10.9	4.5	ADEGHIJK	95	良好	にぶい橙	No1	140-4・5
8	土師器	高坏	—	4.5	—	AEGHIK	30	普通	にぶい橙	三孔	
9	土師器	高坏	—	5.9	14.7	EHIK	90	普通	橙	四孔　トレンチ	
10	土師器	坩	(13.0)	5.2	—	ACHIK	15	普通	にぶい黄橙		
11	土師器	坩	(9.6)	4.2	—	CEIK	20	普通	にぶい橙		
12	土師器	坩	(10.0)	5.4	—	DHIJK	25	普通	橙		
13	土師器	坩	—	3.9	3.0	ACHIJK	80	普通	灰白	赤彩　No3	
14	土師器	小型壺	—	7.1	4.1	AIJ	40	普通	橙	砂粒多　No2	
15	土師器	鉢	14.5	7.1	(3.2)	CEHI	50	普通	にぶい橙	外面磨滅　トレンチ	121-8
16	土師器	甕	—	3.7	—	EIJ	5	普通	にぶい赤褐	トレンチ　口端キザミ	
17	土師器	壺	—	3.3	—	ACEI	5	普通	灰褐	口端キザミ	
18	土師器	甕	—	3.8	—	EIJ	5	普通	橙	口端キザミ	
19	土製品	ガラス小玉鋳型	長さ3.5	幅4.4	厚さ1.2	重さ14.7　型孔径0.5　深さ0.3～0.35　軸孔径0.1～0.15　I　にぶい褐色					154-3



第186図　第207号住居跡

第76表　第207号住居跡出土遺物観察表（第187図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(17.6)	5.2	—	ACEHI	25	普通	にぶい黄橙	赤彩か	
2	土師器	壺	(15.8)	3.1	—	AHI	5	普通	にぶい橙	赤彩	
3	土師器	壺	(10.0)	5.1	—	AHI	20	普通	にぶい黄橙		
4	土師器	壺	—	4.5	—	AEI	5	普通	にぶい橙		
5	土師器	甕	16.0	4.2	—	AEHJ	20	普通	橙		
6	土師器	甕	(14.0)	5.8	—	CEK	15	普通	褐		
7	土師器	台付甕	—	3.6	(5.4)	IK	40	普通	明赤褐		
8	土師器	甕	—	3.1	4.6	AIK	50	普通	橙		
9	土師器	高坏	(20.0)	4.2	—	EHIK	5	普通	にぶい黄橙		
10	土師器	鉢	12.9	6.6	3.8	AEHI	95	普通	浅黄橙	赤彩 №2	122-1
11	土師器	鉢	12.8	6.1	—	AI	45	普通	淡黄	器壁厚く重量感有り	122-2
12	土師器	鉢	—	4.8	—	AEIJ	25	普通	にぶい黄橙	赤彩	
13	土師器	脚付鉢	10.7	15.2	7.9	ADEHIJK	90	良好	にぶい橙	赤彩 三孔 №3	132-4
14	土師器	蓋	9.7	1.3	—	ACEGHI	95	普通	にぶい橙	両端に穿孔 №1	147-6・7
15	弥生	甕	8.9	4.3	—	AI	30	普通	黒褐		
16	弥生	壺	—	4.0	—	IK	5	普通	にぶい橙	赤彩	
17	弥生	壺	—	3.4	—	AEI	5	普通	黒褐		
18	弥生	壺	—	2.7	—	CEI	5	普通	明赤褐	赤彩	
19	粘土塊	粘土削片	長さ3.4	幅7.1	厚さ0.4	EI	5	不良	浅黄橙	重さ10.83	



第187図　第207号住居跡出土遺物

第207号住居跡（第186・187図）

調査区の南側中央寄り、U－57グリッドに位置する。第83号溝跡と重複する。

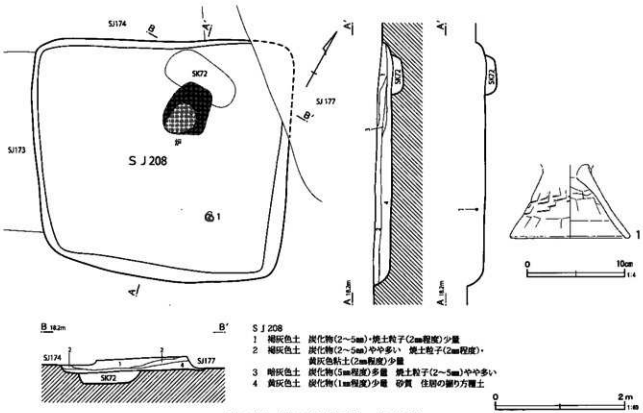
平面形は歪んだ長方形である。主軸方向はN－66°－Eを指す。規模は長軸4.20m、短軸3.54m、深さ30.0cmを測る。断面観察によると、北壁側には灰褐色土による三角堆積が見られた。その直上の第3層が焼土混じりの炭化物層であり、中央から南側にかけては床面直上に堆積していた。床面は平坦である。

施設は炉跡、貯蔵穴を検出した。炉跡は北壁側中央付近で検出した。推定径53.4cmを測る。貯蔵穴は南西コーナーよりやや西寄りに位置し、楕円形を呈している。径84.0×60.0cm、深さ31.5cmを測る。

遺物の出土状況は、床面付近から少量検出した。貯蔵穴の南西コーナー部分から10の鉢、13の脚付鉢、14の蓋が検出された。

遺物は、1～4が壺、5・6・8は甕、7は台付甕、9は口径の大きな高坏、10～12は鉢、13は内外面赤彩された脚付鉢である。14は器壁がやや薄い皿状の形態をした蓋とみられる。対になる小孔が見られる。外面はヘラナデ、内面はナデ整形である。

15は屈曲外反する甕の口縁部である。口縁部よりＲＬ単節縄文を施文している。口縁部内面にミガキを加えている。16は球胴形を呈する壺の胴部である。細かいＬＲ単節縄文を施文し以下を無文としている。無文部に赤彩痕跡が残る。17は弥生中期後半の壺の胴部である。地紋にＬＲ単節縄文を施文し２条の併行沈線間を磨消している。18は壺胴部上半である。ＬＲ単節縄文を施文している。19は土器製作時に発生する粘土削りカスの可能性が考えられたので図示した。



第188図 第208号住居跡・出土遺物

第77表 第208号住居跡出土遺物観察表（第188図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	残存	焼成	色調	備 考	図版
1	土師器	台付甕	－	7.5	12.2	AIJ	100	良好	にぶい黄橙	No1	

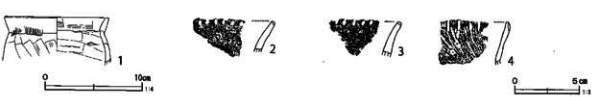
第208号住居跡（第188図）

調査区の南側東寄り、V・W－61グリッドに位置する。第173・174・177号住居跡、第72号土壙と重複する。北西1m内に第175号住居跡、北東1mに第176号住居跡、南2mに第138号住居跡、北1mに第83号溝跡が東西に走る。

平面形は歪んだ方形である。主軸方向はN－60°－Eを指す。規模は長軸3.90m、短軸3.72m、深さ22.80cmを測る。

施設は炉跡のみの検出であった。炉跡は径41.4×54.0cmを測る。本住居跡の床直下から第72号土壙を確認した。

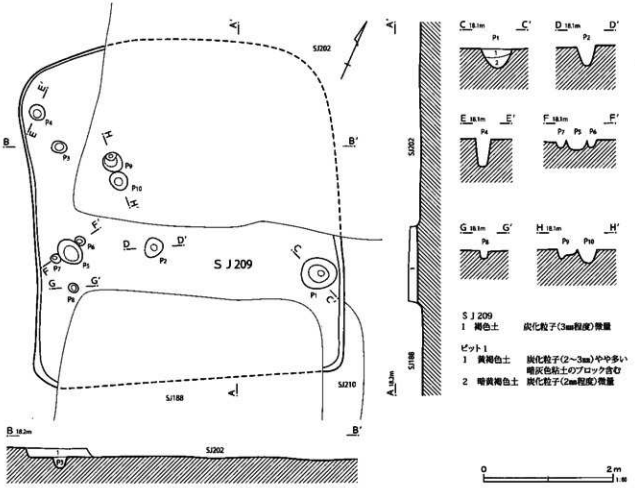
遺物はほとんど検出されなかった。図示したものは1の台付甕の台部である。



第189図 第209号住居跡出土遺物

第78表 第209号住居跡出土遺物観察表（第189図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	残存	焼成	色調	備 考	図版
1	土師器	鉢	(10.7)	4.9	－	ACEGHIK	15	普通	にぶい黄橙	P1	
2	土師器	甕	－	2.4	－	AEHI	5	普通	にぶい褐	内外面煤付着 口端キザミ	
3	土師器	甕	－	2.6	－	AEHIK	5	普通	にぶい褐	口端キザミ	
4	土師器	甕	－	3.2	－	AEGHIJK	5	普通	にぶい褐	口端キザミ	



第190図　第209号住居跡

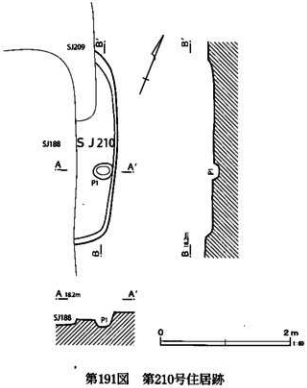
第209号住居跡（第189・190図）

調査区の中央東寄り、R・S－61グリッドに位置する。第188・202・210号住居跡と重複する。三方が住居跡によって切られ、本住居跡は西壁と東壁の一部のみを確認した。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－26°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸4.92m、短軸4.74m、深さ14.0cmを測る。覆土は浅く、わずかに確認することができた。

施設はピット10基を検出した。径19.5～66.0cm、深さ10.0～42.0cmを測る。

遺物は、覆土中から少量検出した。1は鉢である。2・3は緩やかに外反する甕の口縁部である。口端部にキザミを施している。4は僅かに外反する薄手の甕の口縁部である。口端部に細長いキザミを施しハケ調整が行われている。



第191図　第210号住居跡

第210号住居跡（第191図）

調査区の中央東寄り、S－61グリッドに位置する。第188・209号住居跡と重複する。北1mに第201号住居跡、北2mに第202号住居跡、東2mに第23号墳がある。

確認は極めて困難で、平面プランおよび住居跡床面の検出が難しく、東壁と南東のコーナー部分を検出した。平面形は不明である。主軸方向はN－20°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸2.88m、短軸0.63m、深さ12.6cmを測る。

施設は東壁中央付近でピットのみ検出した。径24.0×30.0cm、深さ9.0cmを測る。

遺物は、覆土中から壺・甕の胴部破片を検出したが、図示できるものはなかった。

第211号住居跡（第192・193図）

調査区の中央東寄り、S・T－61・62グリッドに位置する。第188・196号住居跡、第20・23号墳、第80号溝跡と重複する。東1mに第156・157号住居跡、南1m内に第81号溝跡が東西に走る。

平面形は方形と推定される。主軸方向はN－50°－Eを指す。規模は長軸6.58m、短軸6.24m、深さ27.0cmを測る。

断面観察により、第2層が床面である。床直上には焼土粒子を非常に多く含む炭化物層の堆積が1～2cm見られた。特に、壁際は焼土塊が大量に含まれる炭化物層であった。第3層の掘り方が検出された。床面は平坦で、床面の高さに差があり、南側の床面が下がっている。これは、おそらく、第20号墳の墳丘盛り土の影響を受け、床面が沈下した可能性がある。

施設は炉跡、ピット3基を検出した。炉跡は住居跡中央やや西寄りに位置し、ピット2とピット3の中間にあたる。第20号墳と重複するため半分のみの検出であった。推定径30.0×60.0cm、深さ3.0cmを測る。検出されたピット3基は主柱穴と考えられ、もう1基は第23号墳の周溝に切られ検出できなかった。径31.0～75.0cm、深さ30.0～42.0cmを測る。

遺物の出土状況は、住居跡北東コーナー部分から1の台付甕と2の器台を検出した。

遺物は、1が小型台付甕である。器形は口縁部が屈曲し「く」の字状に外傾し、口唇部にキザミが巡る。胴部は張りがあり、台部は「ハ」の字状に開き、端部は内湾し、平坦面をもつ。調整は胴部外面を斜め方向のハケメが施されている。2の器台は、坏部は浅い椀形で口唇部は細くなる。脚部は円錐状で二個一対の透かし孔が見られる。

第212号住居跡（第194図）

調査区の中央東寄り、T－60・61グリッドに位置する。第187・195・197号住居跡、第80・81号溝跡と重複する。四方が住居跡と溝跡によって切られ、本住居跡は西壁と北壁の一部のみを確認した。

平面形は不明である。主軸方向はN－90°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸5.95m、短軸2.46m、深さ24.0cmを測る。

施設はピット2基を西壁寄りに検出した。径39.0～45.0cm、深さ18.0～31.0cmを測る。

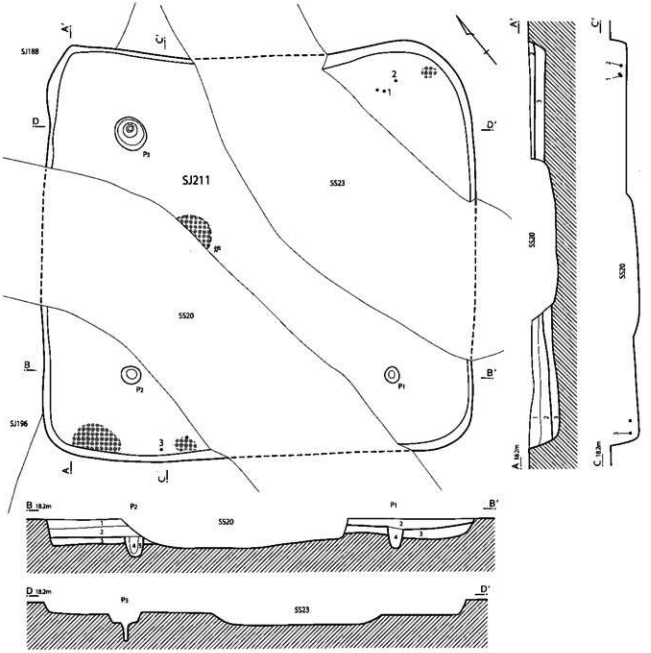
遺物は覆土中から少量検出したが図示できるものはなかった。

第213号住居跡（第195・196図）

調査区の南側西寄り、T－56グリッドに位置する。第83号溝跡と重複する。南西1m内に第214号住居跡、南東2mに第207号住居跡がある。北側の第83号溝跡に切られている。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－90°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸5.87m、短軸4.62m、深さ25.0cmを測る。

施設は壁周溝、貯蔵穴、ピットを検出した。壁周溝は残存する部分に沿って認められた。幅15.0～24.6cm、深さ4.2～11.5cmを測る。貯蔵穴は南西コーナーに位置している。径80.0cm、深さ45.0cmを測る。ピットは南東コーナー部分から1.2m、東壁から1mの位置にあたる。ピットの規模は径



SJ211
1　暗褐色土　地山ブロック・炭化粒子(1～3mm)・焼土粒子(1～3mm)少量　しまり強い　粘性弱い
2　暗褐色土　地山ブロック・褐色土ブロック・マンガンやや多い　炭化物ブロック(5～10mm)・炭化粒子(1～3mm)・焼土ブロック(5～20mm)・焼土粒子(1～3mm)を非常に多量に含む　炭化物層が約1～2cmの厚さで床面に堆積する　大きめの焼土ブロック(5～10cm)を立ち上がり付近に多量に含む　しまり強い　粘性やや強い　土器片(3cm程度)含む　床面
3　褐色土　暗褐色土ブロックやや多い　地山ブロック多量　マンガン・炭化粒子(1～3mm)・焼土粒子(1～2mm)少量　しまり強い　粘性やや強い　掘り方

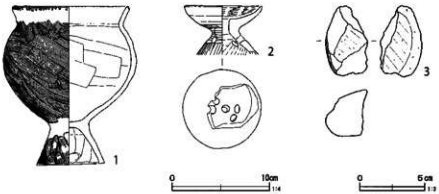
ピット1・2
4　暗褐色土　褐色土ブロック少量　炭化物ブロック(3～5mm)・炭化粒子(1～2mm)・焼土粒子(1～3mm)やや多い　しまりやや強い　粘性強い　柱穴と考えられる
5　褐色土　暗褐色土ブロックやや多い　地山ブロック多量　しまり強い　粘性やや弱い　埋戻し　住居に伴うピットと考えられる

0　2m　1:80

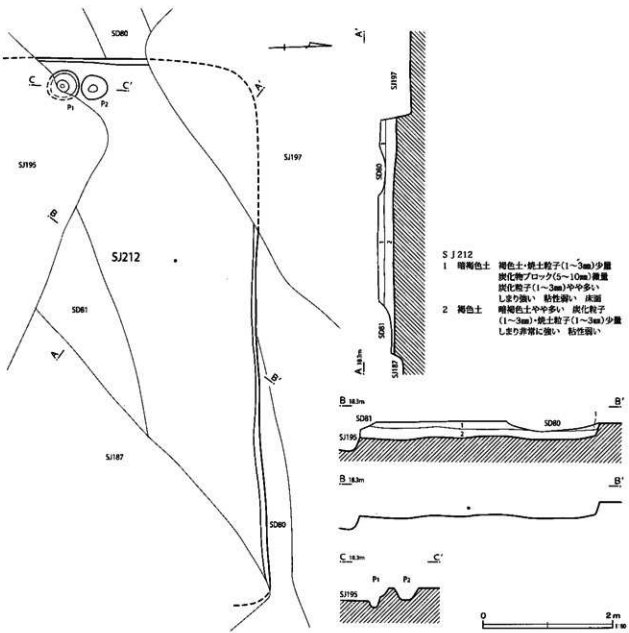
第192図　第211号住居跡

第79表　第211号住居跡出土遺物観察表（第193図）

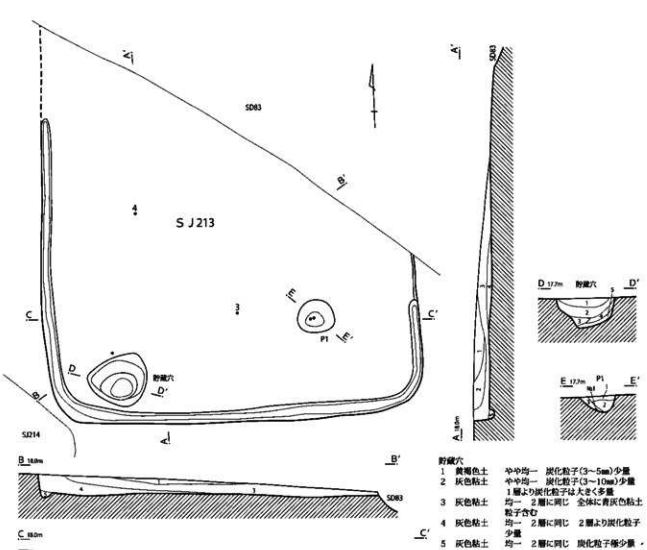
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	小型台付甕	11.8	16.3	7.0	AM	80	良好	赤	№2 口唇キザミ	102-6
2	土師器	器台	8.1	5.0	—	AGHIJ	80	普通	明赤褐	二孔一対　No.1	
3	石製品	砥石	長さ5.5　幅3.2　厚さ3.6　重さ56.7　石材　凝灰岩							No.4	



第193図　第211号住居跡出土遺物



第194図　第212号住居跡



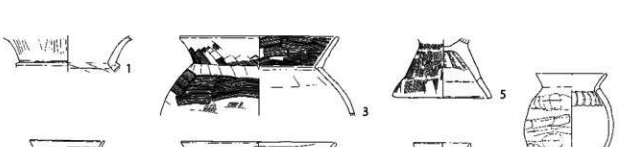
第195図　第213号住居跡

27.0cm、深さ24.0cmを測る。

遺物の出土状況は、住居跡中央の床面から甕を検出した。

遺物は、1が壺の口縁部破片で、粘土紐が頸部に貼りつく。2は器台である。坏部は受け口状の口縁形態で、脚部は坏部より径が大きく、形状は「ハ」の字状に外反する円錐状である。脚部中位に三方透かしをもつ。

3・4は「く」の字甕の上部破片である。外面胴部は横方向のハケメ、外面口縁部は縦方向のハケメ調整を施されている。5は台付甕の台部である。台部の上端は窪みをもち、甕底部を受ける接合法である。台部の器壁は薄い。6は小型鉢である。平底の底部から胴部が内湾しながら外傾して立ち上がる。頸部で屈曲し、口縁部が外方に「く」の字状に大きく開く。頸部内外面には指頭圧痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部は外面上半を横方向のヘラナデ、下半を縦方向のヘラナデを施している。内面はナデ調整である。7はミニチュア土器である。底部を欠損する。



第196図　第213号住居跡出土遺物

第80表　第213号住居跡出土遺物観察表（第196図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	—	3.7	—	AEGHIJM	10	普通	橙		
2	土師器	器台	(7.6)	8.2	10.5	AEHIJ	80	普通	浅黄橙	二孔　器面磨滅	134-3
3	土師器	甕	16.0	8.2	—	ACDEHIJ	65	普通	橙	№3	
4	土師器	甕	16.0	8.2	—	IJK	30	普通	にぶい赤褐	№4	
5	土師器	台付甕	—	6.0	10.3	AEHIJ	95	普通	赤褐	U59G	
6	土師器	鉢	(7.2)	10.3	4.4	ACHI	70	普通	にぶい黄橙		122-3
7	土師器	ミニチュア	(5.8)	5.0	—	ACEHI	25	普通	にぶい橙		

第214号住居跡（第197～199図）

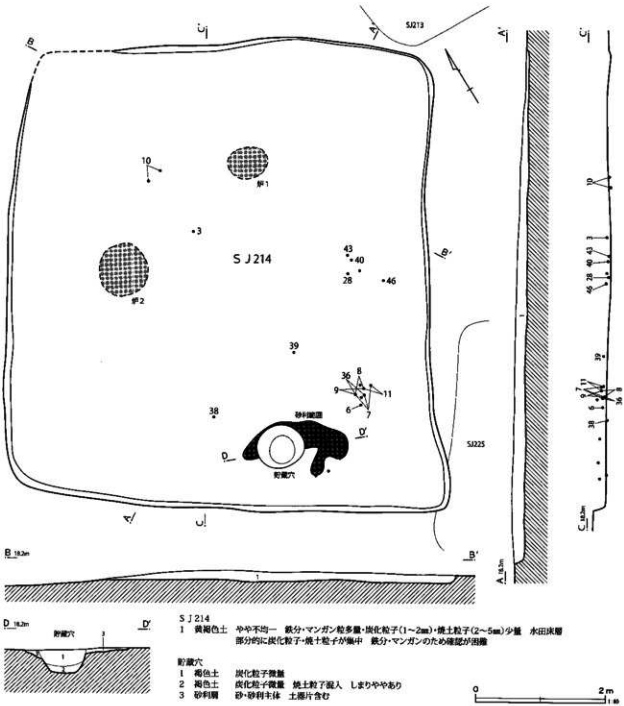
調査区の南側西寄り、U－55グリッドに位置する。第225住居跡と重複する。北東１ｍ内に第213号住居跡、南西１ｍに第130・222号住居跡がある。

平面形は長方形である。主軸方向はＮ－32°－Ｅを指す。規模は長軸7.29ｍ、短軸6.54ｍ、深さ18.6cmを測る。

施設は炉跡２基と貯蔵穴を検出した。炉跡は、いずれも地山粘土が焼土化した状態である。炉跡１は径60.0×45.0cm、炉跡２は径75.0×75.0cmである。貯蔵穴は南壁寄りやや東に位置し、径72.0cm、深さ37.0cmを測る。また、貯蔵穴の周囲では、東側半分に砂利が弧を描くように床面に堆積していた。貯蔵穴の周囲から検出されたが、貯蔵穴内には混入していない。貯蔵穴の周堤部分に砂利を敷き詰めていたものと考えられる。しかし、　砂利は、細かな小礫からなり、河川氾濫による洪水砂の可能性も考えられる。本集落からは、第281号住居跡のピット内に砂利の堆積が認められ、同一起源の砂利堆積と見られる。第79号溝跡の覆土中にも砂利層がみとめられ、土層堆積のリバースグレイディング現象が見られることから、洪水の氾濫土砂が堆積したものと見ることができる。

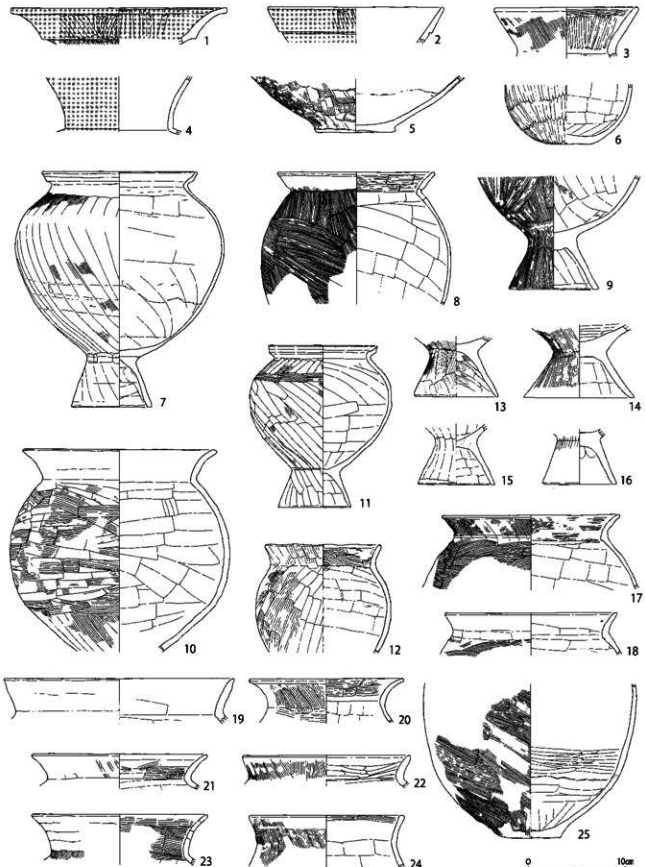
遺物の出土状況は、東壁中央付近に高坏・鉢が検出され、東壁の貯蔵穴寄りに台付甕が検出され煮沸具が集中する。

遺物は、１～６が壺である。１・２は大型の複合口縁壺である。７・９～16は台付甕、７・11は受け口状口縁で、形態が類似する大型品と小型品として捉えることができる。台部の形態は、様々であるが、７・15は端部内湾し面をもつ。９・16は直線的で面をもつ。11はやや内湾し徐々に薄くなる。13・14は外反しやや薄くなるタイプである。８・17～25は甕である。８は「く」の字状口縁甕である。調整は肩部縦ハケメ、胴部斜めハケメを施す。25は平底の底部で胴部下半から大きく張りをもち上方に立ち上がる。最大径が胴部中位から下半にある。26～34は高坏である。26は口径の大きな坏部である。28は脚部円錐状外反脚、29は内湾脚である。35～39は器台である。いずれも形態

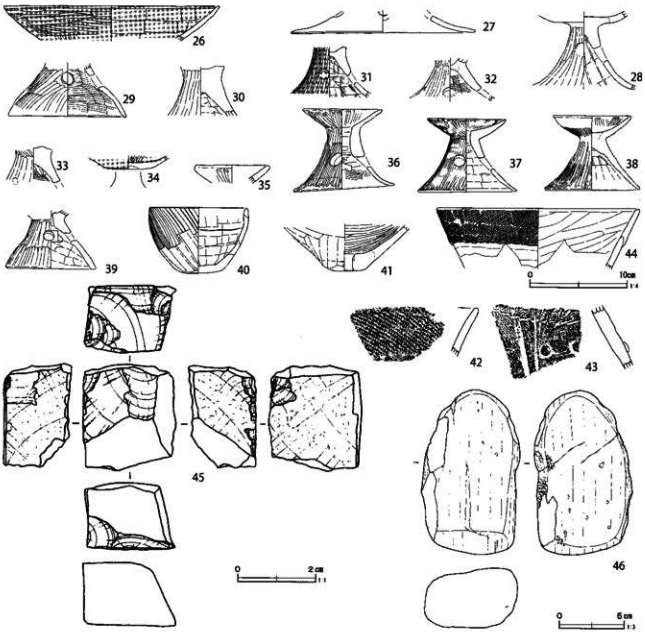


第197図　第214号住居跡

が異なりバリエーションが多様である。坏部は浅い半月状で端部に面をもつ。38は脚部の中心が貫通せず、脚部に透かし孔も見られない特徴をもつが、器台とした。39は内湾脚である。40は鉢、42は直線的に外反する壺の口縁部である。口縁部にＲＬ単節縄文を施文している。内面赤彩されている。43は壺の胴部上半である。Ｓ字状結節文を挟んで細かい無節Ｒ縄文と無節Ｌ縄文している。また無文部に円形浮文を２箇所貼付している。44は直線的に外反する壺の口縁である。複合状を呈する。口縁部に細かいＲＬ単節縄文を施文し頸部は無文である。45は緑色凝灰岩の管玉未製品である。46は砂岩でやや厚みのある砥石である。上端は弧状であるが、下端は平坦な面をもつ。



第198図　第214号住居跡出土遺物（1）

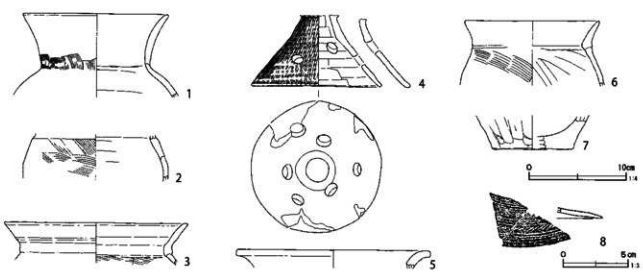


第199図　第214号住居跡出土遺物（2）

第81表　第214号住居跡出土遺物観察表（第198・199図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(22.0)	3.8	—	AEHIJK	5	普通	にぶい橙	赤彩	
2	土師器	壺	(18.0)	3.7	—	AEHIK	10	普通	にぶい橙	赤彩	
3	土師器	壺	(14.6)	5.2	—	AEHIK	20	普通	灰白	№15	
4	土師器	壺	—	6.1	—	AEHIJK	15	普通	にぶい黄橙	赤彩　風化	
5	土師器	壺	—	5.4	8.0	ACEJ	70	普通	灰褐		
6	土師器	小型壺	—	6.1	5.4	AEHIK	60	普通	橙	一部黒斑　№10	
7	土師器	台付甕	(15.8)	24.2	8.3	AEHIK	50	普通	橙	S字模倣甕　器壁薄い	97-6
8	土師器	甕	(16.0)	13.6	—	AEGHIJK	25	普通	にぶい赤褐	内外面煤付着　№7・8	
9	土師器	台付甕	—	11.5	9.3	AEGHI	60	普通	明赤褐	外面煤付着　砂粒多	
10	土師器	台付甕	(19.4)	20.6	—	AEHIK	50	普通	にぶい赤褐	外面煤付着　№16・17	
11	土師器	小型台付甕	11.3	16.5	7.5	ACEHK	80	普通	橙	S字模倣甕　№6・7	103-1
12	土師器	小型甕	(11.6)	11.1	—	AEHIJK	30	普通	にぶい褐	外面二次被熱　赤化	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
13	土師器	台付甕	—	6.2	8.4	AEHIJK	80	普通	明赤褐		
14	土師器	台付甕	—	7.4	(11.3)	AHIJK	45	普通	灰褐		
15	土師器	台付甕	—	6.2	(7.9)	AEHIJK	45	普通	赤褐	二次被熱　赤化	
16	土師器	台付甕	—	5.6	7.6	AEHIK	70	普通	橙	風化顕著	
17	土師器	甕	(18.0)	7.7	—	EIK	20	普通	淡黄		
18	土師器	甕	(17.4)	4.3	—	AEHIJK	20	普通	にぶい赤褐		
19	土師器	甕	(23.2)	4.7	—	AEHIJK	30	良好	にぶい黄橙		
20	土師器	甕	(15.6)	4.6	—	AEHIJK	20	普通	にぶい黄褐	外面煤付着	
21	土師器	甕	(17.8)	3.6	—	AEIJK	15	良好	にぶい黄橙		
22	土師器	甕	(17.0)	3.3	—	AEGHIK	20	普通	にぶい黄褐		
23	土師器	甕	(17.8)	5.2	—	AEHIJK	15	普通	明赤褐		
24	土師器	甕	(15.6)	5.5	—	AEHIJK	30	普通	灰黄褐		
25	土師器	甕	—	15.7	6.3	ACEIJ	60	普通	浅黄		
26	土師器	高坏	(22.0)	3.6	—	AEGHIJK	20	良好	にぶい黄橙	赤彩	
27	土師器	高坏	—	2.2	(18.8)	AEHIJK	25	普通	にぶい橙	四孔　風化	
28	土師器	高坏	—	8.1	—	AEHIK	30	普通	橙	三孔　№5	
29	土師器	高坏	—	5.5	(12.0)	AEIJK	50	良好	にぶい黄橙	四孔	
30	土師器	高坏	—	5.0	—	AEHIJK	80	普通	にぶい橙		
31	土師器	高坏	—	5.1	—	AEHIJK	80	普通	にぶい橙	赤彩　三孔	
32	土師器	高坏	—	4.2	—	AEHIK	70	普通	にぶい黄橙	四孔　粉っぽい	
33	土師器	高坏	—	3.6	—	AEHIJK	70	普通	にぶい褐		
34	土師器	高坏	—	1.4	—	AEHIJK	40	普通	にぶい黄橙	赤彩　外面風化	
35	土師器	器台	7.4	1.9	—	AEHIJK	90	普通	明赤褐	風化	
36	土師器	器台	7.9	8.2	10.4	AEHIK	85	普通	にぶい黄橙	三孔　№8・9	134-4
37	土師器	器台	7.9	7.5	9.7	AEHIJK	70	普通	にぶい橙		134-5
38	土師器	器台	8.0	7.7	9.6	AEGHIJK	90	普通	にぶい橙	№14	134-6
39	土師器	器台	—	6.0	9.0	AEHIJK	95	普通	橙	四孔　№13	
40	土師器	鉢	10.0	6.7	4.1	ADGHIJ	90	良好	にぶい橙	№2	122-4
41	土師器	甑	—	4.8	4.4	AEGHIJK	60	普通	にぶい黄橙	風化	
42	弥生	壺	—	3.8	—	AEHIJK	5	良好	浅黄橙	赤彩	
43	土師器	壺	—	5.0	—	AEHIJK	5	普通	にぶい黄橙	円形浮文　№1	
44	土師器	壺	(20.8)	6.2	—	EGHI	25	良好	橙褐	赤彩痕	
45	石製品	管玉未製品	長さ2.7　幅2.4　厚さ1.7　重さ14.5　石材　緑色凝灰岩							荒削	
46	石製品	砥石	長さ12.6　幅7.7　厚さ6.2　重さ811.2　石材　砂岩							№4	152-3



第200図　第217号住居跡出土遺物

第217号住居跡（第200・201図）

調査区の南側中央寄り、W－57グリッドに位置する。第15・18号墳と重複する。西1mに第230号住居跡がある。

平面形は北側を第18号墳にほぼ半分切られ、南側を第15号墳に切られているため不明である。主軸方向はN－79°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸6.36m、短軸3.57m、深さ42.0cmを測る。床直上の一部には炭化物層が見られた。

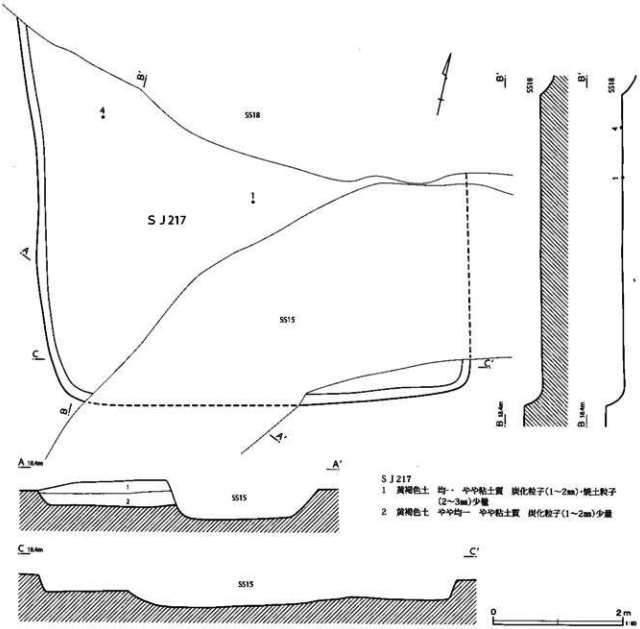
施設は確認できなかった。

遺物の出土状況は、住居跡中央の床直上の炭化物層から1の壺を検出し、西壁際から4の高坏を検出した。

遺物は、1・2が壺である。1は口縁部やや外側に開く直口壺である。4は高坏の円錐状に開く脚で、上下二段の三方透かしである。3・5～7は甕である。8は高坏脚端部の破片で横線文が巡る。

第218号住居跡（第202・203図）

調査区の中央西寄り、T－58・59グリッドに位置する。第234・294号住居跡と重複する。南2mに第206号住居跡がある。



第201図　第217号住居跡

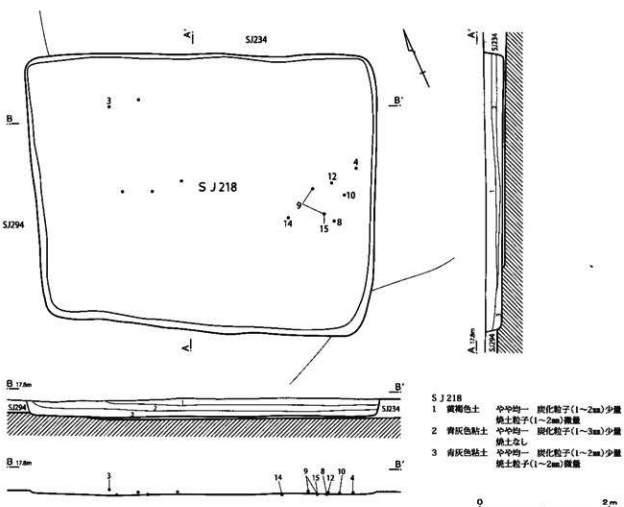
第82表　第217号住居跡出土遺物観察表（第200図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	14.8	8.6	－	AEGHIM	60	普通	浅黄橙	風化　№2	
2	土師器	壺	－	4.8	－	ACHIJ	25	普通	明赤褐		
3	土師器	甕	(18.8)	4.2	－	AHIK	10	普通	灰黄褐		
4	土師器	高坏	－	7.2	13.2	BGIJK	80	普通	橙	赤彩　三孔二段	
5	土師器	甕	(19.8)	1.8	－	AEJ	20	普通	浅黄橙		
6	土師器	甕	(13.8)	6.6	－	ACEI	15	普通	橙		
7	土師器	甕	－	3.4	(8.3)	ACG	35	普通	にぶい褐		
8	土師器	高坏	－	0.8	－	AEGHIK	5	普通	にぶい黄橙	赤彩か	

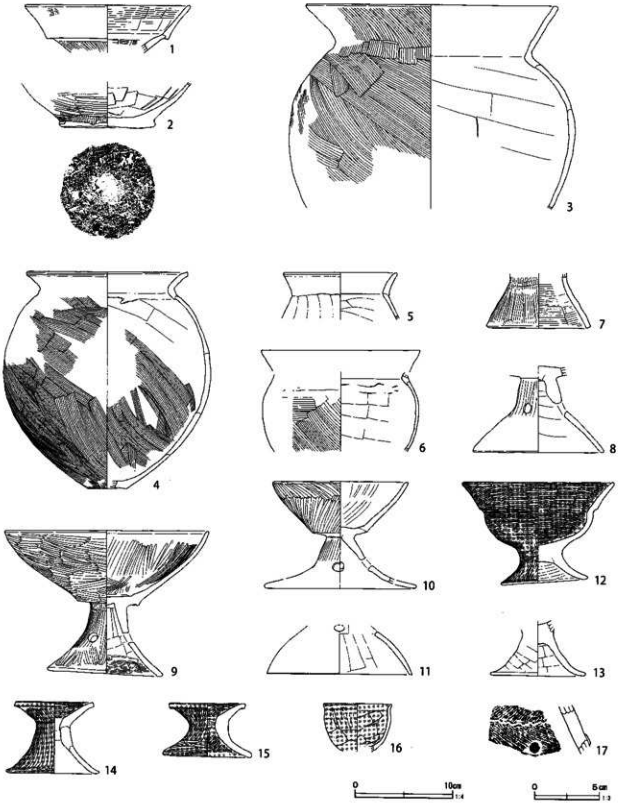
平面形は長方形である。主軸方向はN－63°－Wを指す。規模は長軸5.34m、短軸4.32m、深さ30.6cmを測る。

遺物の出土状況は、住居跡の東壁中央付近に高坏・脚付鉢・器台・坩が検出された。北西側では大型甕が検出された。

遺物は、1・2が壺である。3～6は甕でいずれも「く」の字状口縁である。3は口径の大きい甕で貯蔵具として使用されたと考えられる。7は台付甕でわずかに内湾脚の様相が見られる。8～11・13は高坏である。8は円錐状の内湾脚の様相を残す三方透かし、9は坏部に稜をもつ有稜高坏で、脚部は外反脚である。10は大きく開く屈曲脚で四方透かしである。11は脚部のみ残存し内湾脚



第202図　第218号住居跡



第203図　第218号住居跡出土遺物

である。12は脚付鉢である。14・15は器台で、坏部は逆台形の形態で口唇部に面をもつ。16はミニチュア土器である。17は壺の胴部上半である。無節L縄文と無節R縄文をS字状結節文と挟んで施文し羽状構成としている。縄文施文帯下端に円形浮文を貼付している。

第83表　第218号住居跡出土遺物観察表（第203図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(17.0)	4.9	—	BCEHIK	20	普通	明赤褐	二重口縁壺	
2	土師器	壺	—	4.7	9.8	AEHIJ	80	不良	浅黄橙	輪台状	
3	土師器	甕	25.7	20.8	—	AEHIK	50	良好	にぶい橙	№11　SJ234	
4	土師器	甕	(16.4)	22.3	(4.0)	ACDEHIJ	20	普通	橙	№1　T59G	
5	土師器	小型甕	(11.6)	4.8	—	AEHIJK	40	良好	にぶい褐	外面煤付着　赤化　U59G	
6	土師器	小型甕	—	8.4	—	AEHIJM	20	普通	にぶい黄橙	外面煤付着	
7	土師器	台付甕	—	5.6	(10.8)	AEHIK	20	良好	にぶい橙		
8	土師器	高坏	—	8.8	13.6	ACH	95	普通	橙	粉っぽい　三孔　№4	
9	土師器	高坏	(20.8)	14.8	11.4	CEHIJK	55	良好	にぶい橙	三孔　№5・6	129-4
10	土師器	高坏	(13.8)	10.4	—	CEIK	70	普通	橙	四孔　№2	129-5
11	土師器	高坏	—	4.9	(15.0)	AHI	10	普通	橙	欠山系高坏の脚部	
12	土師器	脚付鉢	15.4	10.2	8.6	ABHIK	80	良好	赤	赤彩　№3	132-5
13	土師器	高坏	—	5.5	(9.5)	ACEHIK	60	普通	にぶい橙		
14	土師器	器台	7.9	7.3	9.6	ACEHIK	85	普通	にぶい橙	赤彩　№7　SJ234	134-7
15	土師器	器台	7.7	5.4	9.2	CEHIJK	100	普通	明赤褐	赤彩　№5	134-8
16	土師器	ミニチュア	(7.0)	4.9	—	AEHIJK	30	普通	にぶい褐	赤彩	
17	弥生	壺	—	3.7	—	ACEHIJK	5	普通	にぶい橙	円形浮文	

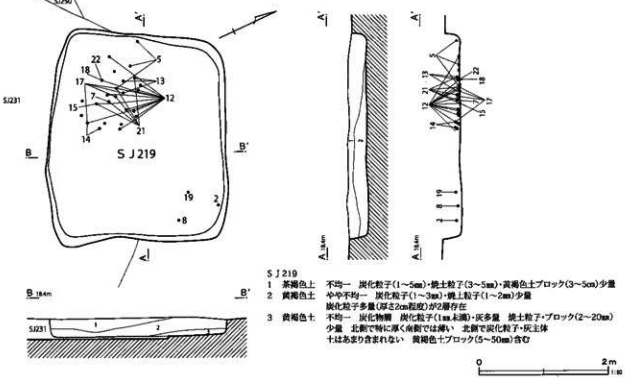
第219号住居跡（第204～208図）

調査区の南側中央寄り、W－56グリッドに位置する。第231・250号住居跡と重複する。東2mに第249号住居跡がある。

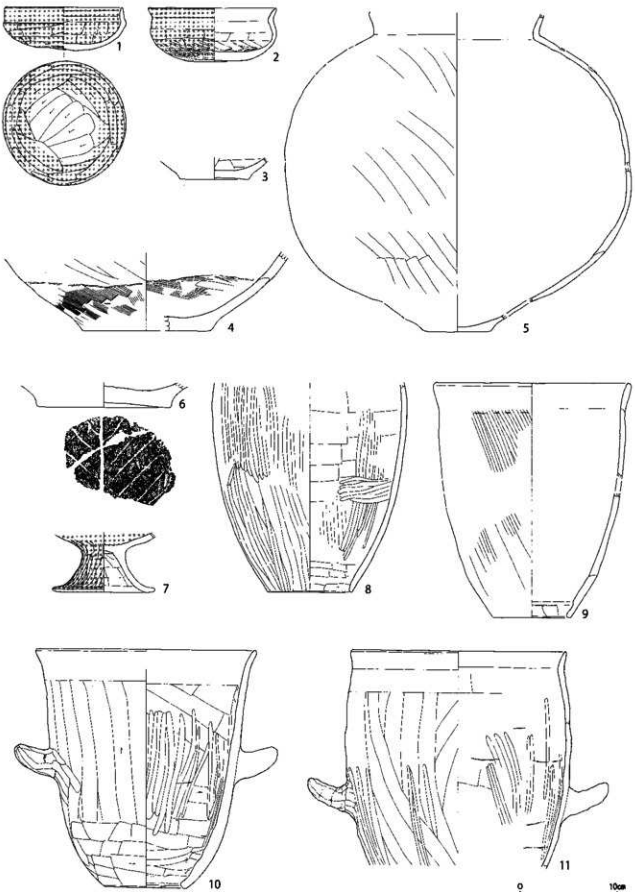
平面形は長方形である。主軸方向はN－64°－Wを指す。規模は長軸3.13m、短軸2.70m、深さ30.0cmを測る。

施設は検出できなかった。

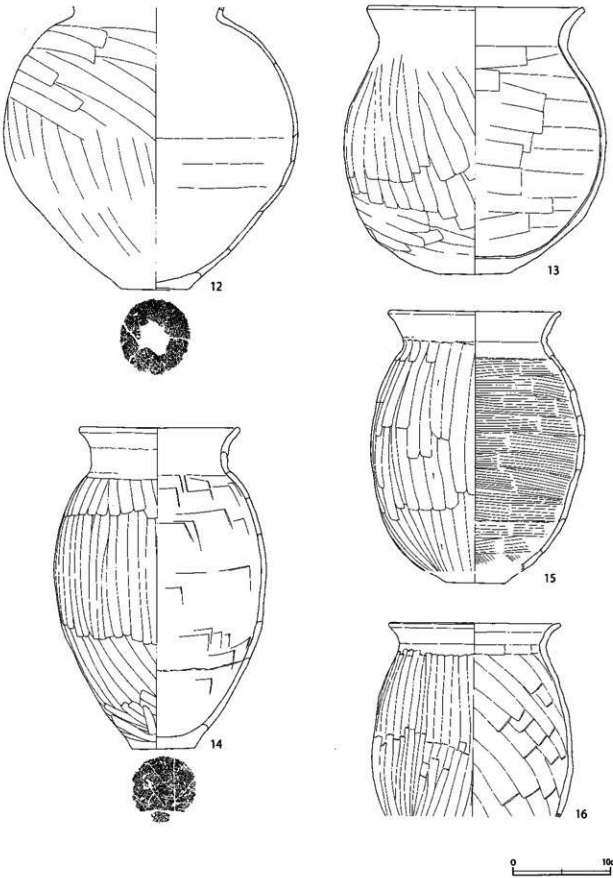
遺物の出土状況は、住居跡の中央西側と北東コーナー部分に床面から大量の土器が検出された。中央から西側には、壺・甕・丸甕・甑・高坏が検出され、北東では甕・甑・鉢を検出した。



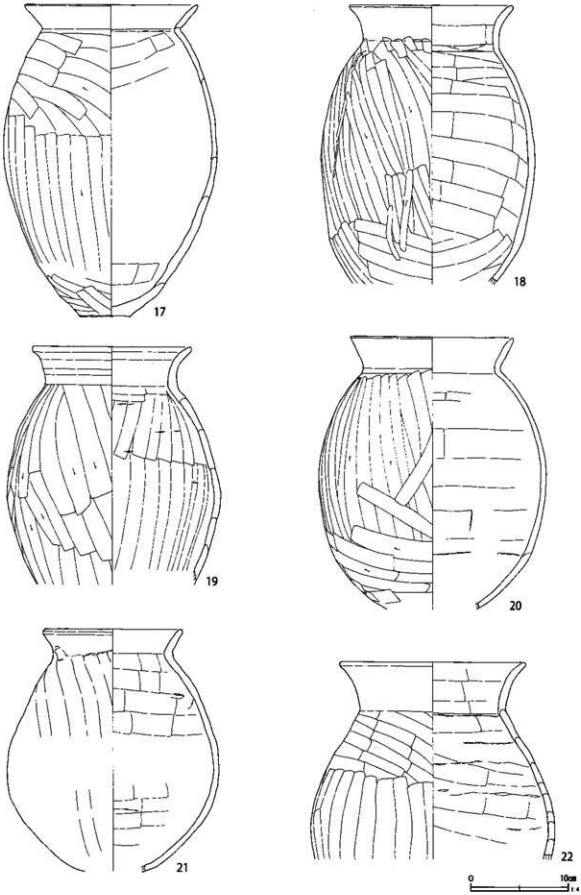
第204図　第219号住居跡



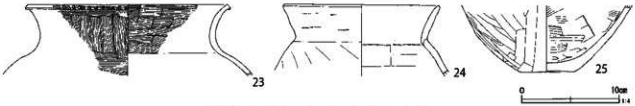
第205図　第219号住居跡出土遺物（1）



第206図　第219号住居跡出土遺物（2）



第207図　第219号住居跡出土遺物（3）



第208図　第219号住居跡出土遺物（4）

第84表　第219号住居跡出土遺物観察表（第205～208図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	12.0	4.3	—	ABEHI	100	普通	明赤褐	身模倣坏　赤彩	144-6
2	土師器	鉢	(13.0)	5.4	—	ACEHIK	65	普通	明赤褐	赤彩　№28	
3	土師器	壺	—	2.3	7.0	ABEGI	80	普通	にぶい黄橙		
4	土師器	壺	—	8.0	(13.0)	ACDEGHIK	60	普通	灰褐		
5	土師器	壺	—	32.6	7.0	GI	30	不良	赤橙	№1・3・8	
6	土師器	壺	—	2.5	(14.0)	EGHIKM	40	普通	橙	木葉痕　1cm台小石含む	
7	土師器	高坏	—	6.1	(10.6)	CEJ	70	良好	にぶい橙	赤彩　№14	
8	土師器	甕	—	21.3	(8.7)	AEHI	25	普通	にぶい黄橙	№27	
9	土師器	甕	(19.8)	24.0	(8.0)	CEHIM	10	普通	橙	W58G　小礫多く含む	
10	土師器	甕	(22.5)	24.5	8.5	CEHIJK	50	良好	橙		140-6
11	土師器	甕	(22.0)	22.1	—	ACEHIK	25	普通	にぶい褐	W56G	
12	土師器	壺	—	29.0	6.7	AEI	80	普通	にぶい褐	№2・5・8・11他	
13	土師器	甕	22.0	27.3	7.1	AEHI	70	不良	にぶい黄橙	外面摩滅顕著　№6・8・10	111-2
14	土師器	甕	16.0	33.0	6.5	HIJ	80	普通	にぶい赤褐	木葉痕　№22・23	111-3
15	土師器	甕	17.6	26.7	—	GIJ	50	普通	にぶい黄橙	№15	111-4
16	土師器	甕	17.2	19.7	—	AEGHIJK	70	普通	にぶい赤褐	外面赤化・煤付着	111-5
17	土師器	甕	17.5	32.0	5.1	ABCEGHIJ	45	普通	にぶい赤褐	№8～10・23	111-6
18	土師器	甕	(16.7)	28.4	—	AEHI	80	良好	橙	№5	112-1
19	土師器	甕	16.2	24.4	—	AEGHIK	80	普通	赤	二次被熱　№26	112-2
20	土師器	甕	16.6	28.0	—	AE	80	普通	にぶい黄橙		112-3
21	土師器	甕	14.1	24.7	—	ACEHIJ	60	普通	橙	№6・8・9・14・15	
22	土師器	甕	(18.6)	20.3	—	ACEHIJK	40	普通	橙	№5	
23	土師器	壺	(20.5)	7.3	—	AEH	5	普通	橙	口唇キザミ　赤茶系	
24	土師器	甕	(15.8)	7.3	—	CEHIK	20	普通	にぶい橙	褐色系	
25	土師器	甕	—	6.8	5.6	AHIK	80	普通	赤灰		

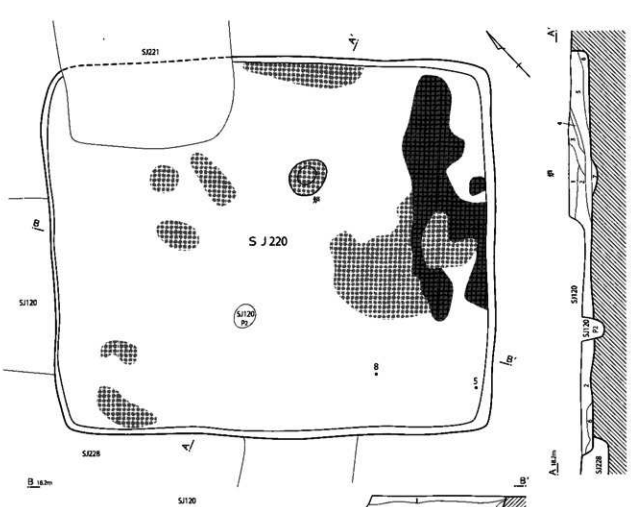
遺物は、1が坏身模倣の坏である。2は口縁部が外反し、底部が平底の鉢である。3～6・12は壺である。7は短脚の高坏である。8～11は大型甑である。13はやや大型の胴部球形をした丸甕、14はやや長胴化した甕で、底部に木葉痕が見られる。15・16・20はやや胴部の膨らみが強い甕である。17～19はやや胴部に張りをもつ長胴化気味の甕である。21・22は胴部下半に最大径のある下膨れした器高のやや低い甕である。23は壺で口縁部が外反する。口唇端部にキザミが施されている。24・25は甕の破片である。

第220号住居跡（第209・210図）

調査区の南側西寄りV・W－55グリッドに位置する。第120・221・228号住居跡と重複する。北側2mに第222号住居跡がある。

平面形は長方形である。主軸方向はN－45°－Wを指す。規模は長軸6.84m、短軸5.88m、深さ42.0cmを測る。断面観察では、6層の下面で床面直上に炭化物層が見られた。壁際の6層には炭化物と焼土を多量に含む。床面は平坦である。

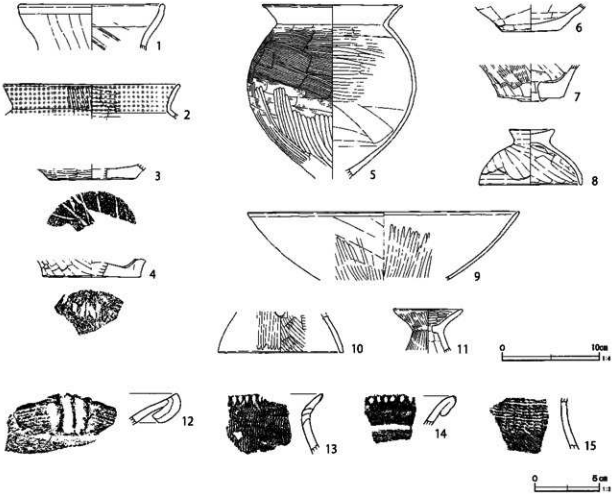
施設は炉跡を住居跡中央やや東寄りに検出した。径112.0cm、深さ9.0cmを測る。



第209図　第220号住居跡

遺物の出土状況は、破片は多く検出されたが、完形品は見られなかった。南東コーナーの床直にやや小型の台付甕を検出し、西寄りで蓋（または脚付鉢）を検出した。

遺物は、1～4が壺で、1は細頸の壺、2は広口壺である。3は木葉痕が残り、4はモミ圧痕が残っていた。5は小型台付甕、6は甕の底部である。8は蓋である。9・10は高坏で、9は口径が大型、10は内湾脚である。11は器台で坏部は逆台形の端部に面をもつ。12は壺の口縁部である。強く外反する複合口縁の壺である。口縁部にハケ調整を残す。また棒状浮文を3本貼付している。13は口縁部が強く外反する甕の口縁部である。口端部にキザミを施し以下に縦のハケ調整を行っている。内面に横ハケが残る。14は複合口縁の壺である。口端部にキザミを施す。頸部にハケ調整を残す。15は甕の頸部である。粗雑な櫛描簾状文を施文している。簾状文下にハケ調整が残る。



第210図　第220号住居跡出土遺物

第85表　第220号住居跡出土遺物観察表（第210図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(14.8)	4.7	—	AEHIJK	10	普通	にぶい褐		
2	土師器	壺	(18.0)	3.5	—	AEHIK	10	普通	橙	赤彩	
3	土師器	壺	—	1.5	(9.0)	AEHIJK	40	普通	にぶい橙	木葉痕	
4	土師器	壺	—	1.8	(10.0)	AEHIJK	20	普通	橙	輪台状	
5	土師器	小型台付甕	(14.4)	18.3	—	AEIJ	65	普通	明赤褐	赤化　内外面煤付着　No.2	
6	土師器	甕	—	2.7	(6.2)	ABHIJK	60	普通	明赤褐	内面煤付着	
7	土師器	甑	—	3.8	6.9	AEGHJK	55	普通	にぶい褐		
8	土師器	蓋	10.6	5.6	—	ACGIJK	80	良好	にぶい黄橙	外面黒斑　No.1	147-5
9	土師器	高坏	(27.8)	7.0	—	AHIJ	5	普通	にぶい橙	元屋敷系高坏の大型	
10	土師器	高坏	—	4.1	(12.9)	AEHI	5	良好	橙		
11	土師器	器台	(7.0)	4.5	—	AEHIJK	40	普通	にぶい褐		
12	土師器	壺	—	2.4	—	ABCEGHIM	5	普通	橙	バレス壺模倣　棒状浮文	
13	土師器	甕	—	4.6	—	AEGHIJK	5	普通	にぶい赤褐	チャート	
14	土師器	壺	—	2.1	—	AEGHIK	5	普通	橙	白色粒子多	
15	弥生	甕	—	3.9	—	AEGHI	5	普通	にぶい黄橙		

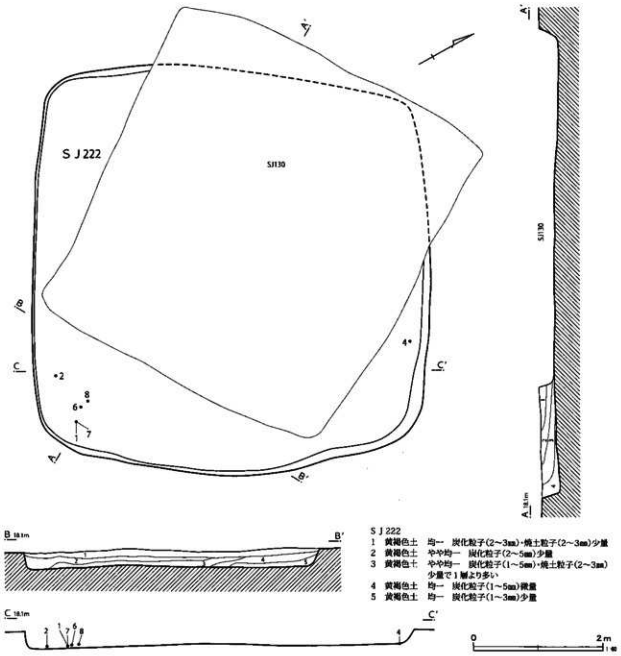
第222号住居跡（第211・212図）

調査区の南側西寄り、U・V－55グリッドに位置する。第130号住居跡と重複する。北1mに第214号住居跡、南西1mに第229号住居跡、南2mに第221号住居跡、東2mに第129・225号住居跡がある。

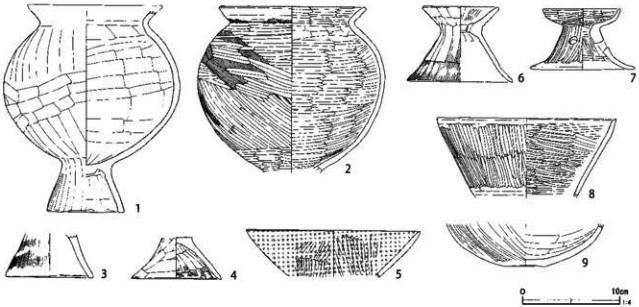
第130号住居跡によってほとんどが切られていたため平面形は正方形と推定される。主軸方向はN－60°－Wを指す。規模は長軸6.10m、短軸6.06m、深さ30.0cmを測る。

遺物の出土状況は、南西コーナー部分の床直上にまとまって1・2・6～8の台付甕・壺・器台が検出された。また、南東コーナー部分に台付甕の台部を検出した。

遺物は、1～4が台付甕で、1の形態は「く」の字状口縁で胴部の調整は肩部に縦方向ハケメ、胴部中位は横方向のハケメ、下端は縦方向のハケメが施されている。2は小型台付甕で、内外面に



第211図　第222号住居跡

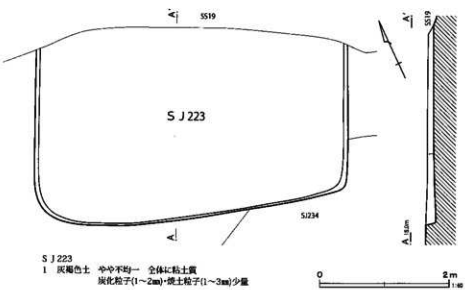


第212図　第222号住居跡出土遺物

第86表　第222号住居跡出土遺物観察表（第212図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	小型台付甕	—	20.7	7.9	ACEHIK	85	普通	明赤褐	二次被熱・煤付着　No.1	103-2
2	土師器	小型台付甕	14.8	17.0	—	AEHIJK	70	普通	にぶい褐	外面煤付着　No.4	103-3
3	土師器	台付甕	—	4.5	8.8	ABEJ	100	普通	にぶい橙	No.5	
4	土師器	台付甕	9.3	4.2	—	AHIJK	80	普通	明赤褐	SJ130	
5	土師器	高坏	(18.0)	5.5	—	ACEHIK	10	普通	にぶい黄橙	赤彩	
6	土師器	器台	7.6	7.7	(10.8)	AEHIJK	35	普通	にぶい橙	風化　No.2	134-9
7	土師器	器台	(8.0)	6.2	10.8	AEHIK	80	普通	にぶい赤褐	チャート　No.1	134-10
8	土師器	壺	18.4	8.1	—	ACEHI	100	普通	にぶい橙	No.3	
9	土師器	壺	—	4.3	3.8	AEHIJK	30	普通	にぶい黄褐		

丁寧なミガキが施されている。5は高坏の坏部破片である。内外面にミガキが施され赤彩されている。6・7は器台である。6は坏部が逆台形の「ハ」の字状に開き、透かし孔のない外反脚である。7は半月型の坏部で、脚部は端部が外方に屈曲をもつ短脚の外反脚である。8・9は壺の破片である。



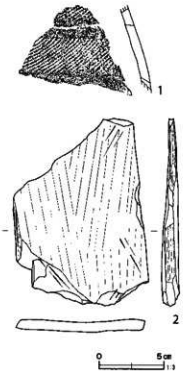
第213図　第223号住居跡

第223号住居跡（第213・214図）

調査区の中央西寄り、S・T－58・59グリッドに位置する。第234号住居跡、第19号墳と重複する。南側２ｍに第294号住居跡がある。

平面形は第19号墳と重複しているため判然としない。確認は極めて困難で、平面プランおよび住居跡床面の検出が難しく、トレンチを入れ確認した。南壁は確認ができたが、北壁は第19号墳によって切られている。プラン確認では全体に暗褐色の堆積土が認められたため掘削したが、掘り込みの浅い住居跡で、遺物もほとんど出土せず、住居跡と断定するのが難しかった。規模は残存する部分で、長径4.86ｍ、短径2.91ｍ、深さ12.0cmを測る。遺物は、１が壺の胴部である。ＬＲ単節縄文帯と無文帯を交互に設けている。無文部に化粧土が残る。２は砥石の破片である。剥離したためか扁平で薄い。表面には磨り目が残る。

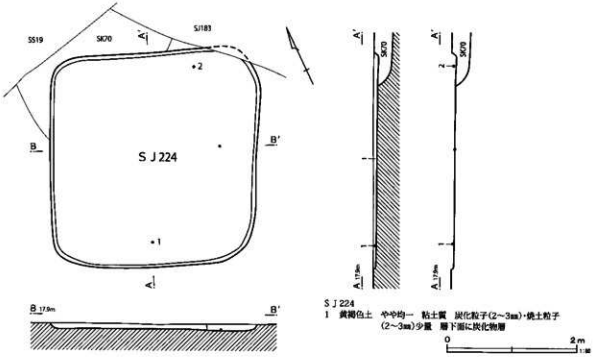
弥生時代後期の住居跡の可能性もある。



第214図　第223号住居跡出土遺物

第87表　第 223号住居跡出土遺物観察表（第214図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　考	図版
1	弥生	壺	－	6.7	－	ＥＨＩ	5	普通	浅黄橙		
2	石製品	砥石	長さ14.3	幅10.4	厚さ1.4	重さ197.0	石材	凝灰岩			153-1



第215図　第224号住居跡

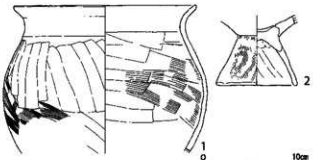
第224号住居跡（第215・216図）

調査区の中央西寄り、U－59グリッドに位置する。第183号住居跡、第70号土壙と重複する。南1mに第83号溝跡が東西に走る。

平面形は方形である。主軸方向はN－25°－Eを指す。規模は長軸3.30m、短軸3.12m、深さ10.0cmを測る。掘り込みの浅い住居跡で遺物の出土もほとんど見られなかった。第1層の下面の床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。

遺物の出土状況は、北壁やや東寄りの壁際から台付甕の台部を検出し、南壁中央の壁付近から広口甕を検出した。

遺物は、1が広口甕である。口縁部形態は「く」の字状で胴部は緩やかな膨らみをもつ。2は台付甕で「ハ」の字状に開く台部である。



第216図　第224号住居跡出土遺物

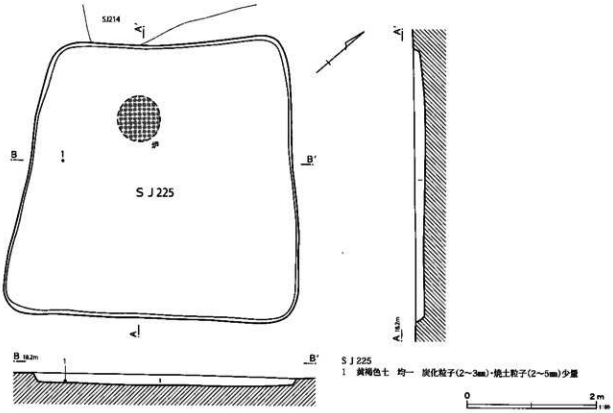
第225号住居跡（第217・218図）

調査区の南側中央寄り、U－56グリッドに位置する。第214号住居跡と重複する。西2mに第222号住居跡、南1m内に第129号住居跡がある。

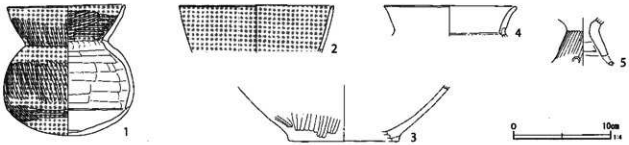
平面形は、西壁に比べ東壁が長く歪んだ長方形である。主軸方向はN－42°－Wを指す。規模は長軸4.42m、短軸4.20m、深さ18.0cmを測る。住居

第88表　第224号住居跡出土遺物観察表（第216図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	18.6	15.2	－	AEHIJKL	50	普通	橙	外面一部赤化	
2	土師器	台付甕	－	7.2	8.1	AEHIK	80	普通	橙	No.3　U59G	



第217図　第225号住居跡



第218図　第225号住居跡出土遺物

第89表　第225号住居跡出土遺物観察表（第218図）

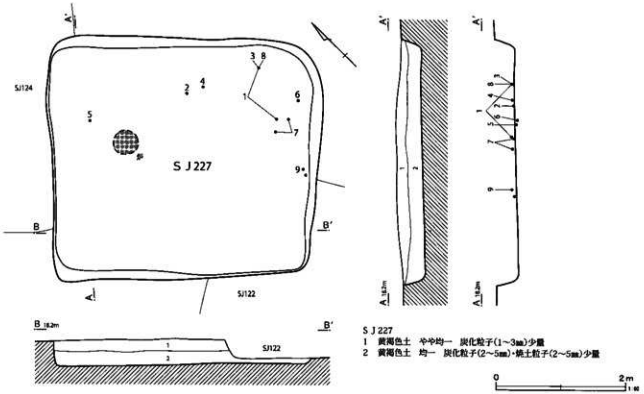
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	小型壺	12.2	13.3	—	EI	90	良好	赤褐	赤彩 №1	94-1
2	土師器	壺	(16.0)	4.8	—	AG	5	普通	橙	赤彩	
3	土師器	壺	—	5.8	(11.4)	AEGJ	10	普通	橙		
4	土師器	甕	(13.6)	3.1	—	AEG	5	普通	にぶい橙	石英多	
5	土師器	器台	—	4.9	—	EIJ	70	普通	橙	四孔	

跡は全体に浅い掘り込みで、覆土は一層である。床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。

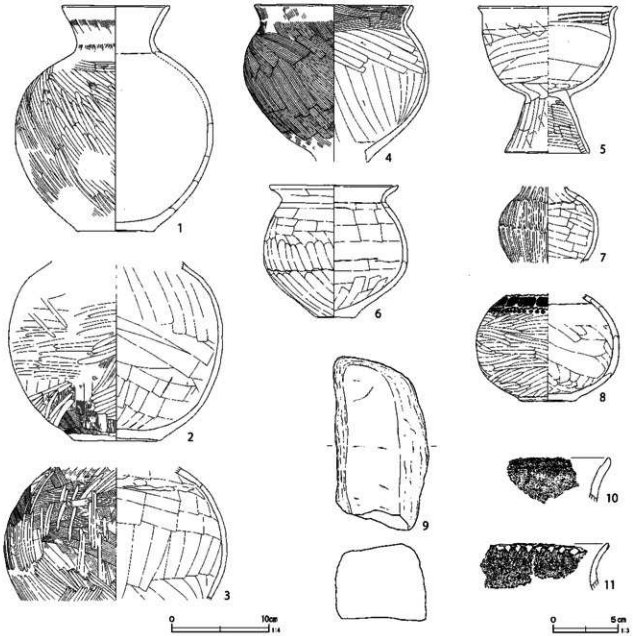
施設は炉跡のみの検出であった。炉跡は西側に位置し、円形を呈している。推定径69.0cmを測る。

遺物の出土状況は、完形品は少なく、南壁中央部分から小型丸底壺を検出した。

遺物は、少量の検出であった。1は小型丸底壺で、調整は口縁部外面は縦ミガキ、内面は横ミガキを施す。胴部は上半を縦ミガキ、下半は横ミガキが施されていた。外面全体から口縁部内面にかけて赤彩が施されている。2は口径の大きな壺でやはり赤彩が施されている。3は大型壺の底部破片である。4は甕、5は器台である。



第219図　第227号住居跡



第220図　第227号住居跡出土遺物

第227号住居跡（第219・220図）

調査区の南側西寄り、W－54、X－54・55グリッドに位置する。第122・124号住居跡と重複する。南1ｍ内に第252・258号住居跡、南1ｍに第17号墳がある。

平面形は長方形である。主軸方向はN－46°－Wを指す。規模は長軸4.17ｍ、短軸3.72ｍ、深さ42.0cmを測る。

施設は炉跡を検出した。炉跡は住居跡のやや北西寄りの位置にあり、円形を呈している。径40.0cmを測る。

遺物の出土状況は、炉跡の西側で調理用の小型脚付坩、北壁に近い位置から煮沸用の台付甕と大型甕、東壁北寄りから貯蔵用の大型・中型・小型の壺を検出した。

遺物は、1～3が大型の壺である。1は素口縁であるが外傾して立ち上がりながら口唇部が膨らむ。頸部に屈曲をもち胴部は球形状に膨らむ。底部は平底である。調整は胴部外面が丁寧なミガキ、内面は横および縦方向のナデが施されている。

第90表　第227号住居跡出土遺物観察表（第220図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　考	図版
1	土師器	壺	11.0	23.2	8.0	GI	70	良好	橙	№3・5	88-2
2	土師器	壺	－	18.3	8.9	AEHIJK	60	良好	明赤褐	№9	
3	土師器	壺	－	13.7	－	AEHIJK	70	良好	明赤褐	内外面煤付着　№5	
4	土師器	台付甕	16.0	16.0	－	ACEIJK	95	普通	褐	№8	
5	土師器	脚付坩	14.1	15.0	8.6	BEHI	80	良好	明赤褐	№10	138-10
6	土師器	小型甕	13.2	13.5	4.0	AEHIJK	90	普通	にぶい黄橙	胴部外面赤化　輪台状　№1	118-8
7	土師器	小型壺	－	7.5	－	ACEHI	80	良好	橙	№2・4	
8	土師器	壺	－	10.9	5.8	EHIJ	60	良好	赤褐	№5	
9	石製品	台石	長さ13.3　幅7.4　厚さ6.2　重さ913.8　石材　チャート							№7	
10	土師器	甕	－	3.3	－	AG	5	普通	灰黄褐		
11	土師器	甕	－	3.6	－	JM	5	普通	橙		

2・3も同様である。4は台付甕である口径が大きいが器高はやや浅い。5は脚付坩、6は小型甕、7は小型の壺である。8は口縁部を欠損する壺または広口の壺である。S字状結節文による区画内に細かいLR単節縄文を施文している。縄文帯下に円形竹管または巻き縄による刺突または押捺列を施す。胴下半部は丁寧なミガキを施している。10は緩やかに外反する甕の口縁部である。口縁部以下無文である。11は緩やかに外反する甕の口縁部である。口端部にキザミを施し以下無文である。

第229号住居跡（第221・222図）

調査区の南側西寄り、V－54グリッドに位置する。第127号住居跡と重複する。

平面形は長方形である。主軸方向はN－27°－Eを指す。規模は長軸6.96m、短軸6.13m、深さ36.0cmを測る。

施設は炉跡のみの検出であった。炉跡は住居跡中央やや北東寄りに位置し、推定径42.0×72.0cmを測る。

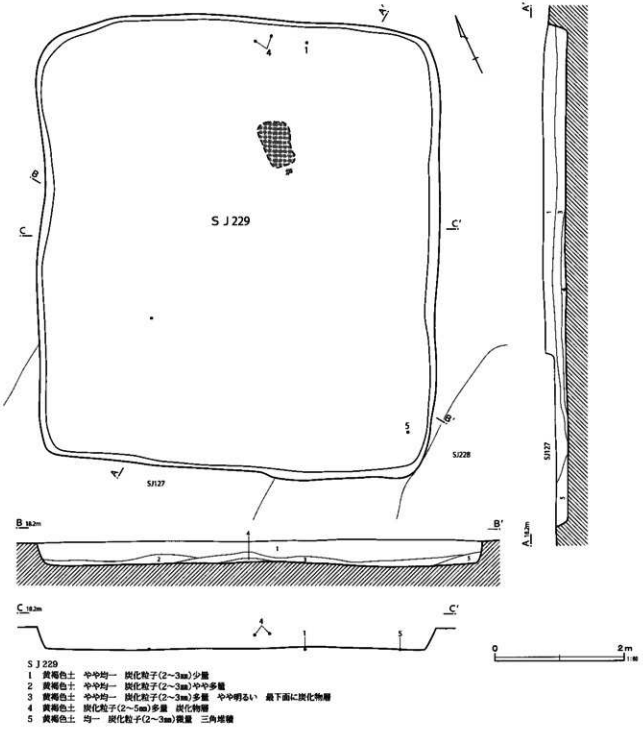
遺物の出土状況は、炉跡の北側で北壁際の位置から台付甕と壺を検出した。また、南東コーナー部分から器台を検出した。

遺物は、1が大型の壺である。口縁形態は素口縁で「ハ」の字状に外反気味に開く、胴部は球形状に張りをもち、底部は平底である。2・3は壺の口縁部である。口縁形態は折り返し口縁である。2の口縁端部外面は成形した際の指頭痕が残る。4は台付甕、5は器台である。半月状の坏部に円錐状の外反脚で三方透かしである。6は鉢型甑である。7は緩やかに外反する甕の口縁部である。口端部にキザミを施し外面は無文である。8は甕の頸部である。櫛描簾状文を施文している。9は甕の頸部である。櫛描簾状文を施文している。10は甕の頸部である。櫛描簾状文を施文し、その上下に簾状文を切って櫛描波状文を施文している。11は吉ヶ谷式の甕である。器面全体にRL単節縄文を連続施文している。

12は勾玉である。頭部の一部が破損している。石材は緑色凝灰岩である。頭部の破損部分は、第235号住居跡の、第236図8と一致しており、2点は接合し、勾玉の完形となったものである。第236図8は、12と比較すると表面が白色化し、石質も脆くなっており、風化が進んでいると考えられる。剥離面から、破損は表面の孔方向から発生しているが、器面の研磨が仕上がっていることから、完成したのちに、何らかの原因で破損したものと考えられる。

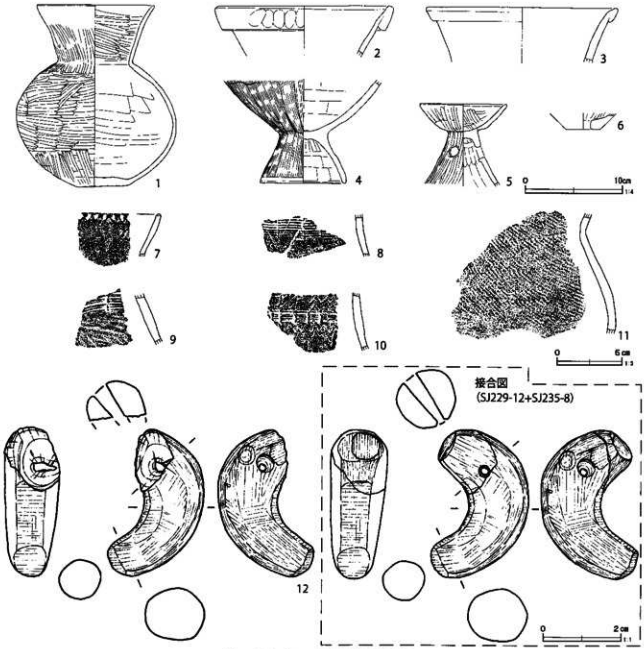
勾玉は、管玉と同じ石材を使用しているが、遺跡内からは、勾玉の未製品と考えられる製作工程の緑色凝灰岩の石製品は、現段階では出土しておらず、反町遺跡内で緑色凝灰岩製の勾玉を製作していたかは不明である。

勾玉は、器面全体が丁寧に磨かれている。断面は、円形に近い楕円形で肉厚なものとなっている。



第221図　第229号住居跡

穿孔は、片面穿孔で、孔は裏面側から、表面側に貫通している。裏面には孔の背部寄りに、浅い円形の窪みが認められる。始めの穿孔位置と考えられ、背部に寄り過ぎていたため、現在の孔の位置に修正されたものと考えられる。窪み部分にも研磨が施されている。背部、腹部ともに丸く加工されている。頭部と尾部には、加工時の稜線が残存している。



第222図　第229号住居跡出土遺物

第91表　第229号住居跡出土遺物観察表（第222図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	小型壺	11.9	18.7	5.3	AEIJK	95	普通	橙	No4A	94-2
2	土師器	壺	(17.4)	5.2	—	AEHIJ	5	良好	にぶい橙	風化顕著	
3	土師器	壺	(19.3)	5.7	—	EHIJK	5	普通	にぶい橙	風化してザラザラ	
4	土師器	台付甕	—	10.6	8.8	AEGHIJ	70	普通	橙	二次被熱・煤付着　No2・3	
5	土師器	器台	8.9	8.2	—	AEHIK	90	普通	橙	No5　三孔	134-11
6	土師器	甑	—	1.6	(3.5)	AEHIJK	40	普通	にぶい橙	風化	
7	弥生	甕	—	3.3	—	CEHIJ	5	普通	橙	内外面煤付着　チャート	
8	弥生	甕	—	3.2	—	AHIJ	5	普通	灰褐	内外面煤付着	
9	弥生	甕	—	4.0	—	AEIJ	5	普通	褐灰		
10	弥生	甕	—	4.5	—	ACEHIJ	5	普通	明赤褐		
11	弥生	甕	—	9.0	—	AEGHIJK	5	普通	にぶい黄橙	二次被熱　赤化・煤付着	
12	石製品	勾玉	長さ3.8	幅2.5	厚さ1.5	重さ10.7	石材	緑色凝灰岩		No1　SJ235-8と接合	151-10-13
	石製品	勾玉	長さ3.8	幅2.5	厚さ1.5	重さ13.3	石材	緑色凝灰岩		No1　SJ229-12＋SJ235-8	

第230号住居跡（第223～226図）

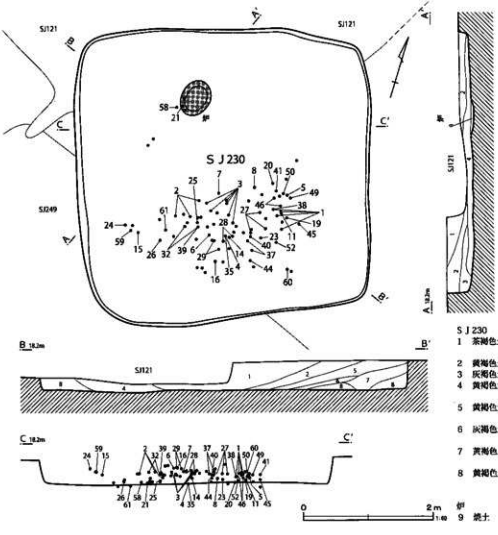
調査区の南側中央寄り、W－56・57グリッドに位置する。第121・249号住居跡と重複する。北1mに第18号墳、東1mに第217号住居跡がある。

平面形は方形である。主軸方向はN－16°－Wを指す。規模は長軸4.56m、短軸4.53m、深さ43.2cmを測る。

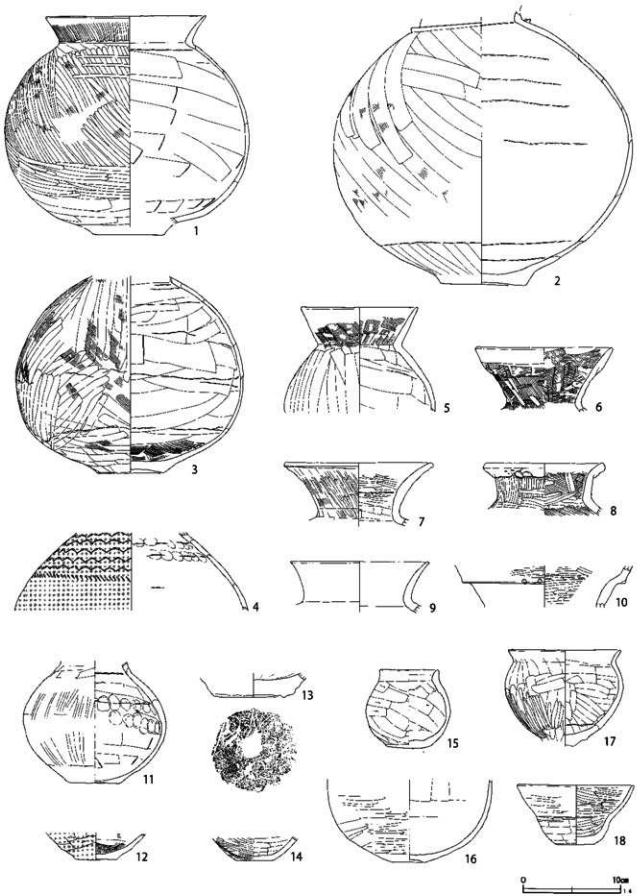
施設は炉跡のみの検出であった。北側に位置し、楕円形を呈している。径43.2×57.0cm、深さ5.0cmを測る。

遺物の出土状況は、中央南寄りの覆土中から多量の土器を検出した。床面より浮いた状態で出土し、一括投棄と見られる。器種構成は、竪穴住居跡で使用されるものである。廃棄された土器を器種別に捉えてみると、南側には甕・台付甕類が多く検出され、北側には壺類が多く認められた。また、東寄りには高坏類がまとまって検出されている。さらに、西側には小型のミニチュア土器が見られ廃棄場所に器種別の傾向が見られた。

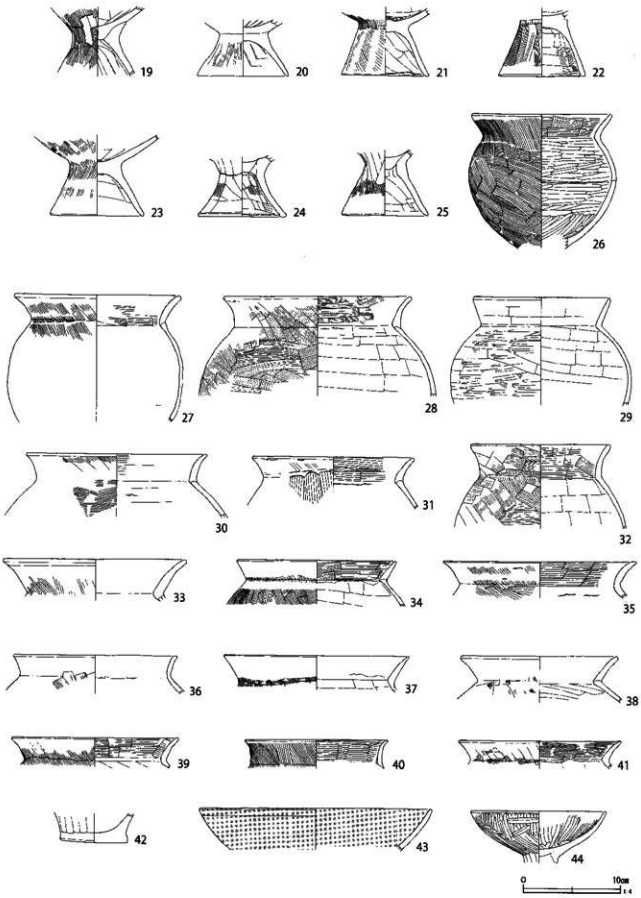
遺物は、1～14が壺である。1は壺で口縁部外面から胴部外面は全体に丁寧なミガキを施す。2は大型壺で、口縁を欠損する。頸部には断面三角形の突帯が貼り付き、胴部外面にはハケメが施され、内面はナデ整形である。4は壺肩部のみの出土で、外面には網目状縄文が山形文を描くように五段にわたって施され、下端には列点文が刻まれている。内面は輪積痕を残し、頸部に指圧痕が残る。5は中型の壺である。6は折り返し口縁壺の



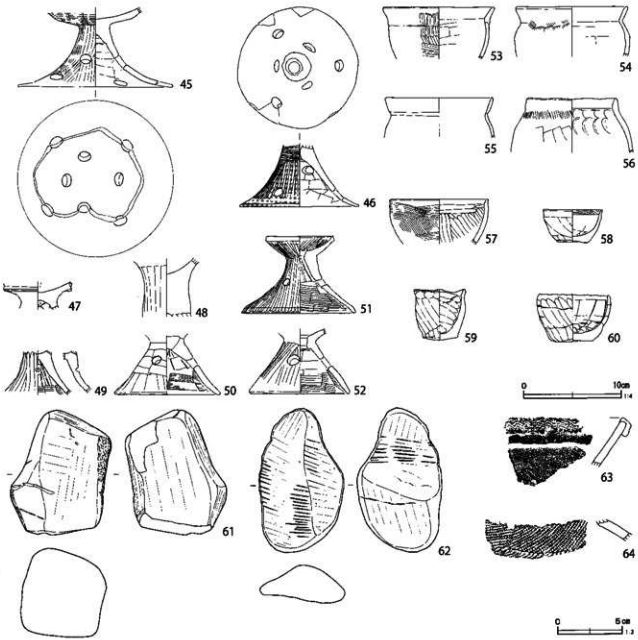
第223図　第230号住居跡



第224図　第230号住居跡出土遺物（1）



第225図　第230号住居跡出土遺物（2）



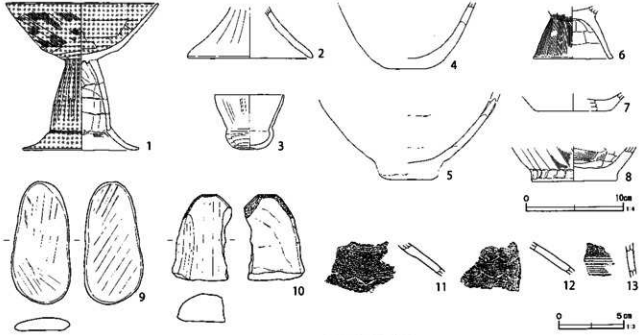
第226図　第230号住居跡出土遺物（3）

口縁部破片である。口縁端部外面は無文帯を形成する。7は壺で逆「ハ」の字状に外反し大きく開く。10は複合口縁壺の口縁部破片である。キザミがわずかに施されていた。11は胴部が球形状に膨らむ小型の壺である。15は小型鉢、16は脚部が欠損した台付鉢である。16は低位わずかに上げ底の小型の壺、17は脚部が欠損した台付鉢、18は坩である。19～25は台付甕、26～42は甕、43～45・47～50は高坏、46・51・52は器台である。43は大型高坏である。坏部内外面に赤彩が施されている。45・46は脚部の透かしが二段に施されており、45は上下段ともに四個の透かし孔が交互の位置につき、46は上下段三個の透かし孔が交互の位置につく。57は鉢、59・60は手づくねである。61・62は砥石である。63は直線的に外反する壺の口縁部である。口縁部に櫛描波状文を施文し頸部以下は無文である。64は球胴形を呈する壺の胴部である。ＬＲ単節縄文を施文している。

第92表　第230号住居跡出土遺物観察表（第224～226図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	16.5	21.7	－	GI	60	良好	にぶい赤褐	№10・11・17・18	112-4
2	土師器	壺	－	27.8	8.8	EIJ	40	普通	橙	内面褐　№56～59・70	
3	土師器	壺	－	20.1	6.9	ACEGHIK	80	普通	にぶい黄橙	№36・48～50・68・69	
4	土師器	壺	－	8.0	－	ACEHIK	25	普通	橙	赤彩	85-7
5	土師器	壺	(12.0)	10.8	－	AEHIK	70	良好	橙	№32	88-3
6	土師器	壺	(14.0)	6.5	－	AHIK	30	普通	にぶい黄橙	№34	
7	土師器	壺	(15.2)	6.4	－	AEHIK	50	良好	にぶい橙	№71	
8	土師器	壺	(12.0)	5.3	－	AEHIJK	40	良好	明赤褐	№6	
9	土師器	壺	(14.2)	5.2	－	ACEHIK	15	良好	灰黄褐		
10	土師器	壺	－	4.3	－	AEH	5	良好	にぶい橙		
11	土師器	壺	－	12.5	5.2	AEHIJ	80	普通	にぶい黄橙	砂粒多　№31	88-4
12	土師器	壺	－	2.7	(4.3)	CEHIK	40	良好	にぶい黄橙	赤彩	
13	土師器	壺	－	2.4	8.8	CEHIK	90	普通	橙	輪台状	
14	土師器	壺	－	2.5	3.7	AEIJK	55	普通	灰黄褐	№81	
15	土師器	鉢	6.0	8.0	4.0	DGHIJ	80	普通	にぶい橙	№54	122-5
16	土師器	壺	－	8.4	3.4	AEHIK	40	普通	にぶい橙	二次被熱　煤付着　№38	
17	土師器	台付鉢	(11.6)	9.5	－	AEHIJK	50	普通	にぶい橙	二次被熱赤化	
18	土師器	坩	12.9	6.1	3.9	AEHIK	80	普通	にぶい橙	風化	137-6
19	土師器	台付甕	－	7.1	－	AEHIJK	80	普通	にぶい黄褐	№78	
20	土師器	台付甕	－	5.0	9.4	AEHI	90	普通	にぶい黄橙	№5	
21	土師器	台付甕	－	6.9	9.0	AEHIK	75	良好	橙	S字甕模倣　№74	
22	土師器	台付甕	－	6.9	8.2	EHIK	75	良好	明褐色	風化	
23	土師器	台付甕	－	8.3	9.6	AEHIJK	75	普通	にぶい黄橙	№47	
24	土師器	台付甕	－	6.3	(9.0)	AEHIJK	30	良好	赤褐	内外面赤化・煤付着　№52	
25	土師器	台付甕	－	6.7	(8.8)	AIJ	60	普通	にぶい橙	№86	
26	土師器	小型甕	(14.1)	13.7	－	AEHIJ	70	普通	にぶい橙	№55	117-1
27	土師器	小型甕	17.0	12.9	－	AEHIJ	75	普通	明赤褐	№9・21・33	117-2
28	土師器	甕	(19.0)	10.3	－	ACEHIJK	20	普通	にぶい赤褐	№43・46	
29	土師器	甕	(14.0)	11.0	－	AEHIJ	45	普通	にぶい橙	№37・41	
30	土師器	甕	(18.4)	6.5	－	CEHIK	10	普通	明赤褐		
31	土師器	甕	(16.6)	5.3	－	ADHK	15	普通	にぶい黄橙		
32	土師器	甕	14.0	8.6	－	AEHIJK	40	普通	明赤褐	№60・79	
33	土師器	甕	(18.6)	4.3	－	DEH	15	普通	橙	内外面磨滅	
34	土師器	甕	(16.4)	4.3	－	AEIJK	30	良好	橙		
35	土師器	甕	(19.8)	3.7	－	AEHIJK	20	普通	にぶい赤褐	№82	
36	土師器	甕	(16.6)	3.9	－	EHIK	10	良好	灰黄褐		
37	土師器	甕	19.2	3.5	－	ACIJK	75	良好	灰褐	№26・27	
38	土師器	甕	(16.0)	4.7	－	AEGHIJK	25	良好	明赤褐	№18	
39	土師器	甕	(17.2)	3.0	－	ACEIJ	50	普通	にぶい橙	№79	
40	土師器	甕	(14.6)	2.9	－	AIK	25	普通	にぶい赤褐	外面煤付着　№30	
41	土師器	甕	(16.8)	2.7	－	AEHIJK	25	普通	にぶい赤褐	№3	
42	土師器	甕	－	3.0	6.8	AIK	80	普通	明赤褐	砂粒多	
43	土師器	高坏	(21.8)	4.3	－	DEH	5	普通	赤	赤彩	
44	土師器	高坏	14.0	5.3	－	AEHIJK	70	良好	にぶい黄橙	№25	
45	土師器	高坏	－	7.9	－	GIJK	60	普通	浅黄橙	四孔二段　№13	
46	土師器	器台	－	6.3	12.2	AEIJ	95	普通	橙	三孔二段　№16・19　赤彩	134-12
47	土師器	高坏	－	2.9	－	EHIK	90	普通	にぶい橙		
48	土師器	高坏	－	6.1	－	ABEIK	80	普通	橙		
49	土師器	高坏	－	4.4	－	ACEIJK	80	普通	にぶい赤褐	№15	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
50	土師器	高坏	—	6.0	10.8	AEH	100	普通	橙	三孔 No.4	
51	土師器	器台	6.7	7.8	(11.8)	AEHIJK	45	普通	明赤褐	三孔 No.85	135-1
52	土師器	器台	—	6.6	10.1	EHJ	85	普通	暗赤褐	No.20	
53	土師器	鉢	(11.4)	5.3	—	AEGIJK	15	良好	にぶい黄橙		
54	土師器	鉢	(11.5)	5.1	—	AEHIK	20	普通	にぶい褐		
55	土師器	鉢	(11.0)	4.0	—	AIK	15	普通	橙		
56	土師器	鉢	(9.1)	5.6	—	CEIK	30	普通	浅黄橙		
57	土師器	鉢	(10.0)	4.6	—	EHIK	25	普通	にぶい橙		
58	土師器	ミニチュア	6.1	3.3	3.1	AEHIK	95	普通	橙	輪台状	126-5
59	土師器	手づくね	5.1	5.2	3.6	ACEIJ	95	普通	橙	No.53	126-6
60	土師器	手づくね	7.2	4.8	4.0	BEHJ	100	普通	にぶい橙	No.22	126-7
61	石製品	砥石	長さ9.6	幅7.8	厚さ6.9	重さ718.8	石材	砂岩		No.89	
62	石製品	砥石	長さ11.0	幅6.5	厚さ3.0	重さ233.1	石材	砂岩			
63	弥生	壺	—	3.7	—	AEHI	5	普通	浅黄橙		
64	弥生	壺	—	1.7	—	DEH	5	普通	浅黄橙		



第227図　第231号住居跡出土遺物

第231号住居跡（第227・228図）

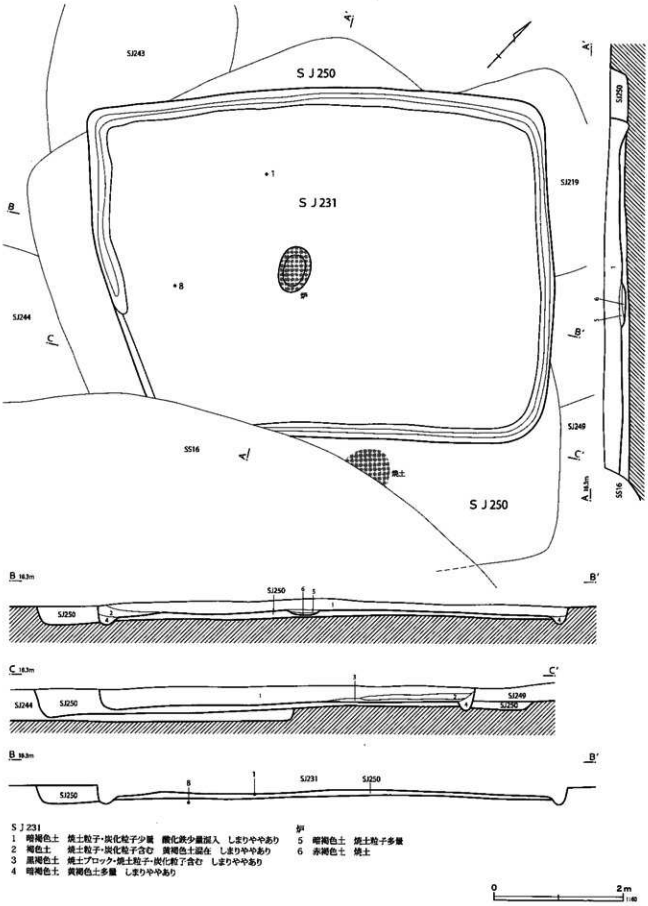
調査区の南側中央寄り、W・X－55・56グリッドに位置する。第219・243・244・249・250号住居跡、第16号墳と重複する。周辺の住居跡の中で最後に構築された住居跡である。

確認は極めて困難で、平面プランおよび住居跡床面の検出が難しく、トレンチを入れ確認した。平面形は長方形である。主軸方向はN－47°－Eを指す。規模は残存する部分で、長軸7.05m、短軸5.40m、深さ30.0cmを測る。

施設は炉跡、周溝を検出した。炉跡は、ほぼ中央に位置し、楕円形を呈している。径51.0×69.0cm、深さ12.0cmを測る。

遺物の出土状況は、炉跡の北側に高坏、西側に甕を検出した。

遺物は、1が有稜高坏で、坏部は深く、脚部は柱状脚である。端部は屈曲し大きく外反する。坏部の内外面および脚部外面が赤彩されている。脚



SJ231
1 暗褐色土　焼土粒子・炭化粒子少量　酸化鉄少量混入　しまりややあり
2 褐色土　焼土粒子・炭化粒子含む　黄褐色土混入　しまりややあり
3 黒褐色土　焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子含む　しまりややあり
4 暗褐色土　黄褐色土多量　しまりややあり

炉
5 暗褐色土　焼土粒子多量
6 赤褐色土　焼土

0　2m

第228図　第231号住居跡

第93表　第231号住居跡出土遺物観察表（第227図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	15.8	15.0	11.8	ACEHJ	85	普通	橙	赤彩　№2	129-6
2	土師器	高坏	－	5.2	(12.6)	EHIK	10	普通	にぶい橙		
3	土師器	坩	7.1	5.6	1.4	ACHIK	95	普通	橙	器面磨滅	137-7
4	土師器	甕	－	6.8	4.6	ACEHIK	30	普通	明赤褐		
5	土師器	甕	－	8.3	4.6	AEIK	40	普通	明赤褐		
6	土師器	台付甕	－	5.3	(8.0)	IK	40	普通	明褐色		
7	土師器	甕	－	1.8	(7.4)	BEHIK	20	普通	にぶい橙		
8	土師器	甕	－	3.6	8.6	AEHI	65	普通	浅黄橙	№1	
9	石製品	砥石	長さ9.4	幅4.6	厚さ1.3	重さ80.4	石材	緑泥片岩			
10	石製品	敲石	長さ6.6	幅4.6	厚さ2.3	重さ90.6	石材	砂岩			
11	土師器	壺	－	2.4	－	EHI	5	普通	浅黄橙		
12	土師器	壺	－	2.6	－	EHI	5	普通	浅黄橙		
13	土師器	壺	－	2.7	－	HI	5	普通	にぶい褐		

部内面には輪積み痕が明瞭に残る。2は高坏の脚部である。3は坩で体部径より口縁部径が大きい。口縁は外傾して立ち上がり口唇部は内湾する。4・5・7・8は甕の底部破片である。6はやや内湾脚の台付甕である。9・10は砥石である。11・12は壺の胴部破片で山形文が巡る。13は壺の頸部である。7本1単位の櫛描直線文を施文している。

第232号住居跡（第229・230図）

調査区の南側西寄り、W・X－53グリッドに位置する。第125・240号住居跡、第97号溝跡、第17号墳と重複する。北2mに第126・128号住居跡、西1mに第27号墳がある。

本住居跡は上面に第125号住居跡が切り込んで構築され、床面下で確認された浅い掘り込みとわずかに残された覆土の堆積で判断した。平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－85°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸6.72m、短軸5.88m、深さ28.0cmを測る。

遺物の出土状況は、炉跡の北側、北壁中央の壁際から12の高坏を検出した。また、炉跡の北東側に1の壺、3・5の壺底部と11の高坏を検出した。さらに、東壁中央付近から2の小型壺を検出した。

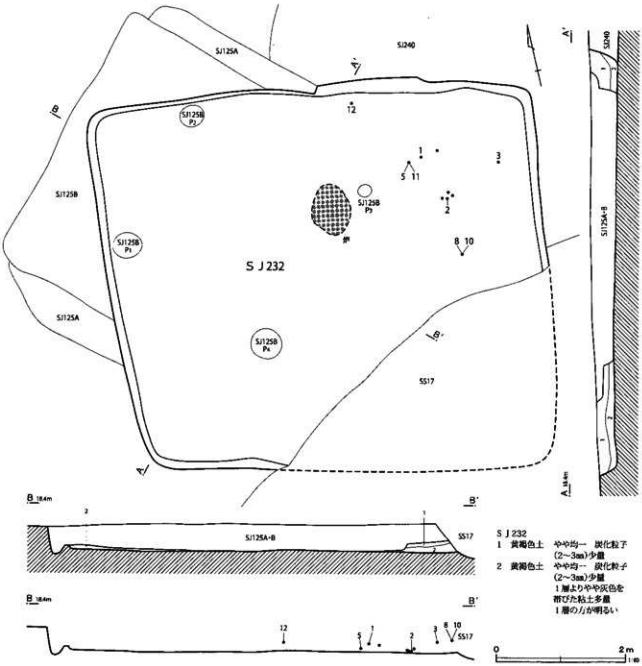
遺物は、1が大型の壺で球体状の胴部である。断面三角形の貼り付け突帯が頸部を巡る。底部外面はリング状に輪台が残る。2は小型壺である。3は壺底部、4は甕の破片である。5～9は甕底部である。10は台付甕の台部破片。11は高坏、12は坏部が椀形の高坏である。13は直線的に外反する複合口縁の壺である。器面全体は無文である。丁寧なミガキが加えられている。14は緩やかに外反する折返し口縁の壺である。口縁部下端にキザミを施す。頸部は無文である。15は壺の胴部上半である。LR単節縄文とその下にRL単節縄文を施文し羽状構成としている。縄文施文下端に浅い沈線で区画している。また無文部を赤彩している。

第234号住居跡（第231～234図）

調査区の中央西寄り、T－58・59グリッドに位置する。第218・223・294号住居跡と重複する。南2mに第206号住居跡がある。

平面形は不整円形である。主軸方向はN－8°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸8.88m、短軸7.02m、深さ37.2cmを測る。

施設は壁周溝、炉跡、貯蔵穴、ピット2基を検出した。壁周溝は北西壁に沿って認められた。幅14.0～18.0cm、深さ4.4cmを測る。炉跡は南東に位置し、楕円形を呈している。径99.0～114.0cm、深さ30.0cmを測る。貯蔵穴は中央に位置し、楕円形を呈している。径58.5×72.0cm、深さ43.0cmを測る。ピット1は、径40.5～69.0cm、深さ11.0～17.0cmを

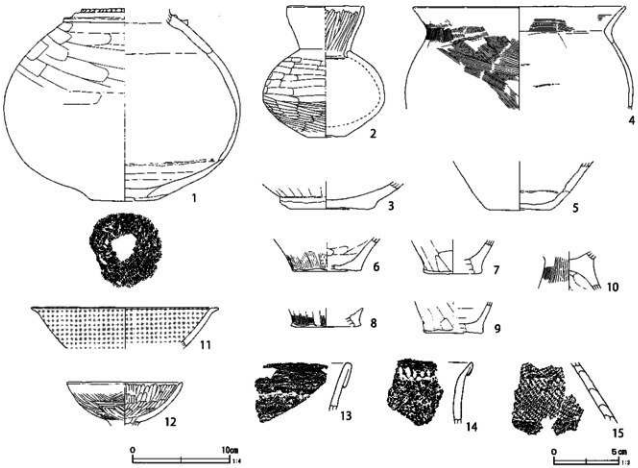


第229図　第232号住居跡

測る。

遺物の出土は、壁際に多く検出された。北側の壁際から器台、北東コーナー部分から台付甕、東側の壁際から台付甕と小型甕、南東コーナー部分から鉢・甕・高坏・器台・甑を検出した。

遺物は、1～3、5～8が壺である。1は小型壺、2は複合口縁壺、4は口縁部が短い鉢である。5は短口縁の球形壺である。9～14・16は台付甕である。口縁形態は、9の口縁が受け口状、10は「く」の字状、11は外反状、12は内湾気味に立ち上がる。調整は、胴下半が縦方向のハケメ、上半が斜め上方向のハケメである。15・17～29・35・36は甕、30～34・46は鉢である。30～32は、「5」の字状口縁で胴部は球形状である。19は口縁中位に刺突が巡る。26・27は口唇部にキザミが巡る。29は口唇端部が上下方向に突出し端面をもつ。37～41は高坏である。37・38は有稜高坏で、37の脚は円錐状の外反脚である。41は坏部が椀タイプで

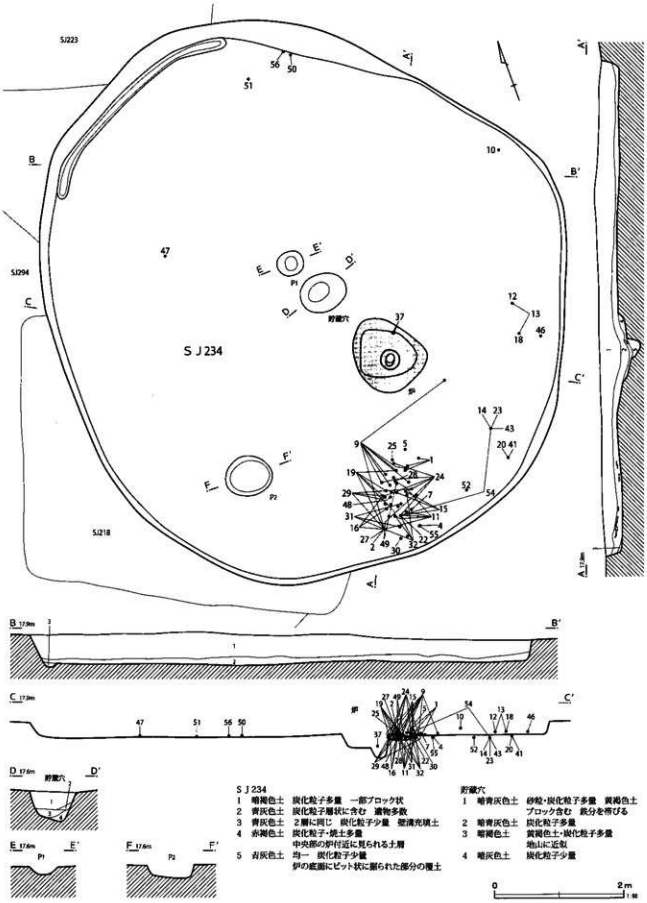


第230図　第232号住居跡出土遺物

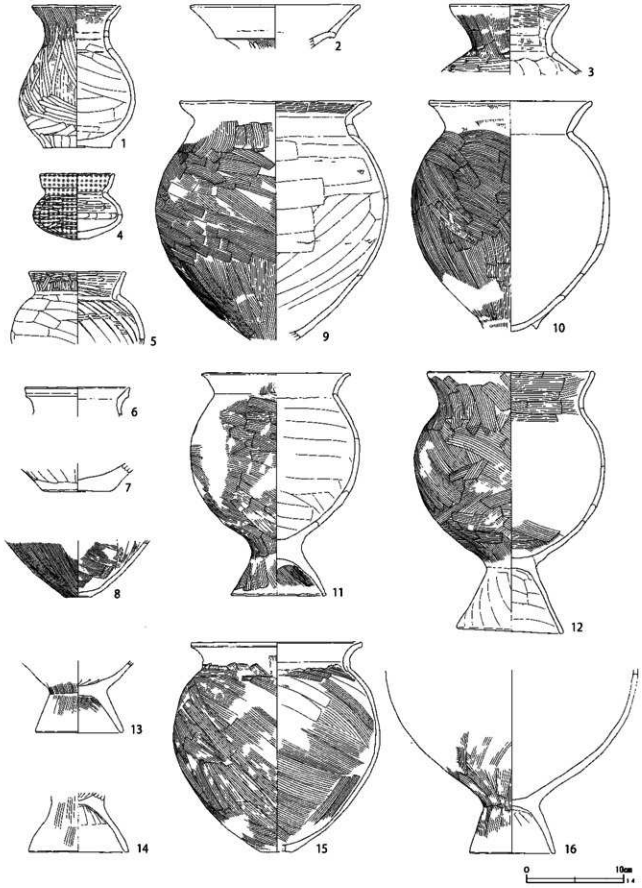
第94表　第232号住居跡出土遺物観察表（第230図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	－	19.8	7.0	GHI	95	良好	橙	輪台状　No.7	88-5
2	土師器	小型壺	(7.8)	13.4	3.9	ACEHIK	85	良好	橙	No.2	94-3
3	土師器	壺	－	2.8	9.8	AGHM	100	普通	にぶい橙	砂粒多　小石含む　No.10	
4	土師器	甕	(21.7)	10.7	－	CEHIK	10	普通	赤褐	W54G　外面煤付着	
5	土師器	壺	－	5.0	6.2	AEH	80	普通	にぶい橙	石英多　No.8	
6	土師器	甕	－	3.2	(7.0)	JM	25	普通	にぶい橙		
7	土師器	甕	－	3.5	(6.0)	ACEHIJ	20	普通	褐灰		
8	土師器	甕	－	1.9	(7.2)	AEHI	25	普通	にぶい赤褐	No.1	
9	土師器	甕	－	3.2	(6.0)	ACHIJ	30	普通	にぶい褐		
10	土師器	台付甕	－	4.0	－	CEHJ	80	普通	橙	No.1	
11	土師器	高坏	(19.0)	4.2	－	CEHI	5	普通	にぶい橙	赤彩	
12	土師器	高坏	(12.0)	4.4	－	CHJ	60	普通	橙	No.6	
13	土師器	壺	－	3.6	－	AEGHIK	5	普通	にぶい黄橙		
14	土師器	壺	－	4.8	－	AEGIK	5	普通	にぶい橙		
15	弥生	壺	－	4.6	－	ACEGHI	5	普通	橙	赤彩	

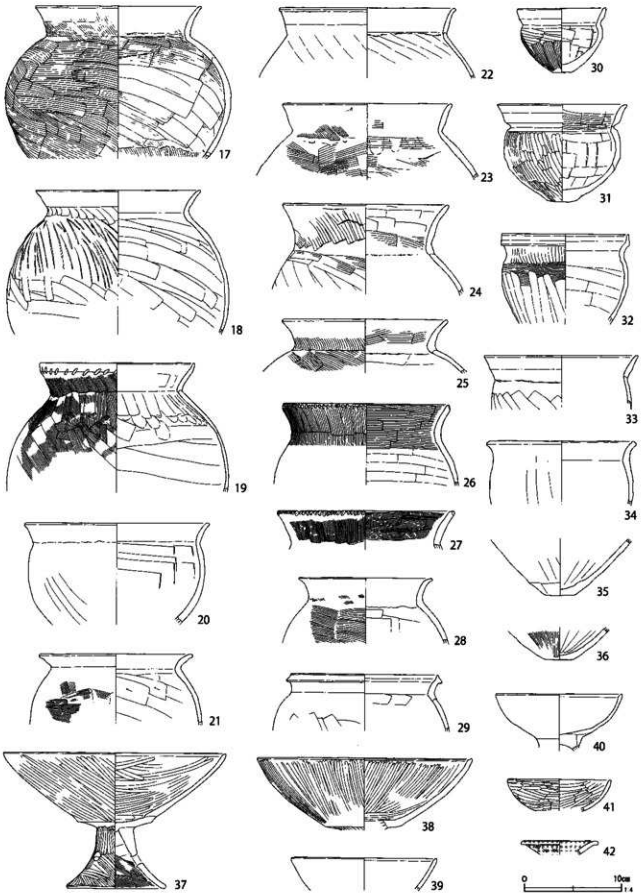
ある。42・47～52は器台である。坏部は逆台形で脚部は「ハ」の字状に開き外反する。口径と脚径の差は小さく、鼓型の形態である。43・44は甑、45が口端部屈曲外反する高坏の坏部である。口端部内面は平坦面を形成する。器面外面は粗いミガキを加えハケ調整が残る。内面はヘラナデが施されている。53は手づくね、54は蓋とした。55は台石でチャートである。56は砥石で砂岩である。57



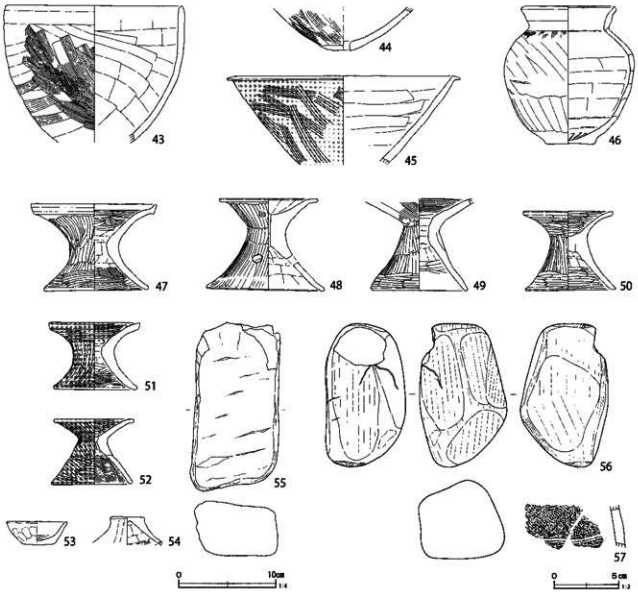
第231図 第234号住居跡



第232図　第234号住居跡出土遺物（1）



第233図　第234号住居跡出土遺物（2）



第234図　第234号住居跡出土遺物（3）

第95表　第234号住居跡出土遺物観察表（第232～234図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	小型壺	(9.0)	14.5	6.9	ACEHIJK	70	普通	明赤褐	№7・9・10	94-4
2	土師器	壺	(17.2)	4.5	—	CEHIK	20	普通	明赤褐	№39	
3	土師器	壺	12.2	7.2	—	AEHIJK	70	普通	にぶい黄橙	風化顕著	
4	土師器	鉢	7.5	6.8	1.6	AHI	100	良好	浅黄橙	赤彩　器面荒れている　№1	122-6
5	土師器	小型壺	(9.8)	7.4	—	ABCEHIJK	35	良好	明黄褐	№6	
6	土師器	壺	(10.7)	3.0	—	AEIJK	20	普通	褐灰		
7	土師器	壺	—	2.9	6.5	EGH	100	普通	にぶい橙	№2	
8	土師器	壺	—	5.8	2.6	CEHI	40	普通	にぶい橙	T59G	
9	土師器	台付甕	19.5	24.5	—	CEGHIJK	85	普通	赤褐	№17・20・23・26他	98-1
10	土師器	台付甕	16.4	23.7	—	ACEHIJ	80	普通	にぶい褐	№48	98-2
11	土師器	台付甕	(14.8)	22.9	9.5	AEHI	50	普通	にぶい橙	№19・34・36・39他	
12	土師器	小型台付甕	16.8	26.6	11.0	ACDEHI	90	普通	橙	円柱タイプ　№47	103-4

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	残存	焼成	色調	備 考	図版
13	土師器	台付甕	—	7.4	8.9	ABEHIK	60	普通	にぶい黄褐	雲母多 №46・47	
14	土師器	台付甕	—	6.1	(10.2)	AEGH	55	普通	にぶい黄褐	石英・砂粒多 №43	
15	土師器	甕	(17.6)	21.4	(3.0)	AEHIJ	50	普通	赤橙	№14・18・34	112-5
16	土師器	台付甕	—	18.7	8.8	EH	40	普通	橙	№30・38・39	
17	土師器	甕	(17.0)	16.7	—	AEHIK	55	普通	橙	雲母多 T59G	
18	土師器	甕	(16.8)	14.8	—	EGI	30	普通	黄褐	棒状工具によるナデ №46	
19	土師器	甕	15.8	13.3	—	CEGHK	50	普通	橙	口縁部刺突 №16・26他	112-6
20	土師器	甕	(19.0)	10.4	—	ACEHIJ	25	普通	にぶい黄橙	№42	
21	土師器	甕	(15.3)	4.2	—	EHIK	20	普通	にぶい赤褐		
22	土師器	甕	(18.0)	7.2	—	ABCEGHIK	30	普通	橙	銀雲母多 №34	
23	土師器	甕	(17.2)	7.8	—	AEHI	10	普通	褐	金雲母多 №43	
24	土師器	甕	17.0	9.2	—	AJM	60	普通	にぶい赤褐	№11・24・29・30他	
25	土師器	甕	(16.7)	5.5	—	ACEHI	20	良好	にぶい黄橙	№25	
26	土師器	甕	(17.0)	8.3	—	HIK	10	普通	橙	口唇キザミ T59G	
27	土師器	甕	(18.2)	4.0	—	ACJ	30	普通	明赤褐	口唇キザミ №39	
28	土師器	甕	(13.8)	6.7	—	ACEHIJK	20	普通	橙	№19	
29	土師器	甕	15.0	5.8	—	EHIJ	40	普通	橙	№11・15・30・39	
30	土師器	鉢	(9.1)	6.6	1.7	ACEHIJ	25	普通	橙	「5」の字状口縁　煤付着　№5	
31	土師器	鉢	(13.0)	10.0	2.8	ACEHJ	30	普通	赤橙	「5」の字状口縁　№22・33・39	122-7
32	土師器	鉢	(13.0)	9.2	—	ACEHIJK	20	普通	にぶい橙	「5」の字状口縁模倣　外面煤付着	
33	土師器	鉢	(15.8)	5.5	—	ACEIJ	30	普通	灰褐		
34	土師器	鉢	(14.8)	6.5	—	CEHI	25	普通	橙		
35	土師器	甕	—	5.8	3.0	CEHI	40	普通	褐灰	T59G	
36	土師器	甕	—	3.3	2.8	CM	50	普通	にぶい赤褐		
37	土師器	高坏	(22.7)	13.8	(9.8)	AEHI	30	良好	にぶい褐	№52　三孔	130-1
38	土師器	高坏	(21.9)	7.4	—	ADEK	45	普通	明赤褐	風化顕著	
39	土師器	高坏	(14.9)	3.3	—	CEHIK	5	普通	にぶい褐		
40	土師器	高坏	(13.0)	5.7	—	AEHIJ	25	普通	にぶい橙		
41	土師器	高坏	(10.6)	3.2	—	AEHIJK	25	良好	にぶい橙	外面黒斑　№42	
42	土師器	器台	(7.4)	1.4	—	CEI	20	普通	にぶい黄橙	赤彩	
43	土師器	甑	(18.0)	14.0	—	AJKM	20	良好	明赤褐	チャート　二次被熱　№43	
44	土師器	甑	—	4.5	2.8	CEHIK	20	普通	明赤褐		
45	弥生	高坏	(22.5)	9.1	—	EGHK	25	普通	にぶい橙	赤彩	
46	土師器	鉢	9.2	14.0	5.0	EGI	90	普通	橙	№45	122-8
47	土師器	器台	12.7	8.9	10.8	ACEHI	100	普通	浅黄橙	丹後～山陰系器台模倣	135-2
48	土師器	器台	10.0	9.3	12.1	AEHIK	95	良好	橙	雲母多 №3	135-3
49	土師器	器台	—	9.4	9.9	AEHIJK	70	良好	赤褐	北陸系大型器台 №8・39	135-4
50	土師器	器台	9.0	8.0	9.4	ACGHIJK	85	良好	にぶい黄橙	№49	135-5
51	土師器	器台	9.4	6.8	8.3	AEGIJKM	100	良好	明赤褐	赤彩　№51	135-6
52	土師器	器台	8.1	6.7	8.2	ABEH	85	良好	赤褐	赤彩　№41	135-7
53	土師器	手づくね	6.1	2.4	3.3	EHIK	60	普通	浅黄橙		
54	土師器	蓋	—	2.9	—	AEHIJ	70	普通	黒褐	つまみ径3.6cm　№34・43	
55	石製品	台石	長さ17.4	幅9.3	厚さ5.8	重さ1580.8	石材	チャート		№1	
56	石製品	砥石	長さ11.0	幅6.8	厚さ6.2	重さ717.0	石材	砂岩		№50	
57	弥生	壺	—	3.3	—	HIK	5	普通	にぶい黄橙		

は壺の胴部である。細かいＲＬ単節縄文を施文しその下に２本１単位の束線具による沈線で下端を区画している。

第235号住居跡（第235・236図）

調査区の南側中央寄り、Ｖ－56グリッドに位置する。第121号住居跡、第18号墳と重複する。北

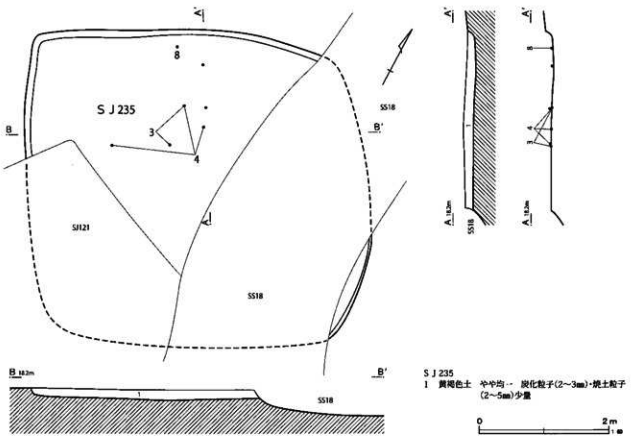
西１ｍに第129号住居跡がある。

平面形は歪んだ方形と推定される。主軸方向はＮ－62°－Ｅを指す。規模は残存する部分で、長軸4.44ｍ、短軸3.84ｍ、深さ18.0cmを測る。床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。

施設は検出できなかった。

遺物の出土状況は、残存する住居跡の床直から壺と高坏を検出した。

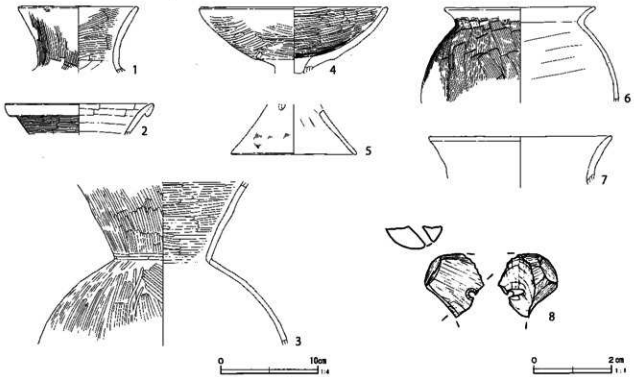
遺物は、１～３・７が壺である。１は口縁部外反壺、２は口唇部折り返し口縁壺、３は大型壺で口頸部の屈曲が大きく口縁が外傾して直線的に立ち上がる。４・５は高坏で坏部が埦形の形態である。調整は内外面に丁寧なミガキが施されている。脚部破片は外反脚で三方透かしである。６は「く」の字状甕である。８は勾玉の頭の一部分である。頭頂部は剥落したため、接合している。表面には、穿孔部が一部残存している。石材は緑色凝灰岩である。未製品ではなく、完成品の一部である。８は、第229号住居跡出土の、第222図12と接合し、接合後には、勾玉の完形品となっている。



第235図　第235号住居跡

第96表　第235号住居跡出土遺物観察表（第236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(12.0)	6.8	－	CEHIJ	20	普通	にぶい橙		
2	土師器	壺	(15.2)	3.2	－	BHIK	10	普通	にぶい橙		
3	土師器	壺	－	16.8	－	ACEIK	70	良好	明赤褐	No.5・6　V56G	88-6
4	土師器	高坏	19.4	6.7	－	AJ	70	普通	にぶい赤褐	No.4・5・7	
5	土師器	高坏	－	5.1	(12.8)	EHIJK	30	普通	にぶい橙	三孔	
6	土師器	甕	(15.4)	9.8	－	AEIJ	30	普通	褐		
7	土師器	壺	(19.0)	5.2	－	ACJ	20	普通	橙		
8	石製品	勾玉	長さ1.7	幅1.5	厚さ1.4	重さ2.6　石材　緑色凝灰岩				No.1　SJ229-12と接合	151-12-13

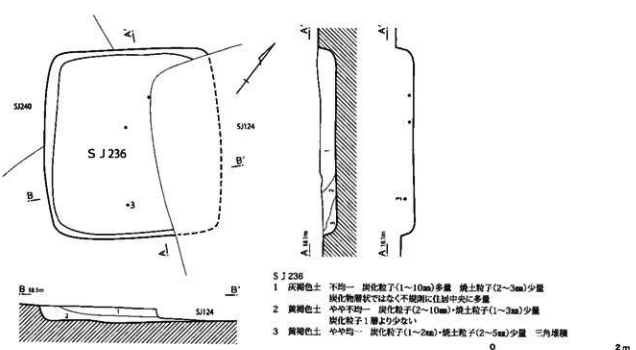


第236図　第235号住居跡出土遺物

第236号住居跡（第237・238図）

調査区の南側西寄り、W－54グリッドに位置する。第124・240号住居跡と重複する。北側半分を第124号住居跡によって切られている。西側1.5mを第97号溝跡が南北に走る。

かなり小型の住居跡である。平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－37°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸2.88m、短軸1.68m、



第237図　第236号住居跡

深さ24.0cmを測る。床面直上には地山土と類似する堆積層が見られ、わずかに炭化粒子を混入する。このため床面の検出は難しかった。

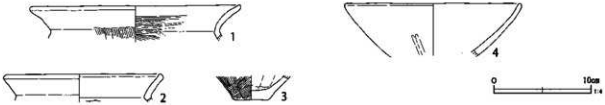
施設は検出できなかった。

遺物の出土状況は、床面よりわずかに高い位置から少量の土器を検出した。東壁寄りから甕の底部破片を検出した。

遺物は、1～3が甕、4が高坏で坏部の立ち上がりは外傾して、口縁端部で内湾気味に立ち上がる。

第237号住居跡（第239・240図）

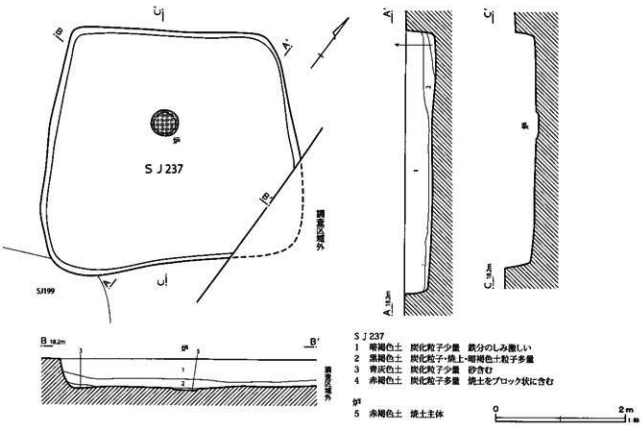
調査区の中央東寄り、Q－62グリッドに位置する。第199号住居跡と重複する。東側は調査区域外にかかっている。北2mに第98・99号溝跡が東



第238図　第236号住居跡出土遺物

第97表　第236号住居跡出土遺物観察表（第238図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	(21.5)	3.8	－	AEHIJK	5	普通	にぶい褐		
2	土師器	甕	(16.0)	2.9	－	AEHIK	5	普通	にぶい橙		
3	土師器	甕	－	2.4	3.7	AEGHIJK	75	普通	明赤褐	チャート　円板　No.3	
4	土師器	高坏	(18.0)	5.4	－	ABEHIK	10	普通	橙	器面磨滅	



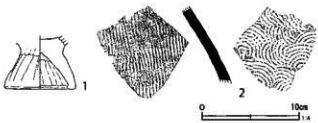
第239図　第237号住居跡

西に走っている。

平面プランの確認は極めて困難で、トレンチを入れ確認した。覆土第1層は地山とあまり変わらず、第2層は黒味を帯びた黒褐色土が堆積し、床直上には炭化物層が見られ住居跡床面の検出ができた。平面形は長方形と推定される。主軸方向はN－52°－Eを指す。規模は長軸3.60m、短軸3.60m、深さ42.0cmを測る。

施設は炉跡のみの検出であった。ほぼ中央に位置し、円形を呈している。径42.0cm、深さ3.0cmを測る。

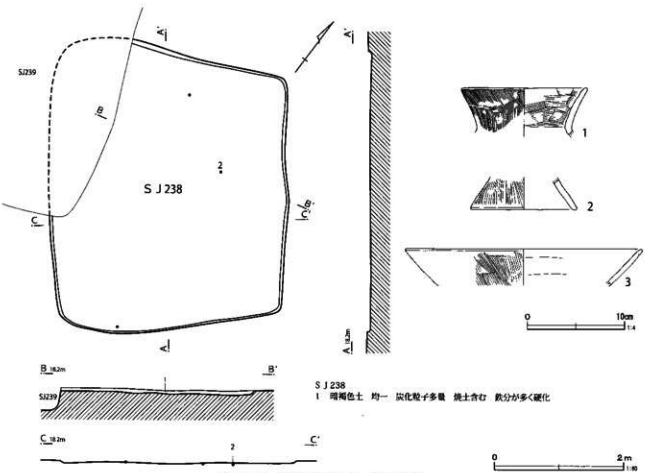
遺物はほとんど検出されず、1の台付甕の台部と2の須恵器甕の破片を図示した。



第240図　第237号住居跡出土遺物

第98表　第237号住居跡出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	台付甕	－	5.4	7.1	AEHIKM	45	普通	赤	二次被熱	
2	須恵器	甕	－	9.0	－	AIK	5	良好	青灰	陶色か	



第241図　第238号住居跡・出土遺物

第99表　第238号住居跡出土遺物観察表（第241図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	(13.0)	5.0	－	AHIJK	30	普通	明赤褐	風化	
2	土師器	台付甕	－	3.3	10.8	AEHIJK	80	普通	にぶい橙	No2	
3	土師器	高坏	(24.0)	3.8	－	ABEGHIM	5	普通	にぶい黄橙		

第238号住居跡（第241図）

調査区の中央東寄り、Q・R－61グリッドに位置する。第239号住居跡と重複する。南1mに第153号住居跡がある。

住居跡は西側を第239号住居跡に切られているが、確認面で部分的に床面を検出した。住居跡の掘り込みは非常に浅くわずか3cm程度である。床面は硬化しており、床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。

平面形は歪んだ長方形と推定される。主軸方向はN－38°－Wを指す。規模は長軸4.44m、短軸3.67m、深さ9.0cmを測る。

施設は検出できなかった。

遺物は、住居跡中央やや東寄りに2の直線的に「ハ」の字状に開く台付甕台部を検出した。また、覆土中から1の内外面に細かなハケメを施す壺の口縁部破片、3の口径やや大きく口縁部が直線的に伸びる高坏の坏部破片を検出した。

第239号住居跡（第242図）

調査区の中央東寄り、Q・R－61グリッドに位置する。第238号住居跡、第21号墳と重複する。

平面形は西側を第21号墳に切られているため、全体の形状が不明である。主軸方位はN－20°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸4.62m、短軸2.37m、深さ36.0cmを測る。床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。

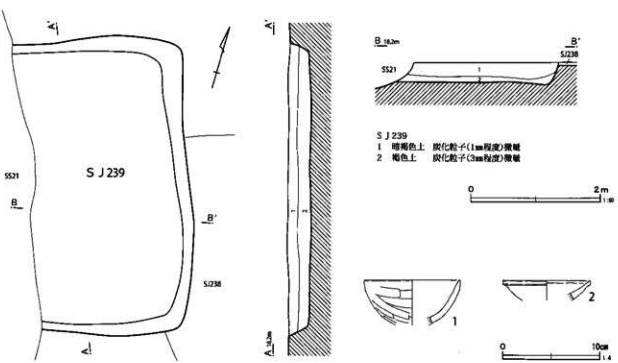
施設は検出できなかった。

遺物は、覆土中から1の坏部が椀形の高坏、2の坏部が逆台形の器台を検出した。

第240号住居跡（第243・244図）

調査区の南側西寄り、W・X－53・54グリッドに位置する。第125・126・232・236号住居跡、第97号溝跡、第17号墳と重複する。

平面形は周辺の住居跡と重複が激しく捉えにくく、特に、南側は第125号住居跡と第17号墳によって切られ、南壁が確認できなかった。概ね長方



第242図　第239号住居跡・出土遺物

第100表　第239号住居跡出土遺物観察表（第242図）

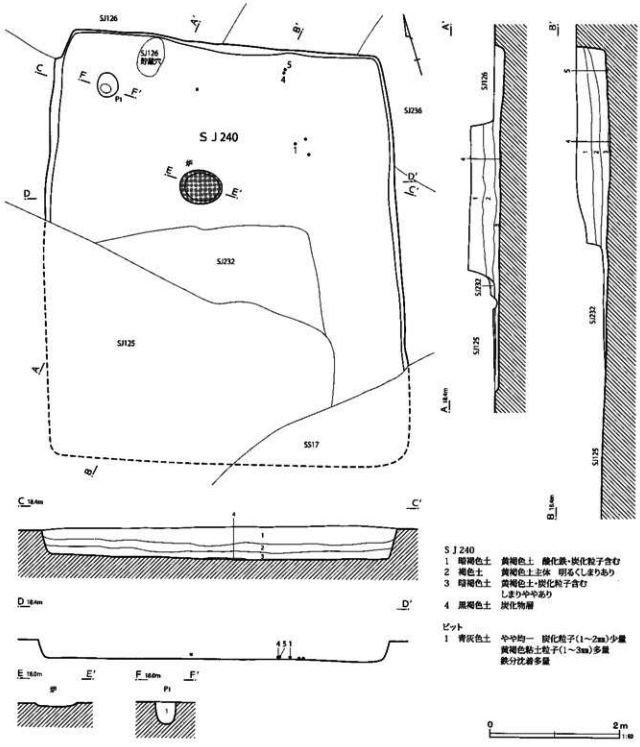
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	(9.8)	4.6	－	AM	30	普通	にぶい黄橙		
2	土師器	器台	(9.0)	2.0	－	AHI	20	普通	橙		

形と推定される。主軸方向はN－12°－Eを指す。床直上には炭化物層が見られた。残存する床面はやや凹凸がある。規模は残存する部分で、長軸5.40m、短軸5.34m、深さ54.0cmを測る。

施設は炉跡、ピットを検出した。炉跡はほぼ中央に位置し、楕円形を呈している。径54.0×66.0cm、深さ6.0cmを測る。ピットは径33.0cm、深さ32.0cmを測る。

遺物の出土状況は、覆土中から検出されたが、床直上でも壺や甕の底部破片を検出した。

遺物は、1が内外面赤彩された壺の口縁部破片、2は口径の大きな高坏、3・4が甕の底部、5は

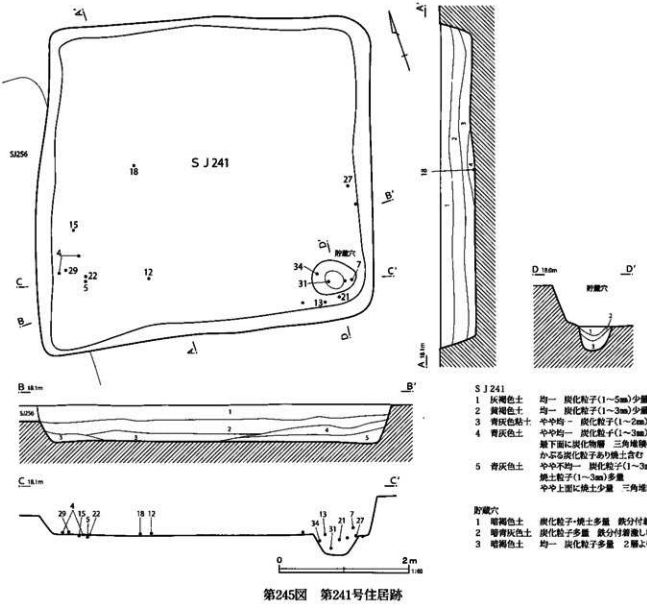


第243図　第240号住居跡

第244図　第240号住居跡出土遺物

第101表　第240号住居跡出土遺物観察表（第244図）

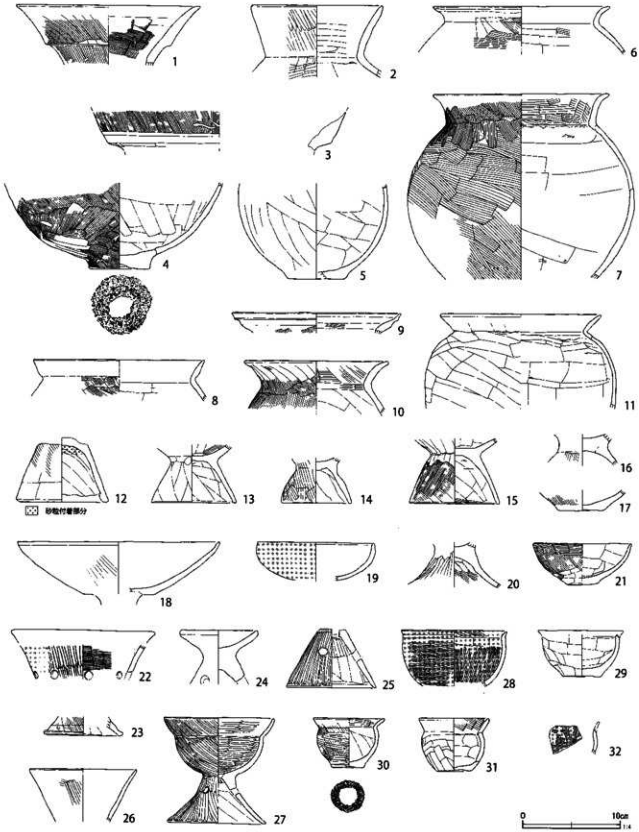
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　上	残存	焼成	色調	備　考		図版
1	土師器	壺	(19.8)	5.0	—	AEHIJ	15	普通	にぶい黄褐	赤彩	№3	
2	土師器	高坏	(24.8)	4.0	—	EI	5	普通	浅黄橙	赤彩		
3	土師器	甕	—	1.4	7.8	AEHIJ	70	普通	にぶい褐			
4	土師器	甕	—	1.8	(7.0)	E	35	普通	にぶい橙			
5	弥生	壺	—	3.3	—	EHIJ	5	普通	にぶい橙			



S J 241
1　灰褐色土　均一　炭化粒子(1～5mm)少量
2　黄褐色土　均一　炭化粒子(1～3mm)少量
3　青灰色粘土　やや均一　炭化粒子(1～2mm)少量
4　青灰色土　やや均一　炭化粒子(1～3mm)少量
　　最下面に炭化物層　三角堆積の上にかぶる炭化粒子あり焼土含む
5　青灰色土　やや不均一　炭化粒子(1～3mm)少量
　　焼土粒子(1～3mm)多量
　　やや上面に焼土少量　三角堆積

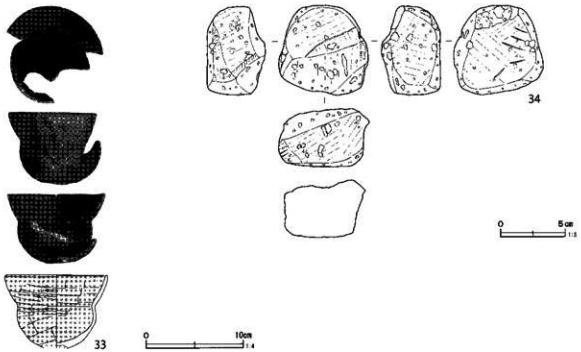
貯蔵穴
1　暗褐色土　炭化粒子・焼土多量　鉄分付着少量
2　暗青灰色土　炭化粒子多量　鉄分付着激しい
3　暗色土　均一　炭化粒子多量　2層より暗い

第245図　第241号住居跡



第246図　第241号住居跡出土遺物（1）

口縁部内屈する複合口縁の壺である。口端部及び　　る。
口縁下端にキザミを施している。頸部は無文であ



第247図　第241号住居跡出土遺物（2）

第241号住居跡（第245～247図）

調査区の北側西寄り、P－58・59グリッドに位置する。第256号住居跡と重複する。東1mに第22号墳、南東1mに第296号住居跡がある。

平面形は西壁がやや長い歪んだ方形である。主軸方向はN－74°－Wを指す。規模は長軸5.10m、短軸4.86m、深さ57.0cmを測る。床直上には焼土と炭化物が混在する層が見られた。床面は平坦である。

施設は貯蔵穴のみであった。南東コーナーに位置し、径66.0×54.0cm、深さ36.0cmを測る。貯蔵穴内から鉢を検出した。

遺物の出土状況は、南東コーナーの貯蔵穴周辺から広口甕のほか、貯蔵穴内から小型の鉢を検出した。東壁の中央壁際から脚付坩を検出した。また一方、対角線の西壁際からコーナー寄りから壺・小型鉢、西壁中央付近から台付甕の台部を検出した。

遺物は、1～5が壺である。1・3は複合口縁の大型壺である。2は頸部で屈曲する壺である。

4・5は壺の底部から胴下半部の破片である。7は甕で胴部は張りのある球形、9はS字状口縁甕、8・11は「く」の字状口縁甕である。12～16は台付甕の台部である。18～20は高坏で、18は口径の大きな有稜高坏、19は埦形である。21は鉢である。22～24は器台で、22は坏部に円形の透かし孔をもつ。27は脚付坩、28～31は鉢である。32・33は坩の破片で内面に漆が付着する。34は軽石質の砥石である。

第242号住居跡（第248・249図）

調査区の北側西寄り、O－59グリッドに位置する。第257号住居跡と重複する。東1mに第22号墳、南2mに第241号住居跡がある。

平面形は方形である。主軸方向はN－10°－Wを指す。規模は長軸3.61m、短軸3.48m、深さ54.6cmを測る。断面観察によると、第1層～第4層は確認面の地山と類似している。第4層の床直上に炭化物層が見られた。床面は平坦である。

施設は炉跡のみの検出であった。炉跡は北側に位置し、周辺に炭化物が厚く堆積していた。円形を呈している。径30.6cm、深さ2.0cmを測る。

遺物の出土状況は、住居跡中央やや南側から

第102表　第241号住居跡出土遺物観察表（第246・247図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	(19.0)	6.1	－	AEIJ	10	良好	灰黄		
2	土師器	壺	13.5	7.4	－	ACEHIKM	80	普通	橙	石英多	
3	土師器	壺	－	4.0	－	AEHIJK	45	良好	浅黄橙	大型の二重口縁壺破片	
4	土師器	壺	－	8.9	6.0	EHI	65	普通	にぶい橙	輪台　No.1・5	
5	土師器	壺	－	9.7	(6.2)	DEHIK	80	普通	褐灰	No.3	
6	土師器	甕	(17.8)	4.9	－	ABEHIK	25	普通	にぶい橙		
7	土師器	甕	(17.5)	19.0	－	EGHIK	40	普通	橙	No.11	
8	土師器	甕	(17.5)	4.1	－	ACEHIK	10	普通	浅黄橙		
9	土師器	台付甕	(17.4)	2.1	－	EHIK	15	良好	にぶい橙	S字甕	
10	土師器	甕	(14.3)	5.4	－	AEHIK	10	良好	にぶい黄橙	外面煤付着	
11	土師器	甕	(16.4)	9.7	－	AEHIJK	25	良好	にぶい黄橙		
12	土師器	台付甕	－	6.6	8.9	ACEHIJ	100	普通	淡黄	S字甕　No.7	
13	土師器	台付甕	－	5.9	9.1	ACEHIK	95	普通	橙	No.10	
14	土師器	台付甕	－	4.6	7.3	AEHIK	95	普通	灰褐		
15	土師器	台付甕	－	6.7	9.3	ABEHIJK	70	普通	にぶい赤褐	No.6	
16	土師器	台付甕	－	3.2	－	CEH	80	普通	にぶい橙		
17	土師器	甕	－	2.2	4.6	AEIJ	75	普通	明赤褐		
18	土師器	高坏	(20.8)	5.4	－	ACEHI	40	普通	橙	No.8	
19	土師器	高坏	(12.2)	3.9	－	HK	30	普通	にぶい黄橙	器面の磨滅顕著　赤彩	
20	土師器	高坏	－	4.6	－	HIK	65	普通	にぶい黄橙		
21	土師器	鉢	10.0	4.2	3.3	ACEHIK	100	普通	にぶい橙	No.15	123-1
22	土師器	装飾器台	－	3.2	－	AEHIK	10	普通	にぶい黄橙	赤彩　大型器台	
23	土師器	器台	－	1.9	(8.2)	CEHIK	20	普通	橙		
24	土師器	器台	7.9	5.5	－	ACEHIK	80	普通	橙	三孔	135-8
25	土師器	器台	－	6.0	9.3	ACEHIK	100	普通	灰白		
26	土師器	坩	(11.0)	5.4	－	ACHK	15	普通	橙		
27	土師器	脚付坩	(11.2)	10.8	10.0	ACEHIJ	85	普通	にぶい橙	三孔　No.13	138-11
28	土師器	鉢	(10.3)	5.7	－	AEHIJK	25	普通	にぶい黄橙	赤彩	
29	土師器	鉢	－	4.3	4.0	ABCEHIK	95	普通	にぶい橙	輪台状　No.2	
30	土師器	鉢	7.3	5.1	3.2	ABEHIK	95	普通	橙	輪台状	137-8
31	土師器	鉢	7.2	5.4	3.5	ACJ	100	良好	明褐灰	No.16	137-9
32	土師器	坩	－	2.7	－	AIK	5	普通	にぶい赤褐	赤彩　内面漆　貯蔵穴	
33	土師器	坩	(10.4)	7.4	－	CEHIJK	70	普通	にぶい褐	赤彩　内面漆膜状	137-10
34	石製品	砥石	長さ6.9	幅6.9	厚さ4.5	重さ41.6　石材　軽石				No.17	153-1

8・9の甕を床直上で検出した。

遺物は1～4が壺である。5～8は甕、9・10は小型甕、11は三方透かしの高坏である。

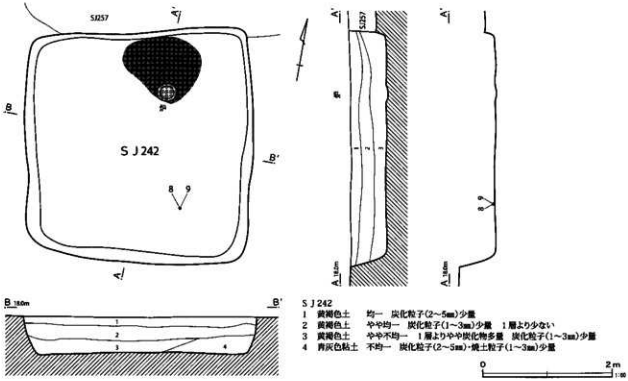
第243号住居跡（第250図）

調査区の南側西寄り、W－55グリッドに位置する。第231・250号住居跡と重複する。南側2mに第244号住居跡、北側2mに第220号住居跡がある。

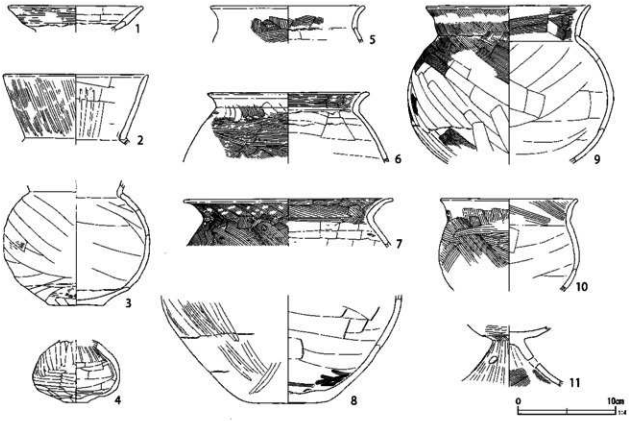
確認は極めて困難で、平面プランおよび住居跡床面の検出が難しく、トレンチを入れ確認した。平面形は長方形である。主軸方向はN－35°－Wを指す。規模は長軸3.06m、短軸2.70m、深さ36.0cmを測る。規模の小さな住居跡である。断面観察によると、第1・2層は確認面の地山と類似しているが、灰色の粘土ブロックの混入により地山とは区別できる。灰色の粘土ブロックは第1層より第2層の方が多く混入する。床面は平坦である。

施設は炉跡のみの検出であった。炉跡は北側に位置し、円形を呈している。径35.0cm、深さ2.0cmを測る。

遺物は少量検出され、図示すべきものはない。



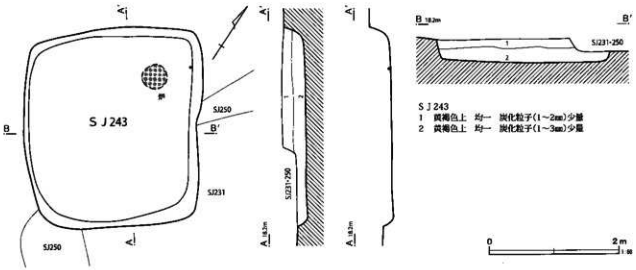
第248図　第242号住居跡



第249図　第242号住居跡出土遺物

第103表　第242号住居跡出土遺物観察表（第249図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎上	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(13.6)	2.7	—	AEHIK	10	普通	橙		
2	土師器	壺	(14.8)	7.2	—	AEHIK	20	普通	にぶい橙		
3	土師器	壺	—	13.8	5.4	CHIJK	50	普通	橙		
4	土師器	小型壺	—	6.4	2.6	AEHIJK	50	普通	にぶい黄橙		
5	土師器	甕	(15.6)	3.8	—	AEHI	10	良好	橙		
6	土師器	甕	16.4	7.2	—	AHIJK	35	普通	褐	外面煤付着	
7	土師器	甕	(21.4)	5.0	—	AEHIJK	30	良好	黒褐	外面煤付着	
8	土師器	甕	—	11.1	8.4	ACEGHI	50	普通	にぶい橙	風化　煤付着　No.1	
9	土師器	小型甕	16.6	16.2	—	AEHIJ	70	普通	橙	No.1	117-3
10	土師器	小型甕	(14.0)	9.4	—	C	50	普通	明赤褐		
11	土師器	高坏	—	6.2	—	AEHIK	70	普通	にぶい黄橙	三孔	



第250図　第243号住居跡

第245号住居跡（第251・252図）

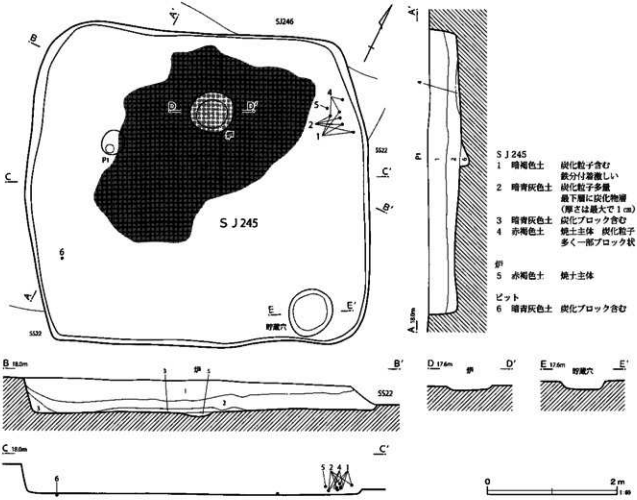
調査区の北側東寄り、O・P－60グリッドに位置する。第246号住居跡、第22号墳と重複する。

平面形は方形である。主軸方位はN－65°－Eを指す。規模は長軸5.28m、短軸4.80m、深さ48.0cmを測る。炉跡周辺には焼土を主体とし、炭化ブロックを多く含む赤茶色の堆積層が広がっている。床面はほぼ平坦である。

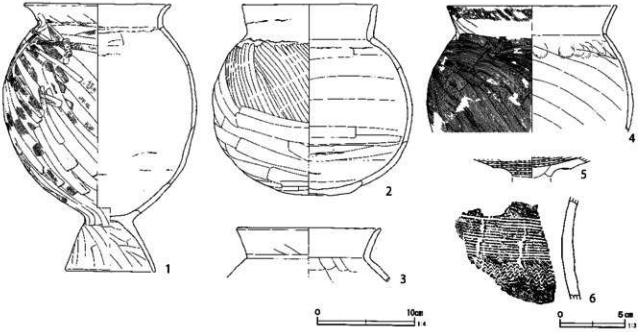
施設は炉跡、貯蔵穴、ピットを検出した。炉跡は住居跡北壁寄りに位置し、径69.0cm、深さ4.1cmを測る。貯蔵穴は南東コーナーに位置し、径67.5cm、深さ12.0cmを測る。ピットは径39.0cm、深さ12.0cmを測る。

遺物の出土状況は、東壁北側の壁際から床面上に甕・台付甕・丸底壺・高坏がつぶれた状態でまとまって検出された。

遺物は、この時期の基本的な土器のセットである。1が台付甕で、口縁部が「く」の字状で緩やかに外反する。胴部は楕円状に張りをもつ。最大径は胴部中位にもつ。2は短頸の直口丸底壺である。口縁部はナデ、胴部外面は上半にミガキを施し、下半はナデ調整である。3・4は甕である。3は口縁部横ナデ、内面肩部には指頭圧痕が残る。4は胴部外面および口縁部外面に細かい櫛歯による斜め方向のハケメを施す。内面は肩部に指頭圧痕が見られ胴部にナデ調整が見られる。5は高坏である。脚部との接合はへそ粘土を詰め込む接合法である。6は甕の頸部である。6本1単位の櫛



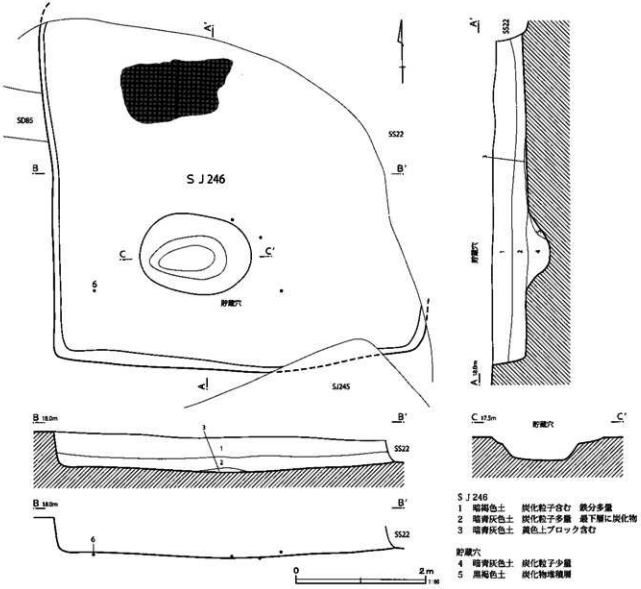
第251図　第245号住居跡



第252図　第245号住居跡出土遺物

第104表　第245号住居跡出土遺物観察表（第252図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	台付甕	15.0	27.5	(9.2)	AEHIJK	90	普通	灰褐	№3・5～7	
2	土師器	壺	13.8	19.4	7.5	GIJK	80	普通	赤	輪台か　№4・5～7	
3	土師器	甕	(14.8)	5.5	—	AEHI	25	普通	橙	内外面風化顕著	
4	土師器	甕	17.4	12.5	—	EHI	70	普通	赤褐	№2・3・7	
5	土師器	高坏	—	2.2	—	EHIJK	60	普通	赤褐	赤彩　№1	
6	弥生	甕	—	7.8	—	ABCEHI	5	普通	にぶい橙	№9	



第253図　第246号住居跡

描櫛状文を２段施文しその下に櫛描波状文を施文している。内面にハケ調整が行われている。

第246号住居跡（第253・254図）

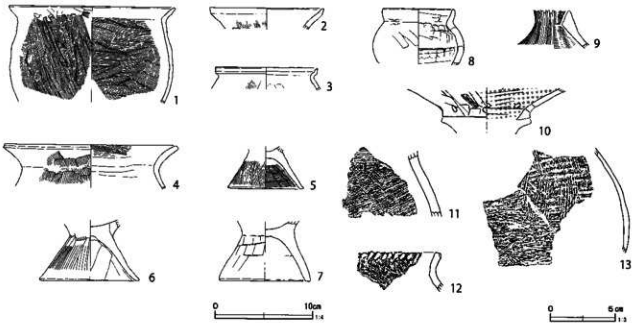
調査区の北側東寄り、O・P－60グリッドに位置する。第245号住居跡、第22号墳、第85号溝跡と重複する。

平面形は不明である。主軸方向はN－90°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸5.73m、短軸5.22m、深さ54.0cmを測る。床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。

施設は貯蔵穴のみの検出であった。南西側に位置し、楕円形を呈している。径123.0×171.0㎝、深さ32.0㎝を測る。貯蔵穴の底面は赤化して被熱痕跡が残る。

遺物の出土状況は、貯蔵穴周辺から高坏・甕・台付甕の小片を検出した。

遺物は、1～4が甕である。1は口縁部やや短く「く」の字状に屈曲するが、やや受け口状を呈する。2は甕口縁の破片、3は口唇部が上方に尖り、外面に面をもつ。4は外反する口縁である。5～7は台付甕で、8は小型鉢、9は高坏、10は装飾器台である。11は甕の胴上半部である。櫛描簾状文または直線文下に櫛描波状文を施文している。ハケ調整が明瞭である。12は屈曲外反する甕の口縁部である。口端部にキザミを施している。外面は無文でハケ調整が残る。13は球胴形を呈する甕の胴部である。横位の粗いタタキと縦位のハケ調整が認められる。



第254図　第246号住居跡出土遺物

第105表　第246号住居跡出土遺物観察表（第254図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	(17.0)	9.8	－	AGJM	20	普通	にぶい褐		
2	土師器	甕	(11.7)	2.2	－	ADEHI	10	普通	にぶい橙		
3	土師器	甕	(10.5)	2.2	－	CHI	10	普通	灰白		
4	土師器	甕	(17.8)	4.4	－	AEHIK	10	普通	にぶい褐		
5	土師器	台付甕	－	4.3	(7.8)	CEHI	35	普通	にぶい黄橙		
6	土師器	台付甕	－	6.2	10.1	EGJ	90	普通	明赤褐	No.1	
7	土師器	台付甕	－	6.1	(9.2)	AEHIJ	35	普通	にぶい褐		
8	土師器	鉢	(7.2)	5.7	－	AEHIK	25	普通	にぶい黄橙		
9	土師器	高坏	－	3.8	－	DGHI	90	普通	にぶい橙		
10	土師器	装飾器台	－	3.3	－	HIJK	20	普通	赤褐	赤彩　貯蔵穴1	
11	弥生	甕	－	5.0	－	ACIK	5	普通	褐灰	貯蔵穴1	
12	土師器	甕	－	2.9	－	AEHI	5	普通	にぶい橙		
13	土師器	甕	－	8.0	－	CEHI	5	良好	にぶい褐	叩き甕	107-3

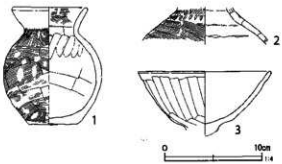
第247号住居跡（第255・256図）

調査区の南側西寄り、X－52グリッドに位置する。第27号墳と重複する。南西２ｍに第１号窯跡がある。

平面形は第27号墳に大きく切られているため判然としないが長方形と推定される。主軸方位はN－30°－Wを指す。規模は残存する部分で、長軸6.12ｍ、短軸2.52ｍ、深さ22.8cmを測る。

施設は貯蔵穴のみの検出であった。貯蔵穴は西側に位置し、ほぼ円形を呈している。径66.0cm、深さ24.0cmを測る。

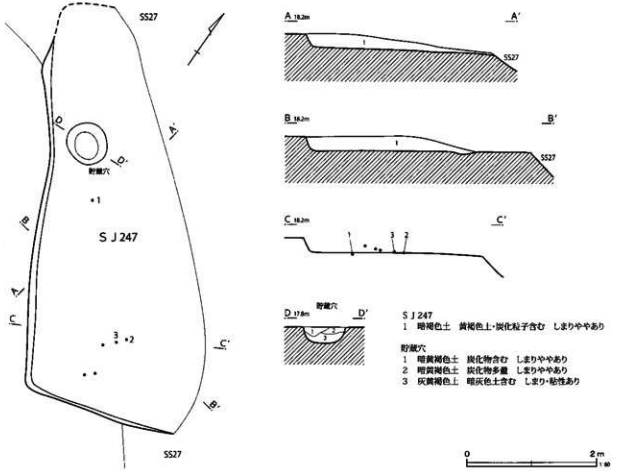
遺物は、南西コーナー部分の床面上から１の小型壺を検出した。２は壺の胴部上半である。頸部との境界に工具による刺突列を廻らす。胴部はハケ調整が行われている。３は坏部が椀形の高坏である。



第255図　第247号住居跡出土遺物

第106表　第247号住居跡出土遺物観察表（第255図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	小型壺	7.5	12.0	4.9	ABCEIJK	100	良好	にぶい黄橙	外面風化進む　№1	94-5
2	弥生	壺	－	3.8	－	ACJ	45	普通	橙	頸部刺突　№2	
3	土師器	高坏	(13.8)	6.6	－	EHJ	30	普通	灰褐	坏部底部凸型　№3	



第256図　第247号住居跡

第248号住居跡（第257・258図）

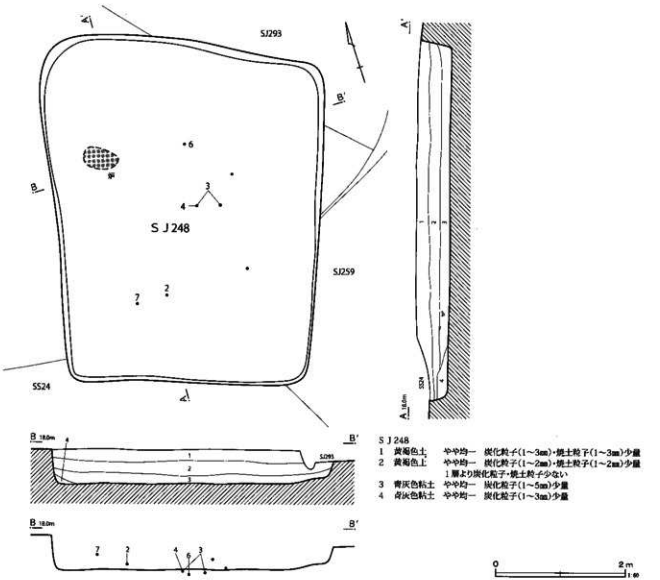
調査区の北側東寄り、N－59・60グリッドに位置する。第259・293号住居跡、第24号墳と重複する。北２ｍに第292号住居跡、西１ｍに第263号住居跡がある。

平面形は、北壁に比べ南壁がやや短く歪んだ長方形である。主軸方向はN－19°－Eを指す。規模は長軸5.28ｍ、短軸4.02ｍ、深さ54.0㎝を測る。断面観察によると第３層の直下で床直上には炭化物層が見られた。床面は平坦である。

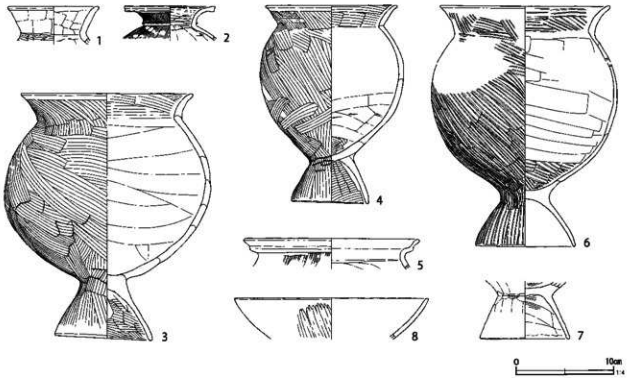
施設は炉跡のみの検出であった。北西側に位置し、楕円形を呈している。推定径30.0×54.0㎝を測る。

遺物の出土状況は、住居跡の中央やや西側寄りで壺・台付甕を、中央付近で三個体の台付甕を検出した。

遺物は、１・２が小型壺の口縁部である。２は外傾して大きく開き、口唇部端部に面をもつ。３～７は台付甕で、いずれも「く」の字状口縁甕で、台部は内湾脚であるが、胴部の張りに違いが見られる。３は胴部球形である。４は胴部楕円形である。５はＳ字状口縁甕である。６は粗いハケメ工具の使用が想定される。７はＳ字状口縁甕の台部とみられる。８は口径の大きな高坏である。



第257図　第248号住居跡



第258図　第248号住居跡出土遺物

第107表　第248号住居跡出土遺物観察表（第258図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	小型壺	(9.3)	3.9	—	AEHIK	25	普通	橙		
2	土師器	小型壺	9.4	3.5	—	AEHIK	70	普通	灰黄褐	№6	
3	土師器	台付甕	17.6	25.1	9.8	DGIJ	70	普通	明赤褐	№3・4	103-5
4	土師器	小型台付甕	13.1	20.3	7.8	DGI	95	普通	明赤褐	№4	103-6
5	土師器	台付甕	(17.8)	3.1	—	EHIK	5	普通	灰褐	S字甕　外面煤付着	107-6
6	土師器	台付甕	(17.4)	26.6	10.2	EGJ	60	良好	褐灰	№1　N58・60G	
7	土師器	台付甕	—	5.9	(9.3)	AEHIK	50	普通	にぶい黄橙	№7	
8	土師器	高坏	(20.0)	4.2	—	AEHIJK	10	普通	橙	風化顕著	

第249号住居跡（第259図）

調査区の南側中央寄り、W－56グリッドに位置する。第230・231号住居跡、第16号墳と重複する。北東２ｍに第217号住居跡、北西２ｍに第219号住居跡がある。

平面形は長方形と推定される。主軸方向はＮ－66°－Ｗを指す。規模は残存する部分で、長軸6.51ｍ、短軸4.56ｍ、深さ27.0cmを測る。床面は平坦である。

施設はピットのみの検出であった。径24.0cm、深さ30.0cmを測る。

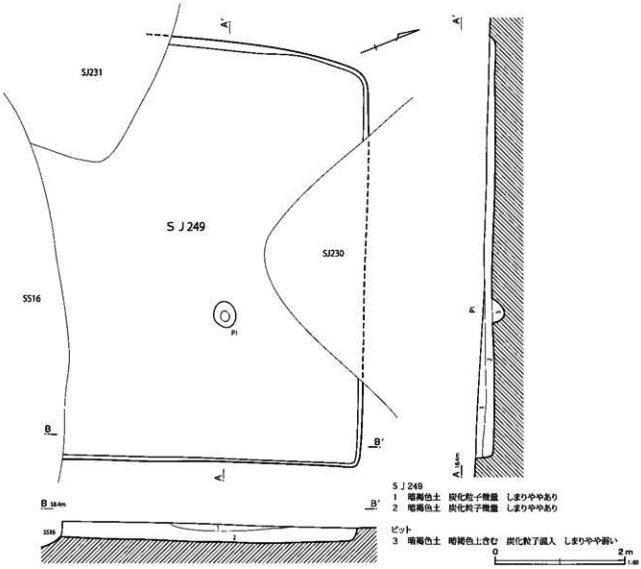
遺物は検出されなかった。

第250号住居跡（第260図）

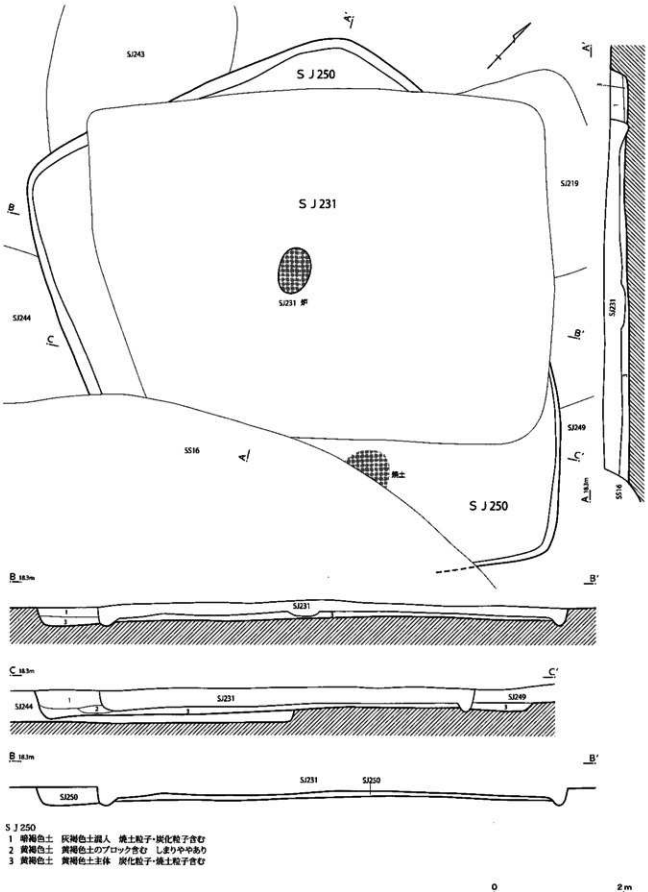
調査区の南側中央寄り、W－55・56グリッドに位置する。第219・231・243・244・249号住居跡、第16号墳と重複する。

平面形は長方形である。主軸方向はＮ－70°－Ｗを指す。規模は残存する部分で、長軸8.57ｍ、短軸6.27ｍ、深さ36.0cmを測る。大型の住居跡である。本住居跡の真上に第231号住居跡が重なりわずかに床面が高く、本住居跡の覆土がわずかに残存していた。南コーナーは第16号墳で切られている。南東方向に焼土が検出された。

遺物は検出されなかった。



第259図　第249号住居跡



S J 250
1 暗褐色土　灰褐色土混入　焼土粒子・炭化粒子含む
2 黄褐色土　黄褐色土のブロック含む　しまりややあり
3 黄褐色土　黄褐色土主体　炭化粒子・焼土粒子含む

第260図　第250号住居跡

第251号住居跡（第261～264図）

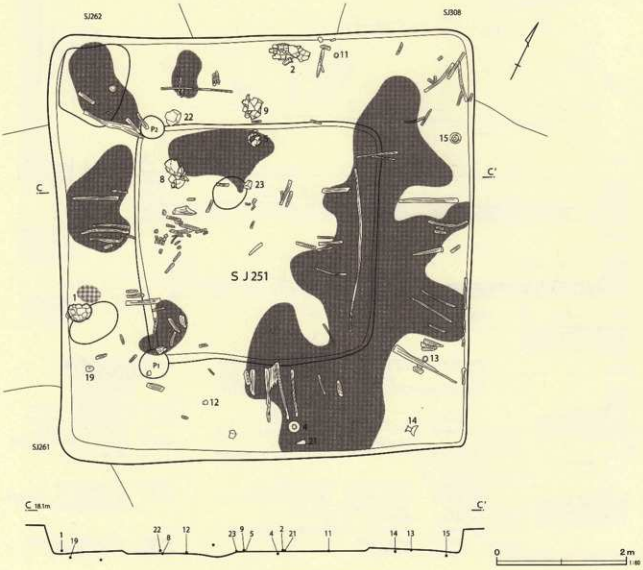
調査区の北側東寄り、K－60・61グリッドに位置する。第261・262・308号住居跡と重複する。東1ｍに第268号住居跡がある。

平面形は方形である。主軸方向はN－28°－Wを指す。規模は長軸6.60ｍ、短軸6.30ｍ、深さ48.0㎝を測る。住居跡中央部分が、方形に一段低く5㎝ほど掘り下げられている。床直上には炭化材・炭化物が全体に見られた。床面は平坦である。

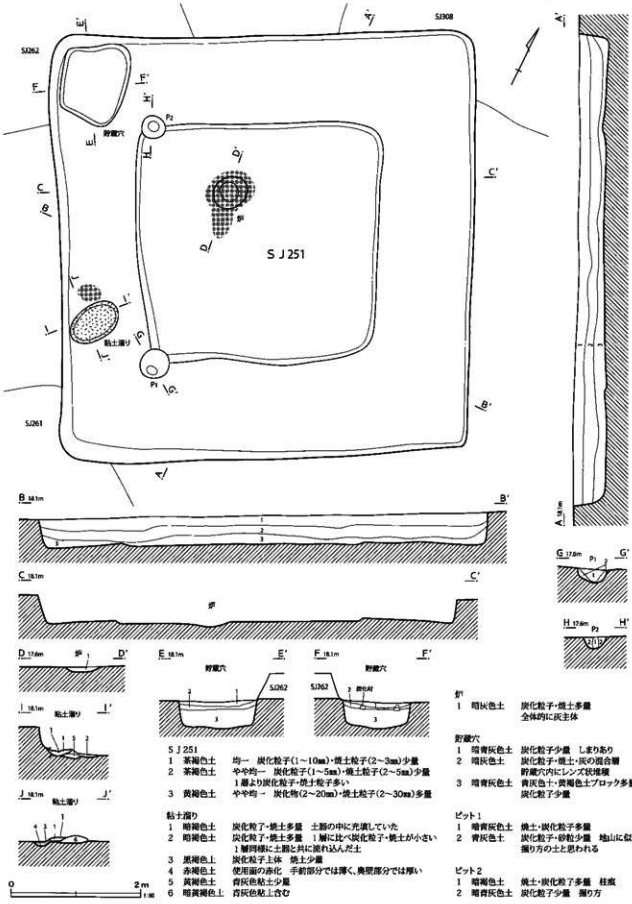
施設は炉跡、貯蔵穴、ピット2基を検出した。炉跡はほぼ中央に位置し、円形を呈している。径55.0㎝、深さ7.3㎝を測る。貯蔵穴は西側コーナーに位置し、台形状である。径105.0×129.0㎝、深さ42.0㎝を測る。掘り込みは深く、壁は垂直で底面は中央がやや凹む。ピットは径36.0～46.0㎝、深さ19.0～20.0㎝を測る。

南西壁沿いには焼土化した部分と粘土溜まりの堆積のある性格不明の浅い土壙を検出した。楕円形を呈している。炉跡の可能性もあるが、壁際に検出されていることから初期カマドの可能性も考えられる。

遺物の出土状況は、北壁中央付近から炉跡にかけて、複合口縁壺・丸甕を多く検出した。また、西壁の土壙から複合口縁壺、その周辺から鉢型甌を検出した。さらに、東壁側では高坏、南壁側では大型坩、小型坩を検出した。



第261図　第251号住居跡（1）



SJ 251

1　茶褐色土　均一　炭化粒子(1～10mm)・焼土粒子(2～3mm)少量
2　茶褐色土　やや均一　炭化粒子(1～5mm)・焼土粒子(2～5mm)少量
　　1層より炭化粒子・焼土粒子多い
3　黄褐色土　やや均一→　炭化物(2～20mm)・焼土粒子(2～30mm)多量

粘土溜り

1　暗褐色土　炭化粒子・焼土多量　土器の中に充填していた
2　暗褐色土　炭化粒子・焼土多量　1層に比べ炭化粒子・焼土が小さい
　　1層同様に土器と共に流れ込んだ土
3　黒褐色土　炭化粒子主体　焼土少量
4　赤褐色土　使用面の赤化　手前部分では薄く、奥壁部分では厚い
5　黄褐色土　青灰色粘土少量
6　暗黄褐色土　青灰色粘土含む

炉

1　暗灰色土　炭化粒子・焼土多量
　　全体的に炭主体

貯蔵穴

1　暗青灰色土　炭化粒子少量　しまりあり
2　暗灰色土　炭化粒子・焼土・灰の混合層
　　貯蔵穴内にレンズ状堆積
3　暗青灰色土　青灰色土・黄褐色土ブロック多量
　　炭化粒子少量

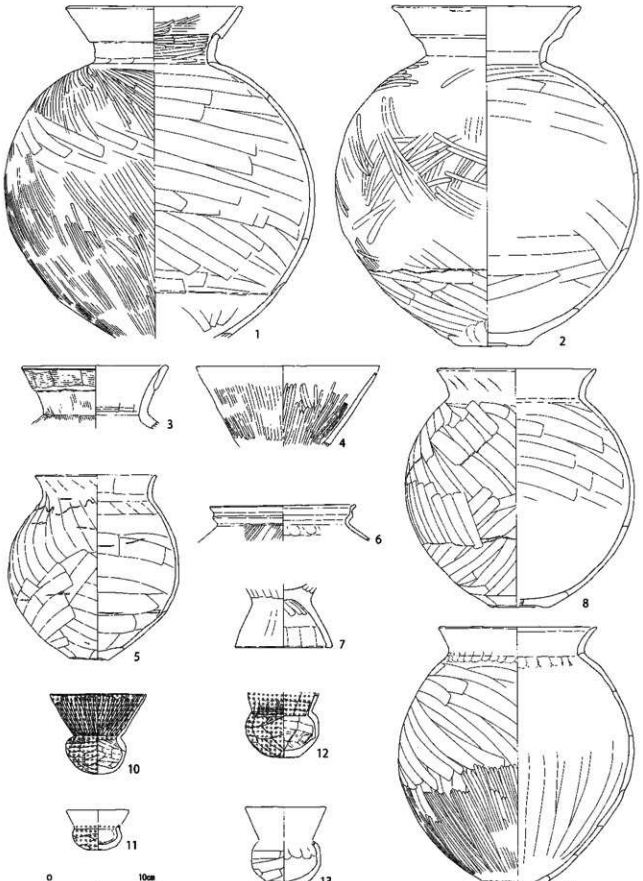
ピット1

1　暗青灰色土　焼土・炭化粒子多量
2　青灰色土　炭化粒子・砂粒少量　地山に似る
　　掘り方の土と思われる

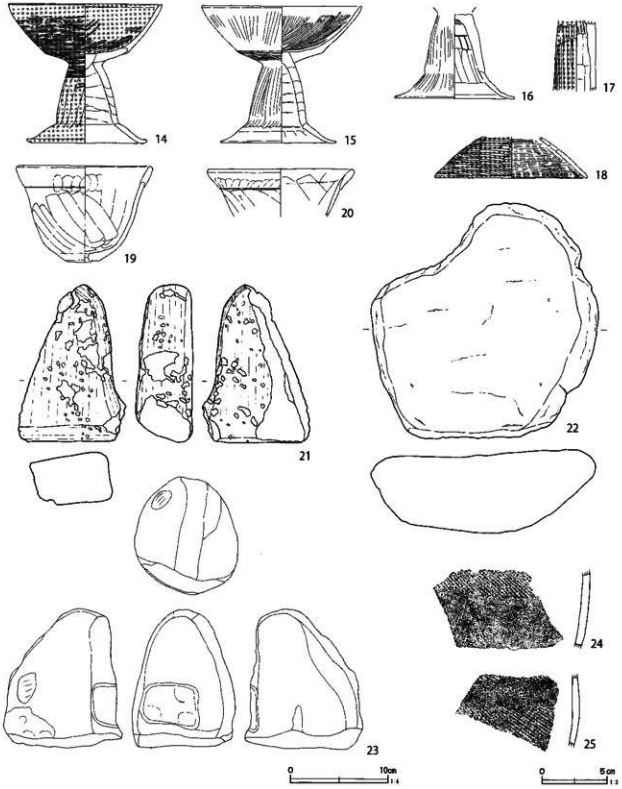
ピット2

1　暗褐色土　焼土・炭化粒子多量　柱痕
2　暗青灰色土　炭化粒子少量　掘り方

第262図　第251号住居跡（2）



第263図　第251号住居跡出土遺物（1）



第264図　第251号住居跡出土遺物（2）

遺物は、1・2が複合口縁壺である。3は折り返し口縁壺、4は大型坩とした。5はやや小型の甕、6はS字状口縁甕、8・9は大型の丸甕である。10～13は坩、14～18は高坏で、14・15は有稜高坏で脚部は円柱の脚端が屈曲するタイプである。16も同様の脚部形態で、17は柱状脚である。19・20は鉢型甑である。

21は砥石、22は台石で、石材はチャートである。

第108表　第251号住居跡出土遺物観察表（第263・264図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	17.5	34.1	—	CGJ	70	普通	にぶい黄橙		89-1
2	土師器	壺	19.0	34.8	8.0	AEHIJK	80	普通	にぶい橙	№1・2	89-2
3	土師器	壺	(15.0)	6.4	—	AEHIK	30	普通	橙	風化	
4	土師器	坩	—	7.6	—	AEHIJK	95	良好	灰黄褐	雲母多　№12	
5	土師器	小型甕	12.3	18.9	4.1	AEGHIJKM	75	普通	にぶい橙	№4　K60G	117-4
6	土師器	台付甕	(15.0)	3.5	—	AEHIL	10	良好	にぶい橙	S字甕　外面煤付着	
7	土師器	台付甕	—	6.5	9.8	BEHJ	100	普通	明褐灰	粉っぽい	
8	土師器	甕	16.3	24.5	5.8	AG	80	普通	黒褐	№5	113-1
9	土師器	甕	16.2	27.0	5.9	EIJ	95	普通	にぶい褐	№3	113-2
10	土師器	坩	9.9	8.2	—	AEHIJK	100	良好	にぶい黄橙	赤彩　貯蔵穴	137-11
11	土師器	坩	—	2.6	1.8	HJ	100	良好	赤褐	赤彩　№1	137-12
12	土師器	坩	—	6.6	3.2	ACEGHIJK	80	良好	灰黄	赤彩　№8	138-1
13	土師器	坩	—	4.5	2.0	AEHIJK	95	普通	にぶい橙	№15	138-2
14	土師器	高坏	15.7	14.2	12.4	AEHI	80	良好	にぶい黄橙	赤彩　№14	130-2
15	土師器	高坏	16.3	14.0	11.8	AEHIJ	95	普通	にぶい橙	№6	130-3
16	土師器	高坏	—	8.6	(12.4)	HIK	25	普通	橙		
17	土師器	高坏	—	7.3	—	AEHIJK	90	普通	浅黄橙	赤彩	
18	土師器	高坏	—	4.2	(15.7)	AHIK	10	普通	橙	赤彩　K61G	
19	土師器	甑	(13.4)	9.9	3.4	AEGHIM	30	普通	灰黄	№7	141-1
20	土師器	甑	(14.7)	4.9	—	AEHIK	20	普通	にぶい橙		
21	石製品	砥石	長さ16.3　幅11.1　厚さ5.9　重さ1365.0				石材	砂岩		№13	
22	石製品	台石	長さ24.3　幅23.5　厚さ9.3　重さ7024.5				石材	チャート		№9	
23	土製品	支脚	長さ14.2　幅10.6　厚さ11.2			I	100	未焼成	淡褐	重さ1210.72　№10	148-4
24	弥生	壺	—	6.0	—	AEHIJ	5	普通	にぶい橙	赤彩	
25	弥生	壺	—	5.6	—	AEHI	5	普通	にぶい黄橙		

23は支脚である。24・25は壺の胴部で同一個体である。無文帯間にＲＬ単節縄文を施文している。また無文部を赤彩している。

第252号住居跡（第265図）

調査区の南側西寄り、Ｘ－54・55グリッドに位置する。第216・258号住居跡、第17号墳と重複する。本住居跡の上面に第216号住居跡が重なるように掘り込み、さらに第17号墳に切られている。検出されたのはわずかに第１層として捉えた部分だけである。このため、確認は極めて困難で、平面プランおよび住居跡床面の検出が難しかった。平面形はやや歪む隅丸長方形である。主軸方向はＮ－45°－Ｅを指す。規模は長軸6.57ｍ、短軸5.58ｍ、深さ12.9㎝を測る。

施設は炉跡を検出した。炉跡は東寄りに検出し、推定径56.0㎝である。遺物は検出されなかった。

本住居跡は弥生時代の可能性がある。

第253号住居跡（第266・267図）

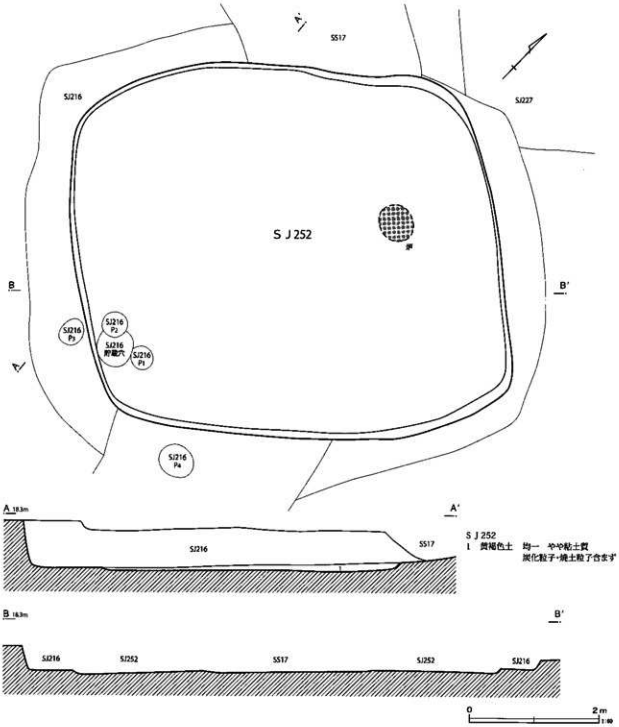
調査区の北側東寄り、Ｌ－60・61グリッドに位置する。第133・136・261・289号住居跡と重複する。東２ｍに第279・285号住居跡がある。

平面形は、東辺が西辺に比べやや長く歪んだ長方形である。主軸方向はＮ－36°－Ｅを指す。規模は長軸5.68ｍ、短軸3.97ｍ、深さ60.0㎝を測る。床直西壁際には炭化物層が一部見られた。床面は平坦である。

施設は検出できなかった。

遺物の出土状況は、西壁南寄りの壁際から中型の壺と器台、炭化物の堆積層から甕・小型台付甕を検出した。また、東壁際から高坏を検出した。

遺物は、１が素口縁の壺、２は壺、６は小型の台付甕で受け口状口縁である。７は受け口状口縁甕である。９～11は高坏、12は器台である。13は坩である。



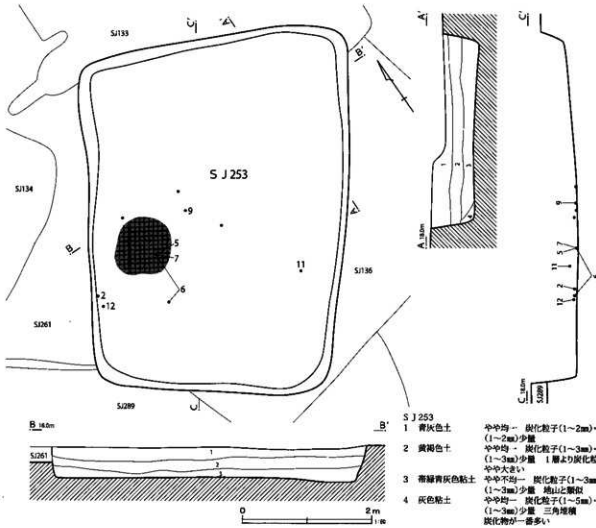
第265図　第252号住居跡

15は壺の胴部である。ＲＬ単節縄文を施文している。無文部は赤彩している。16は壺の胴部である。ＲＬ単節縄文を施文している。無文部は赤彩している。17は壺の胴上半部である。ＲＬ単節縄文を施文している。18は壺の胴上半部である。ＲＬ単節縄文を施文している。

第254号住居跡（第268・269図）

調査区の北側西寄り、Ｍ－59グリッドに位置する。第292号住居跡、第24号墳と重複する。南１ｍに第263号住居跡がある。

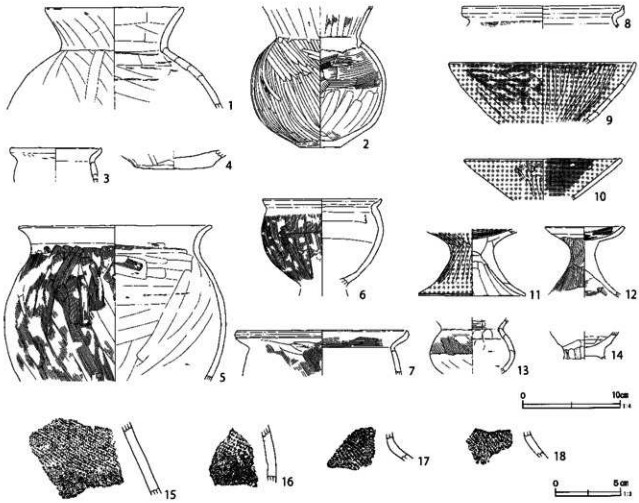
平面形は長方形である。主軸方向はＮ－０°を指す。規模は長軸6.05ｍ、短軸5.30ｍ、深さ41.4cm



第266図　第253号住居跡

第109表　第253号住居跡出土遺物観察表（第267図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(14.2)	7.4	－	ACDEHIK	25	普通	にぶい橙		
2	土師器	壺	－	14.4	4.1	AHIK	80	普通	明褐		89-3
3	土師器	鉢	(9.3)	3.5	－	CHI	10	不良	にぶい黄橙		
4	土師器	甕	－	1.9	8.3	AEHIK	60	良好	にぶい黄橙		
5	土師器	甕	(19.7)	16.0	－	ADEHIJK	25	普通	褐灰	№5	
6	土師器	小型台付甕	12.2	9.0	－	CDHIK	50	普通	明褐灰	器面磨滅 №5・6	
7	土師器	甕	(17.5)	4.6	－	CEHK	10	普通	灰黄	№5	
8	土師器	台付甕	(17.0)	1.9	－	ACEHIK	25	普通	灰褐	S字甕	
9	土師器	高坏	(19.0)	6.3	－	CEIK	25	普通	橙	赤彩 №3	
10	土師器	高坏	(15.8)	4.2	－	EHK	10	良好	にぶい橙	赤彩 二孔一対	
11	土師器	高坏	－	6.8	(11.0)	CEHK	50	普通	にぶい黄橙	赤彩 №7	
12	土師器	器台	7.8	7.2	－	EH	65	普通	浅黄橙	№8	135-9
13	土師器	坩	－	5.8	－	AEHK	15	普通	にぶい褐		
14	土師器	鉢	－	2.9	(4.3)	AE	45	普通	灰白		
15	弥生	壺	－	5.4	－	ACEHIK	5	普通	橙	赤彩	
16	弥生	壺	－	4.4	－	ADE	5	普通	灰白	赤彩	
17	弥生	壺	－	2.1	－	ABH	5	普通	橙		
18	弥生	壺	－	2.1	－	ACEI	5	普通	にぶい黄橙		



第267図　第253号住居跡出土遺物

を測る。断面観察によると第2層および第4層の直下に炭化物層が見られ、床面は第3層を掘り方としその上面である。貼り床で平坦である。

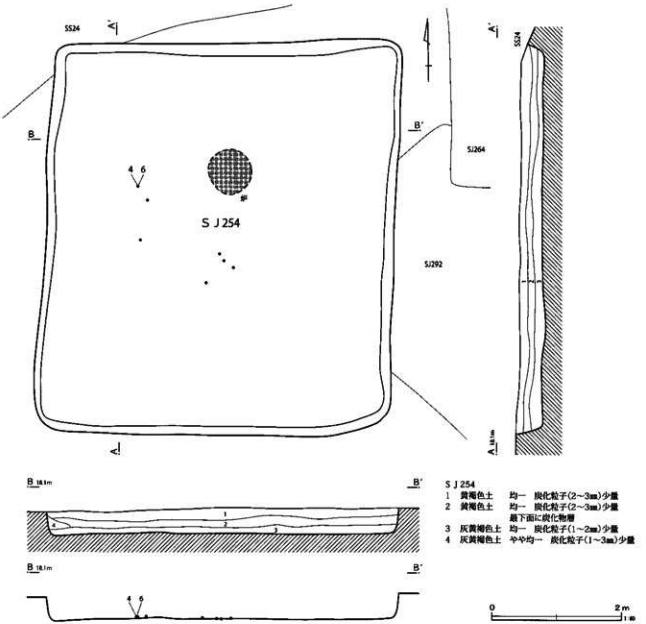
施設は炉跡のみの検出であった。中央よりやや北側に位置している。推定径65.0cmを測る。

遺物の出土状況は、住居跡中央の床直上に検出された。

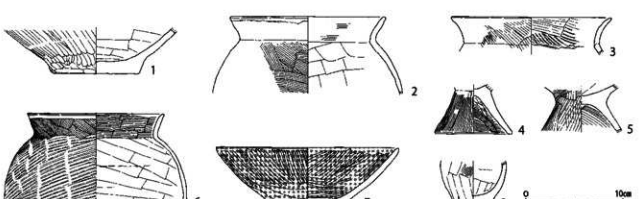
遺物は、1が大型の壺底部、2は丸甕、4・5は台付甕、6は叩き甕である。胴部外面にタタキが施されている。口縁部はハケメが施される。7は高坏で坏部の内外面は赤彩が施されている。8は小型の鉢である。

第110表　第254号住居跡出土遺物観察表（第269図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	—	4.7	8.9	AEHIJK	70	普通	にぶい橙		
2	土師器	甕	(15.6)	7.9	—	AEHIK	15	普通	にぶい褐	外面胴部煤付着	
3	土師器	甕	(16.4)	3.8	—	AEGHIJK	15	普通	にぶい黄橙		
4	土師器	台付甕	—	5.0	7.9	ACEHIJK	100	普通	にぶい褐	No.1	
5	土師器	台付甕	—	5.0	—	AEHIJK	70	良好	にぶい黄橙		
6	土師器	甕	(14.0)	9.3	—	AEHIK	10	普通	黒褐	叩き甕　在地産	
7	土師器	高坏	(18.8)	6.0	—	AEHIJK	25	良好	橙	赤彩	
8	土師器	小型鉢	—	4.2	3.6	ABEHI	60	普通	にぶい黄橙	風化顕著	



第268図　第254号住居跡



第269図　第254号住居跡出土遺物